

授 業 内 容

(シラバス)

令 和 7 年 度
ファッション総合学科
テクニカル専攻科

香 蘭 女 子 短 期 大 学

Koran Women's Junior College

目 次

ファッション総合学科

総合演習	1年	1期・2期	1
	1年	3期・4期	2
共通必修科目	1年		3
指定科目	1年		5
教養科目	1年	1期・2期	11
	1年	3期・4期	23
選択科目	1年	1期・2期	27
	1年	3期・4期	36
総合演習	2年	1期・2期	57
	2年	3期・4期	58
共通必修科目	2年	1期・2期	59
	2年	3期・4期	60
指定科目	2年		61
教養科目	2年	1期・2期	65
	2年	3期・4期	69
選択科目	2年	1期・2期	73
	2年	3期・4期	94

テクニカル専攻科

前期	105
後期	116

香蘭女子短期大学 建学の精神・3つのポリシー

■ 香蘭女子短期大学建学の精神

「いかなる困難な場にあっても、創意・工夫を大切にし、人を愛し、人から愛される自立した女性の育成」

■ 教育理念としての学訓

「創意・自立・敬愛」

■ 本学の使命(教育目標)

「建学の精神のもと、社会の中堅として、指導的役割を果たす有為な女性の育成」

○教育目的・目標

ファッション業界で活躍できる技術力を養う

総合的なファッション知識を深める

ファッション教育を通して人間力を育成する

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

建学の精神から導かれた「創意・自立・敬愛」の学訓を基に、専門知識と技能及び社会人としての基礎能力を身につけ、所定の単位を修得し、各学科が定めたディプロマ・ポリシーを満たした人に卒業を認定し、短期大学士の学位を授与する。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

「創意・自立・敬愛」の学訓の精神を涵養し、専門知識および技能を身につける。学訓の精神は教養科目と専門科目に渡って涵養する。履修した授業科目の学習成果は、筆記試験、レポート、実技、作品、またはこれらの組み合わせにより評価・査定する。

入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)

本学の学訓が「創意・自立・敬愛」であることを十分に理解したうえで、入学後、本学の学生としての教養と専門知識および技能を身につける意欲がある人の入学を求める。高等学校卒業までに修得した学習成果は、下記の表により判断・判定する。

	望まれる高等学校までの学習成果	判定指標	総合型 選抜	学校推薦型 選抜	一般選抜
基礎的な知識・技能	高等学校で履修した教科について基礎的な知識を有している	調査書または筆記試験・小論文、面接・面談	○	○	◎
思考力・判断力・表現力	自分の考えを他者に分かるように表現できる	面接・面談または筆記試験・小論文	◎	◎	△
	ある事象に対し多面的に考え、自分の考えをまとめ表現することができる	面接・面談または筆記試験・小論文	○	○	△
主体的に取り組む態度	身近な課題や問題に関心を持ち、解決しようとする意欲がある	面接・面談または筆記試験・小論文および調査書	◎	○	△

◎：特に重視する、○：やや重視する、△：あまり重視しない

■ 短期大学としての学習成果

『建学の精神から導かれた「創意・自立・敬愛」の学訓を基に、専門知識と技能及び社会人としての基礎能力を身につけている』

ファッション総合学科・テクニカル専攻科 教育の基本方針

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

1. 知識、理解

- ①一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。
- ②ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。
- ③服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。

2. 技能、表現

- ①ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。
- ②ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。
- ③修得した知識や技術を総合的に活用することができる。

3. 人間力、態度

- ①専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力(社会人になるためのマナー、コミュニケーション能力、忍耐力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)を有している。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

1. 共通基礎教育

- ①豊かな人間形成のための基礎力と基礎的な学力を身につけるための科目を全学期(1期～8期)で開講し、専門科目とのバランスを図る。
- ②初年次教育として1、2期では、2年間の目標と計画を立て、短期大学での学習方法やレポートの書き方を学ぶ。また、チームワークや教員とのコミュニケーションを図る。

2. 専門教育

- ①ファッションの職種の広がりに対応するために、4つのフィールド(デザイン、ファッション造形、ファッションビジネス、生活スタイリング)の中から、将来なりたい職種に必要な科目をそれぞれ選択できる。
- ②多様な職種にも対応できる知識、技能、態度および考え方の総合的な能力を身につける。
- ③アパレルメーカーに必要な実践的能力を身につける。
- ④学生が自主的に学ぶ科目として「特別演習」を設ける。
- ⑤専門的な知識を技術を身につけ、2年間の学びの集大成となる卒業研究を完成させる。

3. キャリア教育

入学後の早い時期から最終期(2期～8期)まで現場で学ぶインターンシップを経験させるとともに、「総合演習」の中で学科独自の就職支援講座を充実させ、就労意識を高めるための体系的なキャリア教育を行う。

入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)(ファッション総合学科)

1. 入学後の就学に必要な基礎学力を有している人
2. 自らの感性と、その技術を高める意欲のある人
3. 服飾造形やファッションビジネスに関心があり、ファッションのことをもっと広く・深く学び、その知識や技術を社会や産業界で活かしたいと考えている人
4. 何事もあきらめずに努力し、自己の可能性に挑戦する意欲のある人
5. 地域社会とのかかわりに積極的に参加し取り組むことができる人

入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)(テクニカル専攻科)

- ・デザイナー、パタンナー及び縫製等、製造業で活躍できる技術及び感性をもっと深く学びたい人。
- ・大学・短期大学または、専門学校(2年課程以上)を卒業した人で、ファッション・ビジネスについて学び、販売をスタートとし、将来店長、バイヤー及びコーディネーターとして活躍したい人。

ファッション総合学科科目ナンバリング

(ナンバリングの構成)

FA 1 0 1 0 1

学科コード	ファッション総合学科	種別	科目水準	通し番号
-------	------------	----	------	------

種別	授業科目	ナンバー
総合	総合演習Ⅰ	10101
	総合演習Ⅱ	10102
	総合演習Ⅲ	10103
	総合演習Ⅳ	10104
共通必修	被服構成の理解	20101
	被服構成実習	20102
	卒業研究Ⅰ	20103
指定科目	卒業研究Ⅱ	20104
	色の理解Ⅰ	30101
	ファッションビジネス概論	30102
	服装デザイン概論	30103
	パターンの理解	30104
	素材の知識	30105
	デザイン概論	30106
	ユニバーサルファッション	30107
	コーディネート企画論	30208
	特別演習Ⅰ	30109
	特別演習Ⅱ	30110
教養科目	文学A(文学を楽しむ)	40101
	コンピューター演習	40102
	健康スポーツⅠ	40103
	西洋服装史	40104
	環境と生活	40105
	社会と心理	40106
	経済学(暮らしと経済)	40107
	消費科学	40108
	英語Ⅰ	40209
	英語Ⅱ	40210
	中国語	40111
	韓国語	40112
	フランス語	40113
デザイン	ビジネス英語	40114
	日本語文法の基礎	40115
	日本語語彙の基礎	40116
	日本語読解・作文の基礎	40117
	日常日本語会話の基礎	40118
	モードデッサン	50101
	デザインテクニクⅠ	50102
	CGデザイン	50103
	ファッションイラストⅠ	50104
	色の理解Ⅱ	50205
	デザインテクニクⅡ	50206
	ファッションイラストⅡ	50207
	Webデザイン演習	50108
デジタルイラストレーション	50209	
デジタル表現演習	50210	
音のデザイン	50111	
美術とファッション	50112	
デジタルモデリング演習	50113	
アニメーション演習	50114	
ファッション広告演習	50215	

テクニカル専攻科科目ナンバリング

(ナンバリングの構成)

TA 1 0 1 0 1

学科コード	テクニカル専攻科	種別	科目水準	通し番号
-------	----------	----	------	------

種別	授業科目	ナンバー
特別	セコンダリーセミナーⅠ	10101
	セコンダリーセミナーⅡ	10102
共通	修了制作	20201
	企業とのプロジェクト企画	20202
	課題研究A	20203
	課題研究B	20204
ファッションデザイン研究	クリエート企画演習	30101
	テクニカル造形実習	30202
	3Dファッション演習	30102
ファッションビジネス研究	コーディネート演習	31201
	ファッションビジネスと商品分析	31102
素材研究	素材特性研究	32101
	特殊素材製作	32202
	パターン演習	33101
工業用パターンメイキング	デジタルパターン演習	33202
	インターフェイスとキャパデザイン	34105
研修	学外学修	34103
	海外学修	34104

ファッション総合学科 学科コード FA

ナンバリングの意味すること

種別	科目水準	通し番号
1 0	1 0 1	

種別	授業科目	ナンバー
ファッションビジネス	ファッションスタイリング演習	51101
	ファッションとデザイン戦略	51102
	ビジュアルマーチャンダイズ	51103
	マーケティング基礎演習	51104
	アパレル情報分析	51105
	フォーマルウェア概論	51206
	ファッションビジネス戦略論	51207
	アパレル企画演習	51208
	カラーマーケティング演習	51209
	メンズファッション論	51110
	メディアと映像	51211
生活スタイリング	ショップマネジメント	51212
	国際マナーと服装	52101
	雑貨製作	52102
	デコレーション概論	52103
	織物実習	52104
	ヘア・メイクトレーニング	52105
	ファッションフォト	52106
	染色実習	52107
	きものと生活	52108
	きもの製作と着装	52109
	ファブリックワーク	52110
インテリア生活	52111	
キッズ製作	52112	
生活コーディネート演習	52113	
ファッションアート	52114	
ファッション造形	パターンメイキングⅠ	53101
	ファッションデザイン演習	53102
	ドレーピング演習Ⅰ	53103
	ファッション造形実習	53204
	ソーイング実習	53105
	アパレルCAD	53106
	ファッションデザインリサーチ	53207
	ドレーピング演習Ⅱ	53208
	ファッションクリエート演習	53209
	ドレス製作	53210
	デジタルパターン	53211
パターンメイキングⅡ	53212	
体験	パターンメイキング検定演習Ⅰ	54101
	パターンメイキング検定演習Ⅱ	54202
	海外研修	60105
	企業研修	60106
インターンシップ	60107	

種別	種別	ナンバー
総合		10
共通必修		20
指定科目		30
教養		40
デザイン		50
ファッションビジネス		51
生活スタイリング		52
ファッション造形		53
体験		54
体験		60

科目水準	基礎的科目	1
	応用的科目	2

(通し番号) カリキュラム表順

テクニカル専攻科 学科コード TA

ナンバリングの意味すること

種別	科目水準	通し番号
1 0	1 0 1	

種別	種別	ナンバー
特別		10
共通		20
ファッションデザイン研究		30
ファッションビジネス研究		31
素材研究		32
工業用パターンメイキング		33
研修		34

科目水準	基礎的科目	1
	応用的科目	2

(通し番号) カリキュラム表順

学生の皆さんへ

オフィスアワーについて

◆本学では学生の皆さんの質問や相談などに先生方が対応するため、“オフィスアワー”を設けています。

先生方に質問や相談があれば“オフィスアワー”を利用してください。

- 専任教員についての“オフィスアワー”の対応時間は各先生方の研究室入口に掲示してあります。
- 非常勤教員についての“オフィスアワー”については、授業前・後の休み時間等を利用して教室等で相談してください。

(本学のホームページでも案内しています。:ホームページのトップページ⇒“在学生の方へ”⇒“オフィスアワー”を参考にしてください。)

ファッション総合学科1年

総 合 演 習

共通必修科目

指 定 科 目

教 養 科 目

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
総合演習 I	FA10101	開講時期:	1・2期	単位:	1単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	卒業必修		
専任教員		免許・資格など			
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	本科目との関連
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	◎

II. 概要
香蘭女子短期大学での勉学を開始するために必要となる初年次教育(レポート等の書き方、学生生活における時間管理、プレゼンテーション等の技法、図書館の効果的な利用法、その他学習修得に向けた動機付け等の取組)を行う。 本学ファッション総合学科での生活をより有意義に貴重な時間にするためには、短期大学生としての生活と高校までの生活との違いについて知ることが必要である。総合演習 I では、高校生とは異なる短期大学生としての修学姿勢や学生生活について、ホームルームや教育講演会、香蘭祭、その他の学校行事や学科行事等を通して理解し身に付けていく。

III. 学習成果
ファッション総合学科の学生としての2年間の計画を立て実行する力をつける
短期大学生としての修学姿勢を身につける。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: 学科賞表彰式、履修登録確認 総合演習について概要	履修時間と単位の確認
2: 学科企画 交流会の報告書作成 小テスト①	小テスト①の予習
3: 2年間の計画 小テスト② ポートフォリオの作成	入学前課題の提出内容を振り返り、1・2期の目標について考える 小テスト②の予習 ポートフォリオの記入
4: 学年企画 体育祭の企画 小テスト③	体育祭の企画の準備をしていく 小テスト③の予習
5: 香蘭祭ミーティング① 2年生から概要説明 小テスト④	小テスト④の予習
6: 海外研修説明会	個人面談のためのシートを記入
7: 学科長講和	レポートを書き提出する
8: 人権教育 1期の確認	アンケートを書き提出する 1期クォーター受講者は出席と試験に備える
9: 2期登録変更について(クォーター科目) 香蘭祭ミーティング② 学年企画について 小テスト⑤	1期の単位確認と2期の予定を再確認 小テスト⑤の予習
10: 教育講演会 I	レポートを書き提出する
11: 1期試験結果発表(クォーター科目) 香蘭祭ミーティング② 学年企画について 小テスト⑥	追再試について確認 小テスト⑥の予習
12: 香蘭祭ミーティング③ 学年企画について 小テスト⑦	小テスト⑦の予習
13: 履修指導① 3・4期について 小テスト⑧	シラバスを読む 小テスト⑧の予習
14: 全体集会 履修指導② 3・4期履修モデル 小テスト⑨	登録科目を考える 小テスト⑨の予習
15: 1・2期のまとめ 小テスト⑩ ポートフォリオの提出	1・2期を振り返り、設定した目標の達成度を振り返る 小テスト⑩の予習 ポートフォリオの記入

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
小テストの予習は、毎回30分以上は行うこと
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
小テストの内容に準じたテキストを使用する
その他必要な資料は配布する

VI. 評価方法と評価基準
授業貢献度50% 小テスト 30% 課題レポート10% 学修ポートフォリオ10%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
学校行事や学科行事、クラス行事等の企画内容により、時間外の学習時間が必要となる場合があります。
各レポートにはコメントでフィードバックします。

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
総合演習Ⅱ	FA10102	開講時期:	3・4期	単位:	1単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	卒業必修		
専任教員		免許・資格など			
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1	一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。				
DP2	ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。				
DP3	服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。				
DP4	ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。				
DP5	ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。				
DP6	修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				○
DP7	専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。				◎
II. 概要					
1年3、4期は、主に進路決定に至る意識の育成や将来に向けて必要な知識や技能を身につけていく事が必要となる。 総合演習Ⅱでは、進路支援を中心に、自分にあった方向性を見出していくことを目的とした指導を行う。 さらに、各行事の企画を通して協調・協力していく力を身につける。					
III. 学習成果					
進路決定のために計画をたて、実現に向けて活動を行う力をつける。 コミュニケーション力をつけるために協調・協力を身につける。					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: 履修登録確認 学科長講話			3・4期単位修得の確認		
2: 全体集会 香蘭祭準備① 担当別報告 小テスト①			進捗状況の発表準備 小テスト①の予習		
3: 進路支援講座① 自分企画書作成 小テスト② ポートフォリオの作成			自己分析・自己PRの課題プリントをまとめる 小テスト②の予習 ポートフォリオの記入		
4: 香蘭祭準備② 担当別準備			担当した内容を進める		
5: 進路支援講座② ファッションビジネスに関わる仕事について			ファッションビジネスの仕事について調べる レポートを書き提出する		
6: 香蘭祭準備③ 担当別準備 小テスト③			小テスト③の予習		
7: 学科賞授賞式 香蘭祭の反省会 小テスト④			レポートを書き提出する 小テスト④の予習		
8: 進路支援講座③ 進路体験報告会(2年生より)			職種等を調べる 3期修得単位を確認する		
9: 進路支援① 進路登録カード記入指導 3期履修確認(クォーター授業) 小テスト⑤			進路登録カード指定箇所の下書きをしておく 小テスト⑤の予習		
10: 教育講演会Ⅱ			レポートを書き提出する		
11: 進路支援講座④ ファッション業界を知る 3期試験結果発表(クォーター科目) 小テスト⑥			レポートを書き提出する 小テスト⑥の予習		
12: 進路指導③ 履歴書下書き 小テスト⑦			履歴書下書きを進めてくる 小テスト⑦の予習		
13: 進路指導④ 企業調査について 小テスト⑧			履歴書を清書してくる(1枚提出) 小テスト⑧の予習		
14: 進路支援講座⑤ OG懇談会 小テスト⑨			レポートを書き提出する 小テスト⑨の予習		
15: 履修指導 3・4期確認と2年1・2期の予定 小テスト⑩ ポートフォリオの作成			1年修得予定単位確認と2年開講科目を調べてくる 小テスト⑩の予習 ポートフォリオの記入		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 小テストの予習は毎回30分以上行うこと 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書					
小テストの内容に準じたテキストを使用する その他必要な資料は配布する					
VI. 評価方法と評価基準					
授業貢献度50% 小テスト 30% 課題レポート10% 学修ポートフォリオ10%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等) 学校行事や学科行事、クラス行事等の企画内容により、時間外の学習時間が必要となる場合があります。 各レポートにはコメントでフィードバックします。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
被服構成の理解	FA20101	開講時期:	1・2期	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業必修		
担当者		免許・資格など			
斉藤 朋子		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	◎
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	◎
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	○
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
複雑な曲線からなる人体を美しく覆い、動きやすい快適な衣服を形づくるためには、人体の構造と衣服との関係を理解する必要があります。そのために必要な体型とパターンの関係や衣服に関する基本的な知識を身につけます。さらに衣服形態の推移など歴史的な視点からも衣服に関する知識を広げます。また、被服製作に必要な縫製機器や基本となる縫製方法についても学びます。

III. 学習成果
人体の構造を明らかにし問題点を見つけ、被服構成へどのように反映すればよいかを考える力がついている。
服飾造形の基礎知識を修得し、総合的に活用することができる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: 導入 衣服の着衣動機 Kaiser博士による被服に関する心理学的研究	学習の振り返り表を記入すること
2: 衣服形態の推移…衣服の祖型と衣服型 衣服に求められる特性(審美性、快適性、安全性について)	学習の振り返り表を記入すること
3: 衣服の用(機能性)と衣服の美(表現性)について ファッションについての概念 ファッションの魅力について	学修の振り返り表を提出すること 次回の課題に取り組むこと
4: 衣服の変遷に見られる身体観 (オートクチュールの時代以前)	課題について調べること 次回の課題について取り組むこと
5: 衣服の変遷見られる身体観 (プレタポルテの時代～現在)	課題について調べること 次回の課題について取り組むこと
6: 衣服と人体…人体の構造と運動機能 骨格、筋、関節と運動、皮膚と皮下脂肪 人体の計測方法について	教科書「服飾造形の基礎」のP46～P49を参照して プリントに記入してくること
7: 自分の体を計測しよう	教科書「服飾造形の基礎」のP57～P63を読んでおくこと
8: 体型の特徴と衣服…成人体型、成長と体型変化、人体形態の年代差	計測した表を提出すること 教科書「服飾造形の基礎」のP106～P114を読んでおくこと
9: パターン設計について…原型とダーツの展開方法 衣服の平面と立体の認識について	原型ダーツの展開図を完成させておくこと
10: パターン設計について…切り替え戦の展開方法、パターンの記号について	原型ダーツの展開図を提出すること 教科書「服飾造形の基礎」のP72～P76を読んでおくこと
11: 縫製の基礎知識 衣服の素材と付属材料	教科書「服飾造形の基礎」のP115～P129を読んでおくこと
12: 縫製の基礎知識 裁断と縫製の基礎	教科書「服飾造形の基礎」のP130～P139を読んでおくこと
13: 立体化のための技法	提示した課題プリントに取り組むこと
14: 織物の知識 (グループワーク)	織物の組織図を完成させて提出すること
15: まとめ	学習の振り返り表の総括とノートを整理すること

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
教科書を使った準備学習を毎回30分程度は行うこと
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
教科書:文化ファッション大系、服飾造形講座1 服飾造形の基礎

VI. 評価方法と評価基準
単位認定試験60% 提出物20% 学習の意欲20%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
各自の体型を計測したり観察したりします。(問題のある学生は申し出ること。)
配布した資料の再配布はしないので、紛失しないように保管すること。また無断欠席した場合も再配布はしない。
学習の振り返り表のコメントでフィードバックします。

1 共通必修科目
年

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
被服構成実習	FA20102	開講時期:	1・2期	単位:	1単位
		形態:	実習		
担当者		履修方法:	卒業必修		
高野 弓枝		免許・資格など			
角谷 由加里 / 山北 真紀		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1	一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。				○
DP2	ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。				○
DP3	服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。				◎
DP4	ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。				○
DP5	ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。				
DP6	修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				○
DP7	専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。				
II. 概要					
①ブラウスとスカートの製作を通して、ミシンの使い方や生地のカット、縫製などの基本的な技術を身につける。					
②製作を通して、基本的な服の構造を理解する。					
III. 学習成果					
基本的な縫製技術が身に付く。					
基本的な服の構造を理解し、今後の学習に活かすことができる知識や技術が身につく。					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: 導入、本縫いミシンとロックミシンの使い方	(予習)服飾造形の基礎《第2章》を読み、用具の名称や用途を理解しておく				
2: 《直線裁ちギャザースカート》カット、ロック始末、脇縫い	(予習)服飾造形の基礎P131を読み、地の目直しの手順を確認しておく				
3: 《直線裁ちギャザースカート》ウエストと裾の本縫い、ゴム通し	(予習)資料をみて手順を確認しておく				
4: 《定規入れ》カット、印つけ、ロック始末	(予習)資料をみて手順を確認しておく				
5: 《定規入れ》本縫い、スナップボタンつけ、仕上げ	(予習)資料をみて手順を確認しておく				
6: 《セミタイトスカート》カット、印つけ、ロック始末	(予習)資料をみて手順を確認しておく				
7: 《セミタイトスカート》コンシールファスナーつけ	(予習)資料をみて手順を確認しておく				
8: 《セミタイトスカート》ダーツと脇の本縫い	(予習)資料をみて手順を確認しておく				
9: 《セミタイトスカート》ベルト作り、ベルトつけ	(予習)資料をみて手順を確認しておく				
10: 《セミタイトスカート》裾をまつる、前カンをつける、仕上げ	(予習)資料をみて手順を確認しておく				
11: 《ブラウス》 カット、芯接着、印付け	(予習)資料をみて手順を確認しておく				
12: 《ブラウス》 ロック始末、見返しおよび肩の本縫い、衿つくり	(予習)資料をみて手順を確認しておく				
13: 《ブラウス》 衿つくり(続き)、衿つけ	(予習)資料をみて手順を確認しておく				
14: 《ブラウス》 袖つけ、脇縫い、袖口ステッチ	(予習)資料をみて手順を確認しておく				
15: 《ブラウス》 裾ステッチ、ボタンホール、ボタンつけ、仕上げ	(予習)服飾造形の基礎P151 ボタンのつけ方をみて手順を確認しておく				
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 準備学習は各回30分程度行うこと。 授業内で終わらなかった工程は時間外で工程を進め次の授業までに終わらせておくこと。					
V. 教科書・参考図書 文化服装学院編「服飾造形の基礎」「スカート・パンツ」「ブラウス・ワンピース」 各教員作成の資料					
VI. 評価方法と評価基準 課題作品(ギャザースカート、定規入れ、セミタイトスカート、ブラウス)／70% 受講態度／15% 学習意欲／15%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等) ◆製作のための生地、付属品は各自で購入。(一部配布するものも有り) ◆教科書、配布資料、パターン、裁縫道具一式、定規等は毎回必ず持参すること。 ◆課題作品はコメントを添えて返却します。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
色の理解 I	FA30101	開講時期:	1・2期	単位:	2単位
		形態:	講義		
担当者		履修方法:	卒業選択必修		
中村 裕美		免許・資格など	ベーシックフィールド指定科目		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	本科目との関連
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	○
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	○
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
 私たちの身のまわりにはたくさん色があり、とりわけファッションやメイクアップなど、デザインに関連する分野と色彩は密接な関係にあります。デザインで重要な役割を果たす「デザインの色彩」「カラーコーディネート」についての基礎的な知識を理論的に学ぶことで目的に合わせたカラーコーディネーションを実現するための技術を習得し、今後の授業や将来の仕事に応用することができます。

III. 学習成果
 色についての基礎知識を理解し、カラーコーディネートの力を身につける。
 色の性質や効果を学び、目的に応じた配色を考えることができる。
 色彩や配色に関するプレゼンテーションスキルを身につける。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション 色のはたらき	シラバスとテキストの範囲を確認しておくこと
2: 光と色	課題プリントで復習する
3: 眼のしくみ	眼のしくみの内容を暗記する 小テストの予習を行う
4: 照明と色の見え方	照明の種類をリサーチし、分類する
5: 混色① 加法混色	課題プリントで復習する
6: 混色② 減法混色	課題プリントで復習する
7: 学習のまとめ 検定対策とポイント	色彩検定3級の過去問題を解く
8: 色の表示(表色系)① 色の分類と三属性	課題プリントで復習する
9: 色の表示(表色系)② PCCSとカラーカード	色相環とトーン表を作成する
10: 色彩心理① 色の心理効果	色の心理効果についてリサーチし、まとめる 発表準備
11: 色彩心理② 色の心理効果について発表 色の視覚効果 色の対比	色の視覚効果についてリサーチし、まとめる 発表準備
12: 色彩心理③ 色の心理効果について発表 同時対比、色の同化	課題プリントで復習する
13: 色彩心理のまとめ	課題プリントで復習する
14: 学習のまとめ 検定対策とポイント	色彩検定3級の過去問題を解く
15: 色彩とファッションについて 試験について	これまでの課題をまとめる

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 課題プリントなど30分以上の準備学習が必要となります。
 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した180分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
 教科書は色彩検定協会「色彩検定3級 公式テキスト」を使用します。

VI. 評価方法と評価基準
 単位認定試験 45% 課題 50% 学習の意欲 5%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 文部科学省後援 色彩検定3級の対策支援も含めた授業です。検定試験受験のためには時間外での自主学習が必要となります。
 課題や授業では、のり・はさみ等が必要です。課題は返却時に個別にフィードバックします。
 「実務経験教員科目」特記事項:「日本パーソナルカラー協会」認定講師歴12年、大学・専門学校をはじめ一般向けに色彩関連講師を務める。カラーコーディネーター、イメージコンサルティングの企業講座及び個別レッスンを行う。

1 指定科目
年

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
ファッションビジネス概論	FA30102	開講時期:	1・2期	単位:	2単位
		形態:	講義		
担当者		履修方法:	卒業選択必修		
出口 秀明		免許・資格など	ベーシックフィールド指定科目		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>
I. 本科目と学科ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1	一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。				◎
DP2	ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。				○
DP3	服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。				
DP4	ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。				
DP5	ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。				
DP6	修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				
DP7	専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。				
II. 概要					
ファッションには人々の生活に潤いと彩りを与える力があります。‘ファッション’という言葉はモノを指すだけでなく、カルチャーやライフスタイルを創造するといった意味も含まれており、その意味は広く定義されています。ファッション業界の仕組みや知識を学ぶだけでなく、アパレル業界を題材にビジネスで必要な経営指標の見方から数値管理、売するためのマーケティングやブランディング、交渉力や接遇力などのコミュニケーション力、サービスとは何か、実践的な視点から身につけて、即戦力として活躍できる人材の育成につなげていきます。					
III. 学習成果					
1. ファッションを、ビジネスとして捉えられるように理解を深める					
2. アパレル業界を題材にビジネスの基礎知識を学ぶ					
3. ファッションビジネスに必要なスキルを習得する					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
【Part1 アパレルビジネスについて】					
1:アパレル業界の現状と動向 I・II chapter1ー01～11			教科書を一読し、全体の流れをつかんでおく テキストP.1～34のキーワードについてまとめる		
2:アパレルの素材の生産を担う企業の業務内容 I・II chapter2ー01～10			教科書を一読し、全体の流れをつかんでおく テキストP.36～56のキーワードについてまとめる		
3:アパレル製品を製造する企業の業務内容 I・II chapter3ー01～08			教科書を一読し、全体の流れをつかんでおく テキストP.58～74のキーワードについてまとめる		
4:アパレル製品を販売する企業の業務内容 I・II chapter4ー01～15			教科書を一読し、全体の流れをつかんでおく テキストP.76～106のキーワードについてまとめる		
5:アパレル業界の多様な職種と業務 I・II chapter5ー01～17			教科書を一読し、全体の流れをつかんでおく テキストP.108～142のキーワードについてまとめる		
6:ファッション市場の現状と動向 I・II chapter6ー01～07			教科書を一読し、全体の流れをつかんでおく テキストP.144～158のキーワードについてまとめる		
7:アパレル業界の新しい業態と将来像 I・II chapter7ー01～10			教科書を一読し、全体の流れをつかんでおく テキストP.160～180のキーワードについてまとめる		
8:アクティブラーニング① グループディスカッション			アパレル業界全体の流れを理解した上で、今後のアパレル業界に必要な事について、グループでディスカッションを行なう。各自事前にレポートを用意する。		
【Part2 各論と実務】					
9:成長企業 会社のここを見ればわかる 企業の経営指標 用語の解説と利益について			事前に配布する資料に目を通し、用語の意味をまとめておく キーワードとなる用語・重要なポイントを整理する		
10:マーケティングについて 小売業のマーケティング戦略とは			事前に配布する資料に目を通し、用語の意味をまとめておく キーワードとなる用語・重要なポイントを整理する		
11:ブランディングとは ブランド価値が価格を決める			事前に配布する資料に目を通し、用語の意味をまとめておく キーワードとなる用語・重要なポイントを整理する		
12:ビジュアルマーチャндаイジング(VMD)の重要性 売するためのスキルとは①			事前に配布する資料に目を通し、用語の意味をまとめておく キーワードとなる用語・重要なポイントを整理する		
13:サービス=付加価値(接客・接遇)について考える 売するためのスキルとは②			事前に配布する資料に目を通し、用語の意味をまとめておく キーワードとなる用語・重要なポイントを整理する		
14:ファッション業界が求める人材について 関連資格取得について			事前に配布する資料に目を通し、用語の意味をまとめておく キーワードとなる用語・重要なポイントを整理する		
15:アクティブラーニング② ファッション業界で働く			講義を受講し自身が進みたい、あるいは興味を持った職種について、そこでどんな事をやりたいのか、レポートを作成、プレゼンテーションを行なう		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明					
□ 予習(1.5時間): テキストを読み専門用語や分からない言葉は事前にノート記載し意味をまとめておく。また質問したい事項を必ず考えておく。					
□ 復習(1.5時間): 授業中にはキーワードや知っておくべき重要なポイントを伝えるので予習したノートに追加して、後で見返せるように整理しておく。					
V. 教科書・参考図書					
□ 教科書:「アパレル業界のしくみとビジネスがしっかりわかる教科書」(発行所 技術評論社)					
□ 参考資料:適宜配布します。					
VI. 評価方法と評価基準					
□ 学習の意欲 60% (2回のアクティブラーニングでのプレゼン資料提出)					
□ プレゼンテーション(自己表現レポート) 40%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)					
◇ 課題のレポートは発表後に授業の中で良かった点、改善点などフィードバックを行ないます。					
◇ 大学卒業後、大手アパレルメーカーにてメンズ・レディース・雑貨等の販売・営業・企画・仕入の実務を経験。VMDを中心に担当、スタイリングアドバイザーとして今も販売ヘルプをしています。約30年の実務経験を有しています。アパレル業界はもとより、流通業界・サービス業界へ興味を持たれている皆様へ就職にも役立つ知識と情報をお伝えします。ファッションは人を笑顔にできます。ぜひ業界の楽しさを一緒に学びましょう!!					
※この授業は対面授業ですが、授業計画・内容等に変更が生じる場合があります。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
服装デザイン概論	FA30103	開講時期:	1・2期	単位:	2単位
		形態:	講義		
		履修方法:	卒業選択必修		
		免許・資格など	ベーシックフィールド指定科目		
担当者	岡田 絵梨奈	履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	○
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	○
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
 デザインの形式原理やファッションデザインに必要な素材・構造・歴史などの基礎知識の習得を目指します。
 ファッションデザインを理解することは、自身のデザインセンスを一流のデザインセンスへ高めるために必要なことであり
 ファッションの基礎知識を深めることを目的とします。

III. 学習成果
 多くのファッション用語を理解すると同時に、ファッションデザインの基礎的知識を習得する。
 今後の授業及びファッション業界で活用する知識を身につける。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション	オリエンテーションシートの記入
2: デザインとは何か ・身の回りのデザインについて	生活の中のデザインについて調査し 好きなデザインについて課題プリントにまとめる
3: ファッションデザインについて ・ファッションデザインと服飾デザインの違い	課題プリントを実施する
4: シルエットの種類 ・シルエットの名称とその特徴	ファッション雑誌から様々なシルエットを抽出し、まとめる
5: シャツとブラウスの基礎知識 ・襟や袖のデザイン ・シャツやブラウスのデザイン比較ディスカッション	シャツの種類とデザイン分析 課題プリントを実施する
6: デティールを観察する ・デティールの種類とその特徴	服のデティールデザインを観察する 課題プリントを実施する
7: スカートの基礎知識 ・プリーツの種類 ・スカートのデザイン比較ディスカッション	スカートの種類とデザイン分析 課題プリントを実施する
8: ワンピースの基礎知識 ・シルエットの復習	ワンピースのデザイン分析 平図の描き方練習 課題プリントを実施する
9: これまでの学習の振り返りと補足 ・小テストと平図演習	これまでの学習の振り返りとプリントの整理
10: パンツの基礎知識	パンツのデザイン分析 課題プリントを実施する
11: ジーンズの基礎知識 ・ジーンズの染色や加工の種類 ・ジーンズのデザイン比較グループワーク	ジーンズのデザイン分析 課題プリントを実施する
12: ジャケット・スーツの基礎知識 ・平図の制作	ジャケットとスーツのデザイン分析 課題プリントを実施する
13: コートの基礎知識 ・用途に合わせたコートデザイン	コートのデザイン分析 課題プリントを実施する
14: ファッションイメージからファッションデザイン企画へ	テーマに合わせて平図を描く
15: まとめ 質疑応答 ・試験についての説明 ファイルの確認	課題プリントとテキストの最終チェック

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 課題プリントや調査など30分以上の準備学習が必要となります
 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した180分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
 教科書はありませんが、毎回テキスト(プリント)を配布します。

VI. 評価方法と評価基準
 試験(60%)、課題提出物(30%)、学習への意欲(10%)
 ※試験には、ファイリングした配布テキスト・課題プリント・自筆ノートの持ち込み可。(規定のポケットファイル様式)

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 ファッション雑誌を使用して課題を作成しますので、切り取りのできるファッション雑誌、のり、はさみ等が必要です
 また、全ての課題については返却時に個別にフィードバックを実施いたします。

「実務経験教員科目」特記事項: スタイリスト経験を活用し、ファッションにおける共通言語の重要性を実践を通じて深めていきます。

1 指定科目
年目

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
パターンの理解	FA30104	開講時期:	1・2期		
		形態:	演習	単位:	1単位
担当者		履修方法:	卒業選択必修		
斉藤 朋子		免許・資格など	ベーシックフィールド指定科目		
高野 弓枝		履修要件:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマポリシー(学位授与の方針)	
	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	◎
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	○
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
 服の設計をするための型紙作成の基本となる平面作図法を学ぶ。
 トップス(身頃)、ボトムス、ワンピースの基本パターンとその展開方法について学び、縮尺によるノート作りをする。

III. 学習成果
 身頃・袖・スカートの原型と展開法がわかるようになる。
 婦人服のパターンを観察し把握する、基本的な力が身につく。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: スカート原型の作図	スカート原型について教科書を熟読すること。 スカート原型の作図について要点をまとめる。
2: スカートのダーツ展開(セミタイト・フレアー)	スカート原型の展開について教科書を熟読すること。 スカート原型の展開について要点をまとめる。
3: ヨーク切り替えのヒップボーンスカートの作図(ヨーク切り替え)	ヨーク切り替えについて教科書を熟読すること。 ヨーク切り替えスカートの作図について要点をまとめる。
4: 部分プリーツ展開の作図	プリーツ展開について教科書を熟読すること。 プリーツ展開について要点をまとめる。
5: 身頃原型(身頃の構造を知る)	文化式原型の概要を教科書で読んでおくこと。 文化式身頃原型について要点をまとめる。
6: 身頃原型のダーツ展開	文化式原型のダーツ展開について教科書で読んでおくこと。 文化式身頃原型のダーツ展開について要点をまとめる。
7: シャツカラーブラウスの作図	シャツカラーブラウスについて教科書で読んでおくこと。 シャツカラーブラウスの製図について要点をまとめる。
8: 袖の作図	ブラウスの袖について教科書で読んでおくこと。 袖の作図について要点をまとめる。
9: フラットカラーブラウスの作図	フラットカラーブラウスについて教科書で読んでおくこと。 フラットカラーブラウスの製図について要点をまとめる。
10: フラットカラーブラウス(身頃の展開と衿の作図)	ブラウスの衿について教科書で読んでおくこと。 フラットカラーの作図について要点をまとめる。
11: フラットカラーブラウス(袖の作図)	ブラウスの袖について教科書で読んでおくこと。 袖の作図と展開について要点をまとめる。
12: ワンピースの作図①(原型操作と身頃の作図)	ワンピースについて教科書で読んでおくこと。 ワンピースの身頃製図について要点をまとめる。
13: ワンピースの作図②(袖の作図)	ワンピースの袖について教科書で読んでおくこと。 ワンピースの袖の製図について要点をまとめる。
14: ワンピースの作図③(袖の展開)	ワンピースの袖について教科書で読んでおくこと。 ワンピースの袖の製図について要点をまとめる。
15: まとめ(ファイル整理と提出)	これまでのパターンの平図を描いておくこと。 ファイル整理をしておくこと

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 毎回の授業について30分程度の準備学習が必要となる。
 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
 文化服装学院編「スカート・パンツ」「ブラウス・ワンピース」
 配付プリント

VI. 評価方法と評価基準
 単位認定試験70%、ファイル提出20%、学習意欲10%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 授業内で完成しなかった場合や欠席した場合には、次回までに各自で課題を進めて準備してください。
 A3クリアファイル、定規類(実寸用・1/2縮尺)等の準備が必要となります。
 提出ファイルにコメントでフィードバックする。

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
素材の知識	FA30105	開講時期:	3・4期	単位:	2単位
		形態:	講義		
		履修方法:	卒業選択必修		
		免許・資格など	ベーシックフィールド指定科目		
担当者		履修要件:			
松本 美保子		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	◎
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
 ファッション産業の現場で使用される様々な素材についての基礎を学ぶ。
 また、素材である繊維、糸、布の種類や組織、特性、後加工の役割について基本的な知識を学び、実際に体験学習などを行い習得する。
 衣に関わることは衣空間、住空間、さらにeco(エコ)環境と、現代が必要とすることへの対応を含みヴィジュアルレポートにまとめ学ぶ。
 このヴィジュアルレポートとは、見て分かるレポートのことで、授業で必要なことをコンパクトにまとめる技術を習得する。

III. 学習成果
 使用される素材の基本的な知識を、サンプルや簡単な試作、実験などで、視覚だけではなくテクスチャ感(手触り感)も含み確認し、種々の布地に対して特性を説明することができる。
 また、加工やeco(エコ)、新素材などにもファッション+応用・展開の幅を広げることができる。
 ヴィジュアルレポートを基にグループディスカッションし、相手に伝達する方法を身につける。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション ファッションとの関わり 素材とは テキスタイルとは 歴史と産業	シラバスの概要、学習成果を読んでおく
2: 素材としての繊維の理解 糸素材から衣料品ができるまでの流れ 繊維特性についての総合的な理解	ファッションに関わる布製品を調べる
3: 天然繊維 綿・麻・毛・絹 歴史 世界の産地 特性	綿・麻・毛・絹についてファッションアイテムも含み調べる
4: 化学繊維 歴史 種類 特性	化学繊維の種類について調べる
5: その他の繊維 天然皮革 毛皮 人造皮革 特性	天然皮革・毛皮・人造皮革製品を調べる
6: 素材収集 布地 糸 体験学習 テクスチャ感の理解 布地についてのまとめ方をディスカッションする	色々な布地を集めておく 素材名が分かるものは記す
7: 糸について 1 糸の分類 素材による糸質の違い 糸と素材の関係 種類 太さ 撚り	原毛、繭毛羽(まゆげば)、綿、化繊わた それぞれ撚りをかける 服地素材の糸を集め、その名称を調べる
8: 糸について 2 糸と素材の関係 糸のテクスチャー感 表現方法 オリジナルの考え方	縫い糸、ミンシ糸を集める 糸素材による違いを言葉で表現する クリエイティブヤーンを試作する
9: 布地について 1 織物体験学習 布地とは 代表的な平織、綾織(斜文織) 織り体験	織物地以外の布地について オリジナル織物を試作する
10: 布地について 2 種類 織地、編地、レース、不織布等 織物地の名称 編機の種類 長所・短所	レースについて 歴史を含み調べる
11: 布地の加工 1 加工 仕上げ 改質 加工の種類について 繊維製品表示 洗濯表示	身の回りの繊維製品の表示を集める 原毛のフェルト化 布地漂白、染色 試作
12: 布地の加工 2 布地と色彩、テクスチャー感の関わり カラートレンドと布地の関係 テクスチャー用語 光との関係 JAFCA	街中のカラートレンドを調べる テキスタイル用語での表現方法についてまとめる
13: 布地の役割 1 環境との関わりとしてのエコ プレゼンテーション方法説明 リサイクル リユース リデュース の意味	循環エコ作品制作 プレゼンテーションボードを作る
14: 布地の役割 2 循環エコ作品プレゼンテーション 素材加工の関係 ファイルのまとめ方	ヴィジュアルレポート、配布資料をファイルにまとめる
15: まとめ ファイルを基にグループディスカッションし授業内容の把握をする	ヴィジュアルレポートファイルを基に、本講義の内容を再確認する 素材に対する各項の内容を併せて整理する

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 各回授業時に次回説明を行い予習としてのビジュアルレポートを提示します。また復習としてファイルにまとめそれぞれの見地を再確認します。準備学習に必要な時間は30分以上行うこと。
 単位認定のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した180分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
 教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。
 主参考書: 基礎被服材料学(文化出版局)、テキスタイル用語辞典(テキスタイル・ツリー)

VI. 評価方法と評価基準
 単位認定試験 50% ヴィジュアルレポート 40% 学習の意欲 10%
 居眠り、私語、スマートフォン使用で授業に関するもの以外の使用は 学習の意欲 の評価の対象となります。

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 各自リサーチを心がけるように指示を出します。コミュニケーションに必要な態度にも気を配るようにしてください。
 各回の課題は返却時に良い点や工夫点等を紹介し、コメントを伝えます。
 これらの積み重ねが次への応用に役立ち、向上への必要性を認識につながります。
 配布資料や課題を入れるファイル、課題で試作する使用材料の一部は個々に準備していただきます。

1 指定科目
年

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
特別演習 I	FA30109	開講時期:	4期	単位:	1単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	卒業選択必修		
専任教員		免許・資格など	ベーシックフィールド指定科目		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1	一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。				○
DP2	ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。				○
DP3	服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。				○
DP4	ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。				○
DP5	ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。				○
DP6	修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				○
DP7	専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。				◎
II. 概要					
各自が授業以外にチャレンジしたいと思う内容を決め、実践する科目である。					
各フィールドで学んだ知識を実践的にチャレンジすることで、人間力および行動力を身につけ、ファッションの多様な職種にも対応できる能力を身につけることを目的とする。					
内容は次の3つから選択すること。(1)自主課題制作または研究 (2)デザインコンテストへの作品応募 (3)各種検定試験対策					
III. 学習成果					
様々なことにチャレンジすることにより、人間力や行動力を身につけることができる。					
主体的な学びができるようになる。					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1:	導入 特別演習 I についての説明 活動計画表の作成		チャレンジする内容に合わせて、計画を立てる		
2:	各自のチャレンジ内容の申請		チャレンジの内容に合わせて、材料やテキスト、問題集等を準備をする。		
3:	各自のチャレンジ内容に応じた実習、研究、検定対策学習を行う① 活動計画表の記入		作品制作や検定対策問題の予習復習を行い、 疑問点や質問事項を見つけておくこと		
4:	各自のチャレンジ内容に応じた実習、研究、検定対策学習を行う② 活動計画表の記入		作品制作や検定対策問題の予習復習を行い、 疑問点や質問事項を見つけておくこと		
5:	各自のチャレンジ内容に応じた実習、研究、検定対策学習を行う③ 活動計画表の記入		作品制作や検定対策問題の予習復習を行い、 疑問点や質問事項を見つけておくこと		
6:	各自のチャレンジ内容に応じた実習、研究、検定対策学習を行う④ 活動計画表の記入		作品制作や検定対策問題の予習復習を行い、 疑問点や質問事項を見つけておくこと		
7:	各自のチャレンジ内容に応じた実習、研究、検定対策学習を行う⑤ 活動計画表の記入		作品制作や検定対策問題の予習復習を行い、 疑問点や質問事項を見つけておくこと		
8:	各自のチャレンジ内容に応じた実習、研究、検定対策学習を行う⑥ 活動計画表の記入		作品制作や検定対策問題の予習復習を行い、 疑問点や質問事項を見つけておくこと		
9:	各自のチャレンジ内容に応じた実習、研究、検定対策学習を行う⑦ 活動計画表の記入		作品制作や検定対策問題の予習復習を行い、 疑問点や質問事項を見つけておくこと		
10:	各自のチャレンジ内容に応じた実習、研究、検定対策学習を行う⑧ 活動計画表の記入		作品制作や検定対策問題の予習復習を行い、 疑問点や質問事項を見つけておくこと		
11:	各自のチャレンジ内容に応じた実習、研究、検定対策学習を行う⑨ 活動計画表の記入		作品制作や検定対策問題の予習復習を行い、 疑問点や質問事項を見つけておくこと		
12:	各自のチャレンジ内容に応じた実習、研究、検定対策学習を行う⑩ 活動計画表の記入		作品制作や検定対策問題の予習復習を行い、 疑問点や質問事項を見つけておくこと		
13:	各自のチャレンジ内容に応じた実習、研究、検定対策学習を行う⑪ 活動計画表の記入		作品制作や検定対策問題の予習復習を行い、 疑問点や質問事項を見つけておくこと		
14:	各自のチャレンジ内容に応じた実習、研究、検定対策学習を行う⑫ 活動計画表の記入		作品制作や検定対策問題の予習復習を行い、 疑問点や質問事項を見つけておくこと		
15:	活動レポートまたは作品の完成 最終報告書の作成		活動計画表の提出、作品の場合は作品の提出の準備 報告書をまとめる		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明					
先生に習うのではなく、主体的に学ぶことが目的であるため、予習、復習を十分に行い、疑問点を見つけて授業に臨むこと。					
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書					
各自のチャレンジに応じて、教科書や問題集、材料などを準備する。					
VI. 評価方法と評価基準					
チャレンジの内容 計画への取り組み度 (活動状況) 最終報告書 などを総合的に評価する。					
学習ルーブリックによる評価100%。評価内容は事前に伝える。					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)					
疑問点を見つけ出し、わからないことは専門の先生に質問して解決すること。					
毎回の報告内容に対して、コメントでフィードバックします。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
文学A (文学を楽しむ)	FA40101	開講時期:	1・2期	単位:	2単位
		形態:	講義		
		履修方法:	卒業選択 教養科目		
		免許・資格など 履修要件他:			
担当者		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
橋本 浩					

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	◎
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	○

II. 概要
 文学は人間の思いを言葉で表したものである。私たちの周りには先人たちが残してくれた名作と呼ばれる文学作品が数多く存在している。そして私たちは、それを読むことを通して、様々な人間の営みを時代を超えて追体験し、自身の人生を豊かにしていくことができる。
 この授業では、代表的文学作品の鑑賞を通し、文学に親しむ心を育てるとともにその楽しさを味わい、語彙力や表現力、さらには教養を高めていくことを目的として行う。

III. 学習成果
 (1) 文学作品の背後にあるそれぞれの時代を生きた人々の生活や、生きた姿、またその思いを知ることができる。
 (2) 人間としての在り方・生き方を、自分自身に重ねて鑑賞することにより、人生を豊かなものにしていきかけを得ることができる。
 (3) 時代を問わず広く文学に親しむことにより、語彙力や表現力を身につけ、教養を高めることができる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: 文学概観とオリエンテーション～文学を学ぶ意義 *有名文学(フレーズ)紹介 オリエンテーション	講義・協議 課題1、近現代の作品を読む①(森鷗外「舞姫」)
2: 上代の文学(1)～神話や伝説:古事記(上) *有名文学(フレーズ)紹介 近現代文学作品課題解説①	講義 ○発表者決定及び準備(発表の要領については下欄「Ⅶ、その他」を参照のこと。) 課題2、近現代の作品を読む②(志賀直哉「城の崎にて」)
3: 上代の文学(2)～神話や伝説:古事記(下)、 *有名文学(フレーズ)紹介 近現代文学作品課題解説②	講義・発表・協議 課題3、近現代の作品を読む③(太宰治「走れメロス」)
4: 中古の文学(1)～和歌集:万葉集 *有名文学(フレーズ)紹介 近現代文学作品課題解説③	講義 ○発表者決定及び準備(発表の要領については下欄「Ⅶ、その他」を参照のこと。) 課題4、近現代の作品を読む④(小川未明「赤い口ソクと人魚」)
5: 中古の文学(2)～歌物語:伊勢物語(上) *有名文学(フレーズ)紹介 近現代文学作品課題解説④	講義・発表・協議 課題5、現代の作品を読む⑤(菊池寛「恩讐の彼方に」)
6: 中古の文学(3)～歌物語:伊勢物語(下) *有名文学(フレーズ)紹介 近現代文学作品課題解説⑤	講義 ○発表者決定及び準備(発表の要領については下欄「Ⅶ、その他」を参照のこと。) 課題6、近現代の作品を読む⑥(壺井栄「二十四の瞳」)
7: 中古の文学(4)～日記文学:蜻蛉日記(上) *有名文学(フレーズ)紹介 近現代文学作品課題解説⑥	講義・発表・協議 課題7、近現代の作品を読む⑦(井伏鱒二「山椒魚」)
8: 中古の文学(5)～日記文学:蜻蛉日記(下)・更級日記(上) *有名文学(フレーズ)紹介 近現代文学作品課題解説⑦	講義 ○発表者決定及び準備(発表の要領については下欄「Ⅶ、その他」を参照のこと。) 課題8、近現代の作品を読む⑧(伊藤左千夫「野菊の墓」)
9: 中古の文学(6)～日記文学:更級日記(下) *有名文学(フレーズ)紹介 近現代文学作品課題解説⑧	講義・発表・協議 自由課題、百人一首の中から「好きな一首」を選びレポートにまとめ提出。
10: 百人一首 かるた会～源平戦	課題9、近現代の文学作品を読む⑨(芥川龍之介短編集)
11: 中古の文学(7)～随筆:枕草子 *有名文学(フレーズ)紹介 近現代文学作品課題解説⑨	講義 ○発表者決定及び準備(発表の要領については下欄「Ⅶ、その他」を参照のこと。) 課題10、近現代の文学作品を読む⑩(宮沢賢治「どんぐりと山猫」)
12: 中古の文学(8)～物語:源氏物語 *有名文学(フレーズ)紹介 近現代文学作品課題解説⑩	講義・発表・協議 課題11、近現代の文学作品を読む⑪(有島武郎「一房の葡萄」)
13: 中世の文学(1)～軍記物語:平家物語 *有名文学(フレーズ)紹介 近現代文学作品課題解説⑪	講義 ○発表者決定及び準備(発表の要領については下欄「Ⅶ、その他」を参照のこと。) 課題12、近現代の文学作品を読む⑫(新美南吉「ごんぎつね」)
14: 中世の文学(2)～随筆:徒然草(上) *有名文学(フレーズ)紹介 近現代文学作品課題解説⑫	講義・発表・協議 課題13、近現代の文学作品を読む⑬(梶井基次郎「檸檬」)
15: 中世の文学(3)～随筆:徒然草(下)・総まとめ *有名文学(フレーズ)紹介 近現代文学作品課題解説⑬	講義・協議 ○これまでの振り返り。(これまで学んできたすべての学習資料を持参)

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 ○発表する者は、予め予告する当日解説予定の文学作品について、テキストや図書館等にある書籍・参考本により調べる。 ○準備学習は各回30分以上行うこと。
 ○単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した180分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
 ○授業担当者による作成資料(教科書は使わない)

VI. 評価方法と評価基準
 (1) 単位認定試験(55%) (2) 発表・課題・レポート(25%)
 (3) 学習の意欲(20%)

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 1、毎時間の復習課題に誠実に取り組むこと。
 2、発表者は、作品の概要について、A4一枚に次の事項をまとめる。①成立 ②作者等 ③文体 ④文学史的意義等 ⑤主な内容 ⑥鑑賞や感想
 パワーポイント使用可。発表後は協議の時間を設け、内容の共有と深化を図る。
 フィードバックについては、毎回担当者による発表に対するコメントの他、学生間相互評価も取り入れる。

1 教養科目
年目

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
コンピューター演習	FA40102	開講時期:	1・2期	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択 教養科目		
担当者		免許・資格など			
高橋 主光		履修要件:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	本科目との関連
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	◎
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
皆さんが社会人となるに当たり、小売に関する業務であれば人員管理・売り上げ管理・データ分析の知識、デザインに関する業務であればパワーポイントによるプレゼンテーションの知識を身につけることは必須となります。また、日々の業務において、WORDを用いた文書作成やEメールでの連絡は不可欠です。本講義では、WORD/EXCEL/POWERPOINTの基礎的な知識を身につけることを通じ、上記のような能力の基礎を固めることを目標とします。

III. 学習成果
1.簡単な文書作成、Eメールによる連絡ができる
2.EXCELを用いた簡単な計算や、グラフの作成ができる
3.POWERPOINTを用いたプレゼンテーション資料が作成できる
4.WORD/POWERPOINTでの資料作成において、EXCELで作成した表やグラフ、画像を挿入できる

授業内容	準備学習(予習・復習)内容
1.授業ガイダンス、Eメール/Google Classroomの使い方について	Eメール/Google Classroomの使い方に関し、復習をする
2.WORDを使った文書入力(1):簡単な文書を作成する	復習として、課題文を入力する
3.WORDを使った文書入力(2):フォントの変更、ファイルを提出する	作成したファイルを、Google Classroomを通じ提出する
4.EXCELの使い方(1):四則演算	復習として、実際の計算問題を行う
5.EXCELの使い方(2):合計、平均などを出してみる	復習として、実際の計算問題を行う
6.EXCELの使い方(3):棒グラフ、折れ線グラフを作成する	復習として、実際のグラフ作成問題を解く
7.EXCELの使い方(4):円グラフ、散布図を作成する	復習として、実際のグラフ作成問題を解く
8.EXCELの使い方(5):ピボットテーブル	復習として、実際の計算問題を行う
9.EXCEL、WORDの使い方(1):作成したグラフをWORDに貼付する	課題に基づき作成したファイルを、Google Classroomを通じ提出する
10.EXCEL、WORDの使い方(2):画像をWORDに貼付する	課題に基づき作成したファイルを、Google Classroomを通じ提出する
11.POWERPOINTの使い方(1):デザインを変更する	課題に基づき作成したファイルを、Google Classroomを通じ提出する
12.POWERPOINTの使い方(2):簡単なスライドを作成する	課題に基づき作成したファイルを、Google Classroomを通じ提出する
13.POWERPOINTの使い方(3):スライドに画像やグラフを貼付する	課題に基づき作成したファイルを、Google Classroomを通じ提出する
14.POWERPOINTの使い方(4):アニメーション	課題に基づき作成したファイルを、Google Classroomを通じ提出する
15.POWERPOINTの使い方(5):ハイパーリンクを挿入する	課題に基づき作成したファイルを、Google Classroomを通じ提出する

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
毎回、2時間程度の課題を出します。各回の課題に関しては、講義中に課題プリントを配布します。参考図書の該当箇所に関しても、課題プリントに記載します。また、講義中に講義内容に関する小テストを行います。実施方法・回数等は初回講義で説明します。

V. 教科書・参考図書
参考図書:「今すぐ使えるかんたん Word & Excel & PowerPoint 2021」技術評論社

VI. 評価方法と評価基準
Google Formsによる小テスト(45%)、レポート(3回、WORD/EXCEL/POWERPOINTによるレポート各1回)または定期試験(45%)、学習への意欲(10%)
※なお、レポートと定期試験のどちらを行うかは授業中に指示を行う。

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
毎回出席し、小テストを受けること(USBメモリを持参すること)
私語・講義中の離席・講義中の携帯電話の使用等は減点の対象とします
課題に関しては、解答例を配布します

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
健康スポーツ I	FA40103	開講時期:	1・2期	単位:	1単位
		形態:	実講		
		履修方法:	卒業選択 教養科目		
担当者		免許・資格など			
秋峯 良二		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1	一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。				○
DP2	ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。				
DP3	服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。				
DP4	ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。				
DP5	ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。				
DP6	修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				◎
DP7	専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。				○
II. 概要					
<ul style="list-style-type: none"> 健康生活と運動について理論的に理解を深めるために1・2講で講義を行います。 3講より体育館において種々のスポーツ活動を実践していきます。 					
III. 学習成果					
<ul style="list-style-type: none"> チームスポーツを行うことによりコミュニケーション力、プレゼンテーション力、実行力・行動力を習得できる。 それぞれの基本技術・応用技術を習得できる。 楽しく意欲的に実践することにより、運動効果をあげることができる。 					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: 講義 (授業内容説明・健康と運動について)	一日の生活習慣を把握しておく				
2: 講義 (BMI・運動とエネルギー消費)	身長、体重を確認しておく 一日の歩数を調べておく				
3: ストレッチ・トレーニング	ストレッチ・トレーニングの実践内容について調べておく				
4: レクリエーション	レクリエーションの実践内容について調べておく				
5: バドミントン① 基礎技術練習	基本技術について調べておく				
6: バドミントン② ダブルスゲームのルールを学ぶ	ダブルスゲーム・ルールを理解しておく				
7: バドミントン③ ダブルスゲームにおける動きを学ぶ	二人のコンビネーションについて理解しておく				
8: バドミントン④ シングルゲームのルールを学ぶ	シングルゲーム・ルールを理解しておく				
9: バドミントン⑤ シングルゲームにおける動きを学ぶ	コート内での動き方について理解しておく				
10: バレーボール① 基礎技術練習	基本技術について調べておく				
11: バレーボール② バレーボールのルールを学ぶ	ゲーム・ルールを理解しておく				
12: バレーボール③ バレーボールにおける動きを学ぶ	ポジションの役割について調べておく				
13: バasketボール① 基礎技術練習	基本技術について調べておく				
14: バasketボール② Basketボールのルールを学ぶ	ゲーム・ルールを理解しておく				
15: バasketボール③ Basketボールの動きを学ぶ	チームプレーについて調べておく				
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明					
<ul style="list-style-type: none"> 体育館は自由に使用できます。日頃より運動習慣を身につけましょう。 予習復習については1.5時間程度は行いましょう。 					
V. 教科書・参考図書					
教科書は使用しません。					
VI. 評価方法と評価基準					
技術力 40%、毎回の学習活動での意欲(積極性) 30%、協調性 30%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)					
<ul style="list-style-type: none"> 課題に対するフィードバックについてはその都度授業の中で行います。 体操服、体育館シューズについては高校時の物を使用してください。 授業内容については受講人数、受講者の希望により変更することがあります。 					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
英語 I	FA40209	開講時期:	1・2期	単位:	2単位
担当者		形態:	講義		
ライオ・ランドリー		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など	教養科目		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。					◎
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。					○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。					
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。					
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。					
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。					◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。					
II. 概要					
国際社会の中でも最も大切なコミュニケーションツールとなる英語を身に付ける。 英語というのは数学とは違い、必ず答えは一つではない。間違いを恐れずチャレンジすることで、生きた英語を学び、グローバルな人間に成長しよう。					
III. 学習成果					
<ul style="list-style-type: none"> ・外国人とのコミュニケーションを積極的に行えるようになる。 ・間違いを恐れずに英語で会話ができるようになる。 					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: 英語と日本語の違い(又は日本における英語と米語の違い)			事前に英語と日本語の違いを自分で調べる		
2: アルファベットの1つひとつの発音			事前に英語と日本語の発音の違いを自分で調べる		
3: 日常的英語でのあいさつ			中・高で学んだあいさつの仕方を書いておく		
4: 日常的英語でのあいさつ(日本と米語のマナーも含む)			日本とアメリカのマナーを調べておくこと		
5: コミュニケーションに必要なバディーランゲージ			バディーランゲージの必要性を考えておく		
6: 映画鑑賞			鑑賞後の感想文を提出する		
7: 映画の中のおもしろいフレーズの学習			記憶に残るフレーズの発表		
8: 一日の生活を通して、英語で自分を表現する(熟語を入れながら)			熟語ガイドブックを持参する		
9: 自己紹介の仕方(フォーマルに/インフォーマルに)			フォーマル/インフォーマルの違いを自分なりに書いておく		
10: 道の尋ね方(Howの使い方)			Howを使った文を10問書いてくる		
11: リクエストの仕方・・・ 答え方・・・(ポジティブに/ネガティブに)			何がポジティブ/ネガティブかを考えておく		
12: クレームの対応の仕方			どのようなクレームがありそうかを自分で調べてくる		
13: 意見に対しての同意・不同意			オピニオンの必要性を書いてくる		
14: エクスキューズの仕方			エクスキューズの本来の意味を調べて書いてくる		
15: 感謝の表し方、受け取り方			英語で感謝の仕方を五つ書いてくる		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 準備学習は毎回30分以上行うこと 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した180分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書 テーマに沿った教員作成資料を配布します。					
VI. 評価方法と評価基準 単位認定試験(90%) 学習の意欲(10%)					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等) 授業で提出された課題は添削し返却する。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
日本語文法の基礎【中級】	FA40115	開講時期:	1・2期	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択 教養科目		
担当者		免許・資格など			
廣田 千絵		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1	一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。				○
DP2	ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。				
DP3	服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。				
DP4	ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。				
DP5	ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。				
DP6	修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				◎
DP7	専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。				
II. 概要					
日本語能力試験N2レベルの文法を学ぶ					
III. 学習成果					
日本語能力試験N2レベルの意味・用法を理解し正しく使用することができる。					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: 授業ガイダンス プレースメントテスト			時や場の領域を表す表現について調べる		
2: 時や場の領域を表す表現など グループワークにて練習問題の答え合わせ			練習問題で間違えた箇所を見直す 進行状態を示す表現について調べる		
3: 進行状態を示す表現など グループワークにて練習問題の答え合わせ			練習問題で間違えた箇所を見直す 対応関係や比較を表す言い方について調べる		
4: 対応関係や比較を表す言い方など グループワークにて練習問題の答え合わせ			練習問題で間違えた箇所を見直す 仮定や観点を示す表現について調べる		
5: 仮定や観点を示す表現など グループワークにて練習問題の答え合わせ			練習問題で間違えた箇所を見直す 限定して示す表現について調べる		
6: 限定して示す表現など グループワークにて練習問題の答え合わせ			練習問題で間違えた箇所を見直す 傾向や様子を表現について調べる		
7: 傾向や様子を表現など グループワークにて練習問題の答え合わせ			練習問題で間違えた箇所を見直す 列挙する言い方について調べる		
8: 列挙する言い方など グループワークにて練習問題の答え合わせ			練習問題で間違えた箇所を見直す 「わけ」「こと」「もの」を使った言い方について調べる		
9: 「わけ」「こと」「もの」を使った言い方など グループワークにて練習問題の答え合わせ			練習問題で間違えた箇所を見直す 可能・不可能を示す言い方について調べる		
10: 可能・不可能を示す言い方など グループワークにて練習問題の答え合わせ			練習問題で間違えた箇所を見直す これまで勉強した文法を見直す		
11: 模擬試験 グループワークにて答え合わせ			問題で間違えた箇所を見直す 時や場の領域を表す表現を確認する		
12: 総合問題① 時や場の領域を表す表現を用いた文作練習			問題で間違えた箇所を見直す 対応関係や比較を表す言い方を確認する		
13: 総合問題① 対応関係や比較を表す表現を用いた文作練習			問題で間違えた箇所を見直す 傾向や様子を表現を確認する		
14: 総合問題② 傾向や様子を表現を用いた文作練習			問題で間違えた箇所を見直す 可能・不可能を示す表現を確認する		
15: 総合問題③ 可能・不可能を示す表現を用いた文作練習			問題で間違えた箇所を見直す 文作練習で正しい文が書けているか確認する		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 準備学習は毎回30分以上行うこと。基本的に、毎回小テストを行うので、前回の内容を必ず確認しておくこと。 単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書 プリントを配布する 参考図書:「日本語能力試験対策N2文法総まとめ」					
VI. 評価方法と評価基準 単位認定試験50%、課題・小テスト25%、学習の意欲25% 居眠り、私語、不必要なスマートフォンの使用に関しては「学習の意欲」の評価の対象とする。					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等) 課題や小テストに関しては、授業内もしくは個別にフィードバックする。 積極的な授業参加を期待する。 シラバスは受講学生の人数やレベルなどで変更することがある。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
日本語文法の基礎【上級】	FA40115	開講時期:	1・2期	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など 履修要件他:	教養科目		
担当者	アクティブラーニング科目: <input type="radio"/> 実務経験教員科目: <input type="checkbox"/>				
淀川 藍凜					

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	本科目との関連
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	○

II. 概要
日本語能力のレベルを高める事と共に日本語文法の体系や文の成り立ち、文を構成する各要素の関係を理解するためには文法項目の複雑さを乗り越えないといけません。語彙力を増やしながら実践トレーニングを通じて日本語文法をマスターしましょう。

III. 学習成果
1) 日本語の複雑な文の構造や修飾関係を正しく理解することができる。
2) 多様なテーマの文章を通じて文法構造や用法などを覚えて日本語能力試験N1を目指すことができる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: 授業内容のご案内 →PPT映像と動画で授業を行います。授業資料を学習して課題ワークシートを必ず提出すること。ワークシートについて	課題提出は、Google classroomを使用する シラバス及びテキスト/2週目の課題ワークシートについて
2: Lesson1 健康法①～体重 一人ランチ (文法・語彙・クイズ)	ワークシート①課題に取り組む
3: Lesson2 健康法②～ウォーキング 日本文化を生んだ道具 (文法・語彙・クイズ)	ワークシート①フィードバックを確認する ワークシート②課題に取り組む
4: Lesson3 お礼の手紙 アレルギーの危険性 (文法・語彙・クイズ)	ワークシート②フィードバックを確認する ワークシート③課題に取り組む
5: Lesson4 おわびのメール 苦しいときほど笑え (文法・語彙・クイズ)	ワークシート③フィードバックを確認する ワークシート④課題に取り組む
6: Lesson5 日々の生活①～携帯電話 お風呂入ってもいいですか。 (文法・語彙・クイズ)	ワークシート④フィードバックを確認する ワークシート⑤課題に取り組む
7: Lesson6 今日の出来事②～スポーツ観戦 学び直し休暇 (文法・語彙・クイズ)	ワークシート⑤フィードバックを確認する ワークシート⑥課題に取り組む
8: 復習 (Lesson1～Lesson6)のワークシート及び小テスト	小テストの予習を行う
9: Lesson7 自然の世界①～天気 ぼくは勉強ができない① (文法・語彙・クイズ)	ワークシート⑦課題に取り組む
10: Lesson8 今日の出来事③～番号 ぼくは勉強ができない② (文法・語彙・クイズ)	ワークシート⑦フィードバックを確認する ワークシート⑧課題に取り組む
11: Lesson9 今日の出来事④～失敗続き 花 (文法・語彙・クイズ)	ワークシート⑧フィードバックを確認する ワークシート⑨課題に取り組む
12: Lesson10 今日の出来事⑤～交通事故 河童 (文法・語彙・クイズ)	ワークシート⑨フィードバックを確認する ワークシート⑩課題に取り組む
13: Lesson11 大衆文化	ワークシート⑩フィードバックを確認する
14: Lesson12 大衆文化 ※アクティブラーニング 大衆文化について各自調べたことを発表する	ワークシート⑪ フィードバックを確認する
15: Lesson13 復習 (Lesson7～Lesson10)のワークシート及び小テスト 日本語文法の基礎まとめ	小テストの予習を行う

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
※辞書を必ずご準備下さい。(授業中のスマホの使用は禁じます。) なお、前回の授業の復習は30分以上行って下さい。
※課題ワークシートはA4用紙に手書きで書いて提出して下さい。単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
教科書: 栗岩しづ可・青木幸子・高橋尚子 著「日本語N2 文法・読解まるごとマスター」Jリサーチ出版 2018
参考図書: 朝日新聞論説委員室 著「天声人語 2019年7月-12月」朝日新聞出版 2020

VI. 評価方法と評価基準
単位認定レポート60%、課題学習20%、小テスト20%

VII. その他 (課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
課題ワークシートは学籍番号とお名前のご記入上、指定の場所に提出して下さい。(期間設定あり、手書き提出、成績評価)
提出課題がある場合はコメントして返却します。
辞書を必ず準備して授業を受けて下さい。

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
日本語語彙の基礎【中級】	FA40116	開講時期:	1・2期	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択 教養科目		
		免許・資格など 履修要件他:			
担当者	アクティブラーニング科目: <input type="radio"/> 実務経験教員科目: <input type="checkbox"/>				
川野 さやか					

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	本科目との関連 ○
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	○

II. 概要

JLPT N2レベルの語彙や、生活の中での頻出語彙を中心に、正しく聞き取り使用できるように練習する。

III. 学習成果

- 日常生活、大学生生活の語彙を理解し、適切な場面で使用できる。
- JLPT N2に合格できる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション、JLPT模試	JLPTN2対策問題を解く 生活の中で新しく覚えた語彙を3つ使って例文を作る
2: 自動詞・他動詞、ドリル1 生活の中の語彙(グループワーク・発表)	自動詞・他動詞を覚えてくる(次回小テスト) 生活の中で新しく覚えた語彙を3つ使って例文を作る
3: 小テスト①、複合動詞(1)、ドリル2 生活の中の語彙(グループワーク・発表)	複合動詞①を覚えてくる(次回小テスト) 生活の中で新しく覚えた語彙を3つ使って例文を作る
4: 小テスト②、複合動詞(2)、ドリル3 生活の中の語彙(グループワーク・発表)	複合動詞②を覚えてくる(次回小テスト) 生活の中で新しく覚えた語彙を3つ使って例文を作る
5: 小テスト③、いろいろな意味のある動詞、ドリル4 生活の中の語彙(グループワーク・発表)	いろいろな意味のある動詞を覚えてくる(次回小テスト) 生活の中で新しく覚えた語彙を3つ使って例文を作る
6: 小テスト④、い形容詞、ドリル5 生活の中の語彙(グループワーク・発表)	い形容詞を覚えてくる(次回小テスト) 生活の中で新しく覚えた語彙を3つ使って例文を作る
7: 小テスト⑤、な形容詞、ドリル6 生活の中の語彙(グループワーク・発表)	な形容詞を覚えてくる(次回小テスト) 生活の中で新しく覚えた語彙を3つ使って例文を作る
8: 小テスト⑥、副詞、ドリル7 生活の中の語彙(グループワーク・発表)	副詞を覚えてくる(次回小テスト) 生活の中で新しく覚えた語彙を3つ使って例文を作る
9: 小テスト⑦、対義語(1)、ドリル8 生活の中の語彙(グループワーク・発表)	対義語①を覚えてくる(次回小テスト) 生活の中で新しく覚えた語彙を3つ使って例文を作る
10: 小テスト⑧、対義語(2)、ドリル9 生活の中の語彙(グループワーク・発表)	対義語②を覚えてくる(次回小テスト) 生活の中で新しく覚えた語彙を3つ使って例文を作る
11: 小テスト⑨、同義語、ドリル10 生活の中の語彙(グループワーク・発表)	同義語を覚えてくる(次回小テスト) 生活の中で新しく覚えた語彙を3つ使って例文を作る
12: 小テスト⑩、擬音語・擬態語、ドリル11 生活の中の語彙(グループワーク・発表)	擬音語・擬態語を覚えてくる(次回小テスト)
13: 小テスト⑪、カタカナ語(1)、ドリル模試①	カタカナ語①を覚えてくる(次回小テスト) ドリル模試①の間違ったところをやり直す
14: 小テスト⑫、カタカナ語(2)、ドリル模試②	カタカナ語②を覚えてくる(次回小テスト) ドリル模試②の間違ったところをやり直す
15: 小テスト⑬、慣用句、ドリル模試③	慣用句を覚えてくる(次回小テスト) ドリル模試③の間違ったところをやり直す

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
準備学習は、各回30分以上行ってください。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書

参考図書:『日本語能力試験 N2直前対策ドリル&模試』Jリサーチ出版

VI. 評価方法と評価基準

単位認定試験50% 小テスト25% 課題25%(意欲や姿勢を考慮します)

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)

課題は毎回GoogleClassroomに提出してもらい評価の対象とします。 GoogleClassroomの使い方は初回オリエンテーションで説明します。
その日習った内容は、次回授業で毎回小テストをします。必ず復習して覚えてきてください。
語彙のドリルは授業内でフィードバックをします。
毎回、新しく覚えたことばをグループでシェアして、例文とともに紹介してもらいます。

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
日本語語彙の基礎【上級】	FA40116	開講時期:	1・2期	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択 教養科目		
担当者		免許・資格など			
香月 智恵		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	本科目との関連 ○
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	○

II. 概要
・日本語能力試験N1レベルの語彙を学ぶ

III. 学習成果
日本語能力試験N1レベルの語彙の意味を理解し、正しく使用することができる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: ガイダンス プレースメントテスト	様子・感情などに関する語彙の意味を調べる
2: 様子・感情などに関する語彙 グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 文化・社会などに関する語彙の意味を調べる
3: 文化・社会などに関する語彙 グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す ビジネス・教育などに関する語彙の意味を調べる
4: ビジネス・教育などに関する語彙 グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 副詞・形容詞などの意味を調べる
5: 副詞・形容詞など グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 動詞・名詞などの意味を調べる
6: 動詞・名詞など グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 類義語・対義語などの意味を調べる
7: 類義語・対義語など グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 擬音語・擬態語などの意味を調べる
8: 擬音語・擬態語など グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 慣用句・漢字などの意味を調べる
9: 慣用句・漢字など グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 様子・感情などに関する語彙を確認する
10: 実践練習① 様子・感情などに関する語彙を用いた文作練習	練習問題で間違えた箇所を見直す 文化・社会などに関する語彙を確認する
11: 実践練習② 文化・社会などに関する語彙を用いた文作練習	練習問題で間違えた箇所を見直す これまで学習した語彙を見直す
12: 模擬試験 グループワークにて練習問題の答え合わせ	問題で間違えた箇所を見直す ビジネス・教育などに関する語彙を確認する
13: 実践練習③ ビジネス・教育などに関する語彙を用いた文作練習	練習問題で間違えた箇所を見直す 類義語・対義語などを確認する
14: 実践練習④ 類義語・対義語などを用いた文作練習	練習問題で間違えた箇所を見直す 擬音語・擬態語などを確認する
15: 実践練習⑤ 擬音語・擬態語などを用いた文作練習	練習問題で間違えた箇所を見直す 文作練習で正しい文が書けているか確認する

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
準備学習は毎回30分以上行うこと。基本的に、毎回小テストを行うので、前回の内容を必ず確認しておくこと。
次の時間に学習する語彙については意味を調べておくこと。単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とする。

V. 教科書・参考図書
プリントを配布する 参考図書:「日本語能力試験問題集N1語彙スピードマスター」中島智子他(Jリサーチ出版)

VI. 評価方法と評価基準
単位認定試験50%、課題・小テスト25%、学習の意欲25% 居眠り、私語、不必要なスマートフォンの使用に関しては「学習の意欲」の評価の対象とする。

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等) 課題や小テストに関しては、授業内もしくは個別にフィードバックする。 積極的な授業参加を期待する。 シラバスは受講学生の人数やレベルなどで変更することがある。
--

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
日本語読解・作文の基礎【中級】FA40117		開講時期:	1・2期	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択 教養科目		
		免許・資格など 履修要件他:			
担当者		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
廣田 千絵					

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	○
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要

- 日本語能力試験N2レベルの読解教材を読む
- 書き言葉としての日本語の文章の書き方を学ぶ
- 日本社会についての文章を読み、社会的なテーマについて自ら考える

III. 学習成果

- 日本語能力試験N2レベルの読解教材を正しく読むことができる
- 日本語での表現と作文の力を身に付ける
- 日本語の文章を十分に理解することができる

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: ガイダンス プレースメントテスト	読解のポイントについてのプリントを読む
2: 内容理解(短文)① グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の漢字、言葉を覚える
3: 内容理解(中文)① グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の漢字、言葉を覚える
4: 統合理解① グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の漢字、言葉を覚える
5: 主張理解(長文)① グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の漢字、言葉を覚える
6: 情報検索① グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の漢字、言葉を覚える
7: 内容理解(短文)② グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の漢字、言葉を覚える
8: 内容理解(中文)② グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の漢字、言葉を覚える
9: 統合理解② グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の漢字、言葉を覚える
10: 主張理解(長文)② グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の漢字、言葉を覚える
11: 模擬試験 グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す「言葉の役割」の語彙を調べる
12: 読解「言葉の役割」① 作文「アポイントをとる」	本文を音読する 作文「アポイントをとる」を完成させる
13: 読解「言葉の役割」② 作文「アドバイスを求める」	「イルカと超音波」の語彙を調べる 作文「アドバイスを求める」を完成させる
14: 読解「イルカと超音波」① 作文「伝言する」	本文を音読する 作文「伝言する」を完成させる
15: 読解「イルカと超音波」② 作文「謝る」	本文を音読する 作文「謝る」を完成させる

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
準備学習は毎回30分以上行うこと。基本的に、毎回小テストを行うので、前回の内容を必ず確認しておくこと。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
プリントを配布する
参考図書:「日本語能力試験問題集N2読解スピードマスター」小林ひとみ他(Jリサーチ出版)
「日本語プロフィエンスライティング」由井紀久子他(凡人社)
「大学・大学院留学生の日本語1読解」アカデミック・ジャパニーズ研究会(アルク)

VI. 評価方法と評価基準
単位認定試験40%、課題・小テスト35%、学習の意欲25%
居眠り、私語、不必要なスマートフォンの使用に関しては「学習の意欲」の評価の対象とする。

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
課題や小テストに関しては、授業内もしくは個別にフィードバックする。
積極的な授業参加を期待する。
シラバスは受講学生の人数やレベルなどで変更することがある。

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
日本語読解・作文の基礎【上級】FA40117		開講時期:	1・2期	単位:	1単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	卒業選択		
淀川 藍凜		免許・資格など	教養科目		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1	一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。				○
DP2	ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。				
DP3	服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。				
DP4	ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。				
DP5	ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。				
DP6	修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				◎
DP7	専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。				○
II. 概要					
日本語能力のレベルを高める事と共に日本語文法の体系や文の成り立ち、文を構成する各要素の関係を理解するためには文法項目の複雑さを乗り越えないといけません。語彙力を増やしながら実践トレーニングを通じて苦手な読解・作文のコツをつかみ克服してみましょう。					
III. 学習成果					
1)日本語の複雑な文の構造や修飾関係を正しく理解することができる。					
2)多様なテーマの文章を通じて語彙力アップにつなげ、自由自在に作文ができる。					
日本語能力試験N1をめざすことができる。					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1:授業内容のご案内 →PPT映像と動画で授業を行います。授業資料を学習して課題ワークシートを必ず提出すること。ワークシートについて			課題提出は、Google classroomを使用する シラバス及びテキスト/2週目の課題ワークシートについて		
2:Lesson1 旅行先からの絵はがき(読解・語彙・作文・クイズ) 一人ランチ(読解・語彙・作文・クイズ)			ワークシート①課題に取り組む		
3:Lesson2 今日の出来事①～おもてなし(読解・語彙・作文・クイズ) 日本文化を生んだ道具(読解・語彙・作文・クイズ)			ワークシート①フィードバックを確認する ワークシート②課題に取り組む		
4:Lesson3 お礼の手紙-棚田 天声人語			ワークシート②フィードバックを確認する ワークシート③課題に取り組む		
5:Lesson4 おわびのメール- 絵の楽しみ方(語彙単語と読解予習) 天声人語			ワークシート③フィードバックを確認する ワークシート④課題に取り組む		
6:Lesson5 日々の生活①～携帯電話-航空券を安く買う方法 天声人語			ワークシート④フィードバックを確認する ワークシート⑤課題に取り組む		
7:Lesson6 今日の出来事②～スポーツ観戦- 日々の生活～予約 天声人語			ワークシート⑤フィードバックを確認する ワークシート⑥課題に取り組む		
8: 復習(Lesson1～Lesson6)のワークシート及び小テスト			小テスト(四択式)の予習を行う		
9:Lesson7 自然の世界①～天気-カプセルホテル 天声人語			ワークシート⑦課題に取り組む		
10:Lesson8 今日の出来事③～番号-子供とケータイ 天声人語			ワークシート⑦フィードバックを確認する ワークシート⑧課題に取り組む		
11:Lesson9 今日の出来事④～失敗続き-ペットと飼い主の名前 天声人語			ワークシート⑧フィードバックを確認する ワークシート⑨課題に取り組む		
12:Lesson10 今日の出来事⑤～交通事故-自転車の車道通行 天声人語			ワークシート⑨フィードバックを確認する ワークシート⑩課題に取り組む		
13:Lesson11 大衆文化			ワークシート⑩フィードバックを確認する		
14:Lesson12 大衆文化 ※アクティブラーニング 大衆文化について各自調べたことを発表する			ワークシート⑪ フィードバックを確認する		
15:Lesson13 復習(Lesson1～Lesson6)のワークシート及び小テスト			小テスト(四択式)の予習を行う		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 ※辞書を必ずご準備下さい。(授業中のスマホの使用は禁じます。) なお、前回の授業の復習は30分以上行って下さい。 ※課題ワークシートはA4用紙に手書きで書いて提出して下さい。単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書					
教科書:栗岩しづこ・青木幸子・高橋尚子 著「日本語N1 文法・読解まるごとマスター」Jリサーチ出版 2018 参考図書:朝日新聞論説委員室 著「天声人語 2019年7月-12月」朝日新聞出版 2020					
VI. 評価方法と評価基準					
単位認定レポート60%、課題学習20%、小テスト20%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等) 課題ワークシートについて一学籍番号とお名前のご記入上、指定の場所に提出して下さい。(期間設定あり、手書き提出、成績評価) 提出課題がある場合は、コメントして返却します。 辞書を必ず準備して授業を受けて下さい。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
日常日本語会話の基礎【中級】FA40118		開講時期:	1・2期	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択 教養科目		
担当者		免許・資格など			
川野 さやか		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	○
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	○

II. 概要

「説明する」、「伝える」、「語り合う」日本語力を身につけることを目的に 発音・アクセント練習、ロールプレイなどを行う。

III. 学習成果

- 生活において問題なくコミュニケーションを取ることができる。
- 自分の考えを述べたり、状況を説明したりすることができる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション、発音テスト、自己紹介スピーチ	自己紹介スピーチの練習をして録音する
2: リズム・発音練習、パーティーで初対面の人と話す(グループワーク)	会話するための表現について復習する
3: 初対面の人とスモールトークをする(発表) 理由を述べる練習	会話表現を使えるようになるまで練習する
4: 自分の国の料理について説明する(グループワーク) 小テスト①	会話するための表現について復習する
5: 自分の国の料理の作り方を教える(発表) タイトルを考える練習	会話表現を使えるようになるまで練習する
6: 慰めたり、励ましたりする表現を練習する(グループワーク) 小テスト②	会話するための表現について復習する
7: 友達を慰める・励ます(発表) 結論をまとめる練習	会話表現を使えるようになるまで練習する
8: 伝言を伝える時の表現を練習する(グループワーク) 小テスト③	会話するための表現について復習する
9: 伝言を伝える練習(発表) 文章で理屈を説明する練習	会話表現を使えるようになるまで練習する
10: 友達と意見を出し合う練習(グループワーク) 小テスト④	会話するための表現について復習する
11: ディスカッション (発表) 自分の意見を伝える練習	会話表現を使えるようになるまで練習する
12: 自分の持ち物について説明する(グループワーク) 小テスト⑤	会話するための表現について復習する
13: 自分の持ち物をなくして説明する(発表) 絵を見て説明する練習	会話表現を使えるようになるまで練習する
14: 言いにくいことを伝える(グループワーク) 小テスト⑥	会話するための表現について復習する
15: 注文の間違いを伝える(発表) 場面を説明する練習	会話表現を使えるようになるまで練習する

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
準備学習は、各回30分以上行ってください。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
参考図書:『会話に挑戦!日本語ロールプレイ』中居順子,近藤扶美,鈴木真理子,小野恵久子,荒巻朋子,森井哲也 著 スリーエーネットワーク
『日本語ロジカルトレーニング』西隈俊哉 著 アルク

その他、発音・ディスカッションの教材や資料は担当教員が準備してプリントを配布します。

VI. 評価方法と評価基準
発表40% 小テスト・課題40% 学習意欲20%
いねむり、私語、スマートフォンの使用については「学習意欲」の評価の対象とします。

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
音声課題をGoogleClassroomに提出してもらい評価の対象とします。GoogleClassroomの使い方は初回オリエンテーションで説明します。
原稿の添削やフィードバックなどもGoogleClassroomで個別に行います。
他の学生の参考になるものは、フィードバックの際に全体でシェアすることがあります。
(基本匿名でシェアしますが、音声データなどは事前に本人の了承を得ます。)

1 教養科目
年目

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
日常日本語会話の基礎【上級】FA40118		開講時期:	1・2期	単位:	1単位
担当者		形態:	演習		
香月 智恵		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など	教養科目		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)				本科目との関連	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。				○	
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。					
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。					
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。					
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。					
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				◎	
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。				○	
II. 概要					
<ul style="list-style-type: none"> 日本語能力試験N1レベルの聴解問題を聞く 論理的で説得力のあるプレゼンテーションについて学ぶ 場面に合わせた待遇表現を学ぶ 					
III. 学習成果					
<ul style="list-style-type: none"> 日本語能力試験N1レベルの聴解問題の内容を正しく聞き取ることができる 発表の流れを理解し、わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる 場面に適した待遇表現を用いて会話を進めることができるようになる 					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: ガイダンス 自己紹介・プレースメントテスト			必要に応じて指示する。		
2: 聴解 課題理解① 書類申請①(改まった会話)			練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の言葉を覚える		
3: 聴解 課題理解② 書類申請②(改まった会話)			練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の言葉を覚える		
4: 聴解 ポイント理解① 情報の読み取り①(カジュアルな会話)			練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の言葉を覚える		
5: 聴解 ポイント理解② 情報の読み取り②(改まった会話)			練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の言葉を覚える		
6: 聴解 概要理解① トラブルへの対応			練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の言葉を覚える		
7: 聴解 概要理解② 依頼表現(待遇表現)			練習問題で間違えた箇所を見直す ロールプレいの練習		
8: 聴解 即時応答 ロールプレイ発表			練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の言葉を覚える		
9: 聴解 統合理解① メモを取る練習、意見を述べる練習			練習問題で間違えた箇所を見直す ディベートに向けての準備		
10: 聴解 統合理解② ディベート			練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の言葉を覚える		
11: 聴解 模擬試験1回目 発表の構成、表現			練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の言葉を覚える		
12: 聴解 模擬試験2回目 背景説明、問題提起			練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の言葉を覚える		
13: 変化・経緯を表す表現 データの提示、説明、解説			未習得の言葉を覚える 発表準備		
14: 比較を表す表現 発表準備			未習得の言葉を覚える 発表準備		
15: プレゼン発表			発表の振り返り		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 準備学習は毎回30分以上行うこと。 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書					
プリントを配布する					
参考図書:「日本語能力試験問題集N1聴解スピードマスター」青木幸子他(JRサーチ出版)					
「聴解・発表ワークブック」犬飼康弘(スリーエーネットワーク)					
「留学生のためのアカデミックジャパニーズ 聴解(中上級)」東京外国語大学留学生日本語教育センター編著(スリーエーネットワーク)					
「大学で学ぶためのアカデミックジャパニーズ」佐々木瑞枝他(The Japan Times)					
VI. 評価方法と評価基準					
単位認定試験30%、課題・発表40%、学習の意欲30%					
居眠り、私語、不必要なスマートフォンの使用に関しては「学習の意欲」の評価の対象とする。					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)					
課題や発表に関しては、授業内もしくは個別にフィードバックする。					
積極的な授業参加を期待する。					
シラバスは受講学生の人数やレベルなどで変更することがある。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
西洋服装史	FA40104	開講時期:	3・4期	単位:	2単位
		形態:	講義		
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など	教養科目		
担当者	齊藤 朋子	履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	◎
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	○
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
歴史の中で衣服は時代とともに変化し、進化してきた。服装の歴史を学ぶ意義は、衣服の変遷を学ぶことだけではなく、その背景にある社会との関連性を理解し、考えることにある。各時代の人間の営みと、その背景にある社会の中で作られた衣服について理解を深め考えることは、現在の衣服や未来の衣服を考える上で重要な基礎知識の一つとなる。この授業では、古代から近代までの衣服の変遷とその社会背景を学ぶ。

III. 学習成果
西洋の服装の変遷とその社会背景を学び、各時代の服装とその背景にある社会との関連性について理解を深める。
各時代と現代との服装について比較を行い、現代の服装や未来の服装について考える力が身につく。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: 衣服の起源と古代の服飾(メソポタミア)	教科書を読んで取り組んだ課題プリントを授業開始前に提出する衣服の起源とメソポタミアの服飾や社会背景についてまとめる。
2: 古代の服飾(古代エジプト)	教科書を読んで取り組んだ課題プリントを授業開始前に提出する古代エジプトの服飾や社会背景についてまとめる。
3: 古代の服飾(古代ギリシア)	教科書を読んで取り組んだ課題プリントを授業開始前に提出する古代ギリシアの服飾や社会背景についてまとめる。
4: 古代の服飾(古代ローマ)	教科書を読んで取り組んだ課題プリントを授業開始前に提出する古代ローマの服飾や社会背景についてまとめる。
5: 中世の服飾(ビザンティン帝国)	教科書を読んで取り組んだ課題プリントを授業開始前に提出するビザンティン帝国の服飾や社会背景についてまとめる。
6: 中世の服飾(5世紀～10世紀)	教科書を読んで取り組んだ課題プリントを授業開始前に提出する5～10世紀の服飾や社会背景についてまとめる。
7: 中世の服飾(11世紀～12世紀)	教科書を読んで取り組んだ課題プリントを授業開始前に提出する11～12世紀の服飾や社会背景についてまとめる。
8: 中世の服飾(13世紀～14世紀)	教科書を読んで取り組んだ課題プリントを授業開始前に提出する13～14世紀の服飾や社会背景についてまとめる。
9: 近世の服飾(15世紀～16世紀)	教科書を読んで取り組んだ課題プリントを授業開始前に提出する15～16世紀服飾や社会背景についてまとめる。
10: 近世の服飾(17世紀～18世紀)	教科書を読んで取り組んだ課題プリントを授業開始前に提出する17～18世紀の服飾や社会背景についてまとめる。
11: 近世の服飾(18世紀前半)	教科書を読んで取り組んだ課題プリントを授業開始前に提出する18世紀前半の服飾や社会背景についてまとめる。
12: 近世の服飾(18世紀後半)	教科書を読んで取り組んだ課題プリントを授業開始前に提出する18世紀後半の服飾や社会背景についてまとめる。
13: 近代前期の服飾18世紀末～19世紀(1789年～1848年)	教科書を読んで取り組んだ課題プリントを授業開始前に提出する19世紀前半の服飾や社会背景についてまとめる。
14: 近代前期の服飾19世紀(1848年～1870年)	教科書を読んで取り組んだ課題プリントを授業開始前に提出する19世紀前半の服飾や社会背景についてまとめる。
15: 近代後期の服飾19世紀(1870年以降)	教科書を読んで取り組んだ課題プリントを授業開始前に提出する19世紀後半の服飾や社会背景についてまとめる。

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
各回の授業について15分程度の準備学習が必要となる。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した180分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
教科書:文化ファッション大系 服飾関連講座⑩「西洋服装史」

VI. 評価方法と評価基準
単位認定試験 70% 課題プリント20% 受講態度10%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
講義内容については板書を行うが、各自が工夫したノート作りが必要である。
欠席した授業内容については自主学習が必要となる。
授業の前に教科書をしっかりと読み、課題プリントに取り組んでください。
課題プリントにコメントでフィードバックします。

1 教養科目
年目

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
英語Ⅱ	FA40210	開講時期:	3・4期	単位:	2単位
担当者		形態:	講義		
ライオ・ランドリー		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など	教養科目		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1	一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。				◎
DP2	ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。				○
DP3	服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。				
DP4	ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。				
DP5	ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。				
DP6	修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				◎
DP7	専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。				
II. 概要					
日本と米国におけるマナーや考え方の違いを学び、より専門的な英語を身に付けます。 また、ファッション業界や外国人の接客など、社会人として必要な英語力の基本を学びます。					
III. 学習成果					
<ul style="list-style-type: none"> 正しい英語の発音が身に付く 英会話を通してグローバルな人間力が身につく 					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: 日本におけるマナーと米国におけるマナーや考え方のちがい			日本と米国のマナーについて調べる		
2: 英語のアルファベットの発音① (A～M)			今まで中・高で学んだ英語を振り返ってみておく		
3: 英語のアルファベットの発音② (N～Z)			今まで中・高で学んだ英語を振り返ってみておく		
4: 外国人との出会い方(あいさつ・マナー)			外国人へのあいさつやその時に気を付けることなどを事前に調べておく		
5: 4による英会話のロールプレーなど			外国人への話しかけ方を事前に調べておく		
6: 店で使う英語(売り場での接客)① (声掛け)			自分で必要と思われるものをもって、自分自身が必要とする英語を事前にメモをとっておく		
7: 1回～6回の復習 分からなかったことを発表する			これまでの授業の復習を行い、不明な点をあげる		
8: 店で使う英語(売り場での接客)② (お客様の好みを聞き出す)			自分で必要と思われるものをもって、自分自身が必要とする英語を事前にメモをとっておく		
9: 店で使う英語(売り場での接客)③ (おすすめの品)			自分で必要と思われるものをもって、自分自身が必要とする英語を事前にメモをとっておく		
10: 店で使う英語(売り場での接客)④ (他に何か)			自分で必要と思われるものをもって、自分自身が必要とする英語を事前にメモをとっておく		
11: 店で使う英語(売り場での接客)⑤ (購入後)			自分で必要と思われるものをもって、自分自身が必要とする英語を事前にメモをとっておく		
12: 熟語・ショートフレーズ① (気になる熟語)			熟語の本をもっていけば持参し、気になる熟語をあげる		
13: 熟語・ショートフレーズ② (覚えておきたい熟語)			熟語の本をもっていけば持参し、覚えておきたい熟語をあげる		
14: 7回～12回の復習 分からなかったことを発表する			これまでの授業の復習を行い、不明な点をあげる		
15: 学んだ事を発表してみよう			総復習 学んだことを発表できるようにしておく		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 準備学習は30分程度行うこと 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した180分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書 テーマに沿った教員作成資料を配布します。					
VI. 評価方法と評価基準 単位認定試験(90%)学習の意欲(10%)					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等) 授業で提出された課題は添削後返却する。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
環境と生活	FA40105	開講時期:	4期	単位:	2単位
		形態:	講義		
		履修方法:	卒業選択 教養科目		
担当者		免許・資格など			
河野 洋子		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	本科目との関連 ◎
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
 私たちは日々の生活の中で周りから様々な影響を受けています。私たちの置かれている環境(自然環境、文化的環境、社会環境、住環境)についての知識を身につけ、どのように考え行動していくべきかを学びます。

III. 学習成果
 1. 社会で起こっている出来事について、幅広い知識をもとに自分の考えを持つことができる。
 2. 自分の置かれた環境に働きかけ、豊かな生活を送ることができる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1:環境とは(オリエンテーション)グループワーク(ダイレクトロード)	災害時の避難についてまとめる
2:ジェンダーバイアスとジェンダーギャップ指数	アジアの他の国での女性の社会進出について調べる
3:多様な環境を理解する	文化の違いと考え方の違いについてまとめる
4:ムスリム社会での女性の立場と男性の立場	ビデオを観て自分たちとの違いをまとめる
5:ムスリム社会での女性の考えと行動	憲法の生存権について調べる
6:社会の環境の違いから受ける影響を考える	ビデオの中の環境について自分と比べる
7:多様性のある社会環境とは～LGBTQをめぐる問題～	授業の内容をまとめ、振り返りを行う
8:現在の日本の状況について(裁判の記録)	授業の内容をまとめ、自分の考えについて発表できるようにする
9:住んでみたいまち(グループワーク)	現在、住環境にもとめるものをまとめる
10:住環境にもとめるもの	他の人の住環境への考えを聞いて、自分の考えと比較する
11:都市の魅力とは(住んでみたいまちと住み続けたいまち)	住み続けたい街に選ばれた各都市の実態を調べる
12:まちをつくる 税金と公共施設(グループワーク)	住民からの要望にはどんなものがあるか調べる
13:まちおこし企画～国内の事例を見る～	授業で紹介されたまちおこし事例をまとめる
14:まちおこし企画～離島のまちおこしを企画する～	さまざまな事例を調べる
15:住環境で大切にすること	自分が住環境に求めるものや大切にすることをまとめて発表する

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 準備学習については毎回30分以上行うこと
 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した180分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
 教科書は使用しない。必要に応じて教員作成の資料を配布する。

VI. 評価方法と評価基準
 課題の提出(60%)、グループワークでの活動状況(20%)、学習の意欲(20%)

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 提出された課題については全体で共有し講評を行う。さらに個別にコメントを行う。

1 教養科目
年目

ファッション総合学科1年

選 択 科 目

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
モードデッサン	FA50101	開講時期:	1期	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など 履修要件他:	デザインフィールド		
担当者		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	
杉森 映徳					

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	○
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	○
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
自分の頭の中にある新しいアイデアを外の世界に表現する方法には言葉や文字、身ぶり手ぶりなどがあるが、造形として表現するには造形言語と呼ばれる造形に特有の言語の習得が必要になる。この授業ではそうした造形言語習得の基礎であるデッサン力を身につけていくことを目的とする。

III. 学習成果
物の形や構造、光と影、質感の表現のために必要なものの見方と基礎技法について修得することができる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容

授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1:手を描く①	鉛筆、練りゴム 立方体を描く。
2:幾何形態による陰影表現の理解	物体を光と陰で見ていることを確認する。 円柱形のものを描く。
3 円柱による比率の図り方	目測の練習 身の回りのものを目測する。
4:直方体によるパース、陰影の理解	箱ティッシュを目測する。 身の回りにある直方体のものを描く。
5:赤いりんごと直方体による個有色の表現	色の明度を観察し記録する。 明度差のあるものを二つ描いてくる。
6:異なる素材による質感の表現	異なる質感は何を見て認識しているのか観察する。 柔らかいものと硬いものの二つを描く。
7:室内風景の鉛筆デッサン	自室の目測、下描きをする。 自室の風景を完成させる。
8:屋外風景の鉛筆デッサン	自室から見える屋外風景の下描き。 自室から見える屋外風景の完成。
9:布とボディの鉛筆デッサン ①	ハンガーにかけたシャツの形を描く。 ハンガーにかけたシャツの陰影をつける。
10:布とボディの鉛筆デッサン ②	ハンガーにかけたシャツの質感を表現する。 ハンガーにかけたシャツのデッサンを描きこんで完成させる。
11水彩による衣服の表現 ①	水彩用の筆、パレットの準備。 水彩絵の具を使って室内風景を描く。
12:水彩による衣服の表現 ②	私服の下描き。
13:水彩による衣服の表現 ③	私服の着彩。
14:人物クロッキー及び着彩①	友人をクロッキー。
15:人物クロッキー及び着彩②	作品に水彩絵の具で着彩。

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
準備学習は毎回45分以上を行うこと。内容や要領についてはその都度説明する。
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
その都度必要な資料を配布する

VI. 評価方法と評価基準
提出課題による評価 80% 学習への意欲 20%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
1回目の授業に鉛筆(4B、2B、HB、H)と練りゴムを持参すること。
画材の購入を必要に応じて行ってもらうことがある。
課題作品は採点しコメントして返却する。

1 選択科目1年
2 期

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
デザインテクニック I	FA50102	開講時期:	1・2期	単位:	2単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	卒業選択		
杉森 映徳		免許・資格など	デザインフィールド		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)				本科目との関連	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。					
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。				◎	
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。					
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。					
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。				○	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				○	
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。					
II. 概要					
デザインや造形をしていく上で必要な「色彩」「形」「バランス」などといった造形力の基礎について、平面構成や立体構成を通して理解し、衣服のデザインに展開する方法について学ぶ。					
III. 学習成果					
デザイン・造形をしていくために必要な基礎的知識と技術を学び、それらを活用した被服素材での造形方法を身につける。					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1:「点」による構成			「点・線・面」カンディンスキーの書籍などについて調べ、「点」について読む。ファッションにおける「点」の要素について調査する。		
2:「線」による構成			「点・線・面」に関する書籍を元に「線」について調査する。ファッションにおける「線」の要素について調査する。		
3:「面」による構成			「点・線・面」に関する書籍を元に「面」について調査する。ファッションにおける「面」の要素について調査する。		
4:被服素材を使った「点・線・面」による作品 ① アイデアスケッチ～制作スタート			作品の構成案ラフスケッチ。 作品制作のための素材調達。		
5:被服素材を使った「点・線・面」による作品 ② 制作～完成へ			途中経過のチェックを受け、修正箇所を修正する。		
6:シンメトリーとアシンメトリーの構成 ① シンメトリーとアシンメトリーについての基礎知識を知る			シンメトリーとアシンメトリーなものを資料として収集する。		
7:シンメトリーとアシンメトリーの構成 ② シンメトリーとアシンメトリーによる平面構成			作品の構成案ラフスケッチ。 作品制作のための素材調達。		
8:シンメトリーとアシンメトリーな構成による被服素材を使った作品 ① アイデアスケッチ～制作スタート			途中経過のチェックを受け、修正箇所を修正する。		
9:シンメトリーとアシンメトリーな構成による被服素材を使った作品 ② 制作～完成へ			作品完成のための時間外での制作を進める。作品の完成度を上げる。		
10:切り絵による作品の制作 ① モチーフの決定～アイデアスケッチ			各自のコンセプト・テーマの設定とそれに合わせたラフスケッチ 作品制作のための画像などの資料収集。		
11:切り絵による作品の制作 ② デザイン案決定～下描き			下描き～試作のための準備。		
12:切り絵による作品の制作 ③ 試作～本制作			試作の改善点を確認～本制作のための準備。		
13:切絵の技法を利用した1/2ボディでの衣服デザイン ① 衣服デザインの決定			1/2のボディの採寸 パターンの確認。 各自のコンセプト・テーマの設定とそれに合わせたラフスケッチ。		
14:切絵の技法を利用した1/2ボディでの衣服デザイン ② 切絵の下描き～切り出し			作業の難しいパーツについて作業手順を考えておく。		
15:切絵の技法を利用した1/2ボディでの衣服デザイン ③ 切り出し～完成へ			途中経過のチェックを受け、修正箇所を修正する。		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 準備学習は毎回30分以上行うこと。必要に応じて内容や容量については必要に応じて説明する。 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した90分を毎回必要とする。					
V. 教科書・参考図書 必要に応じて資料等を配布する。					
VI. 評価方法と評価基準 課題提出 80% 学習の意欲 20%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等) USBフラッシュメモリーが必要。 授業時間外での課題の制作時間、資料収集、調査などの時間が必要。 提出された課題作品は採点、コメントし返却する。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
CGデザイン	FA50103	開講時期:	1・2期	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など 履修要件他:	デザインフィールド		
担当者		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
徳留 慶志郎					

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	○
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	◎
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
デザイン業界で標準的に使用されているIllustratorとPhotoshop.この二つのグラフィックソフトの基本的な操作方法を課題作品の制作を通して学びます。

III. 学習成果
IllustratorとPhotoshopの基本的な操作方法を学びます。それらのソフトを応用した作品制作技術の習得ができます。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: イラストレーターについて ソフトウェアの概要	ソフトウェアの概要をノートに整理する。
2: イラストレーターの操作方法 基本ツールの使い方	基本ツールの操作方法の復習する。
3: イラストレーターの操作方法 基本図形を使用した課題制作	課題作品を完成させる。
4: イラストレーターの操作方法 パスファインダーについて	パスファインダーの使い方を復習する。
5: イラストレーターの操作方法 パスファインダーを使った課題制作	課題作品を完成させる。
6: イラストレーターの操作方法 アンカーポイント等を使用した課題制作	アンカーポイントを操作する方法について復習
7: イラストレーターの操作方法 ペンツール等を使用した課題制作	課題作品の制作を進め、チェックを受ける。
8: イラストレーターの応用 ペンツール等を使用した課題制作	課題作品を完成させる。
9: イラストレーターの操作方法 ブラシ・グラデーション・文字等について	ブラシツールや文字ツールの使い方、グラデーションの作り方を復習
10: イラストレーターの応用 テーマに沿った課題制作	課題作品の制作を進め、チェックを受ける。
11: イラストレーターの応用 テーマに沿った課題制作	課題を完成させる。
12: フォトショップの操作方法 基本ツールの使い方	ソフトウェアの概要をノートに整理する。
13: フォトショップの操作方法 写真の加工等について	写真加工の方法と手順を整理しておく。
14: フォトショップの応用 テーマに沿った課題作品制作	課題作品の制作を進めておく
15: フォトショップの応用 テーマに沿った課題作品制作	課題作品を完成させる。

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
教科書は使用しない、毎回必要な資料を提示または配布する。

VI. 評価方法と評価基準
課題・提出物 90% 学習の意欲 10%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
USBフラッシュメモリー必要(初回授業時に持参する事)

1 選択科目1年
2 期

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
ファッションイラスト I	FA50104	開講時期:	2期	単位:	1単位
担当者		形態:	演習		
徳山 真由美		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など	デザインフィールド		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1	一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。				
DP2	ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。				◎
DP3	服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。				
DP4	ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。				○
DP5	ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。				○
DP6	修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				○
DP7	専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。				
II. 概要					
ファッションイラストレーションとは、イメージした服のアイデアを視覚的に表現する方法のひとつである。そのためには、基本となる人体のプロポーションを把握し、着装させなければならない。そこでこの授業では、人体の基本的な描き方から着装方法までを学ぶ。					
III. 学習成果					
人体の基本プロポーションを把握し表現することができるようになる。 また、着装画の基本を表現する事ができるようになる。					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1	人体とプロポーションの表現方法:		スタイル画のプロポーションの練習をおこなうこと		
2:	基本プロポーションについて		スタイル画のプロポーションの練習をおこなうこと 小テストの準備をおこなうこと		
3:	応用プロポーションについて 足の移動によるスタイル画の描き方		スタイル画のプロポーションの練習をおこなうこと 小テストの準備をおこなうこと		
4:	応用プロポーション 人体の骨格と筋肉について ヌードの描き方		ヌード人体の練習をおこなうこと 小テストの準備をおこなうこと		
5:	応用プロポーション 正中線の移動によるスタイル画の描き方		正中線が変化したプロポーションの練習をおこなうこと 小テストの準備をおこなうこと		
6:	人体の部分的な表現(手・脚)		手・脚の描き方の練習をおこなうこと 小テストの準備をおこなうこと		
7:	人体の部分的な表現(頭部)		顔の描き方の練習をおこなうこと 小テストの準備をおこなうこと		
8:	着装画の表現方法(ブラウス)		ブラウスの描き方の練習をおこなうこと 小テストの準備をおこなうこと		
9:	着装画の表現方法(スカート)		スカート・パンツの描き方の練習をおこなうこと 小テストの準備をおこなうこと		
10:	着装画の表現方法(ジャケット)		ジャケットの描き方の練習をおこなうこと 小テストの準備をおこなうこと		
11:	着装画の表現方法(パンツその他)		描き方の練習をおこなうこと 小テストの準備をおこなうこと		
12:	仕上げ線の表現方法		筆ペンの仕上げ線練習をおこなうこと 小テストの準備をおこなうこと		
13:	立体感の表現方法 陰影のつけ方		影付の練習をおこなうこと		
14:	パステルによる表現方法について		下書きを完成すること		
15:	パステルによる作品制作		作品を完成すること		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 準備学習は、各回30分程度行うこと。 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書 教科書は使用しない。教員作成資料を配布する。					
VI. 評価方法と評価基準 小テスト 75% 課題 20% 学習の意欲 5%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等) 小テスト・作品は、添削と評価を行って返却します。 クロッキー帳(B4サイズ)、鉛筆(B~6B)を使用します。準備しておくこと。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
国際マナーと服装	FA52101	開講時期:	1・2期	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など	生活スタイリングフィールド		
担当者	西田 由加里	履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)		
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)		本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。		○
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。		
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。		
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。		
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。		
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。		◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。		◎

II. 概要
<ul style="list-style-type: none"> 国際マナーと日本の礼儀作法を学び、社会人として恥をかかないための大人の教養を身につけることができます 就職活動やインターンシップなどに必要な社会人としての心構え、コミュニケーション力が身につきます 国際標準のマナーに関する知識、技能を認定する「マナープロトコル検定3級」取得対応講座です

III. 学習成果
<ul style="list-style-type: none"> 他人への配慮のある振る舞いやTPOに合わせた服装を習得し、信頼される社会人としての人間力を身につける 日本のしきたりや作法の由来や意味を知ること、日本文化の奥深さを学ぶことができる マナープロトコル3級資格取得に対応した幅広いマナーの勉強をすることで、社会人としての自信がつか

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: 好感の持たれる第一印象とマナー 初対面でのコミュニケーション 苦手克服に必要な要素	シラバスを読んでおくこと
2: 日本の礼儀作法と海外のマナーの違い 歴史や宗教の観点から	(予習)第1章を読み、わからない言葉を調べる
3: 人生儀礼のしきたり 節目のお祝い 出産から長寿祝いまで	(予習)第7章を読み、予習シートをしておく
4: 結婚のしきたり 結婚式の服装のルール・ご祝儀、お祝いのマナー	(予習)第8章を読み、予習シートをしておく
5: お葬式のしきたり 喪服のルール ご葬儀での焼香やお参りの作法	(予習)第9章を読み、予習シートをしておく
6: 年中行事のしきたり 四季を彩る日本文化 お正月・雛祭り・端午の節句など レポート提出①	(予習)第10章を読み、予習シートをしておく レポート提出①
7: 国際人としてのプロトコル 異文化コミュニケーション パーティや贈り物のマナー	(予習)第2章を読み、予習シートをしておく
8: 食事のマナー 和食編 アクティブラーニング(箸と器の扱い方の実践)	(準備)授業時に、各自、お茶碗とお箸を持参する。 確認テスト提出
9: 食事のマナー 洋食とレストランでのマナー 小テスト①	(予習)第5章後半を読み、わからない言葉を調べる 小テスト①提出
10: 社会人に必要なマナー①(ビジネスシーンでの挨拶・服装・お辞儀)	(予習)第4章前半を読み、わからない言葉を調べる
11: 社会人に必要なマナー②(話し方・聴き方)	(予習)第4章前半を読み、わからない言葉を調べる
12: 社会人に必要なマナー③(名刺交換・電話対応・トラブル対応)	(予習)第4章後半を読み、わからない言葉を調べる
13: 社会人に必要なマナー④(訪問・来客対応のマナー ビジネス文書) 小テスト②	(予習)第4章後半を読み、わからない言葉を調べる 小テスト②提出
14: マナープロトコル検定試験の準備・対策	(準備)テキストをはじめから読み返す *ここでの模擬試験を、成績評価の対象の一部とします
15: 習得したマナーについての発表 (プレゼンテーション レポート提出②)	(予習)今まで学んだことを振り返っておく レポート提出②

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 予習・準備など、30分以上の準備学習が必要となります。詳細な内容に関しては毎回の授業で説明します。 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
教科書: マナー&プロトコルの基礎知識(NPO法人マナープロトコル協会発行) 教員作成のプリントを配布する

VI. 評価方法と評価基準
単元毎の確認試験及び評価試験(14回目)の成績 (70%) 受講態度(20%) 学習意欲(10%)

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等) 希望者は、学内にてマナー・プロトコル検定3級の受験ができます。(授業とは別日程) 受験費用は4,950円です。 学習内容を身近に感じて学ぶことが出来るよう、経験談、エピソードなどを発表してもらってもあります。 小テストは、採点・記録の後に返却。提出物①(レポート)はコメントした上で返却いたします。
--

1 選択科目1年
2 期

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
雑貨製作	FA52102	開講時期:	1・2期	単位:	1単位
担当者		形態:	演習		
高野 弓枝		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など	生活スタイリングフィールド		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1	一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。				
DP2	ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。				◎
DP3	服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。				○
DP4	ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。				
DP5	ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。				
DP6	修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				◎
DP7	専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。				
II. 概要					
雑貨製作を通して基本の縫い方を習得する。 被服制作にも活かせる手芸の技法を学ぶ。					
III. 学習成果					
雑貨製作に必要な手縫い、刺繍、ミシン縫い、編み物の基本を身に付けることができる。 いろいろなアイデアを出しながら自分らしさを表現した作品づくりが出来るようになる。					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: はさみケースづくり① 柄を考える(工程説明・型紙作成)			デザイン構想や次回の材料を準備しておく 基本の縫い方について復習する		
2: はさみケースづくり② キルティング加工(ミシンで柄を縫う・裁断)			ミシンの使い方、糸のかけ方、縫い方を復習する 材料を準備しておく		
3: はさみケースづくり③ ケースの形をつくる(ミシン縫製)			ミシンの使い方、糸のかけ方、縫い方を復習する 材料を準備しておく		
4: はさみケースづくり④ ボタン付け			ミシンの使い方、糸の掛け方、縫い方を復習する 材料を準備しておく		
5: はさみケースづくり⑤ 仕上げと提出			作品の完成度を上げるための技術、工夫を考える 次回の材料を用意しておく		
6: 刺繍技法を学ぶ① 基本の刺繍技法について、図案づくり			基本の刺繍技法について復習する 授業で指示した段階まで作品の製作を進めておく		
7: 刺繍技法を学ぶ② 図案写し、図案に沿って刺繍を刺す			基本の刺繍技法について復習する 授業で指示した段階まで作品の製作を進めておく		
8: 刺繍技法を学ぶ③ 糸の選定について、図案に沿って刺繍を刺す			基本の刺繍の技法について復習する 授業で指示した段階まで作品の製作を進めておく		
9: 刺繍技法を学ぶ④ 陰影やグラデーションについて、図案に沿って刺繍を刺す			手順を確認しておく 授業で指示した段階まで作品の製作を進めておく		
10: 刺繍技法を学ぶ⑤ 作品(刺繍作品)の仕上げと提出			作品の完成度を上げるための技術、工夫を考える 次回の材料を用意しておく		
11: スラッシュキルト 構造や技法について学ぶ			デザイン構想や次回の材料を準備しておく 授業で指示した段階まで作品の製作を進めておく		
13: 自由作品製作① スラッシュキルトの手法を活かして作品づくりをする			デザイン構想や次回の材料を準備しておく 授業で指示した段階まで作品の製作を進めておく		
14: 自由作品製作② スラッシュキルトの手法を活かして作品づくりをする			手順を確認しておく 授業で指示した段階まで作品の製作を進めておく		
14: 自由作品製作③ スラッシュキルトの手法を活かして作品づくりをする			手順を確認しておく 授業で指示した段階まで作品の製作を進めておく		
15: 自由作品製作④ 作品(自由作品)の仕上げと提出			作品の完成度を上げるための技術、工夫を考える 完成まで作品の製作を進めておく		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 授業内で終わらなかった課題については時間外での作業が必要になります。 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書					
教員作成資料・参考資料を配布します。					
VI. 評価方法と評価基準					
作品提出70%、レポート提出20%、学習への意欲10%、					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)					
裁縫道具や材料(布や糸など)の準備が必要です。 作品やレポートは提出後、添削・評価し返却します。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
インテリア生活	FA52111	開講時期:	2期	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	生活スタイリングフィールド		
入江 明美		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	○
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	○
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
 インテリアコーディネートに必要な基礎知識を学び、商業空間(特に服飾販売空間)の家具のレイアウトや色彩計画・視線計画について学んでいく。

III. 学習成果

1. インテリアの基礎資料である人体寸法と空間の関係が理解できる
2. 家具のレイアウトを的確に行うことができる
3. 目的に応じたインテリアイメージを提案できる

授業内容	準備学習(予習・復習)内容
1:オリエンテーション・人間工学(人体寸法とインテリア)	人の大きさと家具の大きさの関係を調べる 実際に色々なものの寸法を測る 略算図より読み取る
2:図面について	図面の種類を理解し、自分のへのPLANを描く
3:動線について	室内での人の動きを調べる
4:グループディスカッション(家事スペース(ユーティリティ・キッチン)を考える)	部屋の機能と人の動きについてまとめ、必要な家具のリストを作成する 家事導線を考える(ディベート)
5:イメージボードの作成①(インテリアスタイルを決めて家具を選ぶ)	インテリアスタイル・ワードと家具のデザインの関係を知る
6:イメージボードの発表①	わかりやすい言葉で発表をする
7:カラースキーム	色の3要素についてまとめる ブルーベース、イエローベースのインテリア
8:内装材について知る	床材・壁材・窓装飾等のインテリア商材を学ぶ
9:イメージボードの作成②(インテリアスタイルにあわせて内装材を選ぶ)	インテリアスタイル・ワードと内装材のデザインとの関係と機能を知る
10:イメージボードの発表②	わかりやすい言葉で発表をする
11:物販店の家具について(動線・家具の種類・視線の誘導)	客と店員の動きの違いをまとめる
12:プレゼンボードの作成①(物販店の家具レイアウトとカラースキーム)	自分のお店をプランする 物販内容・ターゲット・ロゴを考える
13:プレゼンボードの作成②(物販店 プレゼンテーションボード作成)	内装材をセレクトし、プレゼンボードの作成 内装材のサンプルを取り寄せる
14:プレゼンボードの作成③(物販店 プレゼンテーションボード作成)	什器をセレクトし、プレゼンボードの作成
15:プレゼンテーション	作成したプレゼンボードを使って発表する

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
 教科書は使用しない。必要に応じて教員が作成した資料を配布する。

VI. 評価方法と評価基準
 課題の提出(70%)、学習の意欲(30%)

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 提出された課題は授業の中で取り上げ、コメントを行う。

1 選択科目1年
 2 期

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
企業研修	FA60106	開講時期:	通年	単位:	1単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	卒業選択		
専任教員		免許・資格など	体験フィールド		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1	一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。				○
DP2	ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。				○
DP3	服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。				○
DP4	ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。				
DP5	ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。				
DP6	修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				◎
DP7	専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。				◎
II. 概要					
<p>アパレル企業の現場を視察研修することで、アパレル業界の仕事の流れや内容を理解し、学内では得られない知識を深めることを目的とする。また、美術館や特別展を見学し、ファッションを学ぶものとしての見識を広げる。</p>					
III. 学習成果					
<p>アパレルメーカーの現場で商品企画から販売までのプロセスを知ることにより、学内の授業の理解を深める。服作りに必要な副資材(芯地、裏地、ボタン、ファスナーなど)についての専門的な知識を学び、学内での実習に活かす。美術館などの展示観覧を通してデザインの発想に活かす。</p>					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: 研修の概要の説明			研修先の概要について各自でノートにまとめる		
2: 学生の組織編成			研修先についての調査を行う		
3: 研修内容・レポート内容についての説明			研修先についての調査を行う		
4: 研修前の指導 日程の確認 研修期間の服装や研修マナーについて			事前レポートの提出		
5: 研修前の指導 注意事項の最終確認			出発前の準備を行う		
6: 研修期間 (6講~14講)					
7:	1、研修の概要		研修期間中はルールを守り行動すること 事後研修レポートのための準備をすること (ノート 写真 バンフレット 資料等の整理)		
8:	実施時期:9月中旬 2泊3日				
9:	実施場所 東京				
10:	旅 程 事前研修にて説明				
11:	授業形態 集中授業				
12:	2、研修内容(昨年度実績)				
13:	①アパレルメーカー、素材に関する企業訪問				
14:	(株)ユミ・カツラインターナショナル				
15:	(株)レモラファブリック				
16:	(株)ユナイテッド・アローズ				
17:	②副資材メーカー三景株式会社による副資材講座				
18:	YKK株式会社				
19:	③美術館・博物館の見学				
20:	(印刷博物館・アクセサリーミュージアム)				
21:	④都内での自主研修				
15: 事後研修 研修レポート提出についての説明			研修レポートを作成する		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書 教科書は使用しない。教員作成の資料を配布する。					
VI. 評価方法と評価基準 事前指導の参加及び事前の課題提出20% 事後のレポート70% 研修中の態度10%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等) 確定参加者20名以上で実施する。 参加費用は旅行業者より提示 研修内容や訪問先は諸事情により、変更になることがある。 課題やレポートについては返却時にコメントを添えて返却します					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
海外研修	FA60105	開講時期:	2～4期	単位:	1単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	卒業選択		
専任教員		免許・資格など	体験フィールド		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	○
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
異文化に触れることは大きな刺激になり、新しい発見や新たなアイデアの創出の源となります。また、歴史や文化を学ぶことで、ファッションやデザインのルーツを知ることにもつながり、海外での体験を通じて、国際的な視野と異文化コミュニケーションの力を育みます。

III. 学習成果
異国の文化や歴史に触れ、知識や見聞を広げ新しい考え方を身につけます。団体行動を通して、人間力、協調性、コミュニケーション能力を身に付けます。異なる環境に対応できる力と責任ある行動を身に付けます。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: 授業の内容説明、研修個人テーマ設定	研修場所について調べる
2: 最終日程について、荷物の計画、グループテーマ	グループ研修の場所を調べる
3: 個人テーマ、グループ研修設定	研修場所を調べ、個人テーマについて考える
4: グループ研修決定	研修場所の交通機関や訪問先などを調べる
5: 学科長より海外研修について	研修計画を決定し、自分の荷物等を把握しておく
6: 最終説明会(旅行社)	外貨交換のためのレートを調べる。
7～14: 海外研修期間(5日間)	<p>【準備物】</p> <p>5月 参加申し込み書提出締め切り</p> <p>6月 参加者説明会(旅行社)</p> <p>7月 履修登録、パスポートコピー提出、保険等書類提出他 参加者説明会(旅行会社)</p> <p>海外研修期間では、研修レポートのための 写真や記録をとっておくこと</p>
<p>研修計画の概要(予定)</p> <p>研修実施国: 中国 大連</p> <p>研修内容 各都市での歴史や文化探訪 大連ファッションウィークにてファッションショー参加 大連観光 生地市場見学</p> <p>※詳細は海外研修説明会でお知らせします</p> <p>※決められた日時に提出すること</p>	

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
個人・グループのテーマ設定においてイタリアの都市を充分に調べる為の時間(1週間に1時間程度)を取ること。

V. 教科書・参考図書
研修先に関するガイドブックは各自または各グループで準備すること。
その他必要な資料は配布する

VI. 評価方法と評価基準
現地研修の参加 55% 提出物・課題・レポート 35% 研修に対する学習意欲 10%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
現地では決められたルールを守り、グループで行動を共にしてください。
研修参加後、レポート未提出の場合、単位は修得できません。
提出課題やレポートについてはコメントを添えて返却します。

1 選択科目1年
2 期

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
色の理解Ⅱ	FA50205	開講時期:	3期	単位:	2単位
		形態:	講義		
担当者		履修方法:	卒業選択		
中村 裕美		免許・資格など	デザインフィールド		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	本科目との関連
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	◎
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	○
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
 色彩にはさまざまなイメージがあり、人間の感情や記憶に働きかける作用があります。また、色を組み合わせることでカラーコーディネートは幅が広がり、表現力を豊かにすることができます。配色の理論を理解し、身の回りのファッションやファッショントレンドのカラー分析を行うことで、配色の技術をファッションやメイクカラーに応用する技術を習得します。

III. 学習成果
 1・2期の「色の理解Ⅰ」にて学んだ基礎知識を基に、カラーコーディネートの総合的な応用方法を習得する。ファッションのトレンドカラーを分析し、色彩の知識をアウトプットする技術を身につく。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: 色彩調和① ・配色の基本的な考え方	シラバスとテキストの範囲を確認しておくこと
2: 色彩調和② ・色相の配色について	課題プリントで復習する
3: 色彩調和③ ・トーンの配色について	課題プリントで復習する
4: 色彩調和④ ・配色の基本的な技法	色彩調和の復習 次回小テスト
5: 色彩調和⑤ ・配色演習 小テスト	課題プリントで復習する
6: 配色イメージ	課題プリントで復習する
7: ファッションとカラーコーディネート ・カラーコーディネートの実践	課題プリントで復習する
8: インテリアとカラーコーディネート	課題プリントで復習する 色鉛筆で配色する
9: 慣用色名	慣用色名を暗記する
10: 色彩検定3級 過去問題を解く ・検定対策とポイント	課題プリントで復習する
11: カラーコーディネート実践 ・テーマにあわせたカラーコーディネート	ファッションコーディネートに必要な服の準備をする
12: ファッションコーディネートの発表・撮影	カラーージュを作成する
13: ファッションとメイク ・ファッション雑誌からファッションに合わせたメイクカラーを提案する	カラーージュを作成する
14: ファッショントレンドを予測する ・ファッション雑誌から2025春夏のトレンドを分析	カラーージュを作成する
15: 2025春夏ファッショントレンド予測の発表	カラーージュを作成する

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 課題プリントなど30分以上の準備学習が必要となります。
 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した180分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
 教科書は色彩検定協会「色彩検定3級 公式テキスト」を使用します。

VI. 評価方法と評価基準
 課題 90% 学習の意欲 10%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 課題作品は、返却時に個別にフィードバックします。
 「色の理解Ⅰ」のプリント、199b配色カード、のり、はさみ、色鉛筆を使う場合もあります。
 「実務経験教員科目」特記事項:「日本パーソナルカラー協会」認定講師歴12年、大学・専門学校をはじめ一般向けに色彩関連講師を務める。カラーコーディネーター、イメージコンサルティングの企業講座及び個別レッスンを行う。

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
Webデザイン演習	FA50108	開講時期:	3・4期	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など 履修要件他:	デザインフィールド		
担当者	アクティブラーニング科目: <input type="radio"/> 実務経験教員科目: <input type="checkbox"/>				
吉川 伸彦					

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	◎
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要

この授業では、ビジネスの世界におけるPR活動のコンテンツ制作に焦点を当てます。身近な題材をファッションの視点から考え、Webを活用したメディアを構想・企画・デザイン・制作を行うことで、情報を生産するとは何をすることかを考えます。この科目では、教員が、グラフィックデザイン・Webデザイン・エディトリアルデザイン・サービスデザイン等の実務経験を生かし、事例を交えて講義します。コンテンツ編集やデザイン・制作の理解を深めるため、各テーマ毎の演習に取り組みます。またグループワークやディスカッション、自身のコンテンツ制作の計画と実施に取り組みます。

III. 学習成果

- | | |
|-----------------------------------|---|
| 1) ツールを使い、Webデザイン・制作ができる(技能) | 5) 対象のブランドイメージを反映したデザイン・制作を心がける(態度・志向性) |
| 2) 他者と協力してアイデアを出し、解決策を提案できる(技能) | 6) 最新のIT技術やツールを積極的に取り入れる(態度・志向性) |
| 3) Webサイトの内容を編集することができる(知識・理解) | |
| 4) 著作権や肖像権を意識して内容を創ることができる(知識・理解) | |

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容

授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: ガイダンス、ツールを使い基本的なWebページを作る Googleフォト、STUDIOを使う / 演習) 基本的なWebページをつくる	予習) シラバスを読み、学習内容や成果、評価方法などについて想像しておく 復習) 振り返りフォーラムの回答を行う
2: ツールを使いインタラクティブなWebサイトを作る リンクの設定 / マウスに反応する / 演習) インタラクティブなページを作る	予習) 事前調査、ワーク準備 復習) 振り返りフォーラムの回答を行う
3: Webページ・サイトのビジュアルをデザインする1 デザインツール / ビジュアルデザイン / 演習) 写真を使ったデザイン	予習) 事前調査、ワーク準備 復習) 振り返りフォーラムの回答を行う
4: Webページ・サイトのビジュアルをデザインする2 様々なビジュアル / Webレイアウト / 演習) Webのレイアウト	予習) 事前調査、ワーク準備 復習) 振り返りフォーラムの回答を行う
5: Webページ・サイトのビジュアルをデザインする3(情報と空間) ビジュアルと情報の優先順位とルール化 / 余白 / 演習) 画面の設計	予習) 事前調査、ワーク準備 復習) 振り返りフォーラムの回答を行う
6: ブランドイメージを意識してデザインする ブランドイメージとらしさ / ビジュアルコード / 演習) ビジュアルコードの設計	予習) 事前調査、ワーク準備 復習) 振り返りフォーラムの回答を行う
7: Webページ・サイトの内容を構想する コンテンツの企画 / コンセプト / 演習) 編集会議・コンテンツを構想する	予習) 事前調査、ワーク準備 復習) 振り返りフォーラムの回答を行う
8: 著作権と肖像権 著作権、肖像権とは / 著作権に配慮する / 演習) 編集会議・サイトの内容をつくる	予習) 事前調査、ワーク準備 復習) 振り返りフォーラムの回答を行う
9: 材料をあつめる、取材する、関係を見つめる デザイナーサーチ / ファッション視点で読む / 演習) 編集会議・サイトの内容をつくる	予習) 事前調査、ワーク準備 復習) 振り返りフォーラムの回答を行う
10: Webページ・サイトの内容をつくる ライティング / 情報の価値 / 演習) 編集会議・サイトの内容をつくる	予習) 事前調査、ワーク準備 復習) 振り返りフォーラムの回答を行う
11: PRとコミュニケーションの設計 消費行動パターン / ソーシャルメディア / 演習) 編集会議・コミュニケーション設計	予習) 事前調査、ワーク準備 復習) 振り返りフォーラムの回答を行う
12: Webサイトのデザインと制作1 演習) 自身のコンテンツ制作を実施	予習) 事前調査、ワーク準備 復習) 振り返りフォーラムの回答を行う
13: Webサイトのデザインと制作2 演習) 自身のコンテンツ制作を実施	予習) 事前調査、ワーク準備 復習) 振り返りフォーラムの回答を行う
14: Webサイトのデザインと制作3 演習) 自身のコンテンツ制作を実施	予習) 事前調査、ワーク準備 復習) 振り返りフォーラムの回答を行う
15: 授業の総括、全体の振り返りの実施	予習) ワーク準備 復習) 振り返りフォーラムの回答を行う

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明

事前調査=授業終了時に示す次回の内容を予習し、専門用語の意味を理解しておく(30分)

ワーク準備=授業中に行うデザインワークのため、調査や資料等の作成、またはワークの準備を行う(30分)

V. 教科書・参考図書

教科書は使用せず、スライドを用い講義を実施します。
レジュメとスライド資料は授業用のサイトで確認できるようにします。

VI. 評価方法と評価基準

レポートの提出(各回の活動の振り返り、制作報告書:30%) / 最終成果物の作成とその質(30%) / 授業への積極性(発言、質問、課題へのとり組み、態度:20%) / プレゼンテーションの質(20%)

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)

- | | |
|--|--|
| 1) 演習課題のフィードバックは演習中や、Google Classroom等で個別に行います | 6) 授業の進行は前半に講義(30~50%)、後半に演習(50~70%)です |
| 2) パソコンの基本的な操作や、ネットの使い方は説明しません | 7) 各回の最後に、Googleフォームを使用した振り返りを行います |
| 3) 講義形式と演習形式を組み合わせ実施します | 8) 複数のオンラインツールを使用します。Googleのアカウントで登録しますので、g.koran.ac.jpのメールを必ず利用できる状態で |
| 4) 演習として、グループワーク(ディスカッションも含む)をすることがあります | 参加してください。 |
| 5) 演習として、自身のコンテンツプロジェクトのコンセプトワークや制作を行います | |

3 選択科目
4 1年
期

科目名	科目ナンバリング	学科	ファッション総合学科	学年	1年
デザインテクニックⅡ	FA50206	開講時期	3・4期	単位	2単位
		形態	演習		
担当者		履修方法	卒業選択		
徳留 慶志郎		免許・資格など	デザインフィールド		
		履修要件他			
		アクティブラーニング科目	○	実務経験教員科目	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。					
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。					○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。					
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。					○
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。					◎
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。					○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。					
II. 概要					
Illustrator、PhotoShopの連携による作品制作を通してパソコン特有のデザイン手法、スタイル画、ハンガーイラストなど、ファッションの現場で必要になってくる技術と造形について学んでいく。					
III. 学習成果					
Illustrator、PhotoShopを連携させてデザインするための技術、ハンガーイラスト制作のための技術、アイデアを具体的に形にし、パソコンを使って完成させるためのステップの組み立てができる。					
IV. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1:文字のデザイン① テーマに基づいて文字をデザインする。			オリジナルの文字デザイン案をスケッチしてくる		
2:文字のデザイン② デザインした文字をスキャニングする。			次の授業までに途中経過のチェックを受け、スケッチを完成させる。		
3:文字のデザイン③ スキャニングした文字をIllustratorでトレースする。			スケッチのスキャンを終わらせる。		
4:文字のデザイン④ 完成した文字を使ってTシャツをデザインする。			ペンツールでのトレース作業を進める。		
5:文字のデザイン⑤ TシャツデザインをIllustratorで作成する。			完成した作品の提出作業。		
6:人物・鳥・花をモチーフにしたイラストレーション① Photoshopで画像を切り抜く。			それぞれのモチーフの画像を収集しておく。		
7:人物・鳥・花をモチーフにしたイラストレーション② Illustratorで植物を描く。			画面の構成についてのチェックを受け、修正箇所を修正する。		
8:人物・鳥・花をモチーフにしたイラストレーション③ フォトショップによる画像を合成して完成させる。			作品を完成させ、提出作業をする。		
9:2種類以上の生物を組み合わせて新しい生物をデザイン ① 2種類の生き物を組み合わせてオリジナルのキャラクターをデザインする。			各自必要なモチーフの画像を収集しておく。		
10:2種類以上の生物を組み合わせて新しい生物をデザイン ② オリジナルデザインのキャラクターをスキャンする。			キャラクターデザインのラフスケッチを行う。		
11:2種類以上の生物を組み合わせて新しい生物をデザイン ③ スキャンしたキャラクターをIllustratorでトレースする。			次回の授業までに色彩計画案のチェックを受けておく。		
12:2種類以上の生物を組み合わせて新しい生物をデザイン ④ Illustratorでキャラクターを完成させる。			作品を完成させ、提出作業をする。		
13:ペンタブレットを使ったスタイル画の制作 ① 筆ペンでスタイル画を描く。			スタイル画のスキャンを終わらせておく。		
14:ペンタブレットを使ったスタイル画の制作 ② Photoshopのブラシ設定を活用した透明水彩風の塗りをする。			スキャンしたデータを元にPhotoshopデータの準備を済ませておく。		
15:ペンタブレットを使ったスタイル画の制作 ③ Photoshopで描きこみを行う。			作品を完成させ、提出作業をする。		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 準備学習は毎回30分以上行うこと。必要に応じて内容や容量については必要に応じて説明する。 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した90分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書 必要に応じて配布資料、参考資料を準備する。					
VI. 評価方法と評価基準 提出課題による評価 90% 学習の意欲 10%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等) USBフラッシュメモリーが必要(可能であれば2本、1本はバックアップ用) 授業時間外での課題の制作時間、資料収集、調査などの時間が必要 提出された課題作品は採点しコメント等を添えて返却する。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
ファッションイラストⅡ	FA50207	開講時期:	3・4期	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	デザインフィールド		
徳山 真由美		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	本科目との関連
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	◎
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	◎
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
 ファッションイラストレーションには様々な表現方法がある。画材の違いによる表現方法を習得することは、よりイメージの伝達に広がり生まれる。そこで水性色鉛筆からマーカーを使用した表現までを学ぶ。

III. 学習成果
 ファッションデザイン画の画材の違いによる技法を修得できる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: 導入 ・人体プロポーションについて	人体のプロポーションの練習をおこなうこと
2: 人体プロポーションの応用 ・正中線の変化による人体の表現方法について	小テストの練習をしておく
3: 画材別表現方法Ⅰ ・水性色鉛筆での作品制作(下書き)	下書きを完成しておくこと
4: 画材別表現方法Ⅰ ・水性色鉛筆での作品制作(着彩方法)	作品制作を進めておく
5: 画材別表現方法Ⅰ ・水性色鉛筆での作品完成	作品を完成する
6: 画材別表現方法Ⅱ ・グレーマーカーについて(下書き)	下書きを完成しておくこと
7: 画材別表現方法Ⅱ ・グレーマーカーでの作品完成	作品を完成する
8: 画材別表現方法Ⅲ ・カラーマーカーでの作品制作(下書き)	下書きを完成しておくこと
9: 画材別表現方法Ⅲ ・カラーマーカーでの作品制作(着彩方法について)	技法の練習をしておくこと
10: 画材別表現方法Ⅲ ・カラーマーカーでの作品制作	作品制作を進めておく
11: 画材別表現方法Ⅲ ・カラーマーカーでの作品完成	作品を完成する
12: 画材別表現方法Ⅳ ・ファッションイラストで使用されている様々な表現方法を調査する	調査資料をまとめておく
13: 画材別表現方法Ⅳ ・各自が使用したい表現方法の練習、下書き	下書きを完成しておくこと
14: 画材別表現方法Ⅳ ・作品制作	作品制作を進めておく
15: 画材別表現方法Ⅳ ・作品完成	作品を完成する

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 準備学習は、各回30分程度行うこと。
 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
 教科書は使用しない 教員作成資料を配布する

VI. 評価方法と評価基準
 課題・小テスト 95% 提出物・学習の意欲 5%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 小テスト・作品は、添削と評価を行って返却します。
 クロッキー帳、鉛筆(B~6B)、筆ペンを準備しておくこと。
 「ファッションイラストⅠ」を受講していることが望ましい。

3 選択科目
 4 1年
 期

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
ファッションスタイリング演習	FA51101	開講時期:	3・4期	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	ファッションビジネスフィールド		
岡田 絵梨奈		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	本科目との関連 ○
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	○

II. 概要
販売員やスタイリストに必要なサイズ選びや体型カバーなどを学び、スタイリング提案に必要なコーディネートテクニックを習得します。
着る人の体型的魅力やファッションデザインを伝えるために、スタイリングの実践を中心とした演習をおこない
ファッションショーや商品企画、プレゼンテーションなどに効果的な表現力を身につけます。

III. 学習成果
コーディネートのために必要な基礎知識や技術を習得し、プレゼンテーションスキルを身に付ける。
ファッションデザインを分析し、理解する基礎力をみにつけ、理論的に提案できる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション ・コーディネートとは何か	シラバスを読んでおくこと
2: ファッションマナーの必要性 ・ファッションにおけるTPO①	フォーマルウェアのコーディネート ファッション雑誌から探しておく
3: フォーマルウェアとドレスコード ・ファッションにおけるTPO②	昼と夜のフォーマルウェアの違いを理解し 課題プリントを仕上げる
4: 体型別スタイリングテクニック① ・体型分析とバランス	テーマ別のコーディネートをもとめる コーディネートの実践・発表の準備をする
5: 体型別スタイリングテクニック② プレゼンテーション ・コーディネートテクニック 全身編	テーマ別のコーディネートをもとめる コーディネートの実践・発表の準備をする
6: 体型別スタイリングテクニック③ プレゼンテーション ・コーディネートテクニック 上半身編	テーマ別のコーディネートをもとめる コーディネートの実践・発表の準備をする
7: 体型別スタイリングテクニック④ プレゼンテーション ・コーディネートテクニック 下半身編	テーマ別のコーディネートをもとめる コーディネートの実践・発表の準備をする
8: 体型別スタイリングテクニック⑤ プレゼンテーション ・コーディネートテクニック パーツ編	テーマ別のコーディネートをもとめる コーディネートの実践・発表の準備をする
9: 体型別スタイリングテクニック⑥ ・コーディネートテクニック アクセサリー編	テーマ別のコーディネートをもとめる コーディネートの実践・発表の準備をする
10: カラーコーディネート ・色彩理論をコーディネートで実践	テーマ別のコーディネートをもとめる コーディネートの実践・発表の準備をする
11: ファッションとコーディネートについて DVD鑑賞	感想レポートを記述する
12: 体型に合わせたコーディネートの企画 ・体型分析とコーディネートの企画・提案	これまでのコーディネートテクニックを編集し 相手に合わせたコーディネートを考察する
13: コーディネート提案シートの作成 ・コーディネートの解説のポイント	ファッション雑誌からアイテムを選択し コーディネートを提案する
14: トータルコーディネート ・テーマを設定し、コーディネートを実践する	体型を分析し トータルコーディネートを企画・実践する
15: スタイリングの重要性について	提出課題を仕上げる

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
課題プリントや調査など30分以上の準備学習が必要となります
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
教科書はありませんが、毎回テキストプリントを配布します。

VI. 評価方法と評価基準
課題提出物(50%)、実技評価(30%)、受講態度(10%)、学習への意欲(10%)
※ 原則として評価対象の課題は全て提出すること。また、提出の際は規定のファイル形式で提出すること。

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
ファッション雑誌を使用して課題を作成しますので、切り取りのできるファッション雑誌、のり、はさみ等が必要です
また、全ての課題については返却時や発表時に個別にコメントをフィードバックします。

「実務経験教員科目」特記事項: スタイリスト経験を活用し、コーディネートにおける共通言語の重要性を実践を通じて深めていきます。

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
ファッションとデザイン戦略	FA51102	開講時期:	3・4期	単位:	1単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	卒業選択		
岡田 絵梨奈		免許・資格など	ファッションビジネスフィールド		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1	一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。				◎
DP2	ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。				○
DP3	服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。				
DP4	ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。				
DP5	ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。				
DP6	修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				◎
DP7	専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。				
II. 概要					
ファッションビジネスを取り巻くあらゆるデザインは、ブランディングやマーケティングなどが戦略的に活用されています。基礎的な分析方法などを学び、ファッションビジネスとデザインの関係性を様々な角度から考察します。これからのファッションビジネスにおいては、ライフスタイル全般におけるデザインの理解力が求められるため、より実践的なリサーチや分析手法を演習します。					
III. 学習成果					
ファッションに関連するデザインを調査・分析することで、戦略的かつ理論的な提案力を身に付ける。 専門用語や分析手法を活用することで、企画・運営に役立つ知識を習得する。					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: ファッションにおけるデザイン戦略とは			シラバスを読んでおくこと		
2: ブランディングとデザイン戦略 ・ファッションブランドのデザイン戦略事例			課題プリントを実施する		
3: ファッションブランドの広報戦略 ・PRの種類とその役割			PRの種類やデザインについて調査し、まとめる		
4: ブランドコンセプトと取り組みについて ・区分と分類 リサーチ演習			発表レポートの作成		
5: レポートの発表と講評			発表の準備 クラスルームへの提出		
6: デザインからみるファッション① ・ロゴのデザイン フォントについて			ロゴデザインのチャートを作成する ファッション雑誌の広告切り取り		
7: デザインからみるファッション② ・ロゴのデザイン フォントについて			チャートをグループで作成する		
8: デザインからみるファッション③ 発表			グループで発表の内容をまとめる		
9: ファッションと空間デザイン ・店舗デザインの調査結果			調査結果をまとめる		
10: ファッションと空間デザイン ・店舗デザインから考える ・プレゼンテーション			発表の資料を作成する		
11: デザイン戦略の活用① SDGsとファッション			テーマ・調査方法の設定と調査計画		
12: デザイン戦略の活用② リサーチの方法を考える			データの収集・分析と考察		
13: デザイン戦略の活用③ 収集したデータを分析する			分析と考察 発表準備		
14: 発表 プレゼンテーション			発表の資料を作成する		
15: ファッションを分析するということ			提出課題のまとめ		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 課題プリントや調査など30分以上の準備学習が必要となります 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書					
教科書はありませんが、毎回テキストプリントを配布します。					
VI. 評価方法と評価基準					
課題提出物(50%)、実技評価(30%)、受講態度(10%)、学習への意欲(10%) ※ 原則として評価対象の課題は全て提出すること。また、提出の際は規定のファイル形式で提出すること。					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等) ファッション雑誌を使用して課題を作成しますので、切り取りのできるファッション雑誌、のり、はさみ等が必要です また、全ての課題については返却時や発表時に個別にコメントをフィードバックします。					
「実務経験教員科目」特記事項: デザインストラテジー修士。理論的なデザイン分析の演習等を取り入れたカリキュラムです。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
ビジュアルマーチャンダイジング	FA51103	開講時期:	3・4期	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など	ファッションビジネスフィールド		
担当者		履修要件他:			
中西 健也		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	○

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	◎
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	○

II. 概要
マーケティングの究極の目的である「販売せずして売上を上げる」の手法として欠かすことのできないのがVMDである。
この授業は、店舗運営に関わることを効果的に学ぶ授業であり、この「V・M・D」(ビジュアルマーチャンダイジング)の授業では本来の意味、基本を、徹底して学び、商品企画商品計画、商品政策、顧客サービスと言った会議室で創られたものを、現場である「売場」、「お買場」で反映させる手法を学んでいく。
消費者がどのように情報やモノを選択しているのか、購入に至る経緯を論理的に理解し現場で活かせるようになる。

III. 学習成果
・誰が売り場に立っても、売れる売り場を作ることが出来、シーズン毎の、自分の店の販売計画が作れるようになる。
・シーズンを通じて、適正在庫数量、金額の確保が科学的にできるようになる。
・「販売せずして売上を上げる」という理論を修得できる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1:V・M・Dの概要と定義	VMDとは何か?の概要を理解するためにテキスト第1章19ページまでを読んでくる。
2:V・M・Dに必要な基本MD(マーチャンダイジング) ① ターゲット分類 ② ライフステージ分類	家族、友人を分類してみる。タンスの中を分類してみる。
3:V・M・Dに必要な基本MD(マーチャンダイジング) ③ オケーション分類 ④ カラーの基本	定点観察、グループで百貨店を視察する
4:V・M・Dに必要な基本MD(マーチャンダイジング) ⑤ サイズの基本 ⑥ プライスの基本	講義後 定点観察、グループで百貨店を視察する
5:V・M・Dに必要な基本MD(マーチャンダイジング) ⑦ グレード分類 ⑧ テイスト分類	季節分類、年間行事、催事をまとめておく。
6:売場づくりの基本 ① 定数、定量の考え方 ② 陳列の手法	講義後 定点観察、グループで百貨店IPスペースを視察する
7:売場づくりの基本 ③ V・M・Dの基本用語	講義後 定点観察、グループで百貨店PPスペースを視察する
8:売場づくりの基本 ④ VP (ビジュアルプレゼンテーション)の考え方とは	講義後 定点観察、グループで百貨店VPスペースを視察する
9:売場づくりの基本 ⑤ IP (アイテムプレゼンテーション)の考え方	講義後 定点観察、グループで百貨店IPスペースを視察する
10:売場づくりの基本 ⑥ PP (ポイント・オブ・プレゼンテーション)の考え方	講義後 定点観察、グループで百貨店PPスペースを視察する
11:52週を通じた商品サイクル	カレンダーを作成してくる
12:売場づくりの応用 ①顧客購買心理を基にした売場づくり	講義後 定点観察、グループで百貨店、ショッピングモールを視察する
13:売場づくりの応用 ② 季節によって変わるポアアップショップの考え方	講義後 定点観察、グループで百貨店、ショッピングモールを視察する
14:VMDと係数 ① 売上と在庫の関係	レポートをまとめておく
15:最終レポート作成	レポート提出の準備をする

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
店舗視察を頻繁に行ってください。視察したお店を例に挙げて授業を進めます。
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
参考図書 : 織研新聞社 ビジュアル版VMDテキスト 早乙女 喜栄子 著

VI. 評価方法と評価基準
レポート (80%) 学習の意欲 (20%)
講義中の私語、スマホ操作は他者への迷惑、また評価の減点に繋がります。

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
参考図書は1回目から使用します。必ず授業開始前までに購入しておいてください。
「実務経験教員科目」 特記事項:百貨店勤務と販売代行会社経営者として40年の経験を生かして、教科書では伝えられないリアルな経験知識を伝えることができる
レポート内容について授業で講評、解説の時間を設けてフィードバックします

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
マーケティング基礎演習	FA51104	開講時期:	3・4期	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	ファッションビジネスフィールド		
曾根 ゆかり		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	○
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
 マーケティングとは、幅広く難しいイメージがありますが、大切なのは、本質を大づかみに理解することです。お客様がどんな商品やサービスを欲しいと思うのか？ 正しく把握することがビジネスでは大変重要です。また、ファッションビジネスは、次シーズンのトレンドを予測し、お客様が期待している商品やサービスを継続的に提供し続けることです。その為に、マーケティングは、「お客様を知る」手法として大きな役割があります。ここでは、マーケティングの基礎知識を習得し、市場の変化やファッショントレンドの分析など実践的な活用方法を学びます。

III. 学習成果
 ・ファッションビジネスにおいて、マーケティングの重要性を理解し、総合的に活用できるスキルが身につく
 ・マーケティング手法をつかって、ショップやブランドの情報収集・分析ができる
 ・マーケティング分析に基づき、自ら商品計画・販売計画・プロモーション計画の計画を立案し、理論的に人へ説明することができる

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション シラバスの確認・目標の設定・成績評価・課題取組などの説明	(予習)シラバスを読んでおく 本講座で自ら分析したいファッションブランドをピックアップしておく
2: ケーススタディ 2023年ヒット商品からマーケティング戦略を考察	(予習)2023年ファッションアイテムのヒット商品を調べておく 何故売れたのか？理由をまとめておく
3: マーケティングの基本 消費者の「本質的ニーズ」とは、「ニーズ」と「ウォンツ」の違い	(予習)自分が今一番手に入れたいファッションアイテムを挙げ、何故それが欲しいのか、その理由をまとめておく
4: マーケティング環境の変化 時代の移り変わりともマーケティングトレンドの変遷	(復習)アパレルのトレンド変化とその時代の様子を時系列にまとめる
5: マーケティングの流れ 環境の分析から戦略の立案 : マーケティングの一連の流れを事例で学ぶ	(復習)マーケティング用語を暗記し、マーケティングの一連の流れをまとめる
6: 市場のつかみ方 マーケットリサーチ : PEST分析・5F分析・3C分析・SWOT分析	(予習)ニュースや本などから、日本・世界の政治・経済・文化や社会の問題など、自分の生活に関わる重要な事柄を調べておく
7: グループワーク・環境の分析まとめ *アクティブラーニング 環境分析の共有、グループディスカッション	(予習)選択ブランドのマーケットリサーチを行い、発表の準備を行う (復習)メンバーの意見を受け、環境の分析を修正・完成させる
8: マーケティング戦略の策定 セグメンテーションとターゲティング・顧客ターゲットの設定(ペルソナ手法)	(復習)選択ブランドのセグメンテーションとターゲティングを実践し、ペルソナを作成する
9: ポジショニングの設定 マーケットを見定める : ポジショニングマップの作成	(復習)選択ブランドのポジショニングマップを作成する また、グループワーク発表の資料を準備する
10: グループワーク・戦略の立案まとめ マーケティング戦略の共有、グループディスカッション	(復習)メンバーの意見を受け、戦略のまとめを修正・完成させる
11: 施策の立案 製品・価格戦略 4P戦略(Product/Place)を事例で学ぶ	(復習)選択ブランドのプロダクト戦略・プライス戦略をまとめる
12: 施策の立案 チャネル・コミュニケーション戦略 4P戦略(Plasc/Promotion)を事例で学ぶ	(復習)選択ブランドのチャネル戦略・プロモーション戦略をまとめる
13: コンセプトワーク 個人ワーク:各自マーケティング分析・戦略から施策の立案までブランド戦略を作成	(予習)ブランド企画を考え、対象顧客・商品計画・販売方法・プロモーション計画を考え、資料作成の準備をする
14: チームプレゼンテーション *アクティブラーニング チーム内で各自プレゼンテーション発表とディスカッション	(予習)パワーポイントで資料を作成し、プレゼンテーションの準備をする
15: 全体プレゼンテーション *アクティブラーニング チーム代表のブランド戦略発表・講評	(予習)プレゼンテーションの準備をする (復習)受講生の発表を受けて、良かった点や感想をまとめて提出する
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 市場調査や課題作成に要する時間は、週に30分は必要です。 課題は、期限までに出来上がってなければ評価の対象になりません	

V. 教科書・参考図書
 ・教科書は使用しません。適時資料を配布します。各自ファイリングをしてください。
 ・参考図書:ファッションビジネス能力検定試験テキスト

VI. 評価方法と評価基準
 単位認定試験(30%)、プレゼンテーション(30%)、レポート・調査(25%)、学習の意欲(15%)
 * 学習意欲として、提出物期限や受講態度も評価に反映します。

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 ・ノートと筆記具を持参してください。・座席指定をします。
 ・プレゼンテーションのためのパワーポイントでの資料作成・USBメモリーが必要です。
 ・情報収集において、各種ファッション雑誌、業界レポート等の準備が必要となります。
 ・予習、復習は提出して頂きます。質問については、Google Classroomで対応します。
 「実務経験教員科目」特記事項:百貨店でのバイヤー、MD.店舗プランニング経験あり。実務経験に基づき各回の授業を行っています。

3 選択科目
4 1年
期

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
アパレル情報分析	FA51105	開講時期:	4期	単位:	1単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	卒業選択		
秦 寛史		免許・資格など	ファッションビジネスフィールド		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。					
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。					◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。					
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。					◎
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。					
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。					○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。					
II. 概要					
アパレル業界において重要な情報とは、どのようなもので、何から得られるのでしょうか。 この授業では、主に「企画、デザイン」「接客、販売」の2つのシーンにおいて、それぞれ有用と思われる情報を取り上げて、解説します。					
III. 学習成果					
企画、デザインにどのような情報を活かすべきか理解できる。 接客、販売にどのような情報を活かすべきか理解できる。 トレンドの意味やファッション意匠の意味を理解し、創作に活かすことができる。					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: トrendについて① トレンドとはなにか理解する			復習として、トレンドとは何か、今まで知っていた知識との違いをレポートにまとめる		
2: トrendについて② 2022年春夏トレンドを検証する			2022年春夏トレンドについてレポートにまとめる		
3: トrendについて③ 2022年秋冬トレンドを予測する			2022年秋冬トレンドについてレポートにまとめる		
4: トrendについて④ トレンドをテーマにコラージュを作成する			コラージュを仕上げる		
5: メディアについて① オンラインメディア上の情報の仕組みを理解する			オンラインメディアの特徴についてレポートをまとめる		
6: メディアについて② ファッション雑誌上の情報の仕組みを理解する			ファッション雑誌に見方についてレポートをまとめる		
7: レディースファッションの系統について① モダン、ソフィスティケート、エレガント、ロマンチック 特徴を理解する			4つのイメージをコレクションから探しておく		
8: レディースファッションの系統について② マニッシュ、アクティブ、カントリー、エスニック 特徴を理解する			4つのイメージをコレクションから探しておく		
9: レディースファッションの系統について③ 8大イメージに沿ったコラージュを作成する			コラージュを完成させる		
10: マーケットについて① 日本のアパレル市場の特徴を理解する			日本のアパレル市場の特徴をレポートにまとめる		
11: マーケットについて② 日本の消費者区分を理解する			日本の消費者区分をレポートにまとめる		
12: ファッションブランドについて① 海外ブランドの歴史や特徴を理解する			気になったブランドの特徴をレポートにまとめる		
13: ファッションブランドについて② 国内ブランドの歴史や特徴を理解する			気になったブランドの特徴をレポートにまとめる		
14: ファッションブランドについて③ 興味をもったブランドについて、特徴をまとめてコラージュにまとめる			コラージュを仕上げる		
15: プレゼンテーション ブランドのどのようなところに興味を持ったのか、プレゼンテーションする			プレゼンテーションの準備をする		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書 教科書は使用せず、画像や動画を参照する					
VI. 評価方法と評価基準 提出物50%、レポート50%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等) 「実務経験教員科目」特記事項: アパレルの「販売、仕入れ、商品企画、デザイン、経営」の実務経験を活かし、今の市場、現場に則した実践的な知識を習得できる授業を行います。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
織物実習	FA52104	開講時期:	3・4期	単位:	1単位
		形態:	実習		
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など 履修要件他:	生活スタイリングフィールド		
担当者	アクティブラーニング科目: ○ 実務経験教員科目:				
中園 唯					

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	○
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイナーカとIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
「織物基礎実習」を通して、織物の仕組みや糸から製織までのテキスタイルが出来上がる一連の仕組みを学ぶ。
各実習で学ぶ内容をシートにまとめファイリングしていき、最終的に1冊の織ファイルを作成させる。
実習で学んだ織技法を駆使し、ラグのテキスタイルデザイン・制作を行う。

III. 学習成果
①組織や織技法など織物の関する知識を深め、製織技法を習得する。
②織表現の特性を理解し、素材やデザインに合った組織・技法を選択することができる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1:オリエンテーション、織物基礎実習①	予習:シラバスを読む、「平織」について調べておく 復習:平織についてシートにまとめ、ファイリングする
2:織物基礎実習②③ 綾織で織る、ノッティングで織る	予習:「綾織」「ノッティング」について調べておく 復習:実習内容をシートにまとめ、ファイリングする
3:織物基礎実習③④ ノッティングで織る、綾織で織る	予習:「綴織」について調べておく 復習:実習内容をシートにまとめ、ファイリングする
4:織物実習④、織物基礎実習のまとめ 綴織で織る、プレゼンテーションの準備	予習:ファイルの整理・まとめ 復習:実習内容をシートにまとめ、ファイリングする
5:基礎実習のプレゼンテーション、ラグのデザイン 基礎実習①②③④の作品講評、配色・パターン・素材の検討	予習:プレゼンテーションの準備、ラグについてリサーチする 復習:ラグのデザインを決定する
6:ラグ制作① 配色、パターン、素材の検討、糸染めの準備	予習:制作物の原寸大下絵を完成させておく 復習:デザイン案に関する資料をまとめ、ファイリングする
7:糸の染色実習 糸の染色準備、糸染め	予習:糸染めについてテキストを読み込んでおく 復習:糸染めについての情報をまとめ、ファイリングする
8:ラグ制作② 染色糸の巻き直し、織機セッティング	予習:織機の仕組みや道具についてテキストを読み込んでおく 復習:織機について情報をまとめ、ファイリングする
9:ラグ制作③ 経糸のセッティング	予習:「織物基礎実習」での織技法を復習しておく 復習:経糸のセッティングについてまとめ、ファイリングする
10:ラグ制作④ 織始めの処理、箆の打ち込みについて	予習:「織物基礎実習」での織技法を復習しておく 復習:織始めについてまとめ、ファイリングする
11:ラグ制作⑤ 織る(織り始め～3割)	予習・復習:進捗をシートにまとめる、織り進める
12:ラグ制作⑥ 織る(～7割)	予習・復習:進捗をシートにまとめる、織り進める
13:ラグ制作⑦ 織る(～織り終わり)	予習・復習:進捗をシートにまとめる、織り進める
14:ラグ制作⑧ 機から降ろす、糸処理、縮絨	予習・復習:進捗をシートにまとめる、織り進める 復習:織物の手順やデータをシートにまとめる
15:ラグの講評 プレゼンテーション、意見交換、授業全体のリフレクション	予習:プレゼンテーションの準備 復習:ファイルを作成させる
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 授業内で作業が完了しなかった場合は空き時間等を利用して作業を進め、授業内容に遅れが出ないように務めること。 1回の授業に対し、30分程度の準備学習を行うこと。	

V. 教科書・参考図書
【教科書】テキスタイル [表現と技法] 田中 秀穂 監修/武蔵野美術大学出版局 ¥3,740
その他、必要に応じて都度 資料やプリントを配布します

VI. 評価方法と評価基準
提出課題60% 学習意欲20% プレゼンテーション・織ファイル20%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
受講に際しての注意点:汚れてもよい服装、もしくはエプロンや作業着を準備して受講すること。
使用する道具や材料(制作内容によって自己負担の場合あり)を忘れずに準備すること。
実習費が別途必要となります。(参考:2024年度実習費5,500円)
フィードバックについて:実習や課題ごとに講評を行います。

3 選択科目
4 1年
期

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
ヘア・メイクトレーニング	FA52105	開講時期:	3・4期	形態:	演習
担当者		履修方法:	卒業選択	単位:	1単位
戸上 由起子		免許・資格など	生活スタイリングフィールド	履修要件:	
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
 ファッションのイメージやコンセプトに合わせたヘアメイクの知識を身につけ、トータルバランス力を養います。
 また、ヘアメイクの技術を通して、イメージを具体化する実践力を養います。

III. 学習成果
 基礎からトレンド、モードまで幅広いイメージのヘアメイクを理解し、ヘアメイクで表現できる技術を習得できます。
 また、ファッションだけでなくヘアメイクを含めたイメージ表現がより深まり、トータルでの完成度を上げていきます。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: ヘアメイクとファッションの関係(講義)	学んだ内容を基にファッションとヘアメイクの関係についてまとめる。
2: メイク理論(講義)	習得内容をまとめ、復習する。
3: スキンケア・ベースメイク(自顔)	習得内容を記録用にまとめ、復習する。
4: ソフトメイク①(自顔)	事前にイメージを考えておく。 習得内容を記録用にまとめ、復習する。
5: ソフトメイク②(相モデル)	習得内容を記録用にまとめ、復習する。
6: シャープメイク①(自顔)	事前にイメージを考えておく。 習得内容を記録用にまとめ、復習する。
7: シャープメイク②(相モデル)	習得内容を記録用にまとめ、復習する。
8: トレンドメイク①(自顔)	事前にイメージを考えておく。 習得内容を記録用にまとめ、復習する。
9: トレンドメイク②(相モデル)	習得内容を記録用にまとめ、復習する。
10: モードメイク(相モデル)	事前にイメージを考えておく。 習得内容を記録用にまとめ、復習する。
11: ヘアーアレンジデザイン①(相モデル)	事前にイメージを考えておく。 習得内容を記録用にまとめ、復習する。
12: ヘアーアレンジデザイン②(相モデル)	事前にイメージを考えておく。 習得内容を記録用にまとめ、復習する。
13: ヘアメイクイメージ制作・ディスカッション	作成したいイメージ・コンセプトを考え、必要な物を準備しておく。 イメージ・コンセプトをまとめたコラージュを作成する。
14: ヘアメイク実技試験・プレゼンテーション①	作成したいイメージ・コンセプトを考え事前に練習しておく。 仕上がりに関するプレゼンテーションをまとめる。
15: ヘアメイク実技試験・プレゼンテーション②	作成したいイメージ・コンセプトを考え事前に練習しておく。 仕上がりに関するプレゼンテーションをまとめる。
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 準備学習は各回30分～60分程度行います。	

V. 教科書・参考図書
 教員作成資料を配布

VI. 評価方法と評価基準
 ・作品評価(70%) [イメージ・コンセプトに合ったヘアメイク、ファッションでトータルで作品としてまとまっているかという点での評価]
 ・学習意欲(30%) [積極的な姿勢で授業に取り組んでいるかという点での評価]

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 ・ヘアー、メイク実習時は共有の教材以外は用品を各自でご準備下さい。
 ・実習費として別途5,000円必要です。
 ・提出課題がある場合はコメントして返却します。
 ・「実務経験教員科目」特記事項:プロ育成を目的とするトータルビューティースクールにて20年間インストラクターとして技術者を育成しています。
 またヘアメイクアーティストとして様々な活動経験をいかし、実技指導を行います。

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
ファッションフォト	FA52106	開講時期:	3・4期	単位:	1単位
担当者		形態:	演習		
重松 美佐		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など	生活スタイリングフィールド		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	○
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	◎
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
 ファッションフォト制作のために必要な写真撮影の基礎知識及び応用までの実践演習を交えながら学びます。
 ポートレート撮影からスタイライフ撮影など、様々なモチーフを撮影することにより、構図や構成、撮影技術を習得し、ポートフォリオの制作やコーディネート課題、作品制作の為に表現方法を考察します。

III. 学習成果
 1. 撮影のイメージを考えることができる。
 2. 目的に応じた撮影方法を選択できる。
 3. 目的に応じた写真編集ができる。

授業内容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション 〈ファッションフォト〉とは何か。授業内容の説明。	〈ファッションフォト〉とは何か、授業でどんなことを学びたいのかを考えておく。自分が今、一番好きな写真を準備する。Googleclassroomの使い方を把握する。
2: 写真基礎 〈構図〉とは何か。	〈構図〉について考え、その効果を確認する。自分が授業で使用するカメラ(スマートフォン)の使い方を把握する。
3: 写真基礎 〈光〉とは何か。	〈光〉について考え、その効果を確認する。
4: 写真基礎 "動かないものを撮る。"、〈スタイライフ〉とは何か。	〈スタイライフ〉について考え、撮影に使うモノを準備する
5: 撮影実習 〈テーマ〉を決め、光、構図を意識し、〈スタイライフ〉を撮影。	自分でテーマを決め、撮影に使うモノを準備する。
6: 作品発表 自分でテーマ決め、撮影した作品の発表。	作品制作・発表の準備をする。
7: 写真基礎 "動くものを撮る。"について。〈ポートレート〉とは何か。レフ板の使い方の説明。	〈ポートレート〉について考え、ポージング、撮影場所の選択の意味、効果を確認する。
8: 撮影実習 〈テーマ〉を決め、〈自然光〉を使い、屋外で撮影。	自分でテーマを決め、撮影に使う衣装、小道具の準備をする
9: 作品発表 自分でテーマ決め、撮影した作品の発表。	作品制作・発表の準備をする。
10: 写真基礎 〈人工光〉について。照明機材、デジタルカメラの説明。	照明機材を使い、"光の質の違い"を理解する。
11: 撮影実習 〈自然光〉と〈人工光〉をミックスして〈ポートレート〉を撮影する。	自分でテーマを決め、撮影に使う衣装、小道具の準備をする
12: 撮影実習 スタジオで〈人工光〉の照明機材を使い、〈ポートレート〉を撮影する。	照明機材を使い、"光を作る"という事の意味を理解する。 自分でテーマを決め、撮影に使う衣装、小道具の準備をする。
13: 編集実習 撮影した画像を編集する。編集ソフトの使い方の説明。	撮影した画像の編集をする。 授業で使う、学校のデスクトップPCの使い方を把握しておく。
14: 作品の発表 撮影した作品の発表。	作品の制作・発表の準備をする。
15: 〈フォトブック〉とは何か。写真を紙で見る事とは。 〈フィルムカメラ・フィルム〉の話。	〈フォトブック〉とは何かを考えておく。

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 作品の準備や編集で30分以上の準備が必要
 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
 教科書は使用しない。資料は教員が作成したものをGoogleclassroomにアップロードする。
 雑誌や写真集、SNS等で各自で資料を準備する。

VI. 評価方法と評価基準
 課題提出物(40%)、実技評価(40%)、学習意欲(20%)

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 『実務経験教員科目』特記事項: 広告や舞台、HP、雑誌の撮影を中心とした実務経験あり。
 撮影でのノウハウや表現方法など、より実践的な撮影方法を学ぶ。
 課題作品は発表時に講評し、必要なアドバイスとコメントを口頭で行う。

3 選択科目
 4 1年
 期

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
パターンメイキング I	FA53101	開講時期:	3・4期	単位:	2単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	卒業選択		
斉藤 朋子		免許・資格など	ファッション造形フィールド		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1	一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。				○
DP2	ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。				◎
DP3	服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。				◎
DP4	ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。				◎
DP5	ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。				
DP6	修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				◎
DP7	専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。				○
II. 概要					
服作りのための平面作図法を学ぶ。パンツ、ジャケット、ワンピースの基本パターンとその展開方法を学び工業用パターンを作成していく。縫製工程に沿った完成パターンを通して縫製仕様や縫製方法を考える力を同時に養っていく。					
III. 学習成果					
平面作図の基本的な技法を身につけることができる。 平面と立体の関連性を考える力を深めることができる。					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: ストレートパンツ(基本形)の作図①(前パンツ・後ろパンツ・ベルト)			スカート・パンツの教科書P136～P139を熟読する。		
2: パターンチェック			授業内容を確認しながら1/2縮尺で作図する。		
3: トワル作成(パンツ)			シーチング準備・完成のための組み立て準備をする。		
4: ストレートパンツの作図②(工業用パターン・持ち出し・見返し・ポケット袋布)			A4写真付きレポートをまとめる。 1/2作図を完成させる。(作図・工業用パターン他)		
5: テーラードジャケット作図(4面構成) 身頃①			ジャケット作図についての手順を配布プリントにまとめる。		
6: テーラードジャケット作図(4面構成) 身頃②			授業内容を確認しながら1/2縮尺で作図する。(身頃)		
7: テーラードジャケット作図(4面構成) 身頃の展開・衿			授業内容を確認しながら1/2縮尺で作図する。(衿)		
8: テーラードジャケット作図(4面構成) 二枚袖①(作図)			授業内容を確認しながら1/2縮尺で作図する。(袖)		
9: テーラードジャケット作図(4面構成) 二枚袖②(いせの配分・合印)			授業内容を確認しながら1/2縮尺で作図する。(いせの配分・合印)		
10: テーラードジャケット作図(4面構成) パターンチェック			つながり修正・合印作図など組み立てのための仕上げをする。		
11: トワル作成(ジャケット)①(地直し・トレース)			トワル組立の手順を資料で確認する。		
12: トワル作成(ジャケット)②(身頃・衿の組み立て)			トワル組立の手順を資料で確認する。		
13: トワルチェック(ジャケット)①			トワル組立を完成させる。		
14: トワルチェック(ジャケット)② ジャケット裏地の作図①(身頃の展開と身返しの展開)			トワル組立を完成させる。 ジャケット裏地の作図を資料で確認する。		
15: ジャケット裏地の作図②(裏外袖・裏内袖の作図) まとめ			パターンの修正点をまとめる。		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 30分程度行うこと。準備学習についての内容は毎回の授業で説明します。 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した90分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書					
教科書:文化服装学院編「スカート・パンツ」 適宜プリントを配布する。					
VI. 評価方法と評価基準					
演習課題70% 1/2作図・レポート提出20% 学習意欲10%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等) 実物パターン・1/2作図によるレポート作成についてコメントを加え本人に返却します。 実物パターン作成のためのハترون紙及びトワル作成のシーチングは各自準備が必要です。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
ファッションデザイン演習	FA53102	開講時期:	3期	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など	ファッション造形フィールド		
担当者		履修要件他:			
尾畑 圭祐		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	◎
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	◎
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	○
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	○
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	○

II. 概要
 ファッションの分野におけるデザインとは様々な考え方がある。一般的に販売されている衣服のデザインやパリ、ミラノ、ニューヨークに代表されるコレクションの衣服、舞台衣装のように表現する為の衣服など様々あり、この授業ではそれらのデザイン方法や考え方を課題を通して学習する。

III. 学習成果
 ファッションデザインに必要なデザインを導き出す方法を学び、デザインを考える能力やデザインを展開する能力(バリエーション)、衣服をデザインするための基礎知識を修得できる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1:導入「シルエット」からのデザイン発想 ① 切り絵によるデザイン表現	(復習)切り絵作業を仕上げしておく
2:「シルエット」からのデザイン発想 ② スタイル画によるデザイン表現(下書き・着色)	(復習)スタイル画を仕上げしておく
3:「服装史(近代史)」からのデザイン発想 ① 服装史についてのレポート作成	(復習)服装史(近代史)について追加リサーチをしておく
4:「服装史(近代史)」からのデザイン発想 ② スタイル画でのデザイン表現(下書き・着色)	(復習)スタイル画を仕上げしておく
5:「ディテール」からのデザイン発想 ① 部分見本の製作	(復習)部分見本を仕上げしておく
6:「ディテール」からのデザイン発想 ② スタイル画でのデザイン表現(下書き・着色)	(復習)スタイル画を仕上げしておく
7:「舞台衣装」のデザイン発想 ① 舞台鑑賞(映像)	(復習)舞台の内容をまとめておく
8:「舞台衣装」のデザイン発想 ② 登場人物の分析と衣服デザイン	(復習)登場人物の分析をまとめておく
9:「舞台衣装」のデザイン発想 ③ スタイル画でのデザイン表現(下書き・着色)	(復習)スタイル画を仕上げしておく
10:「アーティストの衣装」のデザイン発想 ① アーティスト分析と衣服デザイン	(復習)アーティスト分析をまとめておく
11:「アーティストの衣装」のデザイン発想 ② スタイル画でのデザイン表現(下書き・着色)	(復習)スタイル画を仕上げしておく
12:「アート・建築」からのデザイン発想 ① アート作品・建築物についてのリサーチ	(復習)アート作品・建築物についてのリサーチをまとめておく
13:「アート・建築」からのデザイン発想 ② テクスチャーサンプル作成	(復習)テクスチャーサンプルを仕上げしておく
14:「アート・建築」からのデザイン発想 ③ スタイル画でのデザイン表現(下書き・着色)	(復習)スタイル画を仕上げしておく
15:「アート・建築」からのデザイン発想 ② 課題の仕上げ及び合評	(予習)合評の準備をしておく
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明	

単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
 ・プリント配布

VI. 評価方法と評価基準
 ・課題 80% ・学習の意欲 20%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 「実務経験教員科目」特記事項:ファッションデザイナーとしての実務経験をもとに、プロのデザイナーが行うファッション(衣服)デザインの発想方法、考え方、スタイル画の書き方を授業を通して学習する。
 課題のフィードバックとして、合評を行う。また、提出課題は改善点や評価ポイント等を添えて返却をする。
 提出期限厳守ですので、授業時間内に終えていない課題は次の授業までに追いつくように努力してください。

3 選択科目
 4 1年
 期

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
ドレーピング演習 I	FA53103	開講時期:	3・4期	単位:	2単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	ファッション造形フィールド		
坂元 美貴子		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	◎
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
ドレーピングとは、ボディに(人台・ドレスフォーム)に布(シーチング)を当て、立体的に型紙を作る方法を言います。
この授業では、ドレーピングの基本的な技法を学ぶとともに前、後、側面から立体的に服を見る目を養うことを目的とします。
また、ドレーピングを学ぶことにより、平面製図の理解を深めます。

III. 学習成果
ドレーピングの基本的な技法を修得し、平面製図と合わせてパターンメイキングを理解できる。
服のシルエットを前、後、側面から立体的に見ることができる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: 導入 シーチングのアイロンかけ、地直しの方法 ピンの打ち方について	ドレーピングの準備やピンの打ち方などをノートにまとめる。
2: ストレートスカートのドレーピングと印つけ	シーチングの地直しとライン入れ
3: ストレートスカートの再度組み立てとトレースパターンについての説明	トレースパターンを完成させて次回提出
4: フレアスカートのドレーピングと印つけ	シーチングの地直しとライン入れ
5: フレアスカートの再度組み立てとトレースパターン	ドレーピングの手順とポイントをノートにまとめる。 トレースパターンを完成させて次回提出
6: 工業用ボディからの原型(スローパ)のドレーピング	シーチングの地直しとライン入れ
7: 工業用ボディからの原型(スローパ)の印つけと再度組み立て	ドレーピングの手順とポイントをノートにまとめる。 トレースパターンを完成させる
8: 衿のドレーピングと再度組み立て ショールカラー フラットカラー	シーチングの地直しとライン入れ
9: 衿のドレーピングと再度組み立て スタンドカラー	ドレーピングの手順とポイントをノートにまとめる。
10: ブラウスのドレーピング	シーチングの地直しとライン入れ
11: ブラウスのドレーピングと印つけ	ドレーピングの手順とポイントをノートにまとめる。
12: ブラウスの再度組み立て	トレースパターンを完成させて次回提出
13: ワンピースのドレーピング①本体	ドレーピングの手順とポイントをノートにまとめる。
14: ワンピースのドレーピング②衿と袖	トレースパターンを完成させる
15: ワンピースの印つけと再度組み立て 合評とまとめ	トレースパターンとノート整理をして最終提出する。

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
シーチングのアイロン掛けは必ず行っておくこと。アイロン掛けや地直し、トレースパターン、ノート整理など毎回30分以上は行うこと。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した90分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
教科書は使用しない
教員作成の資料や師範作品を参考資料とする。

VI. 評価方法と評価基準
課題作品(提出物ノート含む) 80% 学習の意欲20%
準備学習ができていない場合は、学習意欲の評価の対象とします。

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
ノートやトレースパターンはコメントを添えて返却します。資料の再配布はしないので紛失しないように保管すること。
授業の性質上、欠席をすると次の授業に支障をきたすので無断欠席はしないようにすること。病欠等で欠席した場合は、後日必ず連絡をすること。
「実務経験教員科目」特記事項: アパレルメーカーでパタンナーとしての勤務経験あり。授業第1回から第15回まで現場で行っていたドレーピング技法を実践する。

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
ファッション造形実習	FA53204	開講時期:	3・4期	単位:	2単位
		形態:	実習		
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など 履修要件他:	ファッション造形フィールド		
担当者	アクティブラーニング科目: <input type="radio"/> 実務経験教員科目: <input type="checkbox"/>				
高野 弓枝					

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	本科目との関連
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	◎
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	◎
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
産業界で即応できる実践能力を養うことを目標に、素材の特性を活かした衣服製作の方法を学びます。課題に沿って実習を進めながら縫製技術を身につけ、専門用語やパターンについての知識も修得します。

III. 学習成果
パターンと素材に合った作品を具現化するための縫製技術やコツを身につけることができます。衣服の構成を考えるための基礎から応用力を付けることができます。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1:課題Ⅰ パンツ製作 パンツ概説、パンツサイズ確認、デザイン決定	製作課題に関する市場調査、ファッション誌を見る
2: パターン修正、付属パーツ作成	パンツパターンについて教科書で予習する
3: パターンの確認、裁断	デザインに合った素材を選ぶ
4: 準備工程(端始末、印つけ他)	パターンの確認をする(縫い代、ノッチ等)
5: 縫製① 脇ポケット作り 脇縫い	縫製進行に合わせた箇所まで、進めておく
6: 縫製② 股下・股ぐり縫い	次の縫製工程を確認しておく
7: 縫製③ ファスナーつけ、ウエストベルト付け	縫製進行に合わせた箇所まで、進めておく
8: 縫製④ 丈確認、裾始末	次の縫製工程を確認しておく
9: 完成、提出	作品を提出できるよう製作を進めておく
10: 課題Ⅱ 裏付テーラードジャケット製作 ジャケット概説、パターン確認	レポートの準備をしておく
11: 表・裏パターン修正、パーツ作成	裁断用パターンを完成させる
12: 表地・裏地の裁断	パターンの確認をする(縫い代、ノッチ等)
13: 芯裁断、芯接着、印し付け(ノッチ)	縫製進行に合わせた箇所まで、進めておく
14: 前端、折り返り線テープ芯貼り、縫い代整理	次の縫製工程を確認しておく
15: 裏衿準備工程、玉縁ポケット準備工程	縫製進行に合わせた箇所まで、進めておく
16: パネルライン縫い、玉縁ポケット作成	次の縫製工程を確認しておく
17: 玉縁ポケット作成	縫製進行に合わせた箇所まで、進めておく
18: 肩縫い、表衿つけ、裏布縫い	次の縫製工程を確認しておく
19: 見返し・裏布縫い合わせ、肩縫い、裏衿付け	縫製進行に合わせた箇所まで、進めておく
20: 前端縫い	次の縫製工程を確認しておく
21: 袖作り①	縫製進行に合わせた箇所まで、進めておく
22: 袖作り②	次の縫製工程を確認しておく
23: 前端整理	縫製進行に合わせた箇所まで、進めておく
24: 脇縫い、裾縫い	次の縫製工程を確認しておく
25: 脇中とじ、整理しつけ	縫製進行に合わせた箇所まで、進めておく
26: 袖仮付け、試着、袖つけ袖つけ	次の縫製工程を確認しておく
27: 袖山布、肩パッドつけ	縫製進行に合わせた箇所まで、進めておく
28: 袖ぐり始末	次の縫製工程を確認しておく
29: ボタンホール等完成	作品を提出できるよう製作を進めておく
30: アイロン等の仕上げ作業	レポートの準備をしておく
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 1回の授業に対して30分程度の準備学習を行うこと。	

V. 教科書・参考図書
文化ファッション大系 スカート・ワンピース編、ジャケット編、適宜プリント配布

VI. 評価方法と評価基準
課題作品(70%) 課題レポート(20%) 学習の意欲(10%)

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
提出課題は指導教員のアドバイスや評価ポイント等を添えて返却します。
各課題に必要な素材や付属品は各自で準備する事が必要です。
ジャケットにウール素材の生地を使用するため材料費や経費に1万円以上かかることがあります。
提出期限厳守ですので、授業時間内に終えていない課題は次の授業までに追いつくように努力してください。

3 選択科目
4 1年
期

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
ソーイング実習	FA53105	開講時期:	3・4期		
		形態:	実習	単位:	1単位
担当者		履修方法:	卒業選択		
斉藤 朋子		免許・資格など	ファッション造形フィールド		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1	一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。				
DP2	ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。				○
DP3	服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。				○
DP4	ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。				○
DP5	ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。				
DP6	修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				○
DP7	専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。				
II. 概要					
基本的な衣服の構造を知ることを目とし、サーキュラスカートと一重のジャケットの製作を行う。					
サーキュラスカートやジャケットの製作を通して、ファッション業界の各職種に従事する者に求められる基本的な知識を身につける。					
III. 学習成果					
サーキュラスカートやジャケットの縫製における基本的な知識を習得する。					
被服構成実習での基本的な縫製技術を基に、サーキュラスカートとジャケットの縫製を通して被服構成についての理解を深める。					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1:	課題Ⅰ サーキュラスカート 導入・基本型からのパターン変更・ウエストベルト製図		サーキュラスカートのウエストサイズの計算方法を予習する。		
2:	課題Ⅰ サーキュラスカート 地直しと裁断(表地・裏地)		地直し・裁断の要点や注意点についてまとめる。		
3:	課題Ⅰ サーキュラスカート 印つけ(表地・裏地)		表地と裏地の印つけについての要点をまとめる。		
4:	課題Ⅰ サーキュラスカート 縫製(表地の縫製・端の始末・ファスナー付け)		端の始末とファスナー付けの要点をまとめる。		
5:	課題Ⅰ サーキュラスカート 縫製(裏地の縫製)		裏地縫製の要点や注意点をまとめる。		
6:	課題Ⅰ サーキュラスカート 縫製(ウエストベルト・前かんつけ)		ウエストベルトの縫製と前かんつけについてまとめる。		
7:	課題Ⅰ サーキュラスカート 縫製(裾の始末)		裾上げの要点や注意点をまとめる。		
8:	課題Ⅱ ジャケット(衿なし・裏なし) 導入・基本パターンからのサイズ展開		ジャケットのつくりについて理解し、構成についてまとめる。		
9:	課題Ⅱ ジャケット(衿なし・裏なし) 地直し・裁断・芯及び接着テープ貼		地直しと裁断の注意点、接着芯や接着テープの貼り方をまとめる。		
10:	課題Ⅱ ジャケット(衿なし・裏なし) 縫製(身頃)		身頃の縫製について要点や注意点をまとめる。		
11:	課題Ⅱ ジャケット(衿なし・裏なし) 縫製(ファスナー付け)		オープンファスナーについての要点や縫製上の注意点をまとめる		
12:	課題Ⅱ ジャケット(衿なし・裏なし) 縫製(見返し)		見返しについての要点や縫製上の注意点をまとめる。		
13:	課題Ⅱ ジャケット(衿なし・裏なし) 縫製(袖づくり)		1枚袖の縫製の要点をまとめる。		
14:	課題Ⅱ ジャケット(衿なし・裏なし) 縫製(袖つけ)		ジャケットの袖つけの要点をまとめる。		
15:	課題Ⅱ ジャケット(衿なし・裏なし) ジャケット完成・合評		ジャケット製作の仕上げや、全体の要点をまとめる。		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 各回の時間外学習には30分程度を要する。					
V. 教科書・参考図書					
教科書:文化服装学院編「スカート・パンツ」 配布プリント					
VI. 評価方法と評価基準					
課題提出70%、レポート20%、学習の意欲10%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等) 毎回の課題目標に到達できるように、時間内で終わらなかったところは時間外学習で補うこと。 提出期限は厳守です。 使用布地は各自で準備していただきますので、材料費が必要となります。 提出レポートに製作物への評価とコメントでフィードバックします。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
アパレルCAD	FA53106	開講時期:	4期	形態:	演習
担当者		履修方法:	卒業選択	単位:	1単位
竹内 真由美		免許・資格など	ファッション造形フィールド		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	○
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	○
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	◎
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	◎
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
 コンピューターソフトを使いパターンメイキング、マーキング、グレーディング等を行う
 CADシステムの基本操作を修得し工業用パターンを作成をする

III. 学習成果
 CAD操作でのパターン展開方を学びアパレル業界の技術を習得する
 生地巾に合わせた型入れ(マーキング)、サイズ展開(グレーディング)の知識を習得する

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: 基本操作、原型パターン(身頃、スカート)スキャナー入力	CADの基本操作をノートにまとめておく ※その日ごとにパソコンのファイルと各自のUSBに保存する
2: 身頃原型作図	マウス、キー操作を項目ごとに実践しておく
3: スカート原型作図	マウス、キー操作を項目ごとに実践しておく
4: パーツ化(各種の線作成、文字入れ)	パーツ化までの操作手順を練習パーツで復習しておく
5: 情報入力、縫い代作成 それぞれの練習パーツを見合い合評する	情報入力、縫い代巾指示の必要性をまとめておく
6: 身頃原型パターンを展開しプリンセスラインワンピース作図(後)	身頃原型からの展開方法をノートにまとめておく
7: 身頃原型パターンを展開しプリンセスラインワンピース作図(前)	身頃原型からの展開方法をノートを基に予習しておく
8: 袖パターン(パフスリーブ)作図	パフスリーブのデザインを調べてまとめておく
9: 衿パターン(フラットカラー)作図	フラットカラーのデザインを調べてまとめておく
10: スカート原型パターンを展開しプリーツスカート作図	スカート原型からの展開方法をノートにまとめておく
11: スカート原型パターンを展開しフレアスカート作図	スカート原型からの展開方法をノートを基に予習しておく
12: ジャケット表地パターンから身頃見返し、表衿パターンを作図	抜き取り方や表への展開方法を練習パーツで復習しておく
13: ジャケット表地パターンから裏地パターンを作図	表地からの展開方法を練習パーツで復習しておく
14: マーキング それぞれの練習パーツを見合い合評する	生地別のマーキングの違いをノートにまとめておく
15: グレーディング	ルールコードと部位コードの基本をノートにまとめておく

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 内容について詳しくは毎回の授業で説明します。
 単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
 教員参考資料を配布します。

VI. 評価方法と評価基準
 作成課題 60% テスト課題 20% 学習の意欲 20%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 ※その日ごとに各自のUSBに保存する為USBメモリーを準備してください。
 「実務経験教員科目」特記事項:アパレルメーカーパターンナー勤務経験あり
 授業第1回より第15回まで現場で行った事例を紹介している。
 現場で求められる手法を用いて授業を進める。
 提出された課題へは個別に添削やコメントを行います。

3 選択科目
 4 1年
 期

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
パターンメイキング検定演習 I	FA54101	開講時期:	3・4期	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択		
担当者	角谷 由加里	免許・資格など	体験フィールド		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1	一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。				○
DP2	ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。				◎
DP3	服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。				◎
DP4	ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。				
DP5	ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。				
DP6	修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				○
DP7	専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。				
II. 概要					
パターンメイキング技術検定3級取得のための授業である。					
9月下旬から12月上旬の検定試験まで集中的に授業を行う。(授業の日程は、検定日が確定したあとに詳細を示す。)					
パターンメイキングの授業のスキルアップにつながる科目である。					
III. 学習成果					
パターンメイキング技術検定3級に合格する力を身につける。					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: 導入	原型作成		検定の冊子を読み、検定の内容について理解しておく。		
2: デザイン①後身頃の作図			原型の作成を終わらせておく。		
3: デザイン①前身頃の作図			後身頃の作図を終わらせておく。		
4: デザイン①袖、衿の作図			前身頃の作図を終わらせておく。		
5: デザイン①ファーストパターン作成、シーチングの準備			袖と衿の作図を終わらせておく。		
6: デザイン①パーツをシーチングに写し裁断する			シーチングの地直しをしておく。		
7: デザイン①シーチング組み立て(身頃)			シーチングの裁断を終わらせておく。		
8: デザイン①シーチング組み立て(衿、袖)	筆記試験対策/理論の解説		過去問題を解いてわからなかったところをまとめておく。		
9: デザイン①模擬試験			デザイン①の作図の手順や寸法を確認しておく。 模擬試験で間違った箇所を復習する。		
10: デザイン②身頃の作図			身頃の作図の手順を確認しておく。		
11: デザイン②衿・袖の作図			身頃の作図を終わらせておく。		
12: デザイン②ファーストパターン作成、シーチング裁断			袖、衿の作図を終わらせておく。		
13: デザイン②シーチング組み立て	筆記試験対策/理論の解説		シーチングの裁断を終わらせておく。 過去問題を解いてわからなかった箇所をまとめておく。		
14: デザイン②模擬試験			デザイン②の作図の手順や寸法を確認しておく。 模擬試験で間違った箇所を復習する。		
15: 検定前指導			作図の手順や理論で、理解が曖昧な点がないか確認しておく。		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明					
各回30分程度の準備学習を行うこと。					
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書					
パターンメイキング技術検定試験3級ガイドブック					
配布資料					
VI. 評価方法と評価基準					
検定受検/60% 課題提出/30% 学習意欲/10%					
評価基準の詳細は検定ガイダンスで示す					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)					
課題は、改善点等のコメントを添えて返却する。					
試験に必要な備品は各自で準備すること。					
この科目は「パターンの理解」と「パターンメイキング I」を履修済みであることが望ましい。					
履修登録前に開催する検定ガイダンスに参加することが必須である。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	1年
インターンシップ	FA60107	開講時期:	通年	単位:	1単位
		形態:	実習		
担当者		履修方法:	卒業選択		
専任教員		免許・資格など	体験フィールド		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	○
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	○
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	○
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	○
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	○

II. 概要
 ファッション業界におけるデザイン企画、縫製技術、販売技術、生産管理、スタイリスト等の専門分野に関わる業務等を学び、職場での体験を通し、仕事への意欲や社会性を身につけ、自らの進路について考えるきっかけとなることを目的とする。

III. 学習成果
 様々な分野において専門知識を活かし、社会人として自立するための社会性を身につける。
 職場で体験することにより、将来の進路の方向性を見出すことができる。
 マナーや礼儀作法、一般常識を身につける。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: インターンシップについての説明 職種別調査	インターンシップを体験したい職種の事前調査を行う キャリアデザインブックを読む
2: インターンシップ希望企業の調査	インターンシップ受入れ企業の事前調査を行う
3: エントリーシート、履歴書の書き方、基本マナーの指導	エントリーシート、履歴書の作成
4: メールの書き方 基本マナーの指導	エントリーシート、履歴書の作成
5: 書類作成、インターンシップでの注意事項の説明	書類の作成 インターンシップの日程を確認する
6~11: 現場実習 実習時期 主に12月下旬~3月末 実習時間:30時間以上 1日8時間×4日間(21コマ) 体験内容:基本業務 企業でのマナー	毎日、実習レポートを作成して、企業の確認印をもらう
12: インターンシップ終了後の報告会	報告会の準備をする
13: 企業へのお礼状作成について	企業へのお礼状の作成
14: 報告書について	実習レポートと報告書を作成
15: 報告書の提出	インターンシップを終えて、報告書の作成する

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 毎回の準備学習は30分以上行うこと

V. 教科書・参考図書
 キャリアデザインブックを使用します
 資料はプリントで配布する

VI. 評価方法と評価基準
 実習およびレポート80% 提出物10% 事前・事後指導での学習の意欲10%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 事前事後の研修を必ず受けること
 現場での実習は企業でのマナーを守って、礼儀正しい態度で臨むこと
 作成書類に関してはコメントでフィードバックします。

3 選択科目
 4 1年
 期

ファッション総合学科2年

総 合 演 習

共通必修科目

指 定 科 目

教 養 科 目

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
総合演習Ⅲ	FA10103	開講時期:	1・2期	単位:	1単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	卒業必修		
専任教員		免許・資格など			
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1	一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。				
DP2	ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。				
DP3	服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。				
DP4	ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。				
DP5	ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。				
DP6	修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				○
DP7	専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。				◎
II. 概要					
<p>本学ファッション総合学科での学園生活で学んだことをもとに、2年次からは卒業後の進路や将来に向けて計画をたて、実行していくことが必要となってくる。</p> <p>総合演習Ⅲでは主に、卒業後の進路に向けて具体的に行動することを目的とした指導を行う。また1年生へのアドバイス会、香蘭祭準備、その他の学校行事や学科行事等を通して2年生としてのリーダーシップや積極性を身につけて行く。</p>					
III. 学習成果					
<p>卒業後の進路に向けて具体的に行動できるようになる。(7月までに必ず1社受験する)</p> <p>2年生としてのリーダーシップや積極性を身につけられる。</p>					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: 学科賞表彰式 履修登録確認	学科長講話(感想レポート提出)		レポートを完成させる 履修時間と単位の確認		
2: 交流会行事			交流会の内容と感想をまとめる		
3: 進路指導① 小テスト① ポートフォリオ作成			進路先の資料を調査しておく 小テストの予習 ポートフォリオ作成準備		
4: 香蘭祭ミーティング① 香蘭祭の企画 小テスト②			香蘭祭の内容をまとめる 小テストの予習		
5: 香蘭祭ミーティング② 2年生から1年生へプレゼンテーション 小テスト③			香蘭祭資料の作成をする 小テストの予習		
6: 就職支援講座 外部講師による支援 レポート			レポートを完成させる		
7: 香蘭祭ミーティング③ グループワーク 小テスト④			香蘭祭の資料をまとめる 小テストの予習		
8: 進路指導② 小テスト⑤			進路先の資料を調査しておく 小テストの予習		
9: 進路指導③ 小テスト⑥			進路先の資料を調査しておく 小テストの予習		
10: 香蘭祭ミーティング④ グループワーク 小テスト⑦			計画書作成 小テストの予習		
11: 進路指導④ 小テスト⑧			進路先の資料を調査しておく 小テストの予習		
12: 教育講演会 I 感想レポート提出			レポートを完成させる		
13: 香蘭祭ミーティング⑤ グループワーク 小テスト⑨ 進路指導			香蘭祭の計画をまとめる 小テストの予習		
14: ポートフォリオの作成 小テスト⑩ 進路指導			ポートフォリオを作成する 小テストの予習		
15: 後期履修指導 前期単位数の確認 夏休みの就職活動計画			後期の履修計画案を作成する		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 準備学習は、各回30分程度行うこと。 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書 小テストの内容に準じたテキストを使用する その他必要な資料は配布する					
VI. 評価方法と評価基準 授業貢献度50% 小テスト 30% 課題レポート10% 学修ポートフォリオ10%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等) 学校行事や学科行事・クラス行事等の企画内容により、時間外の学習時間が必要となる場合がある。 各レポート等は、コメントでフィードバックする。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
総合演習Ⅳ	FA10104	開講時期:	3・4期	単位:	1単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	卒業必修		
専任教員		免許・資格など			
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。					
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。					
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。					
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。					
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。					
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。					○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。					◎
Ⅱ. 概要					
<p>本学ファッション総合学科での2年後期は、卒業後の進路や人生設計に向かって具体的に行動するとともに、社会人として自立できる力を養うことが必要となってくる。総合演習Ⅳでは、主に卒業後の社会人としての心構えや基礎的なマナーなどを身につけることを目的とした指導を行う。またファッションのプロとして自立できる力を養う。</p>					
Ⅲ. 学習成果					
社会人として自立できる力を身につけることができる。					
Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: 履修登録確認 進路指導① 小テストについて			履修の確認 1・2期の進路活動シートの記入		
2: 全体集会 後期の計画をたてる 学習・進路面での目標 小テスト①			小テストの予習 計画表を作成する		
3: 学科長講話 卒業制作展に向けて 小テスト② ポートフォリオの作成			小テストの予習 ポートフォリオの作成		
4: 進路支援講座 進路活動の振り返り 小テスト③			小テストの予習		
5: 抗ストレス講座			アンケートを完成させる		
6: 香蘭祭ミーティング 各グループに分かれて活動 小テスト④			小テストの予習		
7: 学科賞表彰式 香蘭祭反省会 小テスト⑤			香蘭祭の振り返りシートを作成する 小テストの予習		
8: 進路体験報告会(1年生へのアドバイス会) 就職未決定者は面談			報告会の準備をする		
9: 進路支援講座 進路を決定できない学生への支援講座			未決定者・進路活動の振り返りシートを作成する 決定者・・・3・4期目標達成のための資料を作成する		
10: 進路指導2 未決定者指導 決定者支援 小テスト⑥			小テストの予習		
11: 教育講演会Ⅱ 感想レポート提出			レポートを完成させる		
12: 進路指導③ 未決定者指導 決定者支援 小テスト⑦			小テストの予習		
13: 進路支援講座「社会人へ向けての心構え」 感想レポート提出 小テスト⑧			レポートを完成させる 小テストの予習		
14: 卒業時調査・学生マナー調査 小テスト⑨			小テストの予習		
15: 2年間の振り返り 卒業に向けて 小テスト⑩ ポートフォリオの作成・提出			ポートフォリオの記入・提出 小テストの予習		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 準備学習は、各回30分程度行うこと。 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。					
Ⅴ. 教科書・参考図書					
小テストの内容に準じたテキストを使用する その他必要な資料は配布する					
Ⅵ. 評価方法と評価基準					
授業貢献度50% 小テスト 30% 課題レポート10% 学修ポートフォリオ10%					
Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等) 学校行事や学科行事・クラス行事等の企画内容により、時間外の学習時間が必要となる場合がある。 各レポート等は、コメントでフィードバックする。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
卒業研究 I	FA20103	開講時期:	1・2期	単位:	1単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	卒業必修		
専任教員		免許・資格など			
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)		
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)		本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。		○
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。		◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。		○
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。		
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。		○
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。		◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。		◎

II. 概要
卒業研究は、作品制作もしくは論文をもって研究する。卒業研究 I では、研究テーマを設定し、調査・分析を行う。制作の場合は、リサーチからデザイン画の決定、素材の試作などに取り組む。論文の場合は、テーマの設定、既往研究や書籍の収集、調査方法の検証などをまとめ骨子を組み立てる。

III. 学習成果
研究テーマに沿って、リサーチや分析する力を身につく。造形的に表現することや、理論的に検証する技術が身に付く。課題に対して解決する方法やチャレンジする精神力を養う。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容		
授 業 内 容		準備学習(予習・復習)内容
1:導入 制作グループ テーマについて	1:導入 論文グループ テーマについて	テーマについて調査する
2:調査研究の資料収集①	2:図書館の使用方法について 論文や専門書の検索方法	図書館を利用した資料収集や市場調査の計画をたてる
3:調査研究の資料収集②	3:文章を書いてみる テキストの使い方	各グループごとに、担当教員と内容を確認しながら調査内容をまとめる
4:調査研究の資料収集③	4:論文とはなにか 課題をみつける	課題や調査資料をファイルにまとめる
5:調査研究の資料収集④	5:既往研究の調査	論文や作品などを調査し、研究テーマを具体的に設定する
6:テーマの決定①	6:論文の計画	担当教員とテーマにあわせた研究内容を決定し、プロセスをまとめる
7:テーマの決定②	7:テーマにあわせた研究活動①	担当教員と意見交換や指導内容を通し、各自の課題に取り組む
8:デザイン提案①	8:テーマにあわせた研究活動②	担当教員と意見交換や指導内容を通し、各自の課題に取り組む
9:デザイン提案②	9:テーマにあわせた研究活動③	担当教員と意見交換や指導内容を通し、各自の課題に取り組む
10:デザイン提案③	10:テーマにあわせた研究活動④	担当教員と意見交換や指導内容を通し、各自の課題に取り組む
11:試作と検証① 素材の試作と選定	11:テーマにあわせた研究活動⑤	担当教員と意見交換や指導内容を通し、各自の課題に取り組む
12:試作と検証②	12:テーマにあわせた研究活動⑥	担当教員と意見交換や指導内容を通し、各自の課題に取り組む
13:試作と検証③	13:テーマにあわせた研究活動⑦	担当教員と意見交換や指導内容を通し、各自の課題に取り組む
14:ポートフォリオの作成	14:研究ファイルの作成	ポートフォリオには、テーマ・リサーチの内容・デザイン画・試作を含む 研究ファイルには、活動報告・テーマの設定・既往研究のまとめ等を含む
15: 卒業研究 I のまとめ ポートフォリオの提出	15: 卒業研究 I のまとめ 研究ファイルの提出	制作グループはポートフォリオを完成させる 論文グループは研究ファイルを完成させる

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
準備学習の時間は毎回30分以上はおこなうこと
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
テーマに沿った参考資料

VI. 評価方法と評価基準
ポートフォリオ・研究ファイルの提出60% 学科の先生方の評価30% 学習の意欲10%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
卒業の集大成であるため、授業では使用したことのない手法や生地を使うことがある。
調査のための交通費や試作に必要な生地、付属品の費用を必要とする。
課題に関してはコメントを添えて個別にフィードバックを行う

2 共通必修科目
年

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
卒業研究Ⅱ	FA20104	開講時期:	3・4期	単位:	3単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	卒業必修		
専任教員		免許・資格など			
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1	一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。				
DP2	ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。				○
DP3	服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。				◎
DP4	ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。				◎
DP5	ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。				◎
DP6	修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				◎
DP7	専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。				◎
Ⅱ. 概要					
制作グループの学生は1・2期の卒業研究Ⅰの結果をふまえて、デザインとパターン、生地を選択、縫製方法との関係を研究しながら、シーティングでの型だしを行う。 研究論文のグループは、1・2期の卒業研究Ⅰの調査をふまえて、各自の論文を完成させる。					
Ⅲ. 学習成果					
各自のテーマそった、2年間の集大成となる作品を完成させる。					
Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1:導入 制作グループ 研究計画	1:導入 論文グループ 研究計画	夏季休暇中にデザインを決定しておく 計画書の提出			
2:シーティングの試作①	2:検証と執筆①	パターンや試作品の制作(デザイン決定のための試作品の制作) 論文の為の調査資料のまとめを進める			
3:シーティングの試作②	3:検証と執筆②	パターンや試作品の制作(デザイン決定のための試作品の制作) 論文の為の調査資料のまとめを進める			
4:シーティングの試作③	4:検証と執筆③	パターンや試作品の制作(デザイン決定のための試作品の制作) 論文の為の調査資料のまとめを進める			
5:シーティングの試作④	5:検証と執筆④	パターンや試作品の制作(デザイン決定のための試作品の制作) 論文の為の調査資料のまとめを進める			
6:シーティングの試作⑥	6:論文の計画 プレゼンテーションの練習	パターンや試作品の制作(デザイン決定のための試作品の制作) 研究内容をパワーポイントでまとめ、プレゼンテーションの練習を行う			
7:中間発表会 シーティングチェック	7:中間発表会 プレゼンテーション	制作グループはシーティングで試作し、プレゼンテーション及びポートフォリオの提出 論文グループは結論までの研究内容をパワーポイントで発表する			
8:本体制作① デザインと素材の決定	8:論文執筆①	本体制作 論文の作成			
9:本体制作②	9:論文執筆②	素材とデザインが決定していること。生地を組み立て発表する。 テーマ・目次・はじめに・研究方法など執筆し、査読用のファイルにまとめる			
10:本体制作③	10:論文執筆③	本体制作 論文の作成			
11:本体アドバイス会 冬休み中に進める内容を確認する	11:査読 論文提出	素材とデザインが決定していること。生地を組み立て発表する。 テーマ・目次・はじめに・研究方法など執筆し、査読用のファイルにまとめる			
12:本体制作① 冬休み中に進める内容を確認する	12:テーマにあわせた研究活動⑥	作品制作 論文の作成			
13:本体制作②	13:テーマにあわせた研究活動⑦	作品制作 論文の作成			
14:本体審査会 最終プレゼンと講評	14:査読 最終提出と講評	制作グループは完成した本体のプレゼンテーション及びポートフォリオの提出 論文の完成			
15:完成 コーディネートチェック 本体の完成とコーディネートの提案	15: 卒業論文のまとめ 論文の完成	コーディネートの準備(アクセサリー、その他の小物)レポート作成 論文の修正			
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 授業時間以外での制作の時間が必要となる。準備学習の内容は各ゼミにより異なるので、一例として明記している。 単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した135分を毎回必要とします。					
Ⅴ. 教科書・参考図書					
製作のための資料が必要である。					
Ⅵ. 評価方法と評価基準					
担当教員の評価(60%) 学科の先生方の評価(30%) 学習の意欲(10%)					
Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等) 卒業の集大成であるため、授業では使用したことのない技法や生地を使うことがある。 調査のための交通費や試作に必要な生地、付属品の費用を必要とする。 課題や作品、論文に対して、個別にコメントを添えてフィードバックを行う					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
デザイン概論	FA30106	開講時期:	1期	単位:	2単位
		形態:	講義		
		履修方法:	卒業選択必修		
		免許・資格など 履修要件:	ベーシックフィールド指定科目		
担当者		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	
青木 幹太					

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	本科目との関連
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	○
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	○
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
 ファッションは主に生地を加工して生産されるもの(プロダクト)であり、一般的にプロダクトデザインの領域に区分されるが、実際の現場ではブランドの情報発信に関わるグラフィックデザインや店舗やショールームの設計に関わる空間デザインなども関係が深い。ファッションデザインの現場では市場調査からコンセプトの立案、具体的なデザインワーク、衣類の生産・販売までのづくりのプロセスを踏む。本講義では、ファッションデザインの概論として、デザインの歴史やデザインの領域、デザインワークのプロセスや方法など、実践を重視してデザインの基礎を学ぶ。

- III. 学習成果
- ①仕事としてのデザインが生まれる以前と以後を俯瞰し、デザインの歴史に関する知識を得る。
 - ②デザインの領域とその内容を学び、ファッションデザインの位置づけや他の領域との関係について理解が深まる。
 - ③デザインの現場のプロセスやその中で活用されるデザインの手法や方法を学び、実際のファッションデザインに応用できる。
 - ④デザインの社会的役割の広がりや示すコトのデザインやデザイン思考を理解し、将来、商品企画等の仕事に応用できる。

授業内容	準備学習(予習・復習)内容
1: 講義の背景や構成、それぞれのポイントの解説	好きなファッションブランドのデザインの特徴を書き出す。 講義の終わりに日常生活を振り返りデザイングッズのスケッチを行う。
2: デザインの歴史(1) 産業革命からアールヌーボーまでの変遷	産業革命やアールヌーボーについて、書籍やSNS等で調べる。 講義の終わりにデザイン運動や人名について感想文を書く。
3: デザインの歴史(2) ドイツ工作連盟の設立からバウハウス開設	ドイツ工作連盟やバウハウスについて、書籍やSNS等で調べる。 講義の終わりにデザイン運動や人名について感想文を書く。
4: デザインの歴史(3) アメリカにおけるデザイナーの出現から今日まで	アメリカのデザイナーのレーモンド・ローウィについてSNS等で調べる。 講義の終わりにデザインの歴史を学ぶことで得られたことなどを記述する。
5: デザインの領域(1) デザインの領域と内容 モノのデザイン	デザインの領域がどのように分類されているか書籍やSNS等で調べる。
6: デザインの領域(2) デザインの領域と内容 情報、空間のデザイン	ビジュアルデザイン、スペースデザインの意味を書籍やSNS等で調べる。 講義の終わりに店舗のPOPのデザイン実務を体験する。
7: デザインプロセス(1) 現状調査・情報収集	デザインプロセスの言葉の意味やその内容について、SNSで調べる。 講義の終わりに、設定したデザインテーマに関する情報をSNSで調べる。
8: デザインプロセス(2) コンセプト設定	コンセプトの言葉の意味や内容について、SNS等で調べる。 講義の終わりに、設定したデザインテーマに関するコンセプト設定を行う。
9: デザインプロセス(3) アイデア発想とその方法 マインドマップ	アイデアを生み出す発想法のマインドマップについて、SNS等で調べる。 授業の終わりに、マインドマップのワークショップを行う。
10: デザインプロセス(4) アイデア発想とその方法 ブレインストーミング	集団思考法のブレインストーミングについて、SNS等で調べる。 授業中、講義内容に沿ってブレインストーミングのワークショップを行う。
11: デザインプロセス(5) ペルソナ法・シナリオ法	ペルソナ法・シナリオ法の言葉の意味について、SNS等で調べる。 授業の終わりに、デザインテーマの課題解決のストーリー制作を行う。
12: デザインプロセス(6) アイデアの可視化 スケッチ・モデリング	ファッションデザインにおけるスケッチの役割について、SNS等で調べる。 講義の終わりに、デザインテーマに関するアイデアをスケッチで表現する。
13: デザインプロセス(7) プレゼンテーション	プレゼンテーションの言葉の意味について、SNS等で調べる。 ブレインストーミングの成果をチーム別にプレゼンテーションする。
14: デザイン思考 デザインにおける課題解決	デザイン思考という言葉の意味を、SNS等で調べる。 講義の終わりに、設定したデザインテーマについて企画書にまとめる。
15: 講義の振り返り 第1回から第14回までの講義を振り返り、そのポイントを解説する	第1回から第14回までに配布した授業資料を持参する。

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 準備学習については、毎回の授業で具体的に説明します。デザインに関連するキーワードは、準備学習として課題として提示します。
 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した180分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
 教科書は使用しません。参考図書は授業の中で紹介します。授業では教員が作成した資料を配布し、その資料を使って講義します。

VI. 評価方法と評価基準
 単位認定試験(80%) 講義中や講義の終わりに実施するワークショップ、グループワーク、プレゼンテーションの成果(20%)から総合的に評価します。

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 ①講義中や講義の終わりに実施したワークショップやグループワーク等のフィードバックについては、優れたものを選考し次の講義の始めに紹介するとともに、その内容についてディスカッションを行います。
 ②授業中に質問時間を設け、履修者が自由に発言する機会を提供します。
 ③講義と並行して講義の内容に沿ったワークショップを行います。事前に準備するものを連絡しますので、次の授業の際に忘れないようにしてください。
 ④講義はスライドと配布した資料を使って実施します。資料にはポイントとなる言葉や文章をスライドを見て記入するようになっているので、確実にメモしてください。

2 指定科目
 年目

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
ユニバーサルファッション	FA30107	開講時期:	2期	形態:	講義
担当者		履修方法:	卒業選択必修	単位:	2単位
青木 幹太		免許・資格など	ベーシックフィールド指定科目		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	○
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	○
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	○
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	◎

II. 概要
 私たちが日常生活や社会生活で身につける衣服は、子供から高齢者まで、また健康な人から身体に障がいがある人まで、多様な人々を対象にデザインされています。本講義では、ファッションデザインに関わる際に、その対象となるユーザーの多様性を認識、理解し、快適で機能的な衣服をどのように具体化していくのか、そのための人間を中心としたデザインの考え方やその方法を習得することを目的としています。講義では、簡単な実験やグループワークを通して、人間の動作特性等を理解し、ユニバーサルファッションの基礎的な考え方や方法を学びます。

III. 学習成果
 ①ユニバーサルデザインの概念が出現するまでの歴史的経緯を理解し、ユニバーサルデザインを俯瞰して見るようになる。
 ②ユニバーサルデザインの原則とその具体的事例を今日の生活環境の中から探し出すことで、普段から問題意識を持って観察する習慣を身に付ける。
 ③ユニバーサルデザインにおける人間を中心としたデザイン方法を理解し、それをファッションデザインに生かす。
 ④社会生活のなかで障がいのある人などにどのように対応していくのか、ユニバーサルな思考や行動を意識する。

授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: 講義の背景・ユニバーサルデザインの考え方	ユニバーサルデザインの言葉の意味をSNS等で調べておく。講義のおわりに、高齢者の衣服で不便を感じることをSNSで調べる。
2: ユニバーサルデザインのルーツを探る(1) ノーマライゼーションからバリアフリーデザインまで	ノーマライゼーション、バリアフリーデザインの言葉の意味を書籍、SNS等で調べる。
3: ユニバーサルデザインのルーツを探る(2) 国際障害者年からユニバーサルデザインの出現まで	ユニバーサルデザインの提唱者であるロナルド・メイスについて書籍、SNS等で調べる。
4: ユニバーサルデザインの原則と具体的事例(1) 原則1から原則3までの内容と具体例	ロナルド・メイスが提唱したユニバーサルデザインの7原則について書籍、SNS等で調べる。
5: ユニバーサルデザインの原則と具体的事例(2) 原則4から原則7までの内容と具体例	ユニバーサルデザインの7原則をファッションデザインの視点から、具体的な事例を書籍、SNS等で調べる。
6: ユニバーサルデザインの類似概念とその内容 デザインフォーオール、インクルーシブデザインなど	ユニバーサルデザイン及びその類似概念について、書籍やSNS等で調べる。
7: 人間中心設計(1) 使いやすさとは何か? 身近な道具の使いやすさをデザインする	人間中心設計という言葉の意味を書籍やSNS等で調べる。講義の中で、利き手と非利き手の巧緻性の違いを検証する実験を行う。
8: 人間中心設計(2) 人間の身体特性を学ぶ	人間の身体寸法や関節可動域など、身体特性について書籍やSNS等で調べる。
9: 人間中心設計(3) 身体的な障がいの種類やその特性を学ぶ	身体に障がいがある人を対象としたファッションデザインについて、書籍やSNS等で調べる。
10: ユニバーサルファッションの展開(1) 車いす使用者や杖使用者のファッションを考える	脊髄損傷や脳血管障害等の原因や心身に出現する症状について、書籍やSNS等で調べる。
11: ユニバーサルファッションの展開(2) ファッションアイテムのユニバーサルデザイン	主に高齢者を対象とした靴を事例として、講義中にデザイン検討を行うので、高齢者を対象とした靴についてSNS等で調べる。
12: ユニバーサルファッションの展開(3) 知的障がいの児童のアート作品を生かしたファッションビジネスの可能性	知的障がい児童の現状について、SNS等で調べる。
13: ユニバーサルファッションの展開(4) 高齢者のファッションデザインを考える	高齢化による身体特性の変化について、SNS等で調べる。
14: ユニバーサルファッションの展開(5) ユニバーサルファッションの企画・デザイン	設定したターゲットに対して、講義で学習した人間中心設計の考え方等を踏まえて、日常生活に供する衣服の企画・デザインを行う。
15: ユニバーサルファッションの展開(6) ユニバーサルファッションのプレゼンテーション	配布した企画書に沿ってプレゼンテーションの準備を進める。

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 準備学習については、毎回の授業で具体的に説明します。またワークショップ等で準備する材料や道具も事前にお知らせします。単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した180分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
 教科書は使用しません。参考図書は授業の中で紹介します。授業では教員が作成した資料を配布し、その資料を使って講義を行います。

VI. 評価方法と評価基準
 単位認定試験(80%) 講義中や講義の終わりに実施するワークショップ、グループワーク、プレゼンテーションの成果(20%)から総合的に評価します。

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 ①講義中や講義の終わりに実施したワークショップやグループワーク等のフィードバックについては、優れたものを選考し次の講義の始めに紹介するとともに、その内容についてディスカッションを行います。
 ②授業中に質問時間を設け、履修者が自由に発言する機会を提供します。
 ③講義と並行して講義の内容に沿ったワークショップを行います。事前に準備するものを連絡しますので、次の授業の際に忘れないようにしてください。
 ④講義はスライドと配布した資料を使って実施します。資料にはポイントとなる言葉や文章をスライドを見て記入しようになっているので、確実にメモしてください。

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
コーディネート企画論	FA30208	開講時期:	1・2期	単位:	2単位
		形態:	講義		
		履修方法:	卒業選択必修		
		免許・資格など 履修要件他:	ベーシックフィールド指定科目		
担当者		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>
岡田 絵梨奈					

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	本科目との関連 ○
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	○

II. 概要
これまで学んだ知識や技術を応用し、様々な視点によって服飾デザインを造形的に理解します。
また、テーマに合わせたコーディネートを企画する上で必要な基礎知識や手順を習得し、
ファッションショーや商品企画、プレゼンテーションなどに効果的な表現力を身につけます。

III. 学習成果
ファッションのテーマに合わせたコーディネートを企画し、プレゼンテーションを行う際に必要なファッション用語、技術、提案力
及びコミュニケーション力を習得します。
デザインコンセプトを分析・考察することで、自己の企画力や表現力を身につけます。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション ・コーディネート企画を伝えるために	シラバスを読むこと
2: イメージ別によるコーディネートの企画① プレゼンテーション ・イメージについて考える ・クラシック	課題の作成 コーディネートの実践・発表の準備
3: イメージ別によるコーディネートの企画② プレゼンテーション ・エレガント ・ロマンティック	課題の作成 コーディネートの実践・発表の準備
4: イメージ別によるコーディネートの企画③ プレゼンテーション ・スポーティブ ・エスニックとフォークロア	課題の作成 コーディネートの実践・発表の準備
5: イメージ別によるコーディネートの企画④ プレゼンテーション ・マニッシュ ・モダン ・アヴァンギャルド	課題の作成 コーディネートの実践・発表の準備
6: イメージコーディネートの発表	担当するイメージのコーディネートを組み立てる 発表の準備をする
7: イメージボードの作成① ・イメージボードのテーマ設定	イメージボード制作に必要な素材の収集準備
8: イメージボードの作成② ・イメージの組み合わせ	イメージボード制作と必要な素材の収集準備
9: イメージボードの作成③ ・イメージの組み合わせ フォントの設定など	イメージボード制作と必要な素材の収集準備
10: イメージボードの作成④ ・発表	イメージボードの仕上げと発表の準備
11: コーディネート企画① ・テーマやコンセプトを設定する	季節や風土に合わせたコーディネートの資料を集め 衣装計画をたてる
12: コーディネート企画② ・コーディネートプラン コーディネートの決定	撮影のための準備とヘアメイクの設定 撮影場所の設定
13: コーディネート企画③ ・撮影した写真をつかって紙面を作成する	参考にしたい誌面やレイアウトなどを準備する
14: コーディネート企画④ ・コラージュ作成 エディトリアルデザイン	コーディネートを伝えるための文章を作成
15: コーディネート企画⑤ ・発表	発表の準備をする 提出課題の最終確認

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
課題プリントや調査など30分以上の準備学習が必要となります
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した180分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
教科書はありませんが、毎回テキストプリントを配布します。

VI. 評価方法と評価基準
課題提出物(50%)、実技評価(30%)、受講態度(10%)、学習への意欲(10%)
※ 原則として評価対象の課題は全て提出すること。また、提出の際は規定のファイル形式で提出すること。

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
ファッション雑誌を使用して課題を作成しますので、切り取りのできるファッション雑誌、のり、はさみ等が必要です
また、全ての課題については返却時や発表時に個別にコメントをフィードバックします。

「実務経験教員科目」特記事項:スタイリスト経験を活用し、コーディネートにおける共通言語の重要性を実践を通じて深めていきます。

2 指定
科 目
年 目

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
特別演習Ⅱ	FA30110	開講時期:	3期	単位:	1単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	卒業選択必修		
専任教員		免許・資格など	ベーシックフィールド指定科目		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1	一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。				○
DP2	ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。				○
DP3	服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。				○
DP4	ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。				○
DP5	ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。				○
DP6	修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				○
DP7	専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。				◎
II. 概要					
各自が授業以外にチャレンジしたいと思う内容を決め、実践する科目である。					
各フィールドで学んだ知識を実践的にチャレンジすることで、人間力および行動力を身につけ、ファッションの多様な職種にも対応できる能力を身につけることを目的とする。					
内容は次の3つから選択すること。(1)自主課題制作または研究 (2)デザインコンテストへの作品応募 (3)各種検定試験対策					
III. 学習成果					
様々なことにチャレンジすることにより、人間力や行動力を身につけることができる。					
主体的な学びができるようになる。					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1:	導入 特別演習Ⅰについての説明 活動計画表の作成		チャレンジする内容に合わせて、計画を立てる		
2:	各自のチャレンジ内容の申請		チャレンジの内容に合わせて、材料やテキスト、問題集等を準備をする。		
3:	各自のチャレンジ内容に応じた実習、研究、検定対策学習を行う① 活動計画表の記入		作品制作や検定対策問題の予習復習を行い、 疑問点や質問事項を見つけておくこと		
4:	各自のチャレンジ内容に応じた実習、研究、検定対策学習を行う② 活動計画表の記入		作品制作や検定対策問題の予習復習を行い、 疑問点や質問事項を見つけておくこと		
5:	各自のチャレンジ内容に応じた実習、研究、検定対策学習を行う③ 活動計画表の記入		作品制作や検定対策問題の予習復習を行い、 疑問点や質問事項を見つけておくこと		
6:	各自のチャレンジ内容に応じた実習、研究、検定対策学習を行う④ 活動計画表の記入		作品制作や検定対策問題の予習復習を行い、 疑問点や質問事項を見つけておくこと		
7:	各自のチャレンジ内容に応じた実習、研究、検定対策学習を行う⑤ 活動計画表の記入		作品制作や検定対策問題の予習復習を行い、 疑問点や質問事項を見つけておくこと		
8:	各自のチャレンジ内容に応じた実習、研究、検定対策学習を行う⑥ 活動計画表の記入		作品制作や検定対策問題の予習復習を行い、 疑問点や質問事項を見つけておくこと		
9:	各自のチャレンジ内容に応じた実習、研究、検定対策学習を行う⑦ 活動計画表の記入		作品制作や検定対策問題の予習復習を行い、 疑問点や質問事項を見つけておくこと		
10:	各自のチャレンジ内容に応じた実習、研究、検定対策学習を行う⑧ 活動計画表の記入		作品制作や検定対策問題の予習復習を行い、 疑問点や質問事項を見つけておくこと		
11:	各自のチャレンジ内容に応じた実習、研究、検定対策学習を行う⑨ 活動計画表の記入		作品制作や検定対策問題の予習復習を行い、 疑問点や質問事項を見つけておくこと		
12:	各自のチャレンジ内容に応じた実習、研究、検定対策学習を行う⑩ 活動計画表の記入		作品制作や検定対策問題の予習復習を行い、 疑問点や質問事項を見つけておくこと		
13:	各自のチャレンジ内容に応じた実習、研究、検定対策学習を行う⑪ 活動計画表の記入		作品制作や検定対策問題の予習復習を行い、 疑問点や質問事項を見つけておくこと		
14:	各自のチャレンジ内容に応じた実習、研究、検定対策学習を行う⑫ 活動計画表の記入		作品制作や検定対策問題の予習復習を行い、 疑問点や質問事項を見つけておくこと		
15:	活動レポートまたは作品の完成 最終報告書の作成		活動計画表の提出、作品の場合は作品の提出の準備 報告書をまとめる		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 先生に習うのではなく、主体的に学ぶことが目的であるため、予習、復習を十分に行い、疑問点を見つけて授業に臨むこと。 単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書 各自のチャレンジに応じて、教科書や資料を準備する。					
VI. 評価方法と評価基準 チャレンジの内容 計画への取り組み度 (活動状況) 最終報告書 などを総合的に評価する。 学習ルーブリックによる評価100%。評価内容は事前に伝える。					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等) 疑問点を見つけ出し、わからないことは専門の先生に質問して解決すること。 毎回の報告内容に対して、コメントでフィードバックします。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
消費科学	FA40108	開講時期:	1期	単位:	2単位
担当者		形態:	講義		
後藤 直子		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など	教養科目		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	○
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
 ここ数年、消費者、特に若者が悪質商法などのトラブルに巻き込まれる例が後を絶たない。それもクレジットを組んだものも多く、後々まで借金に悩まされてしまうという人もいる。このような被害から身を守るためにはどうしたらよいか、被害にあったらどうしたらよいかを考える。私たちが過ごしやすい快適な毎日を送るために、生涯生活全般にわたって様々な観点から検討を加え、消費者としての自覚を持ち、よりよい消費生活を追求する。

III. 学習成果
 ・消費者問題全般についての基本的な知識を身につける。
 ・利息の計算ができるようになる。
 ・被害にあった場合の相談場所や対処法についての知識を身につける。
 ・消費者としての自覚を持つようになる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: 消費者問題とは何か ・消費者問題の歴史 ・様々な消費者問題	シラバスをよく読んでおくこと。左記のテーマに沿って自分でも書籍・雑誌・新聞記事やインターネット等で情報を収集してくること。
2: 悪質商法 ・悪質商法のいろいろ	左記のテーマに沿って自分でも書籍・雑誌・新聞記事やインターネット等で情報を収集してくること。
3: マルチ商法 ・救済方法	左記のテーマに沿って自分でも書籍・雑誌・新聞記事やインターネット等で情報を収集してくること。
4: 消費者の権利と義務 ・消費者としての自覚・国民生活センター・消費生活センター	左記のテーマに沿って自分でも書籍・雑誌・新聞記事やインターネット等で情報を収集してくること。
5: クレジット問題 ・クレジットカード・新聞記事にみるクレジット問題	左記のテーマに沿って自分でも書籍・雑誌・新聞記事やインターネット等で情報を収集してくること。
6: 借金の利息の計算をしてみる (利息は高いか安いのか?)	利息の計算ができるような課題をあたえるのでやってみる。授業内容に関するテーマについて関心を持つこと。
7: 多重債務と自己破産 ・問題対処法と救済方法・今後予測される問題	左記のテーマに沿って自分でも書籍・雑誌・新聞記事やインターネット等で情報を収集してくること。
8: 家庭の収入と支出 ・収入と支出・家計簿の必要性・生活設計(結婚・出産・教育・住宅取得・老後など)	左記のテーマに沿って自分でも書籍・雑誌・新聞記事やインターネット等で情報を収集してくること。
9: 事故などの情報 ・どこから情報をえるのか・安全な生活情報(衣・食・住)	左記のテーマに沿って自分でも書籍・雑誌・新聞記事やインターネット等で情報を収集してくること。
10: 地震(災害)・環境等 ・地震の歴史 ・環境について	左記のテーマに沿って自分でも書籍・雑誌・新聞記事やインターネット等で情報を収集してくること。
11: 家電製品 ・家電製品の歴史、値段、安全性、PL法	左記のテーマに沿って自分でも書籍・雑誌・新聞記事やインターネット等で情報を収集してくること。
12: 未来(ロボット・クローン・遺伝子組み換えなど)と消費者問題	左記のテーマに沿って自分でも書籍・雑誌・新聞記事やインターネット等で情報を収集してくること。
13: 高齢者と消費者問題	左記のテーマに沿って自分でも書籍・雑誌・新聞記事やインターネット等で情報を収集してくること。
14: 発表について 発表テーマ決め・準備	発表テーマを考えておく。発表するグループ員を決めておく。発表する内容を調べる。
15: 発表、まとめ・今後の課題	発表できるようにまとめてくること。他人の発表に関心を持って、更に自分でも調べてみる。今までの授業内容を復習してみる。

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 消費者問題に関わる映画やビデオなどを参考にし新聞記事などの相談事例を挙げ、出来るだけ具体的な事例を基に授業するので、他人事と考えず、その立場になった場合の対処方法や相談場所などを知り、日頃から消費者問題に関心を持つよう新聞やニュースを見るようにする。準備学習は各回30分以上行うこと。単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した180分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
 参考図書:「新生涯消費者教育論」見洋書房 奥村美代子・谷村賢治編 ・「くらしの豆知識」国民生活センター ・「Newton」ニュートンプレス
 その他、資料配布する。悪質商法など消費者問題に関するビデオ・DVDや映画、新聞記事などを参考に。教科書は使用しない。

VI. 評価方法と評価基準
 レポート(70%) 発表(20%) 学習の意欲(10%)

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 上記したとおり、他人事と考えず、消費者問題に関心を持ち、日頃から新聞やニュースを見ることを期待している。授業中は携帯電話をしまうこと。私語などしない。発表については、自分のためになるようなものを調べ、他人にもわかりやすいものにしてほしい。課題や発表についてのフィードバックはその都度、参考になるような点についての紹介や意見などを行う予定。何事に対しても冷静な判断力を身に付けることが出来るような教育を行っている。

2 教養
科
年
目

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
社会と心理	FA40106	開講時期:	1・2期	単位:	2単位
		形態:	講義		
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	教養科目		
遠矢 幸子		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	○
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	○

II. 概要
 本講義は、『対人魅力』『社会的スキルとアサーション』『集団の中での他者の影響性』の三点に関連したテーマに従って進められる
 まず、対人魅力の規定因について実習を含めて明らかにした上で、他者との関係を相手に感じる魅力と対人関係の親密化過程から考察する。
 次に、対人関係に関わる技能として社会的スキルおよびアサーションについて学び、コミュニケーションの躓きの問題をスキルの観点から捉える。
 さらに、他者の存在が個人に与える直接的、間接的影響性について集団特性を踏まえて学ぶ。

- III. 学習成果
- 1 対人関係の構築に影響する対人魅力のメカニズムについて説明できる
 - 2 社会的スキルおよびアサーションに関する知識を習得し、自らのコミュニケーション特徴を把握した上でより有効な方法を実践できる。
 - 3 集団の中で他者から受ける直接的影響性だけでなく、間接的影響性についても理解し説明できる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1:対人魅力とは	対人魅力研究の歴史についてまとめる
2:人の魅力について考える 個人ワークとグループ・ワーク	人の魅力を決める要因についてのグループ・ワーク結果をまとめる
3:対人魅力の三成分	対人魅力を捉える三成分とその測定方法についてまとめる
4:対人魅力の規定因	自分たちで考えた人の魅力一覧にその他の要因も加えてまとめる
5:自分の対人魅力の特徴について知る	LETS2の結果をまとめて振り返りレポートを作成する
6:社会的スキル① 自分の社会的スキルを知る	社会的スキル(kiss18)の結果について振り返りレポートを作成する
7:社会的スキル② 社会的スキルの特徴	社会的スキルの特徴についてまとめる
8:アサーション① アサーション度チェック	自分のアサーション度について振り返りレポートを作成する
9:アサーション② 4つの対人反応との特徴	他者に対する4つの反応パターンの具体例についてまとめる
10:アサーション③ アサーティブに振舞うためのポイント	アサーションに必要な要素についてまとめる
11:アサーショ④ ケースで考えるアサーション(グループ・ワーク)	グループ・ワークで話し合った結果をまとめる
12:問題のあるコミュニケーションの特徴とクリティカル・シンキング	自分の言葉の使い方と思考の特徴についてまとめる
13:集団の中での他者の影響性① 集団の特性	集団と群衆の相違点とそれぞれの具体的な例についてまとめる
14:集団の中での他者の影響性② 集団規範	自らが経験した集団規範についてまとめる
15:集団の中での他者の影響性③ リーダーシップ	効果的なリーダーシップのあり方についてまとめる

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 準備学習は、各回30分以上行うこと。内容については毎回の授業で説明する。
 単位修得のためには、各回について上の準備学習時間に自主学習を足した180分を必要とします。

V. 教科書・参考図書
 教科書は使用しない。 教員作成資料を配布する。
 参考図書:授業中に紹介する

VI. 評価方法と評価基準
 単位認定試験 70% グループ・ワークや実習後の振り返りレポート 10% 学習の意欲 20%
 授業における話し合いへの積極的な参加、授業中の不必要なスマートフォンの使用や居眠り等は「学習の意欲」の評価対象とする。

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 本講義では、授業で得た知識を自らの経験を検証しながら学ぶ姿勢を重視するため、それぞれの意見や考えを表明する必要がある。
 実習結果や振り返り表に記入した内容に関しては、教員が授業中にフィードバックする。

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
韓国語	FA40112	開講時期:	1・2期	単位:	2単位
担当者		形態:	講義		
権 英姫		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など	教養科目		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	本科目との関連 ○
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要

この講義では、韓国語の文字であるハングルの起源と構成を学び文字の読み書きと初歩的な会話を学びます。日・韓の言語表現の共通性や相違点を学び両国の文化理解に繋がります。

III. 学習成果

- 1、ハングル文字の発音のコツをつかみ、楽しく読むことができます。
- 2、毎講義の点呼時の「あいさつ語録」から韓国語の抑揚や音の響きが理解できます。
- 3、ハングル文字の習得と目標とした単語や語彙、会話の達成により自信と意欲を向上することができます。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1:韓国語の起源 ハングル文字の由来と特徴と文字の構成 第1課 基本母音字	ハングル文字がユネスコの世界遺産(記録遺産)登録されていること ハングル文字の起源や由来の事前検索をする。
2:第2課 基本子音字	ハングル文字の構成を理解して「ハングル表①」を繰り返し読む。 課題の単語をノートに書きフリガナを書く。そして、単語の暗記。
3:発音のルール 有声音化	例題の単語をノートに書きフリガナをつけて繰り返し読む練習をする。 単語の暗記
4:濃音	例題の単語をノートに書きフリガナを付けて音の違いを理解し声を出しながら練習する。
5:合成母音	「ハングル表②」口の形を確認しながら発音の練習をする。 例題の単語をノートに書きフリガナを付けて音の違いを理解する。
6:終声子音字(パッチム)	テキストと配布のプリントの内容をしっかりと読み理解する。 用例の単語をノートに書きフリガナをつけて読む練習をする。
7:発音のルール 連音化(リエゾン)	テキストと配布プリントの発音ルールの内容をしっかりと理解する。 配布プリントの練習問題を解く。
8:会話編 第1課 丁寧形・主題の助詞	テキストの文法と解説を読み内容を理解する。 練習問題を解く。
9:初対面の挨拶	実際の場面を想定して初対面の挨拶の練習をする。
10:自己紹介 (対面で、人数が多い場合は数名のグループで自己紹介をする)	実際の場面を想定して自己紹介の練習をする。
11:代名詞(事物)	物の代名詞を覚える。講義で学んだ質問のフレーズを覚える。 単語を置き換えて答える練習をする。
12:代名詞(場所) 疑問詞(いつ、どこ、だれ、なに、いくら、なぜ...)	場所の代名詞を覚える。 それぞれの疑問詞を覚える。
13:漢数詞(日付、電話番号、価格...)	漢数詞を覚える。 日付や電話番号を言える練習をする。
14:曜日	月曜日から日曜日を覚える。 曜日の質問フレーズを覚えて練習する。
15:固有数詞(時間、助数詞...)	固有数詞を覚える。 時間や年齢の質問や答え方の練習をする。

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
次回学習単元のフレーズをノートに書きふりフリガナをつけて提出します。正しい読み方の指導をします。準備学習は、各回10分程度行うこと。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した180分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書

配布資料プリント: 1, ハングル表①② 2, あいさつ語録①② 3, ハングル年表 4, ハングルの成り立ち
テキストプリント一式・練習問題プリント

VI. 評価方法と評価基準

単位認定試験(75%)課題の提出(10%)受講態度(10%)読み・会話テスト(5%)

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
授業中の私語、居眠り、許可のないスマートフォンの使用は禁止です。
毎講義は「あいさつ語録」の会話から始めます。日常の簡単で便利なあいさつを習得するため、毎回、学び覚えたフレーズを書いて提出します。
提出課題は添削し次回の講義で答え合わせをし解説します。場合に応じて、個別に発音の指導を行います。
繰り返しの読みの練習がおのずとスラスラと読めることを実感します。楽しく意欲をもって韓国語の習得に取り組みしましょう。

2 教
養
科
年
目

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
経済学	FA40107	開講時期:	2期	単位:	2単位
		形態:	講義		
担当者		履修方法:	卒業選択		
手嶋 康則		免許・資格など	教養科目		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1	一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。				○
DP2	ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。				
DP3	服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。				
DP4	ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。				
DP5	ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。				
DP6	修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				◎
DP7	専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。				
II. 概要					
<p>日本経済は、現在大きな転換期を迎え、生活に必要なさまざまなモノやサービスが軒並み値上がりして、私たちの暮らしを圧迫しています。これからの人生を考えたとき、私たちはどのように収入を得て、何を求め、豊かさを楽しむのでしょうか。本授業では、受講生の人生設計を考えつつ、暮らしの中の経済を学んでいきます。加えて、タイムリーな時事ニュースをテーマに取り上げ、受講生がニュースについてどのような意見を持っているか確認するアクティブラーニングを取り入れることで、より深く考察することを狙っています。</p>					
III. 学習成果					
<p>1. 家庭経済の基本的な知識を習得し、経済用語の意味を理解している。</p> <p>2. 経済の時事ニュースから要点を抜き出し自分のお意見を主張することができる。</p>					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: 資産について			シラバスを読み、ネットニュースを検索しておく 授業内容の感想と質問をまとめる		
2: 家計について			ネットの経済ニュースから気になるテーマを選んでまとめておく 授業内容の感想と質問をまとめる		
3: 賃金について			ネットの経済ニュースから気になるテーマを選んでまとめておく 授業内容の感想と質問をまとめる		
4: 物価について			ネットの経済ニュースから気になるテーマを選んでまとめておく 授業内容の感想と質問をまとめる		
5: 税金について			ネットの経済ニュースから気になるテーマを選んでまとめておく 授業内容の感想と質問をまとめる		
6: 社会保障について			ネットの経済ニュースから気になるテーマを選んでまとめておく 授業内容の感想と質問をまとめる		
7: 雇用について			ネットの経済ニュースから気になるテーマを選んでまとめておく 授業内容の感想と質問をまとめる		
8: 保険について			ネットの経済ニュースから気になるテーマを選んでまとめておく 授業内容の感想と質問をまとめる		
9: 預金と投資について			ネットの経済ニュースから気になるテーマを選んでまとめておく 授業内容の感想と質問をまとめる		
10: 投資と将来設計について ※アクティブラーニング 課題の発表			ネットの経済ニュースから気になるテーマを選んでまとめておく 授業内容の感想と質問をまとめる		
11: 為替について			ネットの経済ニュースから気になるテーマを選んでまとめておく 授業内容の感想と質問をまとめる		
12: 人口問題について			ネットの経済ニュースから気になるテーマを選んでまとめておく 授業内容の感想と質問をまとめる		
13: 食料問題について			ネットの経済ニュースから気になるテーマを選んでまとめておく 授業内容の感想と質問をまとめる		
14: 環境&衣料問題について			ネットの経済ニュースから気になるテーマを選んでまとめておく 授業内容の感想と質問をまとめる		
15: まとめ ※アンケート			ネットの経済ニュースから気になるテーマを選んでまとめておく 授業内容の感想と質問をまとめる		
*準備学習(予習・復習)についての補足説明					
□予習(1.5時間): ネットの経済ニュースをまとめ、分からない用語は事前に意味を調べる。					
□復習(1.5時間): 振り返りテストで間違った箇所の復習をする。					
V. 教科書・参考図書					
□教科書はありません。					
□資料を適宜配布します。					
VI. 評価方法と評価基準					
□試験70%					
□振り返りテスト20%					
□積極的な授業への参加、発表など10%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)					
◇毎回振り返りテストを実施します。テストは採点后、授業の中でフィードバックします。					
◆経営学(修士)を修得しています。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
中国語	FA40111	開講時期:	3・4期	単位:	2単位
		形態:	講義		
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など 履修要件他:	教養科目		
担当者	アクティブラーニング科目:		○	実務経験教員科目:	
徐 亦猛					

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	○
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
 基本表現を網羅した日常会話と練習に重点を置いた総合的中国語基礎能力の養成。課程を修了後、中国語中検準4級・4級もしくはHSK1級・2級に挑戦できる語学能力を身につけることを目指す。

III. 学習成果
 1. 1000程度の単語を身につける。
 2. 60程度の文法表現を習得する。
 3. 基本的な挨拶言葉と日常用語を掌握する。

授業内容	準備学習(予習・復習)内容
1: 発音 ①声調、②単母音、③子音	録音教材を用いて、授業で学習した発音(ピンイン)を復習。
2: 発音 ①複母音、②鼻母音、③声調	録音教材を用いて、授業で学習した発音(ピンイン)を復習。
3: 自己紹介 ①人称代名詞、②動詞“是”、	録音教材を用いて、自己紹介に馴染む。 新出語句、ポイントを復習、練習問題を宿題として完成
4: 自己紹介(2) ①副詞“也”、②“請”	録音教材を用いて、授業で自己紹介の文を作る。 新出語句、ポイントを復習、練習問題を宿題として完成
5: これは中国語の教科書です ①指示代名詞、②疑問詞“什么、谁、哪个”	録音教材を用いて、指示代名詞の使い方に馴染む。 新出語句、ポイントを復習、練習問題を宿題として完成
6: マクドナルドへ行きましょう ①動詞述語文、②文末助詞“吧/呢”、③時間の語順の確認	録音教材を用いて、動詞述語文の会話文を作る。 新出語句、ポイントを復習、練習問題を宿題として完成
7: 明日の天気はあまり良くない ①形容詞述語文、②程度副詞、③主述述語文	録音教材を用いて、形容詞述語文の使い方に馴染む。 新出語句、ポイントを復習、練習問題を宿題として完成
8: 私は今年18歳です ①数量の言い方、②所有を表す“有”、③名詞述語文	録音教材を用いて、名詞述語文の会話文を作る。 新出語句、ポイントを復習、練習問題を宿題として完成
9: 食堂は図書館の向かいにあります ①場所代名詞、②方位詞、③所在を表す“在”	録音教材を用いて、場所代名詞と方位詞の使い方に馴染む。 新出語句、ポイントを復習、練習問題を宿題として完成
10: 私は夜11時に寝ます ①時刻を表す語、②動詞“喜欢”	録音教材を用いて、時刻の会話文を作る。 新出語句、ポイントを復習、練習問題を宿題として完成
11: 私は中日辞典を1冊買いに行きたい ①助動詞“想”、“会”、②連動文	録音教材を用いて、連動文の会話文に馴染む。 新出語句、ポイントを復習、練習問題を宿題として完成
12: 私は本屋でアルバイトをしています ①介詞の“对”、“给”、②介詞の“在”、“跟”	録音教材を用いて、介詞の会話文に馴染む。 新出語句、ポイントを復習、練習問題を宿題として完成
13: 冬休みあなたはどこに行きましたか ①完了を表す“了”	録音教材を用いて、完了を表すの会話文に馴染む。 新出語句、ポイントを復習、練習問題を宿題として完成
14: 冬休みあなたはどこに行きましたか ①経験を表す“过”、②時を表す語(時間詞)	録音教材を用いて、経験の言い方の会話文に馴染む。 新出語句、ポイントを復習、練習問題を宿題として完成
15: まとめ	文法の復習

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 予習は特に要求しないが、復習は必ず行うこと。聞き流しでもいいから、録音を繰り返し聞くこと。準備学習時間(復習)は毎回60分以上としてください。
 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した180分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
 改訂版『グッと入門中国語』(芦田久美子・氷野善寛・王牧 金星堂)

VI. 評価方法と評価基準
 単位認定試験: 70%
 学習の意欲: 30%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 宿題を必ず完成すること。勉強と無関係の携帯電話の使用は控えること。
 毎回の練習問題は課題として完成し提出してください。提出された課題は、コメントをつけて返却します。

2 教養
 科目
 年目

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
ビジネス英語	FA40114	開講時期:	3・4期	単位:	2単位
		形態:	講義		
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など 履修要件:	教養科目		
担当者		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
矢野 美貴和					

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	◎
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	◎

II. 概要

国際社会のコミュニケーションツールとして英語は重要な分野であり、幅広くコミュニケーション能力が求められています。授業では、ビジネスの場面を想定し、仕事の現場での実務的な英語、社会人として望ましい心構えやビジネスマナー、ファッションビジネスに関する英語力を高めていきます。

III. 学習成果

学んだ事をベースにして、将来のキャリアに役立つような英語の基礎力を身につける事ができる。
 ビジネス場面に相応しい上品な英語表現を理解し、対応する事ができる。
 英語を通じて、自ら積極的にコミュニケーションを図ろうとする自信を持つ事ができる。

IV. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: 授業についてのオリエンテーション	授業概要を読んで本授業に期待する内容を考えておく。
2: 接客英語 あいさつ・簡単なやりとりについて	予習として、日本語でフレーズを考えておくこと。 習った内容でわからない箇所を復習し、フレーズを発音練習する。
3: 接客英語 よく使う必須フレーズ・言いがちなBAD表現について	予習として、日本語でフレーズを考えておくこと。 習った内容でわからない箇所を復習し、フレーズを発音練習する。
4: 接客英語 入店・店内案内について	予習として、伝えたい場所を考えておくこと。 習った内容でわからない箇所を復習し、フレーズを発音練習する。
5: 接客英語 会計について	予習として、シチュエーションを考えておくこと。 習った内容でわからない箇所を復習し、フレーズを発音練習する。
6: 接客英語 トラブル対処について	予習として、シチュエーションを考えておくこと。 習った内容でわからない箇所を復習し、フレーズを発音練習する。
7: 英語での商品知識(サイズ、素材etc...) について	専門用語の予習・復習。
8: ビジネス英語と日常英会話の違いについて	予習として、違いを考えてみる。 習った内容でわからない箇所を復習し、フレーズを発音練習する。
9: ビジネス英語 定番フレーズ あいさつ・自己紹介について	予習として、自己紹介文をまとめる。 習った内容でわからない箇所を復習し、フレーズを発音練習する。
10: ビジネス英語 定番フレーズ スマールトークについて	予習として、日本語でフレーズを考えておくこと。 習った内容でわからない箇所を復習し、フレーズを発音練習する。
11: ビジネス英語 メールの基本の書き方について	予習として、日本語でフレーズを考えておくこと。 授業で学習した内容の確認、復習する。
12: ビジネス英語 メールで使える例文・フレーズについて	予習として、日本語でフレーズを考えておくこと。 習った内容でわからない箇所を復習し、フレーズを発音練習する。
13: ビジネスで使いたい英単語について	予習として、日本語でフレーズを考えておくこと。 習った内容でわからない箇所を復習し、フレーズを発音練習する。
14: ビジネスで使う英数字に関する表現について	予習として、日本語でフレーズを考えておくこと。 習った内容でわからない箇所を復習し、フレーズを発音練習する。
15: 接客英語・ビジネス英語 まとめについて	授業で学習した内容の確認、復習する。

* 準備学習についての補足説明
 準備学習に必要な時間は各回1時間程度。

V. 教科書・参考図書

教科書は使用しません。教員作成資料を毎回配布します。
 参考図書: 接客の英会話、店員さんの英会話

VI. 評価方法と評価基準

単位認定試験(上記内容1~13から出題)50%、学習の意欲30%、小テスト20%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

英語の技能を習得するには、毎日、短時間でも英語に触れることです。自分に合った学習法を確立し、復習してください。
 授業では、積極的に取り組んでください。授業中の私語、プライベートでのスマートフォン使用は減点の対象です。
 課題や小テストに関しては、授業内もしくは個別にフィードバックします。
 授業時、終業時には必ず挨拶をします。ビジネスでの挨拶、お辞儀の角度を覚えましょう。

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
フランス語	FA40113	開講時期:	4期	単位:	2単位
		形態:	講義		
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など 履修要件他:	教養科目		
担当者		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
村上 舞					

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	○
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
フランス語を初めて学ぶ学生を対象に、フランス語の基礎を学びます。フランス語の会話の聞き取り、文法学習、ペアやグループでの学習などを通して、フランスの日常生活のさまざまなシーンにおけるコミュニケーションの仕方を総合的に学びます。また、フランス語圏の文化についても触れます。各課にあるdialogueの理解、関連した文法事項の学習、口頭練習、練習問題を通して、フランス語の基礎となる知識と基本的な表現を確実に身につけます。

III. 学習成果
①フランス語の簡単な会話ができる
②フランスの文化や社会について知識を得る
③ペア・グループワークを通して、学びを共有し深めることができる

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: フランス語の基礎(フランス語のアルファベ・フランス語の発音)	フランス語のアルファベを使って、自分の名前のスペルを言えるように発音練習する。
2: 自己紹介をする	動詞êtreの活用を覚えて、自己紹介をする。
3: 今住んでいるところや出身地について話す	規則動詞の作り方を覚えて、今住んでいるところや出身地について話す練習する。
4: 交通手段について話す	疑問詞を使った疑問文の作り方を覚えて、発音する。
5: アルバイトについて話す	願望の表現を覚えて、自分の様々な願望を表現する。
6: 1-5課までの文法の復習	1-5課までの文法の復習をする。
7: ペットなどについて話す	動詞avoirを使って、ペットなどについて話す練習をする。
8: 家族について話す	数字や職業名を覚えて、家族について話す練習をする。
9: 家事について話す	動詞faireを使って、家事について話す練習をする。
10: 食べ物について話す	動詞mangerを使って、食べ物について話す練習をする。
11: バリで遊ぶ	時間をあらわす単語を覚えて、発音する。
12: 7-11課までの文法の復習	7-11課までの文法の復習をする。
13: 科目・先生について話す	動詞aimerを使って、科目・先生について話す練習をする。
14: クラブ活動について話す	課外活動の単語を覚えて、クラブ活動について話す練習をする。
15: これまでの総復習	これまでに学んできた文法事項を復習する。

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
テキストのわからない単語は調べておくこと。毎回の授業に関して45分の準備学習を行うこと。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した180分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
『Moi, je... コミュニケーション A1』(アルマ出版)、著者: Bruno Vannieuwenhuysen 他

VI. 評価方法と評価基準
フランス語による「聞く・話す」「読む・書く」という基礎的なコミュニケーション能力がどれくらい身についたかを評価基準とします。到達度を測るためのテスト(定期テスト・小テスト)50%+学習の意欲(授業への参加度、課題など)50%を対象に総合的に評価します。

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
・教科書に沿って授業を進めます。教科書は必ず購入してください。
・ペアやグループでのロールプレイに対するコメントはその場で行い、課題は授業中または添削をし個別に返却するなど、課題の出題方法に応じて対応します。
・初めて学ぶ外国語の場合、継続的な学習が必要不可欠です。毎回の出席を心がけ、発音練習にも積極的に取り組んでください。また、日頃からインターネット、音楽や映画などで、フランス語圏に関する情報に親しんでください。

2 教養科目

ファッション総合学科2年

選 択 科 目

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
デジタルイラストレーション	FA50209	開講時期:	1・2期	単位:	1単位
担当者		形態:	演習		
徳山 真由美		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など	デザインフィールド		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1	一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。				
DP2	ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。				
DP3	服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。				
DP4	ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。				○
DP5	ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。				◎
DP6	修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				○
DP7	専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。				
II. 概要					
イラストレーションには様々な表現方法がある。その中でも近年コンピュータグラフィックス(CG)による表現が不可欠となってきている。そこでCGソフト(フォトショップ)を使用してファッションイラストレーションの表現方法について学ぶ。					
III. 学習成果					
CGソフト(フォトショップ)の基本操作から様々な加工・合成等の応用までを理解し、作品を制作することができる。					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: フォトショップの操作方法 基本ツールの使い方			基本ツールの操作方法(プリント)を読んで用語を覚える		
2: 服の陰影について 基本的な陰影の表現方法 ブラシ、色の濃度他について			ペンタブレットを使用した陰影の方法を練習しておく		
3: 基本的な着彩方法 基本ワンピースの下書き スキャナー入力について			基本ワンピースの書き方の練習をしておく		
4: 基本的な着彩方法 基本ワンピースへの着彩と陰影付け			着彩を仕上げておく		
5: 着彩方法の応用 ベタ塗りでの表現方法について			ベタ塗り着彩の練習をしておく		
6: オリジナル柄の作成			柄のデザインをスケッチしておく		
7: 柄入れ及び着彩			作品を完成させる		
8: ペンタブレットを使用した下絵の作成			人体及び服のデザインを決定しておく		
9: ペンタブレットを使用した下絵の作成及び着彩			下絵を完成しておく		
10: 着彩			着彩を進める		
11: テクスチャー又は柄入れ			テクスチャー又は柄を決めておく		
12: 背景の作成			作品を完成させる		
13: 総合課題 各自のテーマで下絵を完成する			服のデザインを決定しておく		
14: 総合課題 条件に沿った着彩をする			着彩を進める		
15: 総合課題 作品を完成させる			作品を完成させる		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 準備学習は、各回30分程度行うこと。 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書 教科書は使用しない 教員作成資料を配布する					
VI. 評価方法と評価基準 課題・提出物 95% 学習の意欲 5%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等) 提出作品は添削して返却する。授業時間に作品の解説や講評を行う。 USBフラッシュメモリーが必要。 「ファッションイラストⅠ」又は「ファッションイラストⅡ」を受講していることが望ましい。					

科目名	科目ナンバリング	学科	学年
デジタル表現演習	FA50210	ファッション総合学科 1・2期 形態：演習 履修方法：卒業選択 単位：1単位 免許・資格など デザインフィールド 履修要件他： アクティブラーニング科目：○ 実務経験教員科目：	2年
担当者	徳留 慶志郎		
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)			
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)			本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。			
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。			○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。			
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。			○
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。			◎
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。			○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。			
II. 概要			
主にPhotoshopを使った人物描写の技法について、写真の加工や画像素材を活用する方法、ゼロから手描きに近い手順で完成させていく方法などの技法を習得する。			
III. 学習成果			
Photoshopを使った人物イラストの表現に関する技術、特殊な技法、画像の処理技術を身につけられる。			
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容			
授 業 内 容		準備学習(予習・復習)内容	
1:人物イラスト①(シルエットとブラシによる表現) フォトショップの基礎知識とブラシツールの使い方		人物写真の準備をしておく	
2:人物イラスト②(シルエットとブラシによる表現) 鉛筆書きのイラストをデジタルデータへ		人物写真を元に鉛筆で下描きしておく	
3:人物イラスト③(シルエットとブラシによる表現) 人物イラストの完成		途中経過のチェックを受け、修正箇所を修正する。	
4:水彩ブラシを使ったアナログタッチの表現方法① 鉛筆書きの人物をスキャンしてデジタルデータへ		フォトショップのツールについての予習とラフスケッチの準備する。	
5:水彩ブラシを使ったアナログタッチの表現方法② 水彩風の表現に近いブラシの使い方		ブラシツールの復習する	
6:水彩ブラシを使ったアナログタッチの表現方法③ 細部の描きこみと全体の調整		途中経過のチェックを受け、修正箇所を修正する。	
7:写真を加工して描く人物イラスト① 写真の選択と構成アイデアスケッチ		フォトショップのツールについての予習とラフスケッチの準備する。	
8:写真を加工して描く人物イラスト② 構成をもとにレイアウトを完成		レイアウトの調整を行う。	
9:写真を加工して描く人物イラスト③ 色調補正、レイヤー演算、全体の調整		途中経過のチェックを受け、修正箇所を修正する。	
10:アナログ素材を使ったイラストレーション ① 作業手順の組み立て～下描き		アナログ素材の準備を行う。制作手順の組み立てる。	
11:アナログ素材を使ったイラストレーション ② アナログ素材による描画、作成		アナログ部分の完成～スキャンの準備をする。	
12:アナログ素材を使ったイラストレーション ③ デジタルによる加筆～完成		途中経過のチェックを受け、修正箇所を修正する。	
13:オリジナルのキャラクターイラスト ① テーマ、コンセプトの決定～ラフスケッチ		オリジナルキャラクターのラフスケッチを10案描いてくる。	
14:オリジナルのキャラクターイラスト ② デザインの決定～スキャン		デジタル作業のできる準備する。	
15:オリジナルのキャラクターイラスト ③ PCでのフィニッシュワーク		途中経過のチェックを受け、修正箇所を修正する。	
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 準備学習は毎回30分以上行うこと。必要に応じて内容や容量については必要に応じて説明する。 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。			
V. 教科書・参考図書 必要に応じて資料を配布する。			
VI. 評価方法と評価基準 授業での提出課題の点数(90%) 学習の意欲(10%)			
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等) USBメモリー(2GB以上)が必要。また可能なら2本用意することが望ましい(バックアップのために) 課題作品は採点し必要なアドバイスとコメントを口頭で行う。			

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
音のデザイン	FA50111	開講時期:	1・2期	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など 履修要件他:	デザインフィールド		
担当者	河原 一彦	アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>

I. 本科目と学科ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	本科目との関連
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	○
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
音を用いた空間演出・制作に必要な感性を身につけ、音に関する正しい知識と技術を身につけることを目標とする。
サウンドスケープ調査(音風景調査)や音を聴く訓練を通じて聴覚的な感性をみがく。
また、音の工学的な面についても解説する。さらに音編集の実習も行う。
受講者が、音の基礎知識を身につけ、自身のデザイン領域を音の分野にもひろげられることを目指している。

III. 学習成果
「音環境を聴く」態度が身につく。
「音の科学的・工学的知識」とそれに対応させた音の感性が身につく。
拡声機器等の音響設備・放送設備の仕組みが理解でき、操作することができる。
コンピュータを使ってCDなどから取りだした音などの編集の技能が身につく。この技能はファッションショーのための音楽編集に応用することができる。

授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: 音とは何か ・まず、よく聴いてみよう。	高校までの音に関連する内容について復習しておくこと。 授業後に、授業中に聞こえた音のリストを見直すこと。
2: サウンドウォーク ・グループワーク: サウンドスケープ調査 香蘭短大の音名所を探そう。	日常生活の中で音を聴くことを意識すること。
3: フィールドワークのまとめ ・グループワーク: 調査にもとづく音地図の作成、発表資料作成	一週間の生活の中で、音に関する体験を記録すること。
4: フィールドワークの発表会と、事例紹介 ・グループワーク: 香蘭短大の音地図の発表会、シェーファーによるサウンドスケープ	大学構内の音風景を意識すること。 発表資料をまとめておくこと。
5: 音とは何か(音の物理的側面と心理的側面) ・音の3要素について ・音の周波数	生活の中の音について、音の周波数を意識して過ごすこと。 また、それらをノート等に記録をとること。
6: 音とは何か ・音の3要素について ・音の大きさ	生活の中の音について、音の大きさを意識して過ごすこと。 また、それらをノート等に記録をとること。
7: 音の3要素について ・音のスペクトルと音色	生活の中の音について、音色を意識して過ごすこと。 また、それらをノート等に記録をとること。
8: 音響機器と室内音響学 ・音響機器の機能と仕組みについて。体育館の音響設備の確認。	身近な音響機器について、マニュアルを読み、設定項目などを確認すること。また、それらをノート等に記録をとること。
9: 音編集実習(その1) ・まずやってみよう。	音編集ソフトウェアを使って、信号の再生ができるようにすること。
10: 音編集実習(その2) ・ステレオミキシング。音の定位を変える。	音編集ソフトウェアを使って、トラック間のバランスの調整ができるようになること。
11: 音編集実習(その3) ・CDの音を使う	CDから音を取り出すことができるようになること。 信号を、音編集ソフトウェアに読み込むことができるようになること。
12: 音編集実習(その4) ・いろいろな加工や編集技術について。	音編集ソフトウェアを使って、各トラックの信号に、エフェクトをかけることができるようになること。
13: 音編集実習(その5) ・グループワーク: 音作品制作実習(1)	ラフな編集作業が終わらない場合は、各グループで制作の時間をとること。
14: 音編集実習(その6) ・グループワーク: 音作品制作実習(2)	仕上げの編集作業が終わらない場合は、各グループで制作の時間をとること。
15: 音作品発表会とまとめ	各グループの作品を聴き、印象を言葉で記述できるようにすること。 また、それらをノート等に記録をとること。

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
授業時間以外の学習方法: 日常生活において好きな(快適な)「音環境」を意識すること。
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
参考図書: 「音と音楽の科学」 岩宮眞一郎 著、技術評論社
参考図書: 音のチカラ-感じる、楽しむ、そして活かす-、岩宮眞一郎 著、コロナ社

VI. 評価方法と評価基準
学期末レポート(80%)、学習の意欲(20%)
グループワークによる(もしくは個人での取り組みによる)音作品を1つ以上、提出することを単位認定の条件とする。
学期末レポートにおいて、音環境についての正しく認識・評価できるようになったことを具体的な例をあげて記述できた場合は、8割以上の評価点を与える。

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
この授業は音に関する授業であり、音楽(選曲)については取り上げないので注意すること。
フィールドワークについては、発表時に講評する。
音作品については、提出時に、個別に講評する。
「実務経験教員科目」特記事項: 音響機器企業において、リアルタイム・デジタル信号処理機器の開発経験があり、その経験を活かして、音響機器の利用法についても教授する。

1 選択科目2年
2 期

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
美術とファッション	FA50112	開講時期:	2期		
		形態:	講義	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	デザインフィールド		
徳山 真由美		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1	一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。				◎
DP2	ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。				
DP3	服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。				
DP4	ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。				○
DP5	ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。				○
DP6	修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				○
DP7	専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。				
II. 概要					
美術とファッションには、思わぬ関係がみられます。ファッションデザイナーは、美術作品からインスパイアされた作品やコラボレーションをした作品を発表しています。このような美術とファッションの関連性について学びます。					
III. 学習成果					
美術とファッションの関連性を学び、デザイン企画のための展開方法が身に付きます。					
IV. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: 導入 西洋美術の流れについて 原始美術～エジプト美術について エジプト美術からのデザイン展開			エジプト美術からのデザイン画を完成する		
2: ギリシャ・ローマ美術について ギリシャ・ローマ美術からのデザイン展開			ギリシャ・ローマ美術のデザイン画を完成する		
3: ビザンティン美術について ビザンティン美術からのデザイン展開			ビザンティン美術からのデザイン画を完成する		
4: ロマネスク、ゴシック、ルネサンス美術について			一点透視図を完成する		
5: ルネサンス美術について 遠近法からのデザイン展開			透視図からのデザイン画を完成する		
6: ルネサンスについて ルネサンス美術からのデザイン展開			デザインのアイディアスケッチをしておく		
7: バロック～ロココ美術について ①ロココ美術からのデザイン展開			ロココの装飾を使ったデザイン画を完成する		
8: バロック～ロココ美術について ②ロココの服飾からのデザイン展開 下書き			ロココ時代の服飾の特徴について調べてくる		
9: ロココ美術について ②ロココの服飾からのデザイン展開 完成			デザイン画を完成する		
10: 新古典主義について 新古典主義からのデザイン展開			エンパイアスタイルの特徴を調べてくる デザイン画を完成する		
11: ロマン主義～印象派について ①印象派からのデザイン展開 下書き			印象派の色彩等をデザイン画へ展開し、デザイン画を完成する		
12: 印象派について ②印象派からのデザイン展開 完成			印象派の色彩等をモチーフに、デザイン画を完成する		
13: 象徴主義について 象徴主義からのデザイン展開			クリムトをモチーフにしたデザイン画を完成する		
14: アールヌーボー～キュビズムについて キュビズムからのデザイン展開			デザイン画を完成する		
15: 未来派～現代アートについて ポップアートからのデザイン展開			デザイン画を完成する 授業ノート(ファイル帳)提出の準備をする		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 準備学習は、各回30分程度行うこと。 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した180分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書 教科書は使用しない 教員作成資料を配布する					
VI. 評価方法と評価基準 レポート・課題作品・提出物 95% 学習の意欲 5%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等) 提出作品は添削して返却する。授業時間に作品の解説や講評を行う。 配布プリント・レポート等の整理の為、各自A4ファイル帳を準備してください。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
フォーマルウェア概論	FA51206	開講時期:	1期	単位:	2単位
		形態:	講義		
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など 履修要件他:	ファッションビジネスフィールド		
担当者		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
岡田 絵梨奈					

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	◎
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
 フォーマルウェアとは、公式な場や社交において相手を敬い、思いやる心の表現としての装いです。フォーマルウェアには様々な規定や基準や規定があるため、国際的儀礼や冠婚葬祭などに基づき正しい知識の習得が必要です。これらは、ファッションのデザイン提案にも応用できる知識であり、また社会人として、国際社会における円滑な人間関係の構築に活用することができます。

III. 学習成果
 国際儀礼に従ったフォーマルウェアについて理解し、正しい知識を習得します。
 現代社会における様々なフォーマルシーン及びフォーマルウェアについて考察することができます。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: フォーマルウェアとは何か	シラバスを読んでおくこと
2: 昼のフォーマルウェア メンズ編 ・正礼装 準礼装 略礼装	昼のフォーマルウェア 検定対策プリントの学習
3: 昼のフォーマルウェア レディース編 ・正礼装 準礼装 略礼装	昼のフォーマルウェア 検定対策プリントの学習
4: 夜のフォーマルウェア メンズ編 ・正礼装 準礼装 略礼装	夜のフォーマルウェア 検定対策プリントの学習
5: 夜のフォーマルウェア レディース編 ・正礼装 準礼装 略礼装	夜のフォーマルウェア 検定対策プリントの学習
6: 喪のフォーマルウェア メンズ編 ・正礼装 準礼装 略礼装	喪のフォーマルウェア 検定対策プリントの学習
7: 喪のフォーマルウェア レディース編 ・正礼装 準礼装 略礼装	喪のフォーマルウェア 検定対策プリントの学習
8: ブライダルフォーマル メンズ編	ブライダルドレスのデザイン分析のための資料を収集する
9: ブライダルフォーマル レディース編	コーディネートをもとめてコラーージュの作成
10: タイの結び方・ポケットチーフについて	結び方の実技試験を実施 復習しておくこと
11: 和装における礼装の種類 ・冠婚葬祭のきもの	和装の情報を収集しておくこと
12: 国際社会における現代のフォーマルウェア ・日本の皇室、英国王室などの国際儀礼を参考に	フォーマルウェアの販売店舗などを調査し、デザインや価格帯など情報や資料を収集する
13: フォーマルウェアについてのフィールドワーク解説	フォーマルウェアの販売店舗などを調査し、デザインや価格帯など情報や資料を収集する
14: フォーマルウェアについての考察	フィールドワークで収集した資料をもとに、フォーマルウェアについて考察し、レポートにまとめる
15: これからのフォーマルウェアについて ・試験について	課題を仕上げる

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 課題プリントや各種調査など30分以上の準備学習が必要となります
 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した180分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
 日本フォーマル協会「フォーマルウェアルールブック」

VI. 評価方法と評価基準
 単位認定筆記試験60%・検定対策小テスト20%、課題10%、学習の意欲10%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 フォーマルウェアスペシャリスト検定準2級の対策支援も含めた授業です。
 検定試験受験のためには時間外での自主学習が必要となります。
 課題は返却時に個別にフィードバックします。
 「実務経験教科科目」特記事項: マナー研修や検定対策講座などの経験を活かし、効率的な学習と実践的に活用できる内容です。

1 選択科目
2 期

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
ファッションビジネス戦略論	FA51207	開講時期:	1・2期	単位:	2単位
		形態:	講義		
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	ファッションビジネスフィールド		
曾根 ゆかり		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	○
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要

- ・ファッション業界における最先端のマーケティングトレンドを理解する
- ・ファッションビジネスにおけるデジタルトランスフォーメーションの取組を具体的事例より学ぶ
- ・ファッション関連企業の特徴と現状分析を理解し、事例企業の取組を同業種他社との比較から、その違いを研究する
- ・ファッション関連企業やファッション業界の将来について学ぶ

III. 学習成果

1. ファッション業界のマーケティングトレンドを理解する
2. ファッションビジネスの変化とその理由を具体的に説明することができる
3. ファッションビジネスの企業戦略について、重要性を理解し、マーケティングの視点から説明できる
4. ファッション業界の現状課題と将来の可能性について、自分の考えや意見を述べる事ができる

授業内容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション(シラバスの確認、授業概要) 企業戦略によるマーケティングの重要性	予習:シラバスを読んでおく 復習:マーケティングの基本をまとめる
2: 世界・日本の社会的課題とファッションビジネス戦略 ファッションビジネス戦略の核となるか:SDGs・地域活性化を取り入れるメリット	予習:SDGs17の世界的目標で、ファッションビジネスに影響を及ぼす項目をピックアップし、その理由をまとめる
3: 次世代ターゲットのライフスタイル 経営戦略の鍵:ターゲット分析(ミレニアム世代・Z世代・アルファ世代)	予習:2025年のトレンドキーワードを5つ調べる 復習:自分達世代の特徴を衣・食・住に分けてまとめる
4: 最先端 マーケティング 販売戦略の大変革:メタバース・売らない店・無人店舗	予習:最新の販売方法で話題になっている1店舗をピックアップし、どの様な点が新しいのか、調べてまとめる
5: トrendマーケティングにおける情報戦略 情報収集・発信の変化:顧客情報分析・広告宣伝方法	予習:ファッション情報収集の方法を調べる 復習:情報収集・発信のトレンドをこれまでと比較して、まとめる
6: ファッション業界のデジタルトランスフォーメーション(DX) DX導入によるメリット・デメリット:取組事例	予習:デジタルトランスフォーメーションとは何か?調べる 復習:ファッションビジネスにおけるDX導入によるメリットをまとめる
7: 海外ファッション企業研究 個人ワーク:海外最先端のファッション企業を選択し、ビジネス戦略を研究	予習:人気な海外ファッションをネットで調べて、調査企業を選択する 復習:選択した企業のビジネス戦略をまとめ、プレゼン資料を完成させる
8: グループディスカッション・プレゼンテーション *アクティブラーニング 各自企業研究を発表し、戦略上の重要なポイントをディスカッション	予習:プレゼンテーションの準備をする 復習:企業研究のプレゼンを聞き、各企業の戦略ポイントをまとめる
9: 基本のデジタルマーケティング 販売戦略:TikTok・YouTube・Instagram・Lineマーケティングとしての活用	予習:自分のお気に入りブランドのSNS活用をまとめる 復習:ファッション業界のSNS販売戦略をまとめる
10: アパレル日本企業の未来 ライフスタイル提案型戦略:アパレル企業の脱アパレルビジネスモデル	予習:日本のアパレル企業をひとつピックアップし、企業戦略を調べる 復習:アパレル業界の未来について、自分の考えをまとめる
11: ファッション業界のオムニチャンネル 顧客視点のビジネス戦略:ネットとリアルを統合した新しい売り方	予習:オムニチャンネルについて調べる 復習:アパレルでオムニチャンネルを活用している企業をまとめる
12: ファッションのサブスクリプション 次世代の主流戦略か?:ファッションを「買う」から「借りる」時代へ	予習:サブスクリプションについて調べる 復習:ファッションアイテムのサブスクリプションをまとめる
13: ファッションビジネスの新領域 フリマサービスを考える C to Cビジネス戦略:代表格「メルカリ」の戦略	予習:C to Cビジネスとは何か調べる 復習:フリーマーケットの今後について、自分の考えをまとめる
14: ラグジュアリーブランド戦略 価値を高めるブランドビジネス/クラスター分析	予習:ラグジュアリーブランドの強みを調べる 復習:ラグジュアリーブランドのビジネスモデルをまとめる
15: グループディスカッション・プレゼンテーション *アクティブラーニング ファッションビジネスの未来:多様なニーズを捉えて、自ら考えよう	予習:日本のファッションビジネスにおける現在の課題をまとめておく 復習:ファッションに関する新しいビジネスを考える
*準備学習(予習・復習)についての補足説明	
・予習、復習の課題は、次の講義に関連しています。理解度に関係しますので、必ず学習してください。	
・A4用紙 300文字を目安にまとめるようにしてください。(提出を求めることがあります)・単位修得のためには準備学習時間に自主学習を足した180分を毎回必要とします。	

V. 教科書・参考図書

- ・教科書は使用しません。適時資料を配布します。各自ファイリングをしてください。
- ・推薦図書:「最新マーケティングの教科書」、「ファッション業界大研究」

VI. 評価方法と評価基準

単位認定試験(30%)、プレゼンテーション(15%)、レポート・調査(25%)、学習の意欲(30%)

*学習意欲として、提出物期限や受講態度も評価に反映します。

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

- ・ノートと筆記具を持参してください。・座席指定をします。
- ・プレゼンテーションのためのパワーポイントでの資料作成・USBメモリーが必要です。
- ・情報収集において、各種ファッション雑誌、業界レポート等の準備が必要となります。
- ・予習、復習は提出して頂きます。質問については、コメントを添えて返却します。
- 「実務経験教員科目」特記事項:百貨店でのバイヤー、MD,店舗プランニング経験あり。実務経験に基づき各回の授業を行っています。

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
アパレル企画演習	FA51208	開講時期:	1・2期	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	ファッションビジネスフィールド		
尾畑 圭祐		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	◎
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	○
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	○
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
アパレル業界における企画立案の方法を”ブランドの企画”を通して学習し、企画書を作成する。
アパレルの企画を立案するにあたって、最も重要な”コンセプト”を明確にするために必要な調査や裏付けを通して理論的に論じる方法(コンセプトワーク)を学習する。

III. 学習成果
各々が持っている感性を企画のなかで表現し、アパレル業界だけでなく、様々な業界で通用する完成度の高いプレゼンテーションや企画書を製作することができる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1:ブランドの企画提案 ~ブランド立ち上げプロセス~ コンセプトの発想、イメージビジュアル作成(DM)	(復習)コンセプトストーリー、イメージビジュアルを完成させておく
2:ブランドにおけるターゲットイメージ(ボード作成)	(復習)イメージボードを完成させておく
3:企画立案におけるベンチマーク(企業リサーチ)	(復習)企業リサーチを仕上げておく
4:コンセプトリサーチ①(歴史と衣服の関係性)	(復習)コンセプトについてのレポートを仕上げておく
5:コンセプトリサーチ②(素材からのデザイン発想)	(復習)素材についてのレポートを仕上げておく
6:コンセプトリサーチ③(衣服におけるディテールとは?)	(復習)ディテールについてのレポートを仕上げておく
7:企画製品におけるブレインストーミング(アイデアの抽出)	(復習)ブレインストーミングの内容を整理しておく
8:企画製品におけるブレインストーミング(ブラッシュアップ)	(復習)ブレインストーミングで出たアイデアを整理しておく
9:企画書の概要と製品図の作成	(復習)製品図を完成させておく
10:企画書における素材選定と色構成	(復習)製品企画書を完成させておく
11:製品図からのデザイン発想・スタイル画の作成(下書き)	(復習)スタイル画の下書きを完成させておく
12:スタイル画作成(着色)	(復習)スタイル画の着色を完成させておく
13:スタイル画作成(レイアウト)	(復習)スタイル画のレイアウトを完成させておく
14:企画書の編集作業	(復習)企画書の編集を完成させておく
15:課題Iの合評	(予習)合評に向けた準備をしておく

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
1回の授業に対して30分程度の準備学習を行うこと。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
プリント配布

VI. 評価方法と評価基準
課題(合評を含む) 90% 学習の意欲 10%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
「実務経験教員科目」特記事項:ファッションデザイナー(アパレル企業)での実務経験をもとに、企業で実際に行っている企画立案のプロセスを修得できる授業構成である。
課題のフィードバックとして、合評を行う。また、提出課題は改善点や評価ポイント等を添えて返却をする。
提出期限厳守ですので、授業時間内に終えていない課題は次の授業までに追いつくように努力してください。

1 選択科目2年
2 期

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
カラーマーケティング演習	FA51209	開講時期:	1・2期	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	ファッションビジネスフィールド		
桑野 優子		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	◎
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	○

II. 概要

- ・色彩生理学と色彩心理学をベースにカラーマーケティングとは何かを学ぶ。
- ・マーケティングを実施する際の調査のポイント、データからの読み取り、解析法を学ぶ。
- ・ターゲットの絞り込み、ペルソナ設定の方法を学ぶ。

III. 学習成果

- ・日常に欠かせない色をテーマに色彩心理学、色彩生理学を学ぶことで、コミュニケーションやプレゼンテーションの能力をアップすることができる。
- ・カラーマーケティングの理論を学ぶことで、なんとなくや雰囲気ではなく、論理的、科学的根拠に基づき説明が出来る、活用できる。
- ・カラーマーケティング調査をし、分析することで自分自身に向き合い、他者との違いや共通点を見出すことも出来る、互いを認め合うコミュニケーション能力が備わる。
- ・カラーマーケティング、アンケート調査の結果に基づき、商品開発、店舗デザイン、販促計画に有効活用できる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1:カラーマーケティングの基礎① カラーマーケティングとは何か、色彩学を学ぶ VMDとの関連を含め一般的なマーケティングとの相違点と共通点またその必要性	カラーマーケティングとは何か、カラーマーケティングに必要な要素とは何かを事前に書籍、インターネット検索等で調査しておく。(30分程度)
2:カラーマーケティングの基礎② マーケティングとカラーマーケティングの違い 詳しい説明 アンケート調査vol1 調査実施計画・準備	カラーマーケティングとマーケティングの違いを調べる(30分程度) マーケティングのターゲット設定を考える
3:カラーマーケティングの基礎③ カラーマーケティング実施報告 アンケート調査の結果を報告し、更にもうそこから見えてくるものは何か分析する	リサーチの実施報告(報告書の作成 2時間程度) マーケティングリサーチ(アンケート)した内容を報告する
4:カラーマーケティングの基礎④ カラーマーケティングを有効活用するために色彩心理学、生理学、色と人間の関係性を実践的に学ぶ	色彩心理学とは何か、教科書にて事前に読んでおく(1時間程度) ターゲット設定する前に自分自身のペルソナを分析する(カラー診断実施)
5:カラーマーケティングの基礎⑤ アンケート調査の結果から分析する アンケート調査の結果を色彩生理学と心理学をもとに分析する	教科書を読み、色彩心理学の復習 アンケート調査の結果を分析する
6:カラーマーケティングの基礎⑥ アンケート結果を分析し、発表する結果を分かり易く、第三者に伝達するにはどうしたらよいか検討する	カラーマーケティングのために実施したアンケート結果を分析し、発表するために準備をする。発表後、結果を総括する(発表準備 2時間程度)
7:カラーマーケティングの基礎⑦ アンケート調査vol2 1回目のアンケートとは異なるテーマでアンケート調査を実施する	テーマに沿って、調査対象(ターゲット)を事前にリサーチする 教科書の内容を参考にしながらターゲットの好きな色を予測する(1時間程度)
8:カラーマーケティングの基礎⑧ アンケート調査結果の中間報告 アンケート前に予測したものと実際の結果を照らし合わせ、後半の調査に反映させる	1回目より規模の大きいアンケートを実施するため、中間報告を行う 予測した内容と実際の結果を照らし合わせる(1時間程度)
9:カラーマーケティングの基礎⑨ アンケート調査の結果を最終報告 アンケート調査前の予測、実践、中間報告、最終報告、結果から分析	アンケート調査の最終報告の準備をする(2時間程度)
10:カラーマーケティングの応用① これまでのアンケート調査の結果から商品開発、サービスへの活用法を考える 事例紹介	アンケート調査の結果から商品開発をした事例を文献やインターネット等で検索する(30分程度)
11:カラーマーケティングの応用② ターゲット設定 商品、サービスのターゲットとなる消費者の具体的なプロフィールを設定する	年代による消費行動の違いを考える 自分自身の消費行動を書き出してみる(1時間程度)
12:カラーマーケティングの応用③ 商品開発、サービスを考える アンケート調査の結果、ターゲット設定より、商品開発、サービスを考える	ヒット商品、トレンド、注目商品を調査する(1時間程度)
13:カラーマーケティングの応用④ 商品開発、サービスを発表するプレゼンテーションとして、見やすいビジュアル表現をする	商品開発、サービスを発表する準備をする(2時間程度)
14:カラーマーケティングの応用⑤ カラーマーケティングと色彩心理の関係性 商品開発、サービスに関して色彩心理がどのように関わっているかを考える	色彩心理学について、教科書等を読み復習する(1時間程度)
15:まとめ カラーマーケティングの役割、活用法 カラーマーケティングの役割、活用法を振り返り、実践できるように習得する	今までの授業、自らが行ったアンケート調査やプレゼンテーションを振り返り、ノートや資料を見て復習しておく(1時間程度)

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 情報はあらゆる手段で手に入る時代です。講義前に知らない用語等は事前に調べておいてください。
 単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書

- 教科書「プロが教える現場で役立つ色の使い方～明日から使える色のルール～」(桑野優子 著) 発行元:日本カラープランニング協会 1500円/「カラーマーケティングの教科書」(桑野優子 著)発行元:日本カラープランニング協会 500円/(税込)
- 参考図書「カラーマーケティング」(下川美知瑠) 「売れる色の理由」芳原 信
 * 講義に必要な資料等は、講義ごとに配布予定です。欠席した場合は、必ず翌週に配布物の有無を確認してください。

VI. 評価方法と評価基準
 単位認定試験(上記内容より出題)(50%) 講義内でのプレゼンテーション(30%) 学習意欲(20%)

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等) 講義内では提出物や、互いに学生同士で参考になるものは、スライド等で解説します。個別に返却する際は、必ずコメント等を記載しています。

「実務経験教員科目」特記事項:一般社団法人日本カラープランニング協会代表理事。色彩心理をベースにマーケティングリサーチを常日頃、業務の中で実施これらの経験に基づき、商品開発、店舗デザイン、販促計画に有効活用できるよう指導していく。

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
ショップマネジメント	FA51212	開講時期:	2期	単位:	2単位
		形態:	講義		
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など	ファッションビジネスフィールド		
		履修要件他:			
担当者		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>
秦 寛史					

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)		
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)		本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。		
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。		○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。		
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。		
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。		○
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。		◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。		

II. 概要
 ショップマネジメントとは、ショップの運営管理や、経営を意味します。
 しかし、ひと口にショップといっても、実にたくさんの形態があります。
 この授業では、まず「ショップ」について理解し、そしてショップを運営するにあたって必要な「商品」「消費者」「コスト」の理解と管理を中心に学びます。

III. 学習成果
 1、ファッションビジネスにおける「ショップ」の種類や役割を説明できる。
 2、消費者の世代区分を理解し、ショップのターゲット設定を考えることができる。
 3、商品MDの考え方を説明できる。
 4、売上管理、コスト管理の係数計算ができる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション ショップマネジメントとはなにか。学ぶ目的について。	普段どんなショップで買い物をしているか、まとめておく
2: ショップ形態の変遷 1 戦後～80年代までの変遷	戦後以降の日本のファッションの特徴についてまとめる
3: ショップ形態の変遷 2 90年代～現在までの変遷	高度成長期以降の日本のファッションの特徴についてまとめる
4: 店舗販売形態の分類と特徴 1 有店舗販売にはどのようなものがあるか1(百貨店、チェーンストア)	最近どんな店舗で買い物をしたか、まとめておく
5: 店舗販売形態の分類と特徴 2 有店舗販売にはどのようなものがあるか2(ファッションビル、専門店)	有店舗販売の特徴についてまとめる
6: 店舗販売形態の分類と特徴 3 無店舗販売にはどのようなものがあるか	無店舗販売の特徴についてまとめる
7: 販売形態の変化	販売形態にはどのようなものがあるか、特徴をまとめる
8: 消費者分類 1 世代ごとの消費特性と人口1(戦後～バブル期の世代)	世代毎の価値観の特徴をまとめる
9: 消費者分類 2 世代ごとの消費特性と人口2(バブル以降～現在まで)	世代毎の価値観の特徴をまとめる
10: プレゼンテーション グループワークで、ターゲット層に合わせたショップコンセプトを立て、プレゼンをする	ショップコンセプトについて調べておく
11: 商品仕入 1 適切な商品とは	配布資料を読んでおく
12: 商品仕入 2 気候や行事にあわせた商品計画	配布資料を読んでおく
13: 商品仕入れ 3 取引形態について	取引形態のメリットとデメリットをまとめる
14: 係数と計算 1 仕入れに必要な計算	係数計算ができるように理解しておく
15: 係数と計算 2 ショップ経営に必要な計算	係数計算ができるように理解しておく

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 各回30分程度必要
 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した180分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
 教科書は使用しない。適時資料を配布する。

VI. 評価方法と評価基準
 単位認定試験70% 提出物30%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 提出物は全てコメントをつけて返却します。
 「実務経験教員科目」特記事項:アパレルの「販売、仕入れ、商品企画、デザイン、経営」の実務経験を活かし、今の市場、現場に則した実践的な知識を習得できる授業を行います。

1 選択科目2年
2 期

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
染色実習	FA52107	開講時期:	1・2期		
		形態:	実習	単位:	1単位
担当者		履修方法:	卒業選択		
中園 唯		免許・資格など	生活スタイリングフィールド		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1	一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。				○
DP2	ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。				◎
DP3	服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。				
DP4	ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。				
DP5	ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。				
DP6	修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				◎
DP7	専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。				
II. 概要					
<p>「染料」「染色基礎」「捺染」の3つの実習を通して、染まる仕組み、素材と染料の関係、染色表現の特性 及び 技法の制約について学ぶ。 各実習で学ぶ内容をシートにまとめファイリングしていき、最終的に1冊の染色ファイルを完成させる。 実習で学んだ染色技法を駆使し、クッションカバーのテキスタイルをデザイン・制作する。</p>					
III. 学習成果					
<p>①染料の特性を理解し、狙った通りの色を調合できるようになる。 ②染色表現の特性を理解し、素材やデザインに合った染料・技法を選択することができる。</p>					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1:オリエンテーション、染料実習① 制作スケジュールの確認・道具の使い方について、化学染料の色見本作成			予習:シラバスやテキストを読んでおく 復習:化学染料についてシートにまとめ、ファイリングする		
2:染料実習①②③ 化学染料の定着、染料と顔料、天然染料を用いた染色			予習:テキストを用いて染料について調べておく 復習:染料、顔料についてシートにまとめ、ファイリングする		
3:染色基礎実習① 浸染			予習:テキストを用いて浸染について調べておく 復習:浸染についてシートにまとめ、ファイリングする		
4:染色基礎実習② バンドルダイ			予習:天然染料のシートを読んでおく 復習:バンドルダイについてシートにまとめ、ファイリングする		
5:染色基礎実習③ 手描き染め			予習:手描き染めについてリサーチする 復習:制作物をシートにまとめ、ファイリングする		
6:染色基礎実習③、捺染実習① 手描き染めの定着作業、スクリーンプリント・ステンシル			予習:捺染についてリサーチする 復習:制作物をシートにまとめ、ファイリングする		
7:捺染実習② カッティングシート・スタンピング			復習:制作物をシートにまとめ、ファイリングする		
8:捺染実習①② 捺染実習の定着作業、実習のまとめ			復習:ファイルをまとめる、プレゼンの準備		
9:プレゼンテーション、クッションのデザイン検討 実習制作物の講評、配色・パターンの検討、デザインの決定			予習:テキスタイルデザインについてリサーチする 復習:デザイン案を決定する		
10:クッション生地のサンプル制作 実寸大の下絵作成、サンプル制作、再検討			予習:使用する技法についてファイルを読み返しておく 復習:進捗をシートにまとめる		
11:クッション生地制作① 染料・版作り、柄配置検討・印付け			復習:進捗をシートにまとめる		
12:クッション生地制作② 染色作業(～50%)			復習:進捗をシートにまとめる		
13:クッション生地制作③ 染色作業(～染め終わり)			復習:進捗をシートにまとめる		
14:クッション生地制作④ 定着作業、発表準備			復習:進捗をシートにまとめファイルを完成させる、プレゼンの準備		
15:クッションの講評 プレゼンテーション、意見交換、授業全体のリフレクション			予習:プレゼンの準備		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 授業内で作業が完了しなかった場合は空き時間等を利用して作業を進め、授業内容に遅れが出ないよう務めること。 1回の授業に対し、30分程度の準備学習を行うこと。					
V. 教科書・参考図書 【教科書】増補改訂 合成染料の技法(染色の基礎知識) 高橋 誠一郎 著/染織と生活社 ¥2,750 その他、必要に応じて都度 資料やプリントを配布します					
VI. 評価方法と評価基準 提出課題60% 学習意欲20% プレゼンテーション・染色ファイル20%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等) 受講に際しての注意点:汚れてもよい服装、もしくはエプロンや作業着を準備して受講すること。 使用する道具や材料(制作内容によって自己負担の場合あり)を忘れずに準備すること。 実習費が別途必要となります。(参考:2024年度 4,000円) フィードバックについて:実習や課題ごとに講評を行います。 実務経験教員科目:天然染料と手染めの技術を用いた染工所のスタッフとして、染色業務と自社コレクションの柄開発に携わっている。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
きものと生活	FA52108	開講時期:	1・2期	単位:	2単位
		形態:	講義		
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など 履修要件他:	生活スタイリングフィールド		
担当者	西田 由加里	アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)
 学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	◎
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	○
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
 日本の民族衣装であるきものは、歴史や風土によって多種多様な種類があり、現代でも人生儀礼や伝統芸能など日本文化の中で息づいています。また、デザインとしても世界的にも注目されてきたきものを、多方面から理解することで、今後どのように生活の中に取り入れていけばよいのか、日本文化のひとつとして次世代へ継承するために考察します。

III. 学習成果
 きものの種類や季節やTPOに合わせたきものの知識を習得することができる
 テキスタイルとしての原料や制作工程、産地による染めや織などを学び、日本の風土と生地について理解することができる
 日本の伝統芸能など、きものに関わる日本文化についての見識を持つ

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容

授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: きもの入門 オリエンテーション	(予習)シラバスを読んでおくこと
2: きものの名称・種類・帯・和装小物	(予習)第13章を読んでおく
3: きもの歴史 古代から現代への変遷	(予習)第6章を読んでおく
4: 日本の伝統色 自然が育む豊かな色彩	(予習)第10章を読んでおく
5: テキスタイルとしてのきもの魅力① 染のきもの DVD鑑賞	(予習)第5章前半を読んでおく
6: テキスタイルとしてのきもの魅力② 織のきもの DVD鑑賞	(予習)第5章後半を読んでおく
7: きものTPO きもの格式と礼装について	(予習)第1章を読んでおく
8: 人生儀礼ときもの グループワーク	(予習)第4章を読んでおく
9: 年中行事ときもの 季節を彩る日本のしきたり	(予習)月の和名、読み仮名を調べておく
10: 和の文様 身近なものにも和のこころ プレゼンテーション	(予習)第11章を読んで、身近な和の文様のものを持参する
11: 日本の伝統文化を支えるきもの 能・歌舞伎・茶道 和の文様 小テスト	(予習)和の文様を覚えておく
12: 季節に応じたきもの 浴衣について	(予習)第8章を読んでおく
13: 自由研究 これからのきもの	(予習)テキスト・プリントを読み返しておく
14: 発表準備	テーマについてのリサーチと発表準備をする
15: 発表とまとめ プレゼンテーション、試験について	発表準備と提出レポート準備をする

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 課題プリントや調査など30分以上の準備学習が必要となります
 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した180分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書

教科書:きもの文化検定公式教本1『きもの基本』 出版:ハースト婦人画報社

VI. 評価方法と評価基準

筆記試験(70%)、学習の意欲(20%)、実技評価(10%)、

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

全ての課題やレポートについては返却時や発表時に個別にコメントをフィードバックします。

1 選択科目2年
2 期

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
ファブリックワーク	FA52110	開講時期:	1・2期	形態:	演習
担当者		履修方法:	卒業選択	単位:	1単位
齊藤 朋子		免許・資格など	生活スタイリングフィールド	履修要件他:	
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	本科目との関連				
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	○				
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。					
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	○				
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。					
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	○				
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。					
II. 概要					
ファブリックとは 織り、編み、フェルト、レースなどの組織を持つ生地一般をさす言葉です。この授業では、身近にあるファブリックを使って、ネックレスやブレスレットなどのアクセサリを製作します。					
III. 学習成果					
材料の特性を研究し、成形方法を考える力を身につける。 布地やリボンを成形するための方法を考え、工夫して作ることができる					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: 導入① 布を使ったアクセサリ(つけ衿)のデザイン計画	道具の使用方法、注意事項をまとめる。 試作を元に、アクセサリのデザインを考える。				
2: 導入② 各自のデザインを決定し、デザイン計画をイラスト付きレポートにまとめる。	デザインのポイントと使用素材を図にまとめる。 必要な材料について市場調査をし、材料を準備する。				
3: 布を使ったアクセサリ(パターン作成)	製作に必要なファブリックを準備する。 パターンについてレポートにまとめる				
4: 布を使ったアクセサリ(土台の縫製)	土台の縫製方法を確認しておく 土台の縫製についてレポートにまとめる				
5: 布を使ったアクセサリ(各自の技法による装飾)	使用する技法について調べておく 技法についてレポートにまとめる				
6: 布を使ったアクセサリ(各自の技法による装飾の展開)	使用する技法の展開について調べておく 仕上げについてのレポートを作成する。				
7: 布を使ったアクセサリ(装飾の仕上げ)	装飾や仕上げについてまとめる 仕上げについてのレポートを作成する。				
8: リボンをを使ったアクセサリ(導入)	着彩デザインを描く準備をする。 製作に必要な材料を次回までに準備する。				
9: リボンをを使ったアクセサリ(ソウタシエのデザイン計画)	製作工程についてまとめる ソウタシエ部分のデザインをレポートにまとめる				
10: リボンをを使ったアクセサリ(アクセサリ全体のデザイン計画)	製作工程についてまとめる ソウタシエを取り入れたアクセサリのデザインをレポートにまとめる				
11: リボンをを使ったアクセサリの製作①(ソウタシエの技法で試作をつくる)	試作について考えをまとめておく 試作についてのレポートを作成する。				
12: リボンをを使ったアクセサリの製作②(ビーズの配置を考える)	ビーズの配置を考えておく ビーズの配置をレポートにまとめる				
13: リボンをを使ったアクセサリの製作③(製作工程を確認する)	製作工程について案をたてておく 製作工程をレポートにまとめる				
14: リボンをを使ったアクセサリの製作④(製作する)	製作工程について確認しておく 製作工程をレポートにまとめる				
15: 合評	各自の作品についてのプレゼンテーションをまとめておく 授業全体のレポートをファイルにまとめる				
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 市場調査の内容はプリントしてレポートに添付してください。毎回30分程度の時間外学習が必要です。 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書					
適宜プリントを配付します。					
VI. 評価方法と評価基準					
課題及びレポート80% 授業貢献度20%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)					
課題のための材料は、基本的に各自で準備してください。(配布するものもあります) 提出課題とレポートにコメントでフィードバックする。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
きもの製作と着装	FA52109	開講時期:	2期	単位:	1単位
		形態:	実習		
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など	生活スタイリングフィールド		
担当者		履修要件他:			
西田 由加里		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	
陶山 真美					

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	◎
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	○
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	○
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要

和裁の基礎として浴衣を製作する。ミシンを使い、より早く仕立てる方法を学ぶ。
製作した浴衣を使って、着物の着装と帯の結び方も学ぶ。

III. 学習成果

和裁の基礎的な知識と技術を習得することができる。
洋裁縫製技術に活かすための和裁縫製技術を習得することができる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容

授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: 浴衣製作 和裁に必要な用具説明、名称 和裁における手縫い、指貫、運針について	反物や縫い糸等、材料の準備を行う 授業内で配布したプリントを読んで復習する
2: 寸法割り出しについて 反物を裁断する 指抜き使い方、運針の実践	反物や縫い糸等、材料の準備を行う 指抜きの使い方、運針の復習する
3: 印付け、袖作り	授業で学んだ要点や注意点をまとめる 授業内で配布したプリントを読んで復習する
4: 背縫い・くり越し縫い・まつり・肩あて縫い	授業で学んだ要点や注意点をまとめる 授業内で配布したプリントを読んで復習する
5: 肩あて付け・脇縫い・脇耳ぐけ始末	授業で学んだ要点や注意点をまとめる 授業内で配布したプリントを読んで復習する
6: 襟下縫い・衿付け・耳ぐけ始末	授業で学んだ要点や注意点をまとめる 授業内で配布したプリントを読んで復習する
7: 裾ぐけ・共襟つけ・襟付け	授業で学んだ要点や注意点をまとめる 授業内で配布したプリントを読んで復習する
8: 襟芯つけ・襟ぐけ始末	授業で学んだ要点や注意点をまとめる 授業内で配布したプリントを読んで復習する
9: 袖付け・耳ぐけ始末	授業で学んだ要点や注意点をまとめる 授業内で配布したプリントを読んで復習する
10: いしき当て付け・仕上げ	授業で学んだ要点や注意点をまとめる 授業内で配布したプリントを読んで復習する
11: 浴衣製作仕上げ・合評	インターネットや図書館で帯の種類について調査する
12: きものの着装・帯の結び方(半幅帯)	下着の補正、浴衣、帯の手順を学び、練習する
13: きものの着装・帯の結び方(半幅帯)	帯の結び方を練習する 結び方の手順をレポートにまとめる
14: きものの着装・帯の結び方(振袖・変わり結びの講義)	振袖の着付けを実際に見ることにより、手順やコツを学ぶ
15: きものの着装・帯の結び方 レポート作成・提出	帯の結び方を練習する 結び方の手順をレポートにまとめる レポート提出

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
授業内で終わらなかった課題については時間外での作業が必要になります。

V. 教科書・参考図書

教員作成資料・参考資料を配布します。

VI. 評価方法と評価基準

作品提出60%、レポート提出30%、学習への意欲10%、

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

浴衣製作に必要な反物は、講座初日までに各自購入が必要です。
着装では、製作した浴衣を使います。 そのほか着付けに必要な肌着、タオル、半幅帯、紐類は手持ちのものを持参してください。
課題作品については、授業内で講評を行います。

1 選択科目2年

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
ファッションデザインリサーチ	FA53207	開講時期:	1期	単位:	1単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	卒業選択		
尾畑 圭祐		免許・資格など	ファッション造形フィールド		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	◎
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	◎
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
 衣服をデザインするうえで重要な情報収集と、それをデザインに転換させる為の方法を学ぶ授業である。
 収集した情報を分析して様々な手法を用いてまとめたアイデアをもとにデザインを行い、完成度の高いポートフォリオを制作します。

III. 学習成果
 ファッションデザインに必要な情報収集能力、分析力、編集力、発想力を身につけることができる。
 ポートフォリオの作成方法を身につけることができる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準 備 学 習 (予 習 ・ 復 習) 内 容
1: 導入・リサーチの目的と自分を知るためのブレインストーミング パーソナルシートの作成	パーソナルシートの内容を整理しておく
2: テーマ、コンセプトを導く為のリサーチ①(情報収集) 図書館でのリサーチワーク	収集した情報をもとに、気になる情報を抜粋しておく
3: テーマ、コンセプトを導く為のリサーチ②(情報の編集とテーマ、コンセプトのテーマ) コンセプトシートの作成	自分のテーマ、コンセプトの概要をまとめておく
4: リサーチのまとめ方①(コンセプトにもとづく情報の追加リサーチ) 図書館でのリサーチワーク	リサーチした情報をジャンルごとに整理しておく
5: リサーチのまとめ方②(イメージの具現化) イメージボードの作成	イメージボードに使用する写真や画像を抽出しておく
6: リサーチのまとめ方③(リサーチの分析) 分析シートの作成	リサーチした情報をもとに追加収集しておく
7: 立体表現でのリサーチ①(立体の表現方法と重要性) 布・紙等による立体物の製作①	製作する立体物のイメージやテクニックを整理しておく
8: 立体表現でのリサーチ②(ボディー表現によるサンプルテスト) 布・紙等による立体物の製作②	製作した立体物の完成度を上げる作業をしておく
9: リサーチからデザインへ①(デザイン情報のリサーチ) デザイン分析シートの作成①	デザインのイメージソースを収集して整理しておく
10: リサーチからデザインへ②(デザインイメージの具現化) 人体コラージュの作成	人体コラージュの完成度を上げる作業をしておく
11: リサーチからデザインへ③(デザイン要素の分析) デザイン分析シートの作成②	デザインに取り入れるディテール情報を収集して整理しておく
12: デザインを伝える③(デザイン画の表現方法について) デザイン画(下書き)作成	デザイン画(下書き)の完成度を上げておく
13: デザインを伝える③(デザイン画の着色について) デザイン画着色作業	デザイン画(着色)の完成度を上げておく
14: ポートフォリオのレイアウトと構成 ポートフォリオの最終調整	今まで製作したものや情報を見直しておく
15: 講評会・ポートフォリオのプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備や練習をしておく

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 準備学習は毎回30分以上行うこと。内容については授業終了後に説明します。
 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
 プリントを配布する。

VI. 評価方法と評価基準
 課題提出80% 学習の意欲20%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 完成したポートフォリオに対してのフィードバックとして課題提出後に評価ポイントを記入して返却します。
 時間内に終わらない課題は次の授業までに追いつくようにしてください。

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
ドレーピング演習Ⅱ	FA53208	開講時期:	1・2期	単位:	2単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など 履修要件他:	ファッション造形フィールド		
担当者	坂元 美貴子				
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)
 学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	◎
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
 ドレーピングとは、ボディに(人台・ドレスフォーム)に布(シーチング)を当て、立体的に型紙を作る方法を言います。
 この授業は、「ドレーピング演習Ⅰ」で習得した基礎的な技法を応用して、さらに高度なドレーピングの技法を学びます。
 また、後半では応用デザインとして有名デザイナーの服を研究し、ドレーピングで製作します。

III. 学習成果
 ドレーピングで完成したシーチングのトレースを、実際に縫製できるまでのパターンに完成させることができる。
 ドレーピングの応用技法を修得している。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容

授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: 導入 視覚養成のためのムラージュの習作(ボディの型抜き)	シーチングにアイロンをかけ基礎線を入れる
2: ムラージュの印付けと再度組み立て	ムラージュのドレーピングをノートにまとめる
3: ムラージュのトレースパターンの完成	シーチングにアイロンをかけ基礎線を入れる
4: ワンピース(パネルライン)のドレーピング	ワンピースのドレーピングをノートにまとめる
5: ワンピース(パネルライン)の印付けと再度組み立て	袖の作図をする
6: ワンピースの衿付けと袖付けを行いワンピースを完成させる	ワンピースのトレースパターンを完成させる ノートをまとめて提出する
7: テーラードジャケットのドレーピング(身頃)	シーチングにアイロンをかけ基礎線を入れる
8: テーラードジャケットの印付けと再度組み立て	テーラードジャケットのドレーピングをノートにまとめる
9: 2枚袖の作り方について	身頃のトレースパターンを作成する
10: テーラードジャケットに2枚袖を付けて完成させる	2枚袖のトレースパターンを作成する
11: マドレーヌヴィオネの作品研究 マドレーヌヴィオネの作品をドレーピングで作成する	シーチングにアイロンをかけて基礎線を入れる
12: マドレーヌヴィオネの作品のドレーピング	ドレーピングの方法をノートにまとめる
13: マドレーヌヴィオネの作品の印付けと再度組み立て	トレースパターンを作成する
14: デザイナーブランドの作品研究①	シーチングにアイロンをかけて基礎線を入れる
15: デザイナーブランドの作品研究②	最終ノート整理を行う

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 シーチングのアイロン掛けは必ず行っておくこと。アイロン掛けや地直し、トレースパターン、ノート整理など毎回30分以上は行うこと。
 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した90分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
 教科書は使用しない
 教員作成の資料や師範作品を参考資料とする。

VI. 評価方法と評価基準
 課題作品(ノート提出物含む) 80% 学習の意欲20%
 準備学習ができていない場合は、学習意欲の評価の対象とします。

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 資料の再配布はしないので紛失しないように保管すること。ノートやトレースパターンはコメントを添えて返却します。
 授業の性質上、欠席をすると次の授業に支障をきたすので無断欠席はしないようにすること。病欠等で欠席した場合は必ず研究室に聞きに来ること
 「実務経験教員科目」特記事項: アパレルメーカーでパタンナーとしての勤務経験あり。授業第1回から第15回まで現場で行っていたドレーピング技法を実践する。

1 選択科目
2 期

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
ファッションクリエート演習	FA53209	開講時期:	1・2期		
		形態:	演習	単位:	4単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	ファッション造形フィールド		
尾畑 圭祐		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	◎
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	◎
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	◎
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	○
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
 ファッション造形を学んだ学生の応用力を服製作に活かすことで、技術の向上、応用力、パターンの理解力を深めます。
 デザイン提案したものを作品として完成させるために、素材選定、パターンへの展開、デザインと素材に合った縫製方法などを知識だけでなく技術の向上を目指して、進めていきます。

III. 学習成果
 デザインからパターンへ展開、作品完成を通して選んだ素材に合った縫製工程や縫製方法を考え、完成させていく力を身につけることができる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: 課題Ⅰ ブラウス(薄物) デザインを決定する	薄物として扱う素材を調べる。素材を探し購入する
2: パターン作成 工業用パターンについて	参考になるパターンを調べる。
3: パターン完成、裁断(印付け)	工業用パターンの縫い代付けを確認しておく
4: 準備工程 芯裁断・接着・裁ち端の始末	素材に合った始末の方法を考えておく
5: 準備・縫製工程	縫製工程を決めておく
6: 縫製工程(身頃)	縫製工程を確認する。工程通りに進めておく
7: 縫製工程(身頃、衿)	縫製工程を確認する。工程通りに進めておく
8: 縫製工程(袖)	縫製工程を確認する。工程通りに進めておく
9: 縫製工程(仕上げ)	縫製工程を確認する。工程通りに進めておく
10: 作品完成 提出シート作成	提出シート準備
11: 課題Ⅱ グループでテーマを決めオリジナル作品展開	グループでの話し合い
12: デザイン決定	テーマを決めておく
13: パターン作成(身頃)	パターン作成
14: パターン作成(衿、袖等)	パターンを完成する
15: 裁断	素材を購入しておく
16: 準備工程 芯裁断等	作品完成までの工程を考える
17: 準備・仮縫い	仮縫いを進める
18: 仮縫い	グループで仮縫いを合わせる
19: 縫製工程(表地身頃縫い)	縫製工程を確認する。工程通りに進めておく
20: 縫製工程(表地衿縫い)	縫製工程を確認する。工程通りに進めておく
21: 縫製工程(表地見返し縫い)	縫製工程を確認する。工程通りに進めておく
22: 縫製工程(表地袖縫い)	縫製工程を確認する。工程通りに進めておく
23: 縫製工程(裏地パターン作成)	縫製工程を確認する。工程通りに進めておく
24: 縫製工程(裏地裁断)	縫製工程を確認する。工程通りに進めておく
25: 縫製工程(裏地身頃縫い)	縫製工程を確認する。工程通りに進めておく
26: 縫製工程(裏地袖縫い)	縫製工程を確認する。工程通りに進めておく
27: 縫製工程(裏地と表地付け)	縫製工程を確認する。工程通りに進めておく
28: 縫製工程(仕上げ)	縫製工程を確認する。工程通りに進めておく
29: 完成	グループ作品としての完成を見合わせる
30: 合評	コーディネートを考え準備する

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 1回の授業に対して30分程度の準備学習を行うこと。
 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した180分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
 プリントを配布
 文化ファッション体系の教科書

VI. 評価方法と評価基準
 課題作品(80%) 提出シートを含むレポート(10%) 学習の意欲(10%)

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 1年3・4期開講のファッション造形を修得した学生に限ります。
 課題のフィードバックとして、合評を行う。また、提出課題は改善点や評価ポイント等を添えて返却をする。
 各課題に必要な素材や付属品は各自準備する事が必要です。
 提出期限厳守ですので、授業時間内に終えていない課題は次の授業までに追いつくように努力してください。

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
ドレス製作	FA53210	開講時期:	1・2期	単位:	3単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など 履修要件:	ファッション造形フィールド		
担当者	アクティブラーニング科目: <input type="radio"/> 実務経験教員科目: <input type="radio"/>				
竹内 真由美					

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	本科目との関連
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	○
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	○
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	○
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
慶事日に装うドレスを製作する。
フォーマルドレスのシルエットや素材を学びオリジナルのドレスを製作する。

III. 学習成果
さまざまなドレスの種類やシルエット(ライン)に適した素材の重要性を理解する
人体の動きに合わせたデザインやパターン作成の知識を理解する
繊細な素材の性質を理解し、縫製方法を習得する

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: デザイン及び素材、付属品決定、採寸	ドレスに合った表布や裏布、付属品を調べておく グループごとにデザインコンセプトを考えてまとめておく
2: パターン作成	パターン作成の手順や要点をまとめておく 表布、裏布、付属品の見本を準備しておく
3: トアルでの試着	トアルにパターンを写し仮縫いしつけ準備をしておく
4: パターン修正、(見返し、裏作成)	試着チェック箇所の修正手順をまとめておく 清書パターンの見直し、布ごとの用尺を算出しておく
5: (表地、裏地、芯地)裁断、芯貼	仮縫いしつけの手順や要点をまとめておく
6: 仮縫い	各素材の裁ち忘れが無い確認しておく
7: 仮縫いチェック、補正、パターン修正	互いにサイズの確認をしあって測り直しておく 仮縫い補正の要点をまとめておく
8: 縫製(身頃)	身頃縫製の手順や要点をまとめておく
9: 縫製(見返し、裏付け)	見返しや付属品付けの手順を考えてまとめておく
10: 縫製(開きの始末)	縫いあがりの見直しをして修正箇所をまとめておく
11: 縫製(スカート)	スカート縫製の手順や要点をまとめておく
12: 縫製(コンシールファスナー付け)	いろんなファスナー付けについて調べてまとめておく
13: 縫製(裾始末)	縫いあがりの見直しをして修正箇所をまとめておく
14: 装飾製作	全体の仕上がりを見て装飾品を確認する
15: 最終チェック	作品のまとめ、ノート提出

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
内容について詳しくは毎回の授業で説明します。
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した135分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
教員参考資料を配布します。

VI. 評価方法と評価基準
課題作品 70% 学習の意欲 20% レポート 10%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
「実務経験教員科目」特記事項: アパレルメーカーパタンナー勤務経験あり
授業第1回より第15回まで現場で行った事例を紹介している
現場で求められる手法を用いて授業を進める
合評会をおこない作品についてアドバイスをさせていただきます
※ 5万円~8万円程度の材料費がかかります

1 選
・ 択
2 科
・ 目
期 2
年

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
デジタルパターン	FA53211	開講時期:	1・2期		
		形態:	演習	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など	ファッション造形フィールド		
担当者		履修要件:			
斉藤 朋子		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	◎
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	◎
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	◎
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	◎
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
デジタルファッションのソフトを用いて、アイテム別にシルエットを作成し、データをCADへ移行しパターン展開を行います。
シルエットを形成するためのデザイン線や構造線について、3Dから2Dへの展開でわかりやすく学び、CADを使用することで工業用の完成パターン作成についても学びます。

III. 学習成果
3Dシミュレーションで、パターンの着装状態の適合度を理解し、服の構造を理解できる。
アイテム別に基本型から応用型への展開方法を理解できる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1:デジタルパターンソフトDressingSimLSXの解説と基本操作 基本のワンピース①	ワンピース課題で基本操作を確認する。
2:デジタルパターン3Dシミュレーションソフトの解説と基本操作 基本のワンピース②	ワンピース課題で基本操作を確認する。
3:ワンピースの応用① ワンピースシルエット作成と切り替え線のデザイン・パターンメイキング	教科書「ワンピース編」で名称とシルエットを調べる。
4:ワンピースの応用② 1/2縮尺サイズトワルの組み立て	トワル組立のために縫製順序を考えておく。
5:ワンピースの応用③ トワルチェックと修正・レポート作成	トワル組立の問題点とパターンの修正点を考えておく。
6:ワンピースの応用④ 縫製情報入力、シミュレーションソフトへの移行	シミュレーションソフトの操作手順を確認する。
7:ワンピースの応用⑤ 素材情報の入力・シミュレーション完成	シミュレーションソフトの操作手順をレポートにまとめる。
8:デジタルパターンソフトDressingSimLSXの基本操作(スラックス) パンツの基礎 ストレートパンツ作成	ストレートパンツ課題に取り組み、デジタルソフトの手順を確認する。
9:パンツの応用① デザインパンツのデジタルパターン作成	シルエット実現のための切り替え線を考えておく。
10:デジタルパターンソフトDressingSimLSXの基本操作(袖付きトップス)	セットインスリーブのパターンを理解しておく
11:トップス課題① トップスのシルエット、袖のシルエット	トップスのパターンを完成し、トワル組立の準備をする。
12:トップス課題② 1/2縮尺サイズトワルの組み立て	トワル組立の問題点とパターンの修正点を考えておく。
13:最終課題① 重ね着シミュレーション(縫製情報の入力)	重ね着シミュレーションの手順を確認する。
14:最終課題② 重ね着シミュレーション(素材情報の入力・仕上げ)	重ね着シミュレーションの工程を進めておく。
15:最終課題③ 最終レポート作成	最終課題レポートを完成させる

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
30分程度行うこと。準備学習については毎回の授業で説明します。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した90分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
教員作成資料配布
参考図書:文化ファッション大系「スカート・パンツ」「ワンピース」

VI. 評価方法と評価基準
課題データ提出(60%) 最終課題(30%) 学習意欲(10%)

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
アパレルCAD履修者が望ましい。
USBメモリを準備してください
提出課題にコメントでフィードバックする

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
パターンメイキング検定演習Ⅱ	FA54202	開講時期:	1・2期	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など	体験フィールド		
担当者	専任教員	履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	○
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	◎
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	○

II. 概要
 パターンメイキング検定2級取得のための授業である。
 一次試験(筆記)では4月上旬から6月の試験まで集中的に授業を行う。
 二次試験(実技)対策は8月後半から9月の試験直前まで集中的に授業を行う。
 尚、検定日が確定した後に詳しい日程を示す。

III. 学習成果
 パターンメイキング検定2級に合格することでパターンの応用力や工業用パターンの知識を身につける。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: <一次試験(筆記)対策> ガイドブック チャプター1(ガイダンスと検定の内容)についての講義	(予習)チャプター1のガイダンスと内容について読んでおく (復習)チャプター2の練習問題を解いておく
2: ガイドブック チャプター2(理論試験)解説	(予習)チャプター2の練習問題を解いておく (復習)チャプター2の練習問題の見直し
3: ガイドブック チャプター3(縮尺実技試験)解説	(予習)チャプター3の練習問題を解いておく (復習)チャプター3の練習問題の見直し
4: ガイドブック チャプター4(ドレーピング実技試験)解説 ガイドブック チャプター5(パターンメイキング実技試験)解説	(予習)チャプター3の練習問題を解いておく (復習)チャプター3の練習問題の見直し
5: 筆記試験対策問題① 解答と内容説明 理論問題	(予習)対策問題①対策問題を解いておく (復習)対策問題①で間違えた箇所を見直しておく
6: 筆記試験対策問題② 解答と内容説明 製図問題	(予習)対策問題②対策問題を解いておく (復習)対策問題②で間違えた箇所を見直しておく
7: 筆記試験対策問題③ 解答と内容説明 工業用パターンメイキング	(予習)対策問題③対策問題を解いておく (復習)対策問題③で間違えた箇所を見直しておく
8: 筆記試験対策問題④ 解答と内容説明 グレーディング	(予習)対策問題④対策問題を解いておく (復習)対策問題④で間違えた箇所を見直しておく
9: 筆記試験対策問題⑤ 解答と内容説明 素材	(予習)対策問題⑤対策問題を解いておく (復習)対策問題⑤で間違えた箇所を見直しておく
10: 筆記試験対策問題⑥ 解答と内容説明 骨格と筋肉	(予習)対策問題⑥対策問題を解いておく (復習)対策問題⑥で間違えた箇所を見直しておく
11: <二次試験(実技)対策> 実技試験対策問題① パターンの作成、シーチング準備	(予習)パターンメイキング実技試験項目を読む (予習)パターンを1/2で作図する
12: 実技試験対策問題① シーチング裁断、ピン打ち仕上げ	(予習)シーチングの準備まで終わらせておく (復習)実技試験対策問題①を終わらせておく
13: 実技試験対策問題② パターンの作成、シーチング準備	(予習)シーチングの準備まで終わらせておく (予習)パターンを1/2で作図する
14: 実技試験対策問題② シーチング裁断、ピン打ち仕上げ	(復習)実技試験対策問題②を終わらせておく
15: 実技試験対策問題のまとめ	(復習)実技試験対策問題①・②を見直しておく
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 復習と時間外課題に1時間程度の学習時間が必要です	

V. 教科書・参考図書
 教科書: パターンメイキング技術検定試験2級ガイドブック、プリント配布

VI. 評価方法と評価基準
 評価方法と評価基準は学科内規にもとづく
 評価基準の詳細は検定ガイダンスで示す

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 履修登録前に行う「検定ガイダンス」を必ず受けること
 「パターンメイキング技術検定3級」取得者のみ受講可能(もしくは同等の技術と知識を要する)
 筆記試験では1/2縮尺定規、トレーシングペーパーを各自で準備すること
 実技試験ではシーチング、シルクピン、製図用紙を各自準備すること

1 選
 択
 科
 目
 2 年
 期

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
企業研修	FA60106	開講時期:	通年	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	体験フィールド		
専任教員		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1	一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。				○
DP2	ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。				○
DP3	服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。				○
DP4	ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。				
DP5	ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。				
DP6	修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				◎
DP7	専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。				◎
II. 概要					
アパレル企業の現場を視察研修することで、アパレル業界の仕事の流れや内容を理解し、学内では得られない知識を深めることを目的とする。また、美術館や特別展を見学し、ファッションを学ぶものとしての見識を広げる。					
III. 学習成果					
アパレルメーカーの現場で商品企画から販売までのプロセスを知ることにより、学内の授業の理解を深める。 服作りに必要な副資材(芯地、裏地、ボタン、ファスナーなど)についての専門的な知識を学び、学内での実習に活かす。 美術館などの展示観覧を通してデザインの発想に活かす。					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: 研修の概要の説明			研修先の概要について各自でノートにまとめる		
2: 学生の組織編成			研修先についての調査を行う		
3: 研修内容・レポート内容についての説明			研修先についての調査を行う		
4: 研修前の指導 日程の確認 研修期間の服装や研修マナーについて			事前レポートの提出		
5: 研修前の指導 注意事項の最終確認			出発前の準備を行う		
6: 研修期間 (6講~14講)					
7: 1、研修の概要					
8: 実施時期:9月中旬 2泊3日			研修期間中はルールを守り行動すること		
9: 実施場所 東京					
10: 旅 程 事前研修にて説明					
11: 授業形態 集中授業			事後研修レポートのための準備をすること (ノート 写真 パンフレット 資料等の整理)		
12: 2、研修内容(昨年度実績)					
13: ①アパレルメーカー、素材に関する企業訪問					
14: (株)ユミ・カツラインターナショナル					
15: (株)レモラファブリック					
16: (株)ユナイテッド・アローズ					
17: ②副資材メーカー三景株式会社による副資材講座					
18: YKK株式会社					
19: ③美術館・博物館の見学					
20: (印刷博物館・アクセサリーミュージアム)					
21: ④都内での自主研修					
15: 事後研修			研修レポートを作成する		
研修レポート提出についての説明					
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書					
教科書は使用しない。教員作成の資料を配布する。					
VI. 評価方法と評価基準					
事前指導の参加及び事前の課題提出20% 事後のレポート70% 研修中の態度10%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)					
確定参加者20名以上で実施する。 参加費用は旅行業者より提示 研修内容や訪問先は諸事情により、変更になることがある。 課題やレポートについては返却時にコメントを添えて返却します					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
インターンシップ	FA60107	開講時期:	通年	単位:	1単位
		形態:	実習		
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	体験フィールド		
専任教員		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	○
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	○
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	○
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	○
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	○

II. 概要
 学外の現場におけるデザイン企画、縫製技術、販売技術、生産管理等の専門分野に関わる業務等を学び、ファッションビジネスの考え方や現状を理解する。それと同時に自らの進路について考えるきっかけとなることを目的とする。

III. 学習成果
 様々な分野において専門知識を活かして社会人として自立するために必要なことは何かを知る。
 実際の現場で体験することにより、将来の進路の方向性を見出すことができるようになる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: インターンシップについての説明 職種別調査	インターンシップを体験したい職種の事前調査を行う キャリアデザインブックを読む
2: インターンシップ希望企業の調査	インターンシップ受入れ企業の事前調査を行う
3: エントリーシート、履歴書の書き方、基本マナーの指導	エントリーシート、履歴書の作成
4: メールの書き方 基本マナーの指導	エントリーシート、履歴書の作成
5: 書類作成、インターンシップでの注意事項の説明	書類の作成 インターンシップの日程確認
6~11: 現場実習 実習時期 主に4月下旬~12月末 実習時間:30時間以上 1日8時間×4日間(21コマ) 体験内容:基本業務 企業でのマナー	毎日、実習レポートを作成して、企業の確認印をもらう
12: インターンシップ終了後の報告会	報告会の準備
13: 企業へのお礼状作成について	企業へのお礼状の作成
14: 報告書について	実習レポートと報告書作成
15: 報告書の提出	インターンシップを終えて、報告書の作成
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明	

V. 教科書・参考図書
 キャリアデザインブックを使用します
 資料はプリントで配布する

VI. 評価方法と評価基準
 実習およびレポート80% 提出物10% 事前・事後指導での学習の意欲10%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 事前事後の研修を必ず受けること
 現場での実習は企業でのマナーを守って、礼儀正しい態度で臨むこと
 作成書類についてはコメントでフィードバックします。

1 選
 2 科
 期 目 2 年

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
デジタルモデリング演習	FA50113	開講時期:	3期	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など	デザインフィールド		
担当者		履修要件:			
橋高 大輔		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。					本科目との関連
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。					○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。					○
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。					○
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。					◎
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。					○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。					
II. 概要					
3Dソフトウェア・アプリを使い、スカルプト(造形)基本的な操作や概念、技術を身につけ、オリジナルキャラクターデザインとファッションアイテムデザインを考え、モデリングを行う。					
III. 学習成果					
① 3Dソフトウェアの基本的な操作技術を身につける。					
② キャラクターやアイテムの形状モデリングの方法が身につく					
③ アイテム形状を作成する意欲を掘り下げる					
IV. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: 1:3Dソフト・アプリの基本操作とツールについて学ぶ			「スカルプト」について検索をかけた意味やイメージを予習しておく		
2: 球体状のキャラクターをモチーフにしたモデリング① ソフトウェアのツールの機能を知る			球体に近いシンプルな既存のキャラクターを2~3体選択しておく		
3: 球体に近いキャラクターをモチーフにしたモデリング② ソフトウェアのツールのサブメニューについて知る			ツールの操作についてノートに整理しておく		
4: 球体に近いキャラクターをモチーフにしたモデリング③ 細部の作り込み方とツールのサイズについて知る			身につけさせたいシンプルなアイテムを1つ考え、資料を用意しておく		
5: 球体に近いキャラクターをモチーフにしたモデリング④ アイテムを一つ作成			モデリングの完成作業と提出		
6: 2頭身のキャラクターをモチーフにしたモデリング① 身体のバランスを考える。腕や足の引き出し方について知る			2頭身の既存キャラクター(なるべくシンプルな)の資料を用意しておく		
7: 2頭身のキャラクターをモチーフにしたモデリング② 頭部の作り込み			バランスや形状の見直しをする		
8: 2頭身のキャラクターをモチーフにしたモデリング③ 身体の作り込み、バランスの調整			バランスや形状の見直しをする		
9: 2頭身のキャラクターをモチーフにしたモデリング④ 身につけるアイテム・アクセサリーを作成、完成提出			身に付けるアイテム、アクセサリーを1つ考え、資料を用意しておく		
10: オリジナルデザインのキャラクターをモデリング①(素体はこちらで準備) キャラクターのデザイン ラフスケッチ~デザイン画下書き			キャラクターorアイテムデザインのための資料を収集しておく		
11: オリジナルデザインのキャラクターをモデリング② キャラクターデザイン完成			身体のバランス、身につけるアイテム・アクセサリーを考える		
12: オリジナルデザインのキャラクターをモデリング③ 大まかなモデリング			モデリングの計画を立てる。		
13: オリジナルデザインのキャラクターをモデリング④ 頭部、手足の作り込み			全身のモデリングの調整		
14: オリジナルデザインのキャラクターをモデリング⑤ 細部の作り込み			対象デザインの細部を見直す		
15: オリジナルデザインのキャラクターをモデリング⑥ 全体の調整			モデリングの完成と提出		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 準備学習は毎回30分以上行うこと。また内容や要領については必要に応じて説明する。 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書 必要に応じて資料を配布・共有する。					
VI. 評価方法と評価基準 授業での提出課題の点数(90%) 学習の意欲(10%)					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等) USBメモリー(8GB以上)もしくはクラウド(グーグルドライブ)などへのバックアップが必要。どちらかを使える状態にしておくこと。 課題作品は採点に必要なアドバイスとコメントを口頭で行う。 作業進行の状況により、作成したモデルをWeb上で共有し、確認できるようにすることも検討します。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
アニメーション演習	FA50114	開講時期:	3・4期	単位:	2単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	デザインフィールド		
非常勤講師		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1	一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。				
DP2	ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。				○
DP3	服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。				
DP4	ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。				
DP5	ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。				◎
DP6	修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				◎
DP7	専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。				
II. 概要					
映像の基礎的な知識やアニメーションの作画、専門ソフトの扱いなど、アニメーション制作の基礎を学ぶ。 また、アニメーションとして動かすことで、空間的、立体的なイメージ作りに取り組む。					
III. 学習成果					
表現するための様々な知識と技能を身につけ、専用ソフトを使ってアニメーションムービーを制作できる。 自分のデザインした衣装をアニメーションで動かすことで、ファッションに対する理解度を上げる。					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: アニメーションとは 授業の流れと使用ソフトウェアの説明			アニメーション制作における役割や手段を理解する		
2: 絵コンテについて① 絵コンテの読み方、描き方、カメラアングルの役割について			実際の映像作品を観ながら、カメラアングルの効果などを確認してみる		
3: 絵コンテについて② プロット(あらすじ)から絵コンテを描いてみる			絵コンテやカメラアングルについての解説を読み返しておく		
4: ソフトウェアの基本操作①(stylos) 瞬きのアニメーション			作画ソフトの扱い方をノートにまとめておく		
5: ソフトウェアの基本操作②(Paintman) 回転のアニメーション			作画方法の違いを理解し、彩色ソフトの扱いを覚える		
6: ソフトウェアの基本操作③(Core Retas) ポールのメタモルフォーゼ			自由な発想の元にアニメーションを描いてみる 編集ソフトの扱いを覚える		
7: 歩行のアニメーション制作① キャラクターデザインの制作			テーマに合わせたキャラクターデザインを考える		
8: 歩行のアニメーション制作② 歩行のアニメーションの作画			歩くモーションの観察と研究		
9: 歩行のアニメーション制作③ 歩行時に起こる様々な動きの表現			服のしわや揺れ方、空気感の観察と表現		
10: 歩行のアニメーション制作④ 明暗にあわせた彩色			照明による明暗のつき方を研究しておく		
11: 各テーマに合わせた楽曲制作			どのような曲でキャラクターを歩かせたいか、イメージを固めておく		
12: ムービー用背景の制作			舞台となるステージデザインの具体的なイメージを持っておく		
13: ムービー用カットの制作			キャラクターデザインの特徴を魅力的に伝えるアングルやカット割りを考える		
14: アニメーションムービーの制作①			絵コンテを見返しつつ、映像全体の流れを把握しておく		
15: アニメーションムービーの制作②・鑑賞 プレゼンテーションと講評			制作したアニメーションについて各自でプレゼンテーション 鑑賞後、講評を行う		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 日常的に放送されているアニメーションをコマ送りしたり、色の塗り分けなど「制作するイメージ」を持って鑑賞する(30分程度) 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した90分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書 教科書は使用しない 教員作成資料を必要に応じて配布					
VI. 評価方法と評価基準 課題作品評価(60%) 学習の意欲(40%)					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等) 日常的な「動き」に興味を持ち、観察することを心がける アイデアスケッチや、ソフトウェアの使用方法を記入できるスケッチブック データ保存用のUSBフラッシュメモリを準備 フォトショップ、イラストレーターの知識も必要になるので、日頃からソフトの扱いに慣れておく 提出された制作物は個別に講評を行う					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
ファッション広告演習	FA50215	開講時期:	4期	単位:	1単位
担当者		形態:	演習		
平田 淳二		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など	デザインフィールド		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。					
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。					○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。					○
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。					
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。					◎
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。					○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。					
II. 概要					
自身のブランドを設計し、世の中に発信するためのデザインを制作。 そのために必要な、ブランディングとマーケティングの概念を知る。					
III. 学習成果					
企画や広告の制作における手順が判り、情報を整理するスキルが身に付く。 ブランドや広告の成り立ち、構成など、ポイントを見抜く力が養われる。					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1:広告とは コミュニケーション設計について知る			・広告の役割について、自分なりの見解を用意しておく。		
2:広告の実際 どのような広告が実際に展開されているか研究する			・身近な広告をピックアップし、どんなポイントがあるか分析する。		
3:ブランド設計の基本 どのような意図を持って存在しているか研究する			・好きなブランドの成り立ちを分解してみる。 バリュー、ビジョン、ミッション、理念、歴史、ポジションなど。		
4:デザインの基本 どのような手法に基づいて制作されているか研究する			・好きな広告やデザインの成り立ちを分解してみる。 ビジュアル、モチーフ、コピー、タイプフェイス、レイアウトなど。		
5:ブランディングとマーケティングの検証 いつ、どこで、誰に、何を、どう提供されているのか実例を分析する			・ベンチマークとするブランドの実施例を紐解く。 使用メディア、メッセージ性、デザイン性、ビジネスモデルなど。		
6:ブランド設計① 目的・コンセプト策定			・パーパスを考える 企業の存在意義について参考例を収集。		
7:ブランド設計② ネーミング・タグライン策定			・メッセージを考える 気に入った事例を収集。		
8:ブランド設計③ ロゴタイプ・ロゴマーク作成			・色や形を考える 参考にしたい実例を収集。		
9:広告設計 メディア、ビジュアル、メッセージ等のプラン作成			・ターゲティングとプロモーションについて考える。 実際に展開された例を収集。		
10:広告デザイン① ポスター等のデザインラフ作成			・構成案をスケッチする。 手書きラフ		
11:広告デザイン② ポスター等のデザイン			・スケッチを実画にする。 イラストレーターやフォトショップ、パワーポイント等。		
12:広告デザイン ポスター等のデザインフィニッシュ			・細部を見直し仕上げる。 課題提出準備(ブランドマップとポスター等デザイン)		
13:自身のブランドと広告についてのプレゼンテーション①			・発表と質疑応答 各自採点		
14:自身のブランドと広告についてのプレゼンテーション②			・発表と質疑応答 各自採点		
15:自身のブランドと広告についてのプレゼンテーション③			・発表と質疑応答 各自採点		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 準備学習を毎回30分以上行うこと。内容や要領は必要に応じて伝えますが、参考にしたい実例を、なるべく多く集めておくと、理解度が深まります。 また、単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書					
VI. 評価方法と評価基準 授業での提出課題 80% 学習の意欲・取り組み 20%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等) 授業内のプレゼンテーション時に、学生同士でフィードバックと採点を行います。それを基にした総合的な判断により評価します。 聴講の座学ではなく、実践的ワークの場なので、主体的な参加が自己実現を図れます。課題提出はクラスルームへのアップロードです。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
メンズファッション論	FA51110	開講時期:	3期	単位:	2単位
		形態:	講義		
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など 履修要件他:	ファッションビジネスフィールド		
担当者		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>
秦 寛史					

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
 民族や宗教で衣文化が異なるように、男女の性差によっても衣文化は異なります。
 この授業では、メンズファッションを「ミリタリー」「ワーク」「ユニフォーム」「フォーマル」の4つのカテゴリーに分類し、起源や特徴、またウィメンズファッションへの影響について学びます。

III. 学習成果
 1、メンズのアイテムをカテゴリーに分けることができる
 2、カテゴリー毎の起源、歴史、特徴を説明できる
 3、メンズファッションがウィメンズファッションへ与えた影響を説明できる

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: メンズファッションとウィメンズファッション生活習慣や性差がファッションへ与える影響について	男女の装いの違いをまとめておく
2: ミリタリーウェア1 その歴史と代表的なアイテムについて	ミリタリーとは何か、調べておく
3: ミリタリーウェア2 仕様、ディテールについて	身の回りのファッションにあるミリタリーウェアの要素を調べる
4: ミリタリーウェア3 素材について	コラージュのための画像を集める
5: ミリタリーウェア4 ミリタリーウェアの特徴をコラージュにして発表	コラージュのための画像を集める
6: ワークウェア1 その歴史と代表的なアイテムについて	ワークウェアとは何か、調べておく
7: ワークウェア2 仕様、ディテール、素材について	身の回りのファッションにあるワークウェアの要素を調べる
8: ワークウェア3 ワークウェアの特徴をコラージュにして発表	コラージュのための画像を集める
9: ユニフォーム1 その歴史と代表的なアイテムについて	ユニフォームにはどのようなものがあるか、調べておく
10: ユニフォーム2 仕様、ディテール、素材について	身の回りのファッションにあるユニフォームの要素を調べる
11: ユニフォーム3 ユニフォームの特徴をコラージュにして発表	コラージュのための画像を集める
12: フォーマルウェア1 その歴史と代表的なアイテムについて	フォーマルウェアとは何か、調べておく
13: フォーマルウェア2 仕様、ディテール、素材について	身の回りのファッションにあるフォーマルウェアの要素を調べる
14: フォーマルウェア3 ドレスコードについて	日本で用いられるドレスコードをノートにまとめる
15: メンズファッションの今 メンズファッションの現在とこれから	現在のメンズファッションのトレンドを調べる
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 各回45分程度必要 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した180分を毎回必要とします。	

V. 教科書・参考図書
 教科書は使用しない。必要に応じて実物を用いて授業を行います。

VI. 評価方法と評価基準
 提出物50%、単位認定試験50%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 提出物は採点、講評のうえ返却します。
 「実務経験教員科目」特記事項: アパレルの「販売、仕入れ、商品企画、デザイン、経営」の実務経験を活かし、今の市場、現場に則した実践的な知識を習得できる授業を行います。

3 選
 択
 科
 目
 2
 年
 4 期

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
メディアと映像	FA51211	開講時期:	3・4期	単位:	1単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	卒業選択		
有馬 厚子		免許・資格など	ファッションビジネスフィールド		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	◎
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	○
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
 情報社会でのコミュニケーションのありかたが重要視され、多くのメディア(情報媒体)が利用されている。コミュニケーションをより効果的にするには、どの様な媒体を選択するのが良いのだろうか。講義では、テレビ・映像・音楽・映画・イベントなどのコンテンツをwebやSNSなどを利用して成果を上げている事例を分析・考察する。毎回視聴する映像から、情報をどの様に受け止めて、自分の成長やクリエイティブな(ファッションなどの)仕事に取り入れていくかを自分の分野に置き換えて考えてみる。毎回アフターニングシートの設問に自分の考えを記入する(又は、発表する)。

III. 学習成果
 メディア毎の特性を知り、コミュニケーション力を高めると同時に、社会生活での情報選択に理解を深め、自分の考えや意見を表現できるスキルを獲得する。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: 「ガイダンス」講義のねらいと進め方・ルールを説明する メディアと映像を軸に様々な角度から考察して、自分の考えをまとめる講義です	当日のニュースをチェックしておく(各回30分-1時間程度行うこと) アフターニングシートにレポート記入(毎回7-10分程度)する
2: 「未来のコミュニケーション」について考察する コミュニケーションにおけるメディアの多様化と便利グッズの創造など	SDG'sを視野に入れて10年後のコミュニケーションを考える アフターニングシートにレポート記入する
3: メディアから見る新流通を考察する 「中国のSNS情報・ネット社会から考察する」	シルクをテーマに、eコマスを利用した中国NET社会から考える アフターニングシートにレポート記入する
4: 「画像・動画・映画」の始まり。映像の歴史と現代作家の思考について ルミエール兄弟から現代の映像作家・女子大生監督まで	1900年パリ万博前後を調べる アフターニングシートにレポート記入する
5: 広告メディアの歴史を考察する 「CF/CMの誕生と歩み」	あなたの好きなCMをもう一度見て分析してみる アフターニングシートにレポート記入する
6: 「メディアアートとデジタルアート」主張するメディアとアートする映像集団 アートとテクノロジーの融合で生まれる未来のコミュニケーションを考察する	個人の仕事と、各分野の専門家集団の仕事を紹介し、考える アフターニングシートにレポート記入する
7: 「日本の伝統芸能とポカロの競演」生き残りをかけたコラボ 「伝統と革新」リアルな役者とCGテクノロジーの融合の考察	歌舞伎とヴォーカロイドのコラボ/ニコニコ動画を調べてみる アフターニングシートにレポート記入する
8: 「サブスクリプションとクラウドファンディングの考察」◎利用時の自己対応策 情報の送り手と受け手(情報を得る&資金を集める)方法の選択肢を考察する	他者の意見を聞いて自分なりの対応策を持つ アフターニングシートにレポート記入する
9: ソーシャルメディア戦略で世界の舞台へ① 映像とSNSを活用し「見る音楽」で言葉を超えるアイドルグループの考察	楽曲・歌詞・映像・ダンス・ファンダムの運営などに注目する アフターニングシートにレポート記入する
10: ソーシャルメディア時代の注目JOBを考察② ユーチューバーとプロゲーマーの世界を考えてみる	YouTuber e-sports:Pro-gamer 各自でリサーチしてみよう アフターニングシートにレポート記入する
11: ソーシャルメディア時代の創作の思考③ 音楽の「コンポーザー」と映画ドラマの「脚本家」を例に考察する	異分野の人気の作品の創り手の共通点を探る アフターニングシートにレポート記入する
12: ソーシャルメディア時代の創作の思考④ 歌い手とユーチューバーを例に考察する	自作自演の人気作家の思考について考える アフターニングシートにレポート記入する
13: 現代映画の舞台裏：事前に、指定した2作品を見ておく◎意見交換 家族をテーマにした両国の映画「日韓の映画」というメディアが伝えるもの	2人の監督の対談を視聴して、自分の考えをまとめよう。 アフターニングシートにレポート記入する
14: ◎ソーシャルメディア時代の「光と影」⑤ SNS利用時に気を付ける事・メリット・デメリット◎自己防衛策を考えを発表する	日常生活での自分なりの(対応策)意見を持つ アフターニングシートにレポート記入する
15: 「著作権についての考察」ビジネス上で守らなければいけない著作権のこと メディアと映像を自在に使って仕事をするには、著作権の知識が必須です	各自でリサーチしてみよう アフターニングシートにレポート記入する

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 講義最後に次回のテーマについて紹介するので、関連情報をチェックすること
 単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします

V. 教科書・参考図書： 参考映像や参考図書は随時紹介し、必要に応じて資料配布します
 参考図書:「コミュニケーションデザイン」2016電通 岸勇希著、「2030年の世界地図」2019年SBクリエイティブ 落合陽一著
 「つながりの創り方」2019年川上昌直著(東洋経済)「2050年のメディア」2019年下山進著(文芸春秋)
 「K-POP新感覚のメディア」2018年Kim Sungmin著(岩波書店)、「推しの文化論」2022年鳥羽和久著(晶文社)
 「BTSを哲学する」Philosophizing about BTS 2022 Cha Minju著(株)かんき出版)「BTS学への招待」2023北九州市立大学李東俊ゼミナール編著者(明石書店)

VI. 評価方法と評価基準
 (毎回のアフターニング・シートの設問に自分の考えを記述し、提出する)50% ・ 単位認定試験30% ・ 学習意欲20%
 8回、13回、14回、の◎印の部分は、意見交換・ディスカッションも予定しています

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 「実務経験教員科目」特記事項:「日本広告学会」「日本映像学会」「芸術工学会」「ファッションビジネス学会」会員、映像制作の実務経験は34年。
 「メディアと映像」の講義では、関連の事例を多くピックアップし視聴します。ジャンルを超えて 広い視野で総合的に考えます。
 皆さんが興味をもった内容をきっかけとして、各自で情報のリサーチをして知識を深める事をお勧めします。
 毎回の出席を前提とします。提出物には、感想やチェックを記入して、試験前にまとめて各自に返却します。

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
キッズ製作	FA52112	開講時期:	3期	単位:	1単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	卒業選択		
高野 弓枝		免許・資格など	生活スタイリングフィールド		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	◎
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	○
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	○
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイナーとIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要

子供服の変遷・体型や特徴についての知識を身につけ、子供の成長と被服の関係について学ぶ。
乳幼児の体型を考慮したデザインと、子供服に適した装飾等を取り入れたオリジナルの服を製作する。

III. 学習成果

乳幼児期の成長過程と体型について理解し、洋服を製作することができる。
子供の着心地や機能性を考慮した子供服を作ることで、素材の選定や縫製方法、縫製手順を身に付けることができる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: 子供服の基礎知識 子供服の変遷、子供の体型の特徴と成長、成長と衣服	子供服の基礎知識について復習する 乳児用の帽子のデザインを構想しておく
2: 乳児用帽子の作成① デザイン構想、パターン、乳児用製品の素材について	子供服の基礎知識について復習する 作品の材料を授業までに用意しておく
3: 乳児用帽子の作成② 手順の説明、裁断や印付け、幼児用製品の縫製について	縫製手順を確認しておく 授業で指示した段階まで縫製を進めておく
4: 乳児用帽子の作成③ 作品(乳児用帽子)の仕上げと提出	作品の完成度を上げるための技術、工夫を考える 授業で指示した段階まで縫製を進めておく
5: 乳幼児用ロンパースの作成① デザイン構想、パターン、乳児用衣服の素材について	縫製手順を確認しておく 作品の材料を授業までに用意しておく
6: 乳幼児用ロンパースの作成② 手順の説明、裁断や印付け、乳児用衣服の縫製について	縫製手順を確認しておく 授業で指示した段階まで縫製を進めておく
7: 乳幼児用ロンパースの作成③ 作品制作、乳児用衣服の機能性について	縫製手順を確認しておく 授業で指示した段階まで縫製を進めておく
8: 乳幼児用ロンパースの作成④ 作品製作、スナップボタンや股ぐりあきについて	縫製手順を確認しておく 授業で指示した段階まで縫製を進めておく
9: 乳幼児用ロンパースの作成⑤ 作品(乳幼児用ロンパース)の仕上げと提出	作品の完成度を上げるための技術、工夫を考える 授業で指示した段階まで縫製を進めておく
10: 幼児用ワンピースドレスの作成① デザイン構想、パターン、幼児用衣服の素材について	縫製手順を確認しておく 作品の材料を授業までに用意しておく
11: 幼児用ワンピースドレスの作成② 手順の説明、裁断や印付け、幼児用衣服の縫製について	縫製手順を確認しておく 作品の材料を授業までに用意しておく
12: 幼児用ワンピースドレスの作成③ 作品製作、幼児用衣服の機能性について	縫製手順を確認しておく 作品の材料を授業までに用意しておく
13: 幼児用ワンピースドレスの作成④ 作品製作、幼児用衣服の裏地や仕立て方法について	縫製手順を確認しておく 作品の材料を授業までに用意しておく
14: 幼児用ワンピースドレスの作成⑤ 作品(幼児用ワンピースドレス)の仕上げと提出	作品の完成度を上げるための技術、工夫を考える 授業で指示した段階まで縫製を進めておく
15: まとめ 製作した作品についてのレポート提出と講評会をおこなう	作品についてのレポートを仕上げる 人気の子供服についてを市場調査をする

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
授業内で終わらなかった課題については時間外での作業が必要になります。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書

教員作成資料・参考資料を配布します。

VI. 評価方法と評価基準

作品提出70%、レポート提出20%、学習への意欲10%、

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

裁縫道具や材料(布や糸など)の準備が必要です。
作品やレポートは提出後、添削・評価し返却します。

3 選
・ 択
4 科
期 目
2 年

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
生活コーディネート演習	FA52113	開講時期:	3・4期	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	生活スタイリングフィールド		
河村 章子		履修要件他:			
石井 康子		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	◎
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	◎
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
この授業はオムニバスで行い、効果的なスタイルとして形作る事を多方面から学ぶ授業です。インテリアをコーディネートする授業として家とは違うホテルの心地よさが生まれる理由をインテリア、しつらえという視点から学び、暮らし方に応用します。実際にプランニングボードにMy Hotel roomプランを作成します。ラッピングでは、包む品物に合ったペーパーの大きさの決め方、基本の包み方、リボンワーク、包材の種類とその特性を活かしたラッピング方法と応用法を修得します。最後に制限や限界の中でイメージしたものに近付ける構成力を表現するポディワークを行います。生活の中に自然を取り入れる効用や季節の行事、テーブルコーディネートなどを学習します。

III. 学習成果
プランニング力を付け、それをビジュアルプレゼンテーションができる力がつきます。
様々な場面において、的確にスタイルとして表現できる考え方が身につきます。
暮らしに役立つ植物の効用やインテリアとしての植物の基礎知識が習得できます。
季節の行事やテーブルコーディネートの基礎が習得できます。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授業内容	準備学習(予習・復習)内容
1: ラッピング 包むスタイリングを学ぶ 1~7 担当:河村 プランニング	ファッション雑誌や店頭のディスプレイを観察し 創作作品のテーマを模索しておく
2: ラッピング基礎	包装の3パターンを意識し身近な包装を観察する
3: ラッピング応用	さまざまな形状のものを包装し応用する
4: リボンワーク	素材や配色、バランス等を服飾や雑貨からイメージして取り入れる
5: ディスプレイ演出の方向性	包材の市場調査や雑貨選びのためのワードローブの確認を行う
6: 創作	コンセプトをもとにフォーカスポイントとなる物を意識し配置する
7: プレゼンテーション・意見交換	スライドや動画等、ツールを模索する
8:英国「チェルシーフラワーショー2023」に参加したスライドショー 8~15 担当:石井 香りの持つイメージについて学習して、レポート提出	(復習)いろんな香りの持つイメージを考える
9:生活の中の植物の香り、ナポレオンとスミレ、ジョセフィーヌとバラ、オーデコロン 植物画(シーボルト、世界一のバラの画家)	(復習)生活の中に芸術を取り入れる方法を考える
10:フラワーギフトの贈り方 作品作り:テーブルに飾るセンターピース「ハートアレンジ」制作。テーマ、コンセプトの重要性を認識する	(復習)花の贈り方の基礎知識をワークを使い確認する
11:作品作り:「ハートアレンジ」の制作、テーマコンセプトのプレゼンテーション 季節を表現するテーブルコーディネート(リネン、和食器、洋食器、銀器、カトラリー、フィギュア)	(復習)テーブルコーディネートの資料を読む
12:お正月について 作品作り:しめ縄アレンジメント	(復習)伝統的な日本の新年を迎える準備をする
13:テーブルコーディネートのナプキンの折り方 季節を表現するテーブルコーディネート(リネン、和食器、洋食器、銀器、カトラリー、フィギュア)	(復習)ナプキンの折り方を練習する
14:個人用のティーテーブルを完成させる 季節を表現するテーブルコーディネート(リネン、和食器、洋食器、銀器、カトラリー、フィギュア)	(復習)自宅でティーテーブルを作りお茶を楽しむ
15:植物とともに過ごす楽しい豊かな暮らしについて	(予習)植物について日頃どのように感じているか考察する

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
準備学習は、各回30分以上行うこと。内容については詳しくは毎回の授業で説明します。8回~10回は授業の順序が変わる可能性があります。
予習に関しては事前にお知らせします。単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
教員作成資料配布

VI. 評価方法と評価基準
(河村) 表現力 40% 技術力 40% 学習の意欲 20%
(石井) レポート 40% 作品制作 40% 学習の意欲 20%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
2講座それぞれの授業回数に3/4以上出席すること(満たない場合は、その講座は0点になります)一部の講座において、材料を購入準備する必要があります。
授業中の私語、スマートフォンの使用は減点の対象とします。この授業は、オムニバスのため追再試験は行いません。
課題にはコメントをフィードバックし、ディスプレイ作品はクラス内で鑑賞し意見交換します。
・英国「チェルシーフラワーショー2023」に福岡市より3週間派遣 ・福岡市「一人一花運動」に参加 (石井)
・令和4年度都市緑化功労者国土交通大臣賞表彰(石井) ・2025年福岡フラワーショー「花の祭典」ショーガーデン受賞・「NHK趣味の園芸」出演

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
ファッションアート	FA52114	開講時期:	3・4期	形態:	演習
担当者		履修方法:	卒業選択	単位:	1単位
杉森 映徳		免許・資格など	生活スタイリングフィールド	履修要件他:	
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	本科目との関連
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	○
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	○
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	◎
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
被服素材や被服の機器を利用したアート作品の発想から制作までを行う。

III. 学習成果
グラフィックデザインや立体造形の手法や手順を利用し、被服素材を使って作品の制作を行うための発想方法と技術を身に付ける。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1:紙を使ったテクスチュアの制作。① 画用紙の土台制作	学内の壁、地面、自然物等の写真を撮影しておく。
2:紙を使ったテクスチュアの制作。② 各ピースの制作(20枚)	制作手順の整理と下準備。
3:紙を使ったテクスチュアの制作。③ 12枚のピースを台紙にレイアウト	完成作品の提出作業。
4:布を使った布見本の制作制作。 デザイン案の作成	課題に必要な布素材の調達をする。 身頃の区分けとデザイン案の作成をする。
5:針金、木材、自然物などを使った立体造形。① 立体のイメージデザイン(デザイン画)。	課題に必要な素材の調達をする。
6:針金、木材、自然物などを使った立体造形。② 針金を使った基礎造形及びパーツ作り。	基礎造形作業を完了する。
7:針金、木材、自然物などを使った立体造形。③ 針金の基礎造形物への様々な素材の接着。	作品の完成度を上げる。
8:針金、木材、自然物などを使った立体造形。④ 針金の基礎造形物への様々な素材の接着及び修正。	立体作品各パーツの組み立て準備をする。
9:針金、木材、自然物などを使った立体造形。⑤ 立体造形作品の組み立て～完成	作品提出の準備。
10:被服素材を使ったテクスチュアの作品制作(1/2ボディ)① デザイン案決定とイメージ画制作(着色)。	デザイン案をラフスケッチする。
11:被服素材を使ったテクスチュアの作品制作(1/2ボディ)② 生地へテクスチュア、切り絵等のデザインを施す(1)	制作のために必要な素材の準備をする。
12:被服素材を使ったテクスチュアの作品制作(1/2ボディ)③ 生地へテクスチュア、切り絵等のデザインを施す(2)	デザイン作業を完了する。
13:被服素材を使ったテクスチュアの作品制作(1/2ボディ)④ 生地を縫い合わせ立体にする。	立体作品の組み合わせ準備をする。
14:被服素材を使ったテクスチュアの作品制作(1/2ボディ)⑤ 立体作品を完成させる。	立体作品の完成度を上げる。
15: 作品鑑賞、及び講評。 作品の改善点等をレポートにまとめる。	作品、レポート提出の準備。

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
準備学習は毎回30分以上行うこと。必要に応じて内容や容量については必要に応じて説明する。
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
必要に応じて配布資料や画像を準備する。

VI. 評価方法と評価基準
授業での提出課題の得点 80% 学習の意欲 20%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
課題作品は採点をおこないコメントし、返却する。
USBメモリー(2GB以上)が必要。また可能なら2本用意することが望ましい(バックアップのために)

3 選択科目
4 2年
期

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
パターンメイキングⅡ	FA53212	開講時期:	3・4期	単位:	2単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	卒業選択		
竹内 真由美		免許・資格など	ファッション造形フィールド		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1	一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。				○
DP2	ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。				◎
DP3	服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。				◎
DP4	ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。				◎
DP5	ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。				
DP6	修得した知識や技術を総合的に活用することができる。				◎
DP7	専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。				
II. 概要					
アイテムごとの原型を平面で展開するというパターンメイキングの基本的理論と立体作図法を学びます。 業界でのパターンメイキング事例を通して人体の構造と機能に合わせた服作りの重要性を学びます。					
III. 学習成果					
さまざまなデザイン画をパターン展開できる力を修得する デザイナーの要望を理解してパターンを作成することができる					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: ダーツの移動、分散による展開方法			人体の骨格や筋肉の付き方をまとめておく		
2: プリンセスラインワンピース作図			プリンセスラインの切り替え線について調べてまとめておく		
3: プリンセス身頃トアル組み立て、チェック			パターンの見直しをし、トアルの準備をしておく		
4: カフス付きパフスリーブ作図			テーパードやパフスリーブ等袖の種類を調べてまとめておく		
5: フラットカラー作図 袖、衿トアル組み立て、チェック			シャツやフラットカラー等衿の種類を調べてまとめておく パターンの見直しをし、トアルの準備をしておく		
6: 3面体テーラードジャケット作図			ジャケットの3面体と4面体の違いを調べてまとめておく		
7: テーラーカラー作図			ラペルとテーラーカラーの関係を調べてまとめておく		
8: 3面体テーラードジャケットトアル組み立て、チェック			パターンの見直しをし、トアルの準備をしておく		
9: 二枚袖作図 トアル組み立て、チェック			一枚袖と二枚袖の違いを調べてまとめておく		
10: パンツ原型作図			人体学から足の構造に付いてまとめておく		
11: パンツ原型トアル組み立て、チェック			パターンの見直しをし、トアルの準備をしておく		
12: ストレートパンツ作図			ストレート、スリム、ワイドパンツのシルエットの違いを調べておく		
13: ストレートパンツトアル組み立て、チェック			パターンの見直しをし、トアルの準備をしておく		
14: ラグラン袖パターンメイキング			デザインライン(切り替え線)に付いて調べておく		
15: ラグラン袖トアル組み立て、チェック			パターンの見直しをし、トアルの準備をしておく		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 内容について詳しくは毎回の授業で説明します。 単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した90分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書 教員作成資料を配布します。					
VI. 評価方法と評価基準 課題作品 50% 試験作品 30% 学習の意欲 20%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等) 課題ごとに提出されたパターンには個別にコメントを行います。 「実務経験教員科目」特記事項: アパレルメーカーパタンナー勤務経験あり 授業第1回より第15回まで現場で行った事例を紹介している 現場で求められる手法を用いて授業を進める。 提出された課題へは個別に添削やコメントを行います。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
パターンメイキング検定演習 I	FA54101	開講時期:	3・4期	単位:	1単位
		形態:	演習		
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など	体験フィールド		
担当者	角谷 由加里	履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。	本科目との関連
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。	◎
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。	◎
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。	
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。	
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。	○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。	

II. 概要
9月下旬から12月上旬の検定試験まで集中的に授業を行う。(授業の日程は、検定日が確定したあとに詳細を示す。)
パターンメイキングの授業のスキルアップにつながる科目である。
授業の日程は、検定日が確定したあとに詳細を示す。

III. 学習成果
パターンメイキング技術検定3級に合格する力を身につける。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: 導入 原型作成	検定の冊子を読み、検定の内容について理解しておく。
2: デザイン①後身頃の作図	原型の作成を終わらせておく。
3: デザイン①前身頃の作図	後身頃の作図を終わらせておく。
4: デザイン①袖、衿の作図	前身頃の作図を終わらせておく。
5: デザイン①ファーストパターン作成、シーチングの準備	袖と衿の作図を終わらせておく。
6: デザイン①パーツをシーチングに写し裁断する	シーチングの地直しをしておく。
7: デザイン①シーチング組み立て(身頃)	シーチングの裁断を終わらせておく。
8: デザイン①シーチング組み立て(衿、袖) 筆記試験対策/理論の解説	過去問題を解いてわからなかったところをまとめておく。
9: デザイン①模擬試験	デザイン①の作図の手順や寸法を確認しておく。 模擬試験で間違った箇所を復習する。
10: デザイン②身頃の作図	身頃の作図の手順を確認しておく。
11: デザイン②衿・袖の作図	身頃の作図を終わらせておく。
12: デザイン②ファーストパターン作成、シーチング裁断	袖、衿の作図を終わらせておく。
13: デザイン②シーチング組み立て 筆記試験対策/理論の解説	シーチングの裁断を終わらせておく。 過去問題を解いてわからなかった箇所をまとめておく。
14: デザイン②模擬試験	デザイン②の作図の手順や寸法を確認しておく。 模擬試験で間違った箇所を復習する。
15: 検定前指導	作図の手順や理論で、理解が曖昧な点がないか確認しておく。

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
各回30分程度の準備学習を行うこと。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
パターンメイキング技術検定試験3級ガイドブック
配布資料

VI. 評価方法と評価基準
検定受検/60% 課題提出/30% 学習意欲/10%
評価基準の詳細は検定ガイダンスで示す

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
課題は、改善点等のコメントを添えて返却する。
試験に必要な備品は各自で準備すること。
この科目は「パターンの理解」と「パターンメイキング I」を履修済みであることが望ましい。
履修登録前に開催する検定ガイダンスに参加することが必須である。

3 選
・ 択
4 科
期 目
2 年

科目名	科目ナンバリング	学科:	ファッション総合学科	学年:	2年
海外研修	FA60105	開講時期:	2~4期	単位:	1単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	卒業選択		
専任教員		免許・資格など	体験フィールド		
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1 一般教養と服飾および服飾文化に関する総合的な知識を身につけている。					○
DP2 ファッション業界で活躍できる専門知識を身につけている。					
DP3 服の構造を理解し、被服製作に必要な基礎知識を身につけている。					
DP4 ファッション造形に必要な企画力、設計力、縫製力を修得している。					
DP5 ファッション業界の多様化とグローバル化に対応できるデザイン力とIT技術を身につけている。					
DP6 修得した知識や技術を総合的に活用することができる。					○
DP7 専門教育、学外授業、学科イベント、地域総合科学科としての地域交流等を通して培われた人間力を有している。					
II. 概要					
異文化に触れることは大きな刺激になり、新しい発見や新たなアイデアの創出の源となります。 また、歴史や文化を学ぶことで、ファッションやデザインのルーツを知ることにもつながり、海外での体験を通じて、国際的な視野と異文化コミュニケーションの力を育みます。					
III. 学習成果					
異国の文化や歴史に触れ、知識や見聞を広げ新しい考え方を身につけます。 団体行動を通して、人間力、協調性、コミュニケーション能力を身に付けます。 異なる環境に対応できる力と責任ある行動を身に付けます。					
IV. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: 授業の内容説明、研修個人テーマ設定			研修場所について調べる		
2: 最終日程について、荷物の計画、グループテーマ			グループ研修の場所を調べる		
3: 個人テーマ、グループ研修設定			研修場所を調べ、個人テーマについて考える		
4: グループ研修決定			研修場所の交通機関や訪問先などを調べる		
5: 学科長より海外研修について			研修計画を決定し、自分の荷物等を把握しておく		
6: 最終説明会(旅行社)			外貨交換のためのレートを調べる。		
7~14: 海外研修期間(5日間)			【準備物】 5月 参加申し込み書提出締め切り 6月 参加者説明会(旅行社) 7月 履修登録、パスポートコピー提出、保険等書類提出他 参加者説明会(旅行会社) 海外研修期間では、研修レポートのための 写真や記録をとっておくこと		
研修計画の概要(予定) 研修実施国: 中国 大連 研修内容 各都市での歴史や文化探訪 大連ファッションウィークにてファッションショー参加 大連観光 生地市場見学 ※詳細は海外研修説明会でお知らせします					
15: 研修レポート作成について、アンケート ※決められた日時に提出すること			研修レポートを作成する		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 個人・グループのテーマ設定においてイタリアの都市を充分に調べる為の時間(1週間に1時間程度)を取ること。					
V. 教科書・参考図書 研修先に関するガイドブックは各自または各グループで準備すること。 その他必要な資料は配布する					
VI. 評価方法と評価基準 現地研修の参加 55% 提出物・課題・レポート 35% 研修に対する学習意欲 10%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等) 現地では決められたルールを守り、グループで行動を共にしてください。 研修参加後、レポート未提出の場合、単位は修得できません。 提出課題やレポートはコメントを添えて返却します					

テクニカル専攻科

科目名	科目ナンバリング	学科:	テクニカル専攻科	学年:	1年
セコンダリーセミナーⅠ	TA10101	開講時期:	前期	単位:	1単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	必修		
専任教員		免許・資格など			
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1					
DP2					
DP3					
DP4					
DP5					
DP6					
DP7					
Ⅱ. 概要					
テクニカル専攻科終了後の進路や将来の人生設計に向かって積極的に行動するとともに、社会人となるためのコミュニケーション力、チームワーク力、社会人基礎力を養う。またファッションのプロとして通用する力を養う。					
Ⅲ. 学習成果					
社会人基礎力が身につく、進路に向けて積極的に行動することができる。					
Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: 学科賞表彰式 表彰式後、HRにて履修登録確認 前期目標計画			計画表作成 企業の研究をしておく		
2: 進路指導① 企業のリストアップ、履歴書記入チェック 就職希望状況調査 小テスト①			小テスト①の予習 履歴書記入のための準備をしておく(下書き)		
3: 進路指導② 就職活動に必要な就職マナー(外部講師)			外部講師の資料を読んでおく		
4: 香蘭祭ミーティング① 企画の立案 進路指導③ 小テスト②			香蘭祭の企画について考えておく 小テスト②の予習をしておく		
5: 体育大会企画 企画について 進路指導④ 小テスト③			体育大会の企画を考えておく 小テスト③の予習をしておく		
6: 学修ポートフォリオ 履修科目の振り返り(前半) 小テスト④			学修ポートフォリオを進めておく(前半部分) 小テスト④の予習をしておく		
7: 進路指導⑤ 小テスト⑤			小テスト⑤の予習をしておく		
8: 進路指導⑥ 小テスト⑥			就職活動のレポートを完成させておく 小テスト⑥の予習をしておく		
9: 香蘭祭ミーティング② 内容のブラッシュアップ 小テスト⑦			香蘭祭の企画を進めておく 小テスト⑦の予習をしておく		
10: 履修指導① 修了制作について			修了制作のコンセプトを考えておく		
11: 香蘭祭ミーティング③ 企画書作成			香蘭祭の企画書をまとめておく		
12: 教育講演会			レポートを完成させておく		
13: 履修指導② 後期履修指導 小テスト⑧			後期の履修計画を立てておく 小テスト⑧の予習をしておく		
14: 学修ポートフォリオ 履修科目の振り返り(後半)			学修ポートフォリオを進めておく		
15: 夏期休暇中計画 (修了制作計画も含む)			設定した目標の達成度を振り返る		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 小テストの範囲は事前にプリントを配布します。 単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。					
Ⅴ. 教科書・参考図書					
小テストの内容に準じたテキストを使用する その他必要な資料は配布する					
Ⅵ. 評価方法と評価基準					
授業貢献度50% 小テストもしくは課題30% レポート(教育講演会・外部講師の講演等)10% 学修ポートフォリオ10%					
Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等) 授業内容は外部講師により一部変更になることがある。 提出課題にコメントとつけてフィードバックを行う。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	テクニカル専攻科	学年:	1年
企業とのプロジェクト企画	TA20202	開講時期:	通年	単位:	4単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	必修		
専任教員		免許・資格など			
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1					
DP2					
DP3					
DP4					
DP5					
DP6					
DP7					
II. 概要					
<p>企業や大学などと連携し、ファッションや服飾、地域産業に関するプロジェクトを企画し、実践することを目的としています。</p> <p>これまで学んだ技術を、社会へどのように還元することができるのか、業務の流れや仕事の仕組みを体験し、理解を深めます。</p> <p>プロジェクトの内容は、企画・生産・販売などに取り組む場合や、行政や地域産業・文化と連携する場合があります。</p>					
III. 学習成果					
<p>学外の組織と連携することにより、責任感を育み、ビジネススキルの基本を身につける。</p> <p>これまで学んだ知識や技術を応用し、プロジェクトに取り組むことで、社会や地域との関わりについて考えることができる。</p>					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: 導入 企業とのプロジェクト企画の内容説明			事前にプロジェクト企画の実施企業の調査を行うこと。		
2: 企画の内容とスケジュールの調整			1年間を通して、スケジュールを組み立てる。 イベントなどの場合、休日に授業が入る場合もある。		
3~58 プロジェクト企画の実践			プロジェクトの計画から実践まで、スケジュールを決定し、各担当と連携をとりながら進める。		
<p>企業とのプロジェクト企画は全60回 120コマの授業です。</p> <p>授業時間以外にも製作などに時間が必要な場合もあります。</p>			<p>最後に報告書を作成するため、 活動内容や写真など、こまめに記録をとっておくこと。</p>		
59: 報告書の作成			報告書の作成 写真などを掲載し、冊子で提出する		
60: 報告書の提出とフィードバック			これまでの振り返りと課題		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した180分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書 必要に応じて資料を配布する					
VI. 評価方法と評価基準 実施体験70% 報告書の提出30%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等) 企業の一員として仕事をする。その場合は、企業の就業規則を守ること。 時間厳守、あいさつ等、社会人としての基本的なマナーを守ること。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	テクニカル専攻科	学年:	1年
課題研究A	TA20203	開講時期:	前期	単位:	1単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	選択		
専任教員		免許・資格など			
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1	
DP2	
DP3	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

II. 概要
 テクニカル専攻科の授業科目以外で、2年間では学べなかった科目や、より深めたい科目を選択しその研究部門の専任教員を指名し、指導を受けることができる。教員と研究課題と習得内容について計画をたて、実践する。

III. 学習成果
 より専門的な技術の習得や、苦手科目の克服など、個別の課題を解決することができる。
 計画的に実践する力を身につける。
 カリキュラムには含まれていない技術や知識を学び、応用力を身につける。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション	研究内容についてまとめる
2: 研究課題の決定とカリキュラム計画をたてる	研究課題を決め、カリキュラム内容を考える
3: 研究課題への取り組み①	担当教員と設定した課題に取り組む
4: 研究課題への取り組み②	担当教員と設定した課題に取り組む
5: 研究課題への取り組み③	担当教員と設定した課題に取り組む
6: 研究課題への取り組み④	担当教員と設定した課題に取り組む
7: 研究課題への取り組み⑤	担当教員と設定した課題に取り組む
8: 研究課題への取り組み⑥	担当教員と設定した課題に取り組む
9: 研究課題への取り組み⑦	担当教員と設定した課題に取り組む
10: 研究課題への取り組み⑧	担当教員と設定した課題に取り組む
11: 研究課題への取り組み⑨	担当教員と設定した課題に取り組む
12: 研究課題への取り組み⑩	担当教員と設定した課題に取り組む
13: 研究課題への取り組み⑪	担当教員と設定した課題に取り組む
14: 研究課題への取り組み⑫	担当教員と設定した課題に取り組む
15: 研究レポートまたは作品の提出	これまでの研究課題についてまとめる

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
 教科書や配布資料等は指導教員の指示に従う

VI. 評価方法と評価基準
 評価方法と評価基準は、指導教員の指示に従う

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 担当教員より15回の授業内容と個別のフィードバックの方法を提示します。

専
テ
ク
ニ
カ
ル
攻
撃
科
目

科目名	科目ナンバリング	学科:	テクニカル専攻科	学年:	1年
クリエート企画演習	TA30101	開講時期:	前期	単位:	2単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	選択		
尾畑 圭祐		免許・資格など			
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1	
DP2	
DP3	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

II. 概要
 デザイン発想の核である「何を表現するのか?」=「コンセプト」を服装史や建築など、視覚情報からの発想である“VISIBLE”と感覚的や思想など、目には見えない対象からの発想である“UNVISIBLE”(造語)の発想方法により導き出し、リサーチや実験を通してイメージを具現化するプロセスを学習してクリエイティブなデザイン企画を行う。

III. 学習成果
 各々の感性を衣服デザインに落としこむ手法を学習し、企画立案からポートフォリオの作成、プレゼンテーション、コンテストのためのコンセプト設定など完成度の高い企画提案をすることができる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1:課題I 自己分析によるデザイン企画 導入、課題の概要 パーソナルシート作成(自分を知る)・ブレインストーミングによる発想の連鎖	(復習)パーソナルシート・ブレインストーミングを完成させておく
2:近代デザイナーに関する情報収集	(復習)情報編集レポートをまとめておく
3:①造形リサーチ(マドレーヌヴィオネのパターン構成)	(復習)シーティングを仕上げしておく
4:②造形リサーチ(ピエールカルダンのパターン構成)	(復習)シーティングを仕上げしておく
5:③造形リサーチ(イヴィサンローランのパターン構成)	(復習)シーティングを仕上げしておく
6:造形リサーチの編集	(復習)レポートを仕上げしておく
7:コンセプトに関する情報収集	(復習)収集した情報を整理しておく
8:コンセプトに関する情報の分析	(復習)イメージボードを完成させておく
9:コンセプトに関する情報の編集①	(復習)情報の編集を進めておく
10:コンセプトに関する情報の編集②	(復習)情報の編集を仕上げしておく
11:イメージの具現化①(ドレーピング・ピンワークによるイメージ発想)	(復習)シーティングを完成させておく
12:イメージの具現化②(シーティングからのデザイン発想)	(復習)デザイン案を考えておく
13:スタイル画の作成①(下書き・ペン入れ)	(復習)スタイル画の下書きを仕上げしておく
14:スタイル画の作成②(着色)	(復習)スタイル画を完成させておく
15:企画プレゼンテーション(合評)	(予習)合評の準備をしておく

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 1回の授業に対して30分程度の準備学習を行うこと。
 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した90分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
 プリント配布

VI. 評価方法と評価基準
 課題 70% 合評 20% 学習の意欲10%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等) 課題のフィードバックとして、合評を行う。また、提出課題は改善点や評価ポイント等を添えて返却をする。提出期限厳守ですので、授業時間内に終えていない課題は次の授業までに追いつくように努力してください。

科目名	科目ナンバリング	学科:	テクニカル専攻科	学年:	1年
テクニカル造形実習	TA30202	開講時期:	前期	単位:	2単位
		形態:	実習		
		履修方法:	必修		
担当者	坂元 美貴子	免許・資格など			
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1	
DP2	
DP3	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

II. 概要
 テクニカル専攻科では、2年間の学びにプラスしたワンランク上の服作りを目指す。そのための一つの方法として、デザイナーズコレクションの中から、デザインとパターンテクニックを研究し、それらのパターンを応用発展させ各自の作品を完成させる。
 さらに、この授業で学んだ技術を後期からの修了制作につなげていく。コレクションのデザイン選びは習熟度別に検討する、

III. 学習成果
 雑誌等のコレクションの作品を見て、パターンを読み取ることができる。
 ファッション業界で通用するレベルの縫製仕様書を作成できる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: 導入 原型について 企業原型(スローバ)と文化式原型の違いについて	採寸の準備
2: 個人の採寸と原型作成(自分の体型を知る)	個人原型の作図を完成させる
3: 個人原型の作図	原型のシーチングの組み立てを行う
4: 個人原型のフィッティングと修正	デザイナーのコレクションの中から製作するデザインを決定しておく
5: 課題 I. ワンピースの作成(デザイン決定からパターン作成にはいる)	平図を完成させておく
6: ワンピースのパターン作成(本体)	パターン作成を進める
7: ワンピースのパターン作成(本体)	パターン作成を進める
8: ワンピースのパターン作成(袖・衿パターン作成)	パターン作成を進める
9: ワンピースのパターン作成(裏地パターン作成)	パターン作成を進める
10: 行程分析表の作成・裁断・準備工程(接着芯貼り・ノッチ・ロック)	パターン作成を進める
11: 表身頃の縫製	空き時間や自宅での縫製を行う
12: 表身頃の縫製	空き時間や自宅での縫製を行う
13: 表身頃の縫製	空き時間や自宅での縫製を行う
14: 裏地の縫製	空き時間や自宅での縫製を行う
15: ワンピースの完成	空き時間や自宅での縫製を行う
16: 平図と縫製仕様書の作成 合評	デザイナーのコレクションの中から製作するデザインを決定しておく
17: 課題 II ジャケットの作成(デザイン決定からパターン作成にはいる)	平図を完成させておく
18: ジャケットのパターン作成(本体)	パターン作成を進める
19: ジャケットのパターン作成(本体)	パターン作成を進める
20: 2枚袖のパターン作成 裏地パターン作成	パターン作成を進める
21: ジャケットのパターン完成(縫い代つけ)	パターン作成を進める
22: 行程分析表の作成・裁断・準備工程(接着芯張り・ノッチ・ロック)	パターン作成を進める
23: 行程分析表の作成・裁断・準備工程(接着芯張り・ノッチ・ロック)	パターン作成を進める
24: 表身頃の縫製	空き時間や自宅での縫製を行う
25: 表身頃の縫製	空き時間や自宅での縫製を行う
26: 表身頃の縫製、衿、袖の縫製	空き時間や自宅での縫製を行う
27: 表身頃の縫製、裏地の縫製	空き時間や自宅での縫製を行う
28: 表身頃の縫製	空き時間や自宅での縫製を行う
29: ジャケットの完成、提出 平図と縫製仕様書の作成	空き時間や自宅での縫製を行う
30: 完成、合評	完成作品の仕上げをしておく

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 準備学習は30分以上行うこと。内容については毎回の授業で説明します。授業時間内で作業が遅れた場合は必ず次回までに進めておくこと

V. 教科書・参考図書
 教科書は使用しない。教員作成の資料を配布する。
 「近藤れん子の婦人造形理論とパターン」の中から必要と思われる資料をコピーして配布する

VI. 評価方法と評価基準
 課題作品70% 行程分析表および縫製仕様書20% 学習の意欲10%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 課題作品は提出期限を守って下さい。遅れた場合は減点とします。縫製について問題があれば返却時に説明をします。
 縫製仕様書は修正やコメントを添えて返却します。
 「実務経験教員科目」特記事項: アパレルメーカーでデザイナー兼パタンナーとしての実務経験あり。特に第16回目と第29回目の平図と縫製仕様書の作成は、現場で行っていた方法を実践する。

専
テ
ク
ニ
カ
ル

科目名	科目ナンバリング	学科:	テクニカル専攻科	学年:	1年
3Dファッション演習	TA30102	開講時期:	前期	単位:	2単位
担当者		形態:	演習		
川島 博美		履修方法:	選択		
		免許・資格など			
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1					
DP2					
DP3					
DP4					
DP5					
DP6					
DP7					
II. 概要					
<p>これからのアパレル企業において、サステナブルな服作りは重要な課題です。この3Dソフトを活用する技術を身に付けることにより、デザイナーが思い描くデザインを、スピーディにバーチャル空間でのサンプリングを表現することができるようになります。制作における工程(時間)やコスト削減の実現化に向けた実践的な授業です。</p>					
III. 学習成果					
<ul style="list-style-type: none"> ・CLOの操作方法の基本を理解し、各仕様に合わせた基本技術を身に付ける ・2D画面上でのパターン作成ができる ・3DCGを活用し、アバターを用いたバーチャル空間でランウェイでの表現が実践できる 					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準 備 学 習 (予 習 ・ 復 習) 内 容		
1: CLOの基本原則、本体画面について			基本操作をプリントをもとに理解し、基本用語を暗記する		
2: モデルアバターについて(体系やヘアスタイルなど)			基本操作の手順を覚え、課題プリントを実践する		
3: 生地や素材、織りとニットの違いについて			テクスチャの違いを理解して、生地の名称や風合いを覚える		
4: 固定と非アクティブについて			授業で行った操作手順を理解し、課題プリントを実践する		
5: 縫製手順による縫い合わせについて			縫い合わせの手順を理解し、課題プリントを実践する		
6: トップスとボトムス、ワンピースのアイテム作成			アイテム作成の手順を理解し、課題プリントを実践する		
7: BLや袖山線など内部線の追加や修正について			操作の手順をオリジナルの線で確認しておく シャツからパーカーデザインを考える(フード、袖、着丈)		
8: トップスデザイン変更について: シャツからパーカーへなどディテールを変更			自分のデザインでディテール変更の実践をする		
9: 生地の色変更、刺繍やプリントの追加などのデザイン変更について			生地の色や柄の変更などの手順を理解し、課題プリントを実践する		
10: レンダリングについて			基本操作の手順を覚え、課題プリントを実践する		
11: 3Dモデルのウォーキング方法(アニメーションについて)			基本操作の手順を覚え、課題プリントを実践する		
12: 3Dモデル(アバター)のポーズ変化について			アバターの作成方法を覚え、実際にウォーキングを実践する		
13: オリジナルデザインの衣装を身に付けたモデル作品作り①			デザイン案の資料を集め、アイテムデザインを考える		
14: オリジナルデザインの衣装を身に付けたモデル作品作り②			オリジナル作品を完成させる		
15: 作品発表			プレゼンテーションの準備をする		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明					
課題プリントを実践するなど30分以上の準備学習が必要になります					
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書					
教員作成資料・参考資料を配付します。					
VI. 評価方法と評価基準					
提出課題60%、プレゼンテーション20%、学習への意欲20%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)					
提出課題には個別でコメントを行います					

科目名	科目ナンバリング	学科:	テクニカル専攻科	学年:	1年
コーディネート演習	TA31201	開講時期:	前期	単位:	2単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	選択		
岡田 絵梨奈		免許・資格など			
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1	
DP2	
DP3	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

II. 概要
 目的・条件に適したトータルなコーディネートテクニックのための知識を基礎から応用までを、実践演習をまじえながら学びます。
 歴史的なファッション分析の演習を通して、現代のトレンドやハイファッション、ストリートファッションなどあらゆるジャンルのデザインを観察・分析し、コーディネートがもたらす今後のファッションの可能性について考察します。

III. 学習成果
 コーディネートのために必要な基礎知識、コーディネートテクニックの応用、コミュニケーションを含む表現力を習得することを目標とします。
 これからのファッション業界で求められるコーディネートとは何か、ファッションを取り巻く時代性やアートなど多面的なアプローチを通してコーディネートの技術を習得します。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション ・コーディネートの必要性	シラバスを読んでおくこと
2: 時代とファッション① ・年代別ファッショントレンド1920年・1930年 ・プレゼンテーション	年代別のコーディネートをまとめる コーディネートの実践と発表の準備
3: 時代とファッション② ・年代別ファッショントレンド1940年・1950年 ・プレゼンテーション	年代別のコーディネートをまとめる コーディネートの実践と発表の準備
4: 時代とファッション③ ・年代別ファッショントレンド1960年・1970年 ・プレゼンテーション	年代別のコーディネートをまとめる コーディネートの実践と発表の準備
5: 時代とファッション④ ・年代別ファッショントレンド1980年・1990年以降 ・プレゼンテーション	年代別のコーディネートをまとめる コーディネートの実践と発表の準備
6: ファッションのTPO ・装いのマナーと素材やデザインの違い	男性と女性のフォーマルウェアのコラージュを作成
7: 絵画から見るファッション ・アートから読み解くファッションコーディネート	課題の絵画のファッションについて調査する
8: トレンドのコーディネート分析 ・雑誌やWeb情報から時代を読む	トレンドのコーディネートの特徴を調査し、まとめる
9: アクセサリーコーディネート ・素材やボリュームの組み合わせ ・コーディネートのグループワーク	アクセサリの分類とコーディネートシートを作成する
10: コーディネート提案① ・テーマの設定とコーディネート企画	テーマに合わせた資料を集める
11: コーディネート提案② ・スタイリングの実践 発表	テーマに合わせたコーディネートシートを作成する
12: コーディネート提案③ ・撮影	撮影で使用する小物などを準備する
13: コーディネート提案④ ・Illustratorで提案シートを作成	Illustratorを使用し、文章とレイアウトを考える
14: アートとファッション ・美術館やギャラリーでセンスを磨く ・フィールドワーク	課外授業 課題レポートを作成する
15: 発表とまとめ ・これからの時代が求めるコーディネートとは ・プレゼンテーション	発表の準備 提出課題を確認する
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 課題プリントや調査など30分以上の準備学習が必要となります 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した90分を毎回必要とします。	

V. 教科書・参考図書
 教科書はありませんが、毎回テキストプリントを配布します。

VI. 評価方法と評価基準
 課題提出物(50%)、実技評価(30%)、受講態度(10%)、学習の意欲(10%)
 ※ 原則として評価対象の課題は全て提出すること。また、提出の際は規定のファイル形式で提出すること。

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 ファッション雑誌を使用して課題を作成しますので、切り取りのできるファッション雑誌、のり、はさみ等が必要で
 また、全ての課題については返却時に個別にフィードバックを実施いたします。
 「実務経験教員科目」特記事項: スタイリスト経験を活用し、コーディネートにおける共通言語の重要性を実践を通じて深めていきます。

専
テク
攻
ニ
カ
ル
科

科目名	科目ナンバリング	学科:	テクニカル専攻科	学年:	1年
パターン演習	TA33101	開講時期:	前期	単位:	2単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	選択		
竹内 真由美		免許・資格など			
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1					
DP2					
DP3					
DP4					
DP5					
DP6					
DP7					
II. 概要					
アイテムごとのスローパーを原型から展開するという、アパレル業界で行われているパターンメイキングのテクニックを学び産業パターン作りに必要な技術を身に付ける。					
III. 学習成果					
人体の動きに基づいた布の動き、ゆとり、バランスを立体的に分析する力を修得出来る アパレル業界の現場に即したパターン力を修得出来る					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: 身頃、腰、首、腕原型作成(身体の立体的な構造を知る)			人体の骨格や筋肉の付き方をまとめておく		
2: オリジナルジャケット作成(シルエットの変化)			グループごとにリサーチをしジャケットのデザインを調べておく		
3: プリンセスラインからパネルラインへの変化			プリンセスラインとパネルラインの違いを調べてまとめておく		
4: 衿、袖のバリエーション			衿や袖の種類を調べてまとめておく		
5: トアルチェック、パターン修正			パターンの見直しをし、トアルの準備をしておく		
6: オリジナルワンピース作成(シルエットの変化)			グループごとにリサーチをしワンピースのデザインを調べておく		
7: ストレートラインからドレープラインへの変化			シルエットの種類を調べてまとめておく		
8: トアルチェック、パターン修正			パターンの見直しをし、トアルの準備をしておく		
9: オリジナルコート作成(シルエットの変化)			グループごとにリサーチをしコートのデザインを調べておく		
10: シェイプラインからボックスラインへの変化			コートに多い衿と袖の種類を調べてまとめておく		
11: 二枚袖からラグランスリーブへの変化			二枚袖とラグランスリーブの違いを調べてまとめておく		
12: トアルチェック、パターン修正			パターンの見直しをし、トアルの準備をしておく		
13: オリジナルスカート作成(タイトラインからフレアラインへの変化)			グループごとにリサーチをしスカートのデザインを調べておく		
14: トアルチェック、パターン修正			パターンの見直しをし、トアルの準備をしておく		
15: まとめ			それぞれの作品を合評する		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 内容について詳しくは毎回の授業で説明します。 単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した90分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書 教員参考資料を配布します。					
VI. 評価方法と評価基準 課題作品 50% 試験作品 30% 学習の意欲 20%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等) デザイン画は雑誌の持ち込みでも良い。スマホの写真はプリントアウトしておくこと。 「実務経験教員科目」特記事項:アパレルメーカーパタンナー勤務経験あり 授業第1回より第15回まで現場で行った事例を紹介している 現場で求められる手法を用いて授業を進める。 提出された課題へは個別に添削やコメントを行います。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	テクニカル専攻科	学年:	1年
インターンシップとキャリアデザイン TA34105		開講時期:	通年	単位:	1単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	選択		
専任教員		免許・資格など			
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1					
DP2					
DP3					
DP4					
DP5					
DP6					
DP7					
II. 概要					
職種別の業務内容を理解し、アパレル業界やファッションビジネスの職場において、デザイン企画、縫製技術、販売技術、生産管理等業務を体験します。将来のキャリアデザインと、自らの進路について考えるきっかけとなることを目的とする。 また、社会人としてのマナーや一般常識、礼儀作法などの教養も身につけ、職場の環境づくり					
III. 学習成果					
様々な分野において専門知識を活かして社会人として自立するために必要なことは何かを知る。 実際の現場で体験することにより、将来の進路の方向性を見出すことができるようになる。					
IV. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: インターンシップについての説明 職種別調査			インターンシップを体験したい職種の事前調査を行う キャリアデザインブックを読む		
2: インターンシップ希望企業の調査			インターンシップ受入れ企業の事前調査を行う		
3: エントリーシート、履歴書の書き方、基本マナーの指導			エントリーシート、履歴書の作成		
4: メールの書き方 基本マナーの指導			エントリーシート、履歴書の作成		
5: 書類作成、インターンシップでの注意事項の説明			書類の作成 インターンシップの日程確認		
6~11: 現場実習 実習時期 主に4月下旬~12月末					
実習時間:30時間以上 1日8時間×4日間(21コマ) 体験内容:基本業務 企業でのマナー			毎日、実習レポートを作成して、企業の確認印をもらう		
12: インターンシップ終了後の報告会			報告会の準備		
13: 企業へのお礼状作成について			企業へのお礼状の作成		
14: 報告書について			実習レポートと報告書作成		
15: 報告書の提出			インターンシップを終えて、報告書の作成		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書 キャリアデザインブックを使用します 資料はプリントで配布する					
VI. 評価方法と評価基準 実習およびレポート80% 提出物10% 事前・事後指導での学習の意欲10%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等) 事前事後の研修を必ず受けること 作成書類に関してはコメントでフィードバックします。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	テクニカル専攻科	学年:	1年
学外学修	TA34103	開講時期:	通年	単位:	2単位
担当者		形態:	演習		
専任教員		履修方法:	選択		
		免許・資格など			
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1					
DP2					
DP3					
DP4					
DP5					
DP6					
DP7					
II. 概要					
<p>アパレル企業の現場を視察研修することで、アパレル業界の仕事の流れや内容を理解し、学内では得られない知識を深めることを目的とする。また、美術館や特別展を見学し、ファッションを学ぶものとしての知識を広げる。</p>					
III. 学習成果					
<p>アパレルメーカーの現場で商品企画から販売までのプロセスを知ることにより、学内の授業の理解を深める。服作りに必要な副資材(芯地、裏地、ボタン、ファスナーなど)についての専門的な知識を学び、学内での実習に活かす。美術館などの展示観覧を通してデザインの発想に活かす。</p>					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: 研修の概要の説明			研修先の概要について各自でノートにまとめる		
2: 学生の組織編成			研修先についての調査を行う		
3: 研修内容・レポート内容についての説明			研修先についての調査を行う 研究レポートを作成する		
4: 研修前の指導 日程の確認 研修期間の服装や研修マナーについて			研究レポートの提出		
5: 研修前の指導 注意事項の最終確認			出発前の準備を行う		
6: 研修期間 (6講~14講)					
7: 1、研修の概要					
8: 実施時期:9月中旬 2泊3日					
9: 実施場所 東京			研修期間中はルールを守り行動すること		
10: 旅 程 事前研修にて説明					
11: 授業形態 集中授業			事後研修レポートのための準備をすること (ノート 写真 パンフレット 資料等の整理)		
12: 2、研修内容(昨年度実績)					
13: ①アパレルメーカー、素材に関する企業訪問					
14: (株)ユミ・カツラインターナショナル					
15: (株)レモラファブリック					
16: (株)ユナイテッド・アローズ					
17: ②副資材メーカー三景株式会社による副資材講座					
18: YKK株式会社					
19: ③美術館・博物館の見学					
20: (印刷博物館・アクセサリーミュージアム)					
21: ④都内での自主研修					
15: 事後研修					
研修レポート提出についての説明			研修レポートを作成する		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した90分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書					
教科書は使用しない。教員作成の資料を配布する。					
VI. 評価方法と評価基準					
事前指導の参加及び事前の課題提出20% 事後のレポート70% 研修中の態度10%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)					
<p>確定参加者20名以上で実施する。 参加費用は旅行者より提示 研修内容や訪問先は諸事情により、変更になることがある。 課題やレポートについては返却時にコメントを添えて返却します</p>					

科目名	科目ナンバリング	学科:	テクニカル専攻科	学年:	1年
海外学修	TA34104	開講時期:	通年	単位:	1単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	選択		
専任教員		免許・資格など			
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1	
DP2	
DP3	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

II. 概要
異文化に触れることは大きな刺激になり、新しい発見や新たなアイデアの創出の源となります。
また、歴史や文化を学ぶことで、ファッションやデザインのルーツを知ることにもつながり、海外での体験を通じて、国際的な視野と異文化コミュニケーションの力を育みます。

III. 学習成果
異国の文化や歴史に触れ、知識や見聞を広げ新しい考え方を身につけます。
団体行動を通して、人間力、協調性、コミュニケーション能力を身に付けます。
異なる環境に対応できる力と責任ある行動を身に付けます。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: 授業の内容説明、研修個人テーマ設定	研修場所について調べる
2: 最終日程について、荷物の計画、グループテーマ	グループ研修の場所を調べる
3: 個人テーマ、グループ研修設定	研修場所を調べ、個人テーマについて考える
4: グループ研修決定	研修場所の交通機関や訪問先などを調べる
5: 学科長より海外研修について	研修計画を決定し、自分の荷物等を把握しておく
6: 最終説明会(旅行社)	外貨交換のためのレートを調べる。
7~14: 海外研修期間(5日間)	<p>【準備物】</p> <p>5月 参加申し込み書提出締め切り</p> <p>6月 参加者説明会(旅行社)</p> <p>7月 履修登録、パスポートコピー提出、保険等書類提出他 参加者説明会(旅行会社)</p> <p>海外研修期間では、研修レポートのための 写真や記録をとっておくこと</p>
23~30: 研修レポート作成について、アンケート ※決められた日時に提出すること	研修レポートを作成する

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
個人・グループのテーマ設定においてイタリアの都市を十分に調べる為の時間(1週間に1時間程度)を取ること。
単位修得のためには、上の準備学習時間を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
研修先に関するガイドブックは各自または各グループで準備すること。
その他必要な資料は配布する

VI. 評価方法と評価基準
現地研修の参加 55% 提出物・課題・レポート 35% 研修に対する学習意欲 10%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
現地では決められたルールを守り、グループで行動を共にしてください。
研修参加後、レポート未提出の場合、単位は修得できません。
提出物やレポートはコメントを添えて返却します

専
テク
攻
ニ
カ
ル

科目名	科目ナンバリング	学科:	テクニカル専攻科	学年:	1年
セコンダリーセミナーⅡ	TA10102	開講時期:	後期	単位:	1単位
担当者		形態:	演習		
専任教員		履修方法:	必修		
		免許・資格など			
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)					
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)					本科目との関連
DP1					
DP2					
DP3					
DP4					
DP5					
DP6					
DP7					
II. 概要					
テクニカル専攻科終了後の進路や将来の人生設計に向かって積極的に行動するとともに、社会人となるためのコミュニケーション力、チームワーク力、社会人基礎力を養う。またファッションのプロとして通用する力を養う。					
III. 学習成果					
社会人基礎力が身につく、進路に向けて積極的に行動することができる。					
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容					
授 業 内 容			準備学習(予習・復習)内容		
1: 全体集会 全体集会後、HRIにて履修登録確認 後期目標と計画			後期の目標を立てる 履修時間と単位の確認		
2: 報告書作成 企業とのプロジェクト企画報告書作成			小テスト①の予習 企業とのプロジェクト企画報告会の準備をしておく		
3: 報告会 企業とのプロジェクト企画報告会			小テスト②の予習 報告書をまとめておく		
4: 課題計画1 修了小冊子作りの計画			小テスト③の予習 紙面企画を考えておく		
5: 課題計画2 修了小冊子作りの計画表作成			小テスト④の予習 計画表を完成させておく		
6: 学修ポートフォリオ 履修科目の振り返り(前半)			小テスト⑤の予習 学修ポートフォリオを進めておく(前半部分)		
7: 学科賞表彰式 表彰式後香蘭祭反省会(グループワーク)			小テスト⑥の予習 レポートを完成させておく		
8: 課題制作1 修了小冊子作り 画像、文章入力作業			小テスト⑦の予習 画像、文章入力を完成させておく		
9: 教育講演会Ⅱ 外部講師			レポート完成と提出		
10: 課題制作2 修了小冊子作り 紙面たたき台完成			小テスト⑧の予習 たたき台を完成させておく		
11: 課題制作3 修了小冊子作り 紙面レイアウト調整			小テスト⑨の予習 紙面レイアウトを完成させておく		
12: 就職支援① 社会人基礎知識②社会人になるための心構え(外部講師)			レポート完成と提出		
13: 課題制作4 修了小冊子作り 紙面修正と完成			レポート完成と提出 小冊子を完成させておく(入稿)		
14: 学修ポートフォリオ 履修科目の振り返り(後半)			小テスト⑩の予習 学修ポートフォリオを進めておく		
15: 1年間の反省 1年間の反省と社会人に向けて(グループワーク)			目標に向けての振り返り		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明					
小テスト10回は予習が必要となる。修了小冊子作りは時間外での作業が必要となる。					
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。					
V. 教科書・参考図書					
小テストの内容に準じたテキストを使用する					
VI. 評価方法と評価基準					
授業貢献度50% 小テストもしくは課題30% レポート(教育講演会・外部講師の講演等)10% 学修ポートフォリオ10%					
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)					
学科行事、学校行事クラス企画内容により、時間外の学修時間が必要となる場合がある。					
提出課題にコメントとつけてフィードバックを行う。					

科目名	科目ナンバリング	学科:	テクニカル専攻科	学年:	1年
修了制作	TA20201	開講時期:	後期	単位:	4単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	必修		
尾畑圭祐		免許・資格など			
坂元 美貴子		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1	
DP2	
DP3	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

II. 概要
各自がテーマを設定してその調査研究を行う。それらを基にデザインを決定しテクニカル専攻科1年間の集大成となる作品を完成させる。完成した作品はテクニカル専攻科の修了制作として学外で発表する。この授業は、前期の「クリエイト企画演習」と連動して授業を行う。

III. 学習成果
各自のテーマについて研究および課題制作に取り組み、その過程を通してプレゼンテーション力、デザイン力、被服構成の技術が身についている。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: 各自のテーマ設定①	テーマ設定のための調査
2: 各自のテーマ設定②	作品完成までの計画表提出
3: 調査研究の資料収集①	調査研究の資料作成のための授業時間外での調査
4: 調査研究の資料収集②	調査研究の資料作成のための授業時間外での調査
5: 調査研究の資料収集③	調査研究の資料作成のための授業時間外での調査
6: 調査研究の資料収集④	調査研究の資料作成のための授業時間外での調査
7: 具体的なデザイン決めと試作品の制作①	試作品の作成
8: 具体的なデザイン決めと試作品の制作②	試作品の作成
9: 具体的なデザイン決めと試作品の制作③	デザイン画を描く
10: 具体的なデザイン決めと試作品の制作④	デザイン画を描く
11: パターン作成(身頃)	パターン作成
12: パターン作成(見頃とその他のパーツ)	パターン作成
13: パターン完成	パターン作成
14: シーチングでの組み立て	シーチングのアイロンかけ(地直し)
15: シーチング作品の完成	シーチング審査会の準備 テーマと研究課題のプレゼンの準備
16: パターン修正と縫い代つけ	パターン作成
17: 本生地 of 裁断	パターン作成
18: 芯貼り 印しつけ 仮縫い	パターン作成
19: 縫製①	空き時間や自宅での制作
20: 縫製②	空き時間や自宅での制作
21: 縫製③	空き時間や自宅での制作
22: 縫製④	空き時間や自宅での制作
23: 縫製⑤	空き時間や自宅での制作
24: 縫製⑥	空き時間や自宅での制作
25: 縫製⑦	空き時間や自宅での制作
26: 縫製⑧	空き時間や自宅での制作
27: 縫製⑨	空き時間や自宅での制作
28: 本体作品完成	空き時間や自宅での制作
29: コーディネート小物の制作や装飾①	レポート作成
30: コーディネート小物の制作や装飾② 作品完成	レポート作成

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
①10月下旬頃にテーマと研究課題発表及び試作品が出来る様に、準備学習を十分に行っておくこと(30分程度の準備学習を行う事)②後半はアドバイス会や審査会の期日に合わせて、空き時間を使って制作を進めること(各自の進度にあわせた時間が必要となる) 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した180分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
調査研究のための資料が必要となる

VI. 評価方法と評価基準
学科教員の作品評価70% レポート20% 学習の意欲10%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
テーマ設定の資料は「クリエイト企画演習」の授業の中で完成させておくこと
パターンや縫製については、各自の進度に応じてチェック日を設け、指導を行う
作品は1人2点以上制作する。(一人3点が望ましい)
中間アドバイス会、本体審査会は2年生の卒業制作と同じ時期に行う

専
テク
ニ
カ
ル

科目名	科目ナンバリング	学科:	テクニカル専攻科	学年:	1年
課題研究B	TA20204	開講時期:	後期	単位:	1単位
担当者		形態:	演習		
専任教員		履修方法:	選択		
		免許・資格など			
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1	
DP2	
DP3	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

II. 概要
 テクニカル専攻科の授業科目以外で、2年間では学べなかった科目や、より深めたい科目を選択しその研究部門の専任教員を指名し、指導をうけることができる。教員と研究課題と習得内容について計画をたて、実践する。

III. 学習成果
 より専門的な技術の習得や、苦手科目の克服など、個別の課題を解決することができる。
 計画的に実践する力を身につける。
 カリキュラムには含まれていない技術や知識を学び、応用力を身につける。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション	研究内容についてまとめる
2: 研究課題の決定とカリキュラム計画をたてる	研究課題を決め、カリキュラム内容を考える
3: 研究課題への取り組み①	担当教員と設定した課題に取り組む
4: 研究課題への取り組み②	担当教員と設定した課題に取り組む
5: 研究課題への取り組み③	担当教員と設定した課題に取り組む
6: 研究課題への取り組み④	担当教員と設定した課題に取り組む
7: 研究課題への取り組み⑤	担当教員と設定した課題に取り組む
8: 研究課題への取り組み⑥	担当教員と設定した課題に取り組む
9: 研究課題への取り組み⑦	担当教員と設定した課題に取り組む
10: 研究課題への取り組み⑧	担当教員と設定した課題に取り組む
11: 研究課題への取り組み⑨	担当教員と設定した課題に取り組む
12: 研究課題への取り組み⑩	担当教員と設定した課題に取り組む
13: 研究課題への取り組み⑪	担当教員と設定した課題に取り組む
14: 研究課題への取り組み⑫	担当教員と設定した課題に取り組む
15: 研究レポートまたは作品の提出	これまでの研究課題についてまとめる

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
 指導教員の指示に従うこと
 単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した45分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
 教科書や配布資料等は指導教員の指示に従う

VI. 評価方法と評価基準
 評価方法と評価基準は、指導教員の指示に従う

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 担当教員より15回の授業内容と個別のフィードバックの方法を提示します。

科目名	科目ナンバリング	学科:	テクニカル専攻科	学年:	1年
ファッションビジネスと商品分析 TA31102		開講時期:	後期	単位:	2単位
		形態:	演習		
担当者		履修方法:	選択		
岡田 絵梨奈		免許・資格など			
		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1	
DP2	
DP3	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

II. 概要
 ファッションデザインとファッションビジネスは、いつの時代も表裏一体となって進化しています。
 市場商品を幅広くリサーチする力を身につけるために、レディースウェア以外のアパレル商品にも視野を広げ
 多様化するファッションデザインと、その販売方法やサービスを含むファッションビジネスについて学びます。

III. 学習成果
 多様化する商品の見識を深め、商品展開やサービスなど多角的に調査する技術を習得します。
 商品とファッションビジネスを総合的に学び、企画やデザインに応用することができます。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション	シラバスを読み、わからない言葉を調べておくこと
2: 商品の販売方法について ・店舗の違いと販売方法について	ファッションの販売形態について調べて、情報をまとめる
3: 商品とファッションビジネスについて① ・商品とブランディング	課題プリントを作成する
4: 商品とファッションビジネスについて② ・商品とブランディングのリサーチ	テーマに合わせた調査を実施し、プレゼンテーションシートを作成
5: 商品とファッションビジネスについて③ ・商品とサービスの関係 リサーチ結果のプレゼンテーション	発表の準備をする
6: 子供服 ・新生児用のベビー服からキッズウェアまで	課題プリントを作成する
7: フォーマルウェア ・冠婚葬祭最新情報とフォーマルウェアの変化	課題プリントを作成する
8: レディースウェア ・シニア向けファッション市場 コンフォートデザイン	課題プリントを作成する
9: メンズウェア ・ビジネスウェアとカジュアルウェア デザインとジェンダー	課題プリントを作成する
10: 天神地区 市場調査① 課外授業 フィールドワーク ・調査内容、予定の作成	これまでの学習をまとめ、調査項目を作成する
11: 天神地区 市場調査② 課外授業 フィールドワーク ・百貨店、セレクトショップ、路面店のリサーチ	これまでの学習をまとめ、調査項目を作成する
12: 天神地区 市場調査③ 課外授業 フィールドワーク ・店舗における商品展開とデザインのリサーチ	これまでの学習をまとめ、調査項目を作成する
13: 天神地区 市場調査④ ・リサーチの結果をまとめる	課題制作と発表の準備
14: 天神地区 市場調査⑤ ・市場調査のプレゼンテーション	課題制作と発表の準備
15: 発表とまとめ ・これからのファッションビジネスとは	発表後、フィードバックをまとめる
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 課題プリントや調査など30分以上の準備学習が必要となります 単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した90分を毎回必要とします。	

V. 教科書・参考図書
 教科書はありませんが、毎回テキストプリントを配布します。

VI. 評価方法と評価基準
 課題提出物(50%)、実技評価(30%)、受講態度(10%)、学習の意欲(10%)
 ※ 原則として評価対象の課題は全て提出すること。また、提出の際は規定のファイル形式で提出すること。

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等)
 ファッション雑誌を使用して課題を作成しますので、切り取りのできるファッション雑誌、のり、はさみ等が必要です
 また、全ての課題については返却時に個別にフィードバックを実施いたします。
 「実務経験教員科目」特記事項: デザインストラテジー修士。理論的なデザイン分析の演習等を取り入れたカリキュラムです。

専
テ
ク
ニ
カ
ル

科目名	科目ナンバリング	学科	テクニカル専攻科	学年	1年
素材特性研究	TA32101	開講時期	後期	単位	1単位
		形態	演習		
担当者		履修方法	選択		
高野 弓枝		免許・資格など			
		履修要件他			
		アクティブラーニング科目	○	実務経験教員科目	

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1	
DP2	
DP3	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

II. 概要
繊維・糸・布の特性や構造について知り、衣服が環境や人体に与える影響について、講義や実習を通して学びます。

III. 学習成果
繊維の分類や特徴についての理解を深め、快適な衣生活についての提案ができる。
実験を通して「予想・結果・考察」をおこない、様々な視点から物事を推察する力を身につけることができる。
繊維・素材についての特性を理解することで、衣服製作に繊維の知識を活かすことができる。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: 繊維について① 服の起源・身近な繊維	繊維の定義を理解し、疑問や興味を書き出す
2: 繊維について② 繊維の分類と特徴	着用している衣服や家庭にある衣服の素材を調べる
3: 繊維について③ 織物の組織図(三原組織)	織物の組織についてまとめレポートに仕上げる
4: 繊維について④ 繊維の鑑別・燃焼実験 (グループワーク)	燃焼実験の手順を理解し、実験予想を立てる 燃焼実験をまとめレポートに仕上げる
5: 糸とは 糸の大別・糸のより	糸の素材、糸の種類を調べ書き出す
6: 布とは① 【布の形態的特性】厚さ・糸密度・剛軟性	布の定義を理解し、形態的特性をレポートに仕上げる
7: 布とは② 衣服製作で使用される布の種類について比較し考察する	衣服製作で使用する布の素材、布の種類を調べ書き出す
8: 染色実験 (グループワーク) 繊維の浸染について比較し考察する	染色実験手順を理解し、実験予想を立てる 測定した結果をまとめレポートに仕上げる
9: 衣服材料の性能① 【形態的性能】ドレープ性(グループワーク)	ドレープ性実験の測定手順を理解し、実験予想を立てる 測定した結果をまとめレポートに仕上げる
10: 衣服材料の性能② 【機械的性能】引き裂き強度(グループワーク)	引き裂き強度実験の測定手順を理解し、実験予想を立てる 測定した結果をまとめレポートに仕上げる
11: 衣服材料の性能③ 【保健衛生的性能】吸水性(グループワーク)	吸水性実験の手順を理解し、実験予想を立てる 測定した結果をまとめレポートに仕上げる
12: 衣服材料の性能④ 【保健衛生的性能】保温性(グループワーク)	保温性実験の手順を理解し、実験予想を立てる 測定した結果をまとめレポートに仕上げる
13: 熱移動と水分 人体の熱移動と収着熱の視点から	吸湿発熱衣料について調査し、製品の種類について調べ書き出す
14: 衣服の取り扱い 洗濯と洗剤	家庭で使用している洗濯機、洗剤を一覧にまとめる
15: 環境と衣生活 衣服が環境にもたらす影響・人間にもたらす影響	企業の繊維リサイクルへの取り組みを調べまとめる
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明	
単位修得のためには、準備学習時間にレポート作成や自主学習を足した45分を毎回必要とします。	

V. 教科書・参考図書
教員作成資料・参考資料を配布します。

VI. 評価方法と評価基準
レポート提出(70%) 学習への積極性や意欲(30%)

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
レポートは提出後、添削・評価し返却します。

科目名 特殊素材製作	科目ナンバリング TA32202	学科: 開講時期: 形態: 履修方法: 免許・資格など 履修要件他: アクティブラーニング科目: <input type="radio"/>	テクニカル専攻科 後期 演習 選択	学年: 1年 単位: 2単位
担当者 津留崎 順子				
I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)				
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)				本科目との関連
DP1				
DP2				
DP3				
DP4				
DP5				
DP6				
DP7				
II. 概要 アパレル素材には様々な素材が使われている。その中から薄物やレース、皮革、毛皮などの特殊素材について学ぶ。それらの特性について学び、素材に適したデザインや縫製方法などを学び、作品を製作する。				
III. 学習成果 薄物、レース、皮革、毛皮素材などの特性を学び、素材に対する扱いや縫製技術を身につけることができる。 素材に適したデザインを考えることができる。				
IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容				
授 業 内 容		準備学習(予習・復習)内容		
1: ●皮革を用いた作品製作(スカート・ベストなど) 皮革の特性を生かしたデザイン及びパターン作成、トワル組み立て		素材収集、市場調査の結果をまとめる		
2: 皮革裁断、縫製実験、印し付け、芯裁断		皮革の特性と縫製実験の結果をまとめる		
3: 縫製(皮革)		縫製指示書作成		
4: 縫製、仕上げ、合評		縫製指示書確認とまとめ		
5: ●レース素材を用いた作品 レースの特徴を生かしたデザイン及びパターン作成		素材収集、市場調査の結果をまとめる		
6: シーチングによる仮縫い、縫製実験		トワル組み立て		
7: 裁断(表布・裏布)		縫い代確認		
8: 裏打ち、通し膳、見返し芯貼り		縫製指示書作成		
9: 縫製①(レース)		レースの特性及び縫製実験の結果をまとめる		
10: 縫製②(レース)		縫製計画確認		
11: 縫製、仕上げ、合評		縫製計画確認・縫製指示書確認とまとめ		
12: ●毛皮を使った作品製作 デザイン及びパターン作成、裁断		素材収集、市場調査の結果をまとめる		
13: 縫製実験、縫製		縫製実験の結果をまとめ縫製指示書作成		
14: 縫製(毛皮)		縫製計画確認		
15: 縫製、仕上げ、合評		縫製指示書確認とまとめ		
* 準備学習(予習・復習)についての補足説明 単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した90分を毎回必要とします。				
V. 教科書・参考図書 教員作成資料配布				
VI. 評価方法と評価基準 課題作品70%、レポート20% 学習の意欲10%				
VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合のような経験があり、どのような教育を行っているか等) 授業時間内に進まなかったり欠席した場合は、次回までに各自で課題を進める努力をしてください。 レポートはコメントをつけて返却します。				

科目名	科目ナンバリング	学科:	テクニカル専攻科	学年:	1年
デジタルパターン演習	TA33202	開講時期:	後期	単位:	2単位
		形態:	演習		
		履修方法:	選択		
担当者		免許・資格など			
南 達也		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	<input type="radio"/>	実務経験教員科目:	<input type="radio"/>

I. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)	
学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1	
DP2	
DP3	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

II. 概要
ブラウスの作図をCAD操作で工業用パターンに完成させる。
(入力作業・作図・抜き取り作業・情報付け・縫代付け・サイズ展開・型入れ作業など)
実践形式で、現場で役立つスキルを身につける。

III. 学習成果
アパレルCADソフトの操作を習得し、企業の即戦力となる技術が身についている。

IV. 授業内容・準備学習(予習・復習)内容	
授 業 内 容	準備学習(予習・復習)内容
1: テキスト(パターンマジック 1st STEP)を使って過去に学習した操作の復習	授業中はメモを取り、ノートにまとめて復習したものを各自用のマニュアルとして作成していく。
2: テキスト(パターンマジック 1st STEP)入力作業の習得	授業中はメモを取り、ノートにまとめて復習したものを各自用のマニュアルとして作成していく。
3: テキスト(パターンマジック 1st STEP)各メニューの再確認 管理表作成	授業中はメモを取り、ノートにまとめて復習したものを各自用のマニュアルとして作成していく。※管理表提出
4: ブラウス作成 身頃の作図	授業中はメモを取り、ノートにまとめて復習したものを各自用のマニュアルとして作成していく。※3回目までのノート提出
5: ブラウス作成 衿・袖の作図	授業中はメモを取り、ノートにまとめて復習したものを各自用のマニュアルとして作成していく。
6: ブラウス作成 工業用パターンの準備(地の目 ステッチ ノッチ 文字入力)	授業中はメモを取り、ノートにまとめて復習したものを各自用のマニュアルとして作成していく。
7: ブラウス作成 工業用パターンの完成(情報付け 縫代付け 管理表作成)	授業中はメモを取り、ノートにまとめて復習したものを各自用のマニュアルとして作成していく。※管理表提出
8: ジャケット作成 身頃の作図	授業中はメモを取り、ノートにまとめて復習したものを各自用のマニュアルとして作成していく。※4~7回目までのノート提出
9: ジャケット作成 衿・袖の作図	授業中はメモを取り、ノートにまとめて復習したものを各自用のマニュアルとして作成していく。
10: ジャケット作成 裏地と芯地の作図	授業中はメモを取り、ノートにまとめて復習したものを各自用のマニュアルとして作成していく。
11: ジャケット作成 工業用パターンの準備(地の目 ステッチ ノッチ 文字入力)	授業中はメモを取り、ノートにまとめて復習したものを各自用のマニュアルとして作成していく。※管理表提出
12: ジャケット作成 工業用パターンの完成(情報付け 縫代付け 管理表作成)	授業中はメモを取り、ノートにまとめて復習したものを各自用のマニュアルとして作成していく。※8~11回目までのノート提出
13: マーキング 基本的な型入れの考え方	授業中はメモを取り、ノートにまとめて復習したものを各自用のマニュアルとして作成していく。
14: グレーディング 基本的なグレーディングの考え方 I	授業中はメモを取り、ノートにまとめて復習したものを各自用のマニュアルとして作成していく。
15: グレーディング 基本的なグレーディングの考え方 II	授業中はメモを取り、ノートにまとめて復習したものを各自用のマニュアルとして作成していく。

* 準備学習(予習・復習)についての補足説明
準備学習は各回30分以上行うこと。
内容についての詳細は毎回の授業で説明します。単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した90分を毎回必要とします。

V. 教科書・参考図書
プリントを配布します。

VI. 評価方法と評価基準
提出課題90% 学習の意欲10%

VII. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)
提出された管理表、またノートは講師が個別に講評します。

「実務経験教員科目」特記事項: アパレルメーカー所属、後のフリーランスで培ったアパレル業界全体の経験を活かし、より実践に近い内容でCADの操作と、その活用の意義を伝える授業を行います。